# 石垣遗跡

-常磐自動車道(県境~山元間)建設工事に係る発掘調査報告書Ⅱ-



SK28 土坑 出土遺物

平成 26 年 3 月

宮城県山元町教育委員会 東日本高速道路株式会社 東北支社 仙台工事事務所

# 序 文

山元町は古くから身近に豊かな海と山を擁し、人々は恵まれた自然の中で生活を営んできました。その足跡は埋蔵文化財として、町内各地に散在しております。埋蔵文化財は、文献などには記録されていない地域の歴史を解明できる貴重な歴史資料であります。これらの遺跡は、先人が残した生活の証でもあり、かけがえのない文化遺産として将来の人々に継承するとともに、現在の生活の中において積極的に活用していくことが、私たちに課せられた責務であると考えております。

しかし、土地利用と深く結びつきの強い埋蔵文化財は、絶えず開発事業によって破壊・消滅の危機にさらされております。このため、当教育委員会としては、開発関係機関等との協議を通してこのような貴重な文化財を保存し、後世に伝えることに努めているところであります。

今回の石垣遺跡の調査は、常磐自動車道(県境〜山元間)建設工事に際し、事業主との協議・調整に基づき、平成23年度に当教育委員会が実施したものであります。今回の発掘によって、縄文時代、古墳時代、平安時代〜近世の人々の生活の跡が確認され、山元町の歴史を考える上で貴重な発見となりました。

本書は、この調査成果を収録したもので、地域における歴史解明の資料として広く活用され、埋蔵文化財の保護と理解の一助となれば幸いです。

最後になりましたが、調査に際しご協力をいただいた関係機関の方々、また、直接調査にあたられました皆様に心から感謝申し上げます。

平成26年3月

山元町教育委員会 教育長 森 憲一

# 例 言

- 1. 本書は、宮城県亘理郡山元町山寺字石垣地内に所在する石垣遺跡(第1次調査)の発掘調査報告書である。
- 2. 本遺跡の発掘調査は、常磐自動車道(県境〜山元間)建設工事に伴う事前調査として行ったものである。 発掘調査・整理作業・報告書作成に係る一連の業務は、平成22〜25年度に、調査原因となった事業主体者 である東日本高速道路株式会社東北支社仙台工事事務所から業務委託を受けた山元町が実施した。
- 3. 本遺跡の発掘調査と整理作業は、山元町教育委員会が主体となり、文化財担当部局のある生涯学習課が担当した。石垣遺跡の現地発掘調査・報告書作成業務を行った平成23~25年度の職員体制は下記のとおりである。

教 育 長 森 憲一

課 長 渡邊 隆弘 (H23)、齋藤 三郎 (H24·25)

班 長 武田賢一

主 事 山田 隆博

主 事 丹野 修太(任期付職員)

調査補助員 藤田 祐、渡邊 理伊知 (H23·24)、佐伯 奈弓

発掘作業員 飯川 幸男、石井 進、伊藤 清、伊藤 成夫、岩佐 吉則、太田 千佳子、大村 敏雄、小野 正文、

小野 和喜子、後藤 征郎、佐藤 明、佐藤 正博、桜井 政敏、関沼 邦彦、西山 ゆり子、

立谷 重晴、富樫 治男、南條 義博、早坂ひろみ、深澤 久美、増川 悠記、三浦 長、

橋本 礼子、橋元 和子、深澤 久美、三浦 則子、水本 惠子、矢吹 共子、渡邊 洋子

三浦 則子、桃井 諒人、森 忠男、遊佐 豊美、矢吹 共子、横山 真、渡部 修

整理作業員 梅村 眞智子、及川 博子、斉藤 則彦、西山 ゆり子、永谷 佳歩美、高橋 みゆき、萩本 厚子、

4. 発掘調査、報告書作成に際して、以下の方々からご指導・ご助言・ご協力を賜った。

天野 順陽・初鹿野 博之 (宮城県教育庁文化財保護課)、日下 和寿 (白石市教育委員会)、

佐藤 敏幸 (東松島市教育委員会)、佐藤 洋 (仙台市教育委員会)、鈴木 朋子 (亘理町教育委員会) 森 秀之 (恵庭市教育委員会)、草場 啓一・小鹿野 亮 (筑紫野市教育委員会)、

宮城県教育庁文化財保護課、東日本高速道路株式会社東北支社仙台工事事務所(敬称略)

- 5. 本遺跡の平成23年度に実施した航空写真撮影は(株)日本特殊撮影、基準点設置は高野弘幸土地家屋調査士事務所に委託して行った。
- 6. 石器の石材については、筆者が肉眼観察を行った。
- 7. 陶磁器の産地については、仙台市教育委員会の佐藤洋氏にご教示いただいた。
- 8. 現地発掘調査について、指揮・監督を山田・丹野・藤田・渡邊が担当し、現地作業を発掘作業員、断面図 の作成は早坂・深澤・三浦(則)・矢吹が行った。
- 9. 本書の整理・作成にあたり、遺物の洗浄・注記・接合・復元・拓本は、佐伯が中心となり整理作業員がこれを助けた。遺物抽出については、土器類は山田、石器は藤田が担当した。

遺物の実測図作成は山田、実測図のトレースは佐伯が行った。また、遺物の一部は、(株)シン技術コンサルに委託し、実測図を作成した。遺物写真撮影・加工は(株)アートプロフィールに委託した。

遺構整理については、全般を藤田・山田が担当し、断面図トレース、データ入力・校正を佐伯、図面修正・ データ照合を佐伯・渡邊 (洋)・及川が行った。 10. 本書で使用した測量原点の座標値は、世界測地系に基づく平面直角座標第X系による。調査区の測量原点は以下のとおりである。方位は座標北を表している。なお、今回使用した座標値は、東日本大震災前の値を基本としており、震災後のX・Y座標の補正データは()内の数値のとおりである。

IG001: X=-226014.594 (-226015.2658) Y=3073.040 (3076.0896) Z=29.110m(標高値)

L659: X=-226097.376 (-226098.0472) Y=3056.428 (3059.4766) Z=32.160m

L660: X=-226080.529 (-226081.2002) Y=3054.988 (3058.0366) Z=31.630m

L668: X=-226081.180 (-226081.8509) Y=3025.362 (3028.4097) Z=32.094m

L672: X=-226069.054 (-226069.7251) Y=3046.372 (3049.4206) Z=31.506m

L675: X=-226037.406 (-226038.0774) Y=3045.054 (3048.1025) Z=30.410m

R673: X=-226052.554 (-226053.2258) Y=3098.560 (3101.6100) Z=29.158m

R674: X=-226035.306 (-226035.9777) Y=3045.028 (3048.0766) Z=28.767m

※補正データの計算は、地殻変動に伴う座標値補正を行う座標補正ソフトウェア「PatchJGDtouhokutaiheiyouoki2011.par」による。

- 11. 本書の第2図は、土地分類基本調査における1/50,000地形分類図「角田」をもとに作成したものである。
- 12. 本書の第3図は、国土交通省国土地理院発行の1/50,000の地形図を複製して作成したものである。
- 13. 本書で使用した土色の記述にあたっては、「新版標準土色帳 2010 年版」(小山・竹原 1973) を参照した。
- 14. 本書で使用した遺構略号は、「発掘調査の手引き」(文化庁文化財部記念物課 2010) を参考にし、以下の通りとした。
  - S I:竪穴住居跡・竪穴状遺構、S B:掘立柱建物跡、S A:柱穴列跡、S K:土坑、S E:井戸跡、
  - P: 柱穴・小穴
- 15. 出土遺物の登録番号は、以下の通りとした。
  - A: 縄文土器、C: 土師器、E: 須恵器、I: 陶器、J: 磁器、K: 石器
- 16. 遺構・遺物実測図の主な縮尺は下記のとおりで、それぞれ図中にスケールを付して示した。

調査区全体図:1/500、調査区部分図:1/200、竪穴住居跡:1/40・50・60、

掘立柱建物跡・柱穴列跡:1/100・1/200、土坑・井戸跡:1/40、断面図:1/40・50・60、土器類:1/3

- 17. 遺物実測図において、土器類の実測図については、須恵器断面を黒塗り、その他の土器を白抜きとした。 また、黒色処理が施された土師器については、スクリーントーンにより示した。
- 18. 本書の出土遺物のうち、土師器については、成形にロクロを使用したものをロクロ成形・ロクロ土師器、ロクロを使用していないものを非ロクロ成形と呼ぶことにした。
- 19. 基本層序は、ローマ数字とアルファベット小文字を組み合わせて表記した。
- 20. 標高は、水準点を基にした海抜高度で示した。
- 21. 遺構内の傾斜の部分は「 丁丁 」、後世の撹乱は「撹」と表記し、その傾斜部は「 ᆕ 」で示した。
- 22. その他、発掘調査の方法等については、第Ⅲ章2にまとめた。
- 23. 本書の執筆・編集については、整理を担当した調査員の協議を経て、第 I 章~第Ⅲ章 3(1)・第Ⅳ章 1(1) ~ (4)・3(5) は山田、第Ⅲ章 1・2・3(2) ~ (5)・第Ⅳ章 1(5)・2・3(1) ~ (4)・4 は藤田が執筆し、図版の版組みは山田・藤田、報告書編集は山田が行った。
- 24. 本遺跡の調査成果については、遺跡調査成果発表会等でその内容の一部を公開しているが、これらと本書の内容が異なる場合は、本書がこれらに優先する。
- 25. 発掘調査に伴う出土遺物および写真等の調査記録資料については、山元町教育委員会が保管している。

# 調査要項

遺跡 名: **石垣 (いしがき) 遺跡** (宮城県遺跡地名表登載番号 14069 遺跡記号 IG)

所 在 地:宮城県亘理郡山元町山寺字石垣

調査原因:常磐自動車道(県境~山元間)建設工事に係る事前調査

調査期間:確認調査 平成23(2011)年8月29日~9月1日

事前調査 平成 23(2011)年9月5日~11月1日

調査面積:約4,750 m²(対象面積約10,000 m²)

(A区:約1,730 m²、B区:約3,020 m²)

調査主体:山元町教育委員会

調査担当:山元町教育委員会生涯学習課

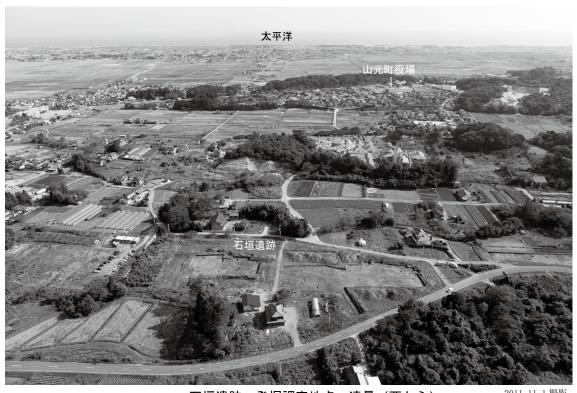
調 査 員:山田 隆博 【山元町教育委員会 生涯学習課 主事】

丹野 修太 【山元町教育委員会 生涯学習課 主事(任期付職員)】

藤田 祐 【山元町教育委員会 生涯学習課 臨時職員(調査補助員)】

渡邊 理伊知【山元町教育委員会 生涯学習課 臨時職員 (調査補助員)】

調查協力:宮城県教育庁文化財保護課、東日本高速道路株式会社東北支社仙台工事事務所



石垣遺跡 発掘調査地点 遠景(西から)

2011.11.1 撮影

# 目 次

# 序文

例言·調査要項

目次・挿図目次・表目次

	1. 1	章	遺跡の 跡の位置。	  ひ       日日	 !的環t	音													·· 1
2	2.	周記	辺の遺跡	_ >0.>±		<i></i>													1
第	<u>I</u>	章	調査に	至る	経緯	をと調	査0	)経	過										7
]	1.	常型	等自動車道 調査に至	[(県J	竟~山	元間)	建設	工事	計画と	:発掘	調査に	至る	径緯 …		• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •				7
	(	$(1)_{\underline{}}$	調査に至	る経緯	】							······							7
	,	(]	D路線内の	)埋蔵	文化斯	かり取り	り扱い	)决定	ヹまで	の経緯	į (	2)文化	財保護	法に是	いく手続	売き			_
	(	2)	施工路線	内の新	E掘調	査の経	過·					• • • • • • • •			•••••				8
2	2.	石坦	遺跡発掘	調査の	)経過	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	• • • • • • •		•••••			•••••	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •						8
第]	ШĒ	章	発掘調	查															· 11
1	1.	基2	本層序 …																• 11
2	2.	発排	屈調査の力	7法 …															• 13
3	3.	発見	見された遺	遺構と.	遺物・														• 14
		(1)	竪穴住居	跡•竪	穴状遺	遺構 …													· 24
		(2)	掘立柱建	物跡•	柱穴列	<b>训跡</b> …													• 57
			1) 掘立柱	i建物!	跡の認	定方法	去	2) A	区建筑	勿跡	3)B	区建筑	勿跡	4)柱2	穴列跡				
		(3)	土坑·井戸	跡 …															• 97
		(4)	ピット・・				• • • • • •		• • • • • • •			• • • • • • •							118
		(5)	遺構検出	面、排		出土遺	物・		• • • • • • •			• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •						•••••	122
笄]	<b>π</b> /-	章	総括																193
777	LV - 1 .	╤╸ ╫┼	遺物の特																
_			縄文十名																
			土師器																
		(3)	須恵器																130
	(	( ) / 4 ) [ii	每器·磁器																130
		(5)	石器 …																130
2	2.	検出	した遺構	の特律	めと時	期 …													131
	(	1)	出土遺物	• 潰楫	権の重	複関係	等か	らみ	た各浦	貴構の	诗期·								131
		1)	竪穴住居	□ [ ]	竪穴が	遺構	4	2) SI	$B1\sim$	37 掘っ	7.柱建	物跡・	柱穴列	川跡:	3) 土坑	4)	井戸跡		101
		5)	ピット																
		(2)	まとめ																133
;	3.	各時	時代の遺標	4の特	徴と変	5遷													134
		$(\bar{1})$	縄文時代	代の遺	構 …														134
			古墳時代																
		(3)	平安時代	代の遺	構 …														134
		(4)	近世の遺	遺構 ‥			• • • • • •	• • • • • •	• • • • • • •	• • • • • • • •	• • • • • • •		• • • • • • • • •	• • • • • • • •		• • • • • • •		• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	138
		(5)	近世の遺 石垣遺跡 とめ	加制辺	の集落	客の様	相に、	201	ح										141

引用・参考文献

報告書抄録

# 挿 図 目 次

第 1 図	山元町の位置 ・・・・・・・・・・・・・1	第50図	SB9掘立柱建物跡平面・断面図 ・・・・・・・・・・	68
第 2 図	石垣遺跡及び山元町内の地形分類図 ・・・・・・・・2	第51図	SB10掘立柱建物跡平面・断面図 ・・・・・・・・・	69
第 3 図	山元町内の遺跡分布と常磐自動車道建設関連遺跡 ・・・・5	第52図	SB11掘立柱建物跡平面・断面図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	69
第 4 図	調査区の位置・・・・・・・・・・・・・9	第53図	SB12掘立柱建物跡平面・断面図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	69
第 5 図	石垣遺跡基本層序・・・・・・・・・・・ 12	第54図	SB8~12掘立柱建物跡(1) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	70
第 6 図	石垣遺跡A・B区主要遺構配置図 ・・・・・・ 15・16	第55図	SB8~12掘立柱建物跡(2) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	71
第 7 図	石垣遺跡調査区全景(1)······17	第56図	SB13掘立柱建物跡平面・断面図・・・・・・・・・・	72
第 8 図	石垣遺跡調査区全景(2)・・・・・・・・・・18	第57図	SB14掘立柱建物跡平面・断面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	72
第 9 図	石垣遺跡遺構配置図(1)······19	第58図	SB15掘立柱建物跡平面・断面図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	73
第10図	石垣遺跡遺構配置図(2)·······20	第59図	SB16掘立柱建物跡平面・断面図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第11図	石垣遺跡遺構配置図(3)・・・・・・・・・・・21	第60図	SB17掘立柱建物跡平面・断面図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第12図	石垣遺跡遺構配置図(4)··········22	第61図	SB13~18掘立柱建物跡(1) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
第13図	石垣遺跡遺構配置図 (5) · · · · · · · · · · · 23	第62図	SB13~16掘立柱建物跡(2) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
第14図	S I 1 竪穴状遺構 ・・・・・・・・ 25	第63図	SB18掘立柱建物跡平面・断面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第15図	S I 2 堅穴状遺構 (1) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	第64図	SB19掘立柱建物跡平面・断面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第16図	S I 2 堅穴状遺構 (2) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	第65図	SB20掘立柱建物跡平面・断面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
			SB21掘立柱建物跡平面・断面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第17図		第66図		
第18図	S I 3 竪穴状遺構 (2) · · · · · · · · · · · · · · · · 31	第67図	SB22掘立柱建物跡平面・断面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第19図	S I 4 竪穴住居跡 (1) · · · · · · · · · · · · · · 33	第68図	SB23掘立柱建物跡平面・断面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第20図	S I 4 竪穴住居跡 (2) ・・・・・・・・ 34	第69図	SB24掘立柱建物跡平面・断面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第21図	S I 4 竪穴住居跡 (3) ・・・・・・・・ 35	第70図	SB19~24掘立柱建物跡(1) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第22図	S I 5 竪穴住居跡 (1) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	第71図	S B17~24 掘立柱建物跡(2) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第23図	S I 5 竪穴住居跡 (2) ・・・・・・・・・ 38	第72図	SB25掘立柱建物跡平面・断面図 ・・・・・・・・・	
第24図	S I 5 竪穴住居跡 (3) ・・・・・・・・・ 39	第73図	SB26掘立柱建物跡平面・断面図 ・・・・・・・・・・	81
第25図	S I 6 竪穴状遺構 ・・・・・・・・・・ 41	第74図	SB27掘立柱建物跡平面・断面図 ・・・・・・・・・・	82
第26図	S I 7 竪穴住居跡 (1) ・・・・・・・・・ 43	第75図	SB28掘立柱建物跡平面・断面図 ・・・・・・・・・・	82
第27図	S I 7 竪穴住居跡 (2) ・・・・・・・・・・・ 44	第76図	SB29掘立柱建物跡平面・断面図 ・・・・・・・・・・	83
第28図	S I 8 竪穴住居跡 (1) ・・・・・・・・・・ 46	第77図	SB30掘立柱建物跡平面・断面図 ・・・・・・・・・	83
第29図	S I 8 竪穴住居跡 (2) ・・・・・・・・・・ 47	第78図	SB31掘立柱建物跡平面・断面図 ・・・・・・・・・	84
第30図	S I 8 竪穴住居跡 (3) ・・・・・・・・・ 48	第79図	SB32掘立柱建物跡平面・断面図 ・・・・・・・・・	84
第31図	S I 8 竪穴住居跡 (4) ・・・・・・・・・・ 49	第80図	SB32・P406 出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	84
第32図	S I 9 竪穴住居跡 (1) ・・・・・・・・ 51	第81図	SB33掘立柱建物跡平面・断面図 ・・・・・・・・・	85
第33図	S I 9 竪穴住居跡 (2) ・・・・・・・・ 52	第82図	SB34掘立柱建物跡平面・断面図 ・・・・・・・・・	85
第34図	S I 9 竪穴住居跡 (3) ・・・・・・・・ 53	第83図	SB25~33掘立柱建物跡(1) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	86
第35図	S I 9 竪穴住居跡 (4) ・・・・・・・・・ 54	第84図	SB25~33掘立柱建物跡(2) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	87
第36図	S I 9 竪穴住居跡 (5) ・・・・・・・・・ 55	第85図	SB35掘立柱建物跡平面・断面図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	88
第37図	S І 9 竪穴住居跡 (6) ・・・・・・・・・ 56	第86図	SB36掘立柱建物跡平面・断面図 ・・・・・・・・	88
第38図	石垣遺跡A・B区掘立柱建物跡完掘状況 ・・・・・・ 57	第87図	SB37掘立柱建物跡平面・断面図 ・・・・・・・・・	88
第39図	石垣遺跡掘立柱建物跡・柱穴列跡遺構配置図 ・・・・・ 58	第88図	SB34・35掘立柱建物跡 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	89
第40図	SB1掘立柱建物跡平面・断面図 ・・・・・・・ 63	第89図	SB36・37掘立柱建物跡 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	90
第41図	SB2掘立柱建物跡平面・断面図 ・・・・・・・・ 63	第90図	SB34~37掘立柱建物跡 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	91
第42図	SB3掘立柱建物跡平面・断面図 ・・・・・・・・ 64	第91図	SA1柱穴列跡平面・断面図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	92
第43図	SB4掘立柱建物跡平面・断面図 ・・・・・・・・ 64	第92図	SA2柱穴列跡平面・断面図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第44図	SB5掘立柱建物跡平面・断面図 ・・・・・・・・ 65	第93図	SA3柱穴列跡平面・断面図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第45図	SB6掘立柱建物跡平面・断面図 ・・・・・・・ 65	第94図	SA4柱穴列跡平面・断面図 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
第46図	SB7掘立柱建物跡平面・断面図・・・・・・・・ 65	第95図	SA1~4柱穴列跡(1)····································	
第47図	SB1~7掘立柱建物跡(1) · · · · · · · · · · · · 66	第96図	SA1~4柱穴列跡(2) ····································	
第48図	SB1~7掘立柱建物跡(2)····································	第97図	S K 1 · 2 · 3 土坑 · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
第49図	SB8掘立柱建物跡平面・断面図 · · · · · · · · · 68		SK 4 土坑 · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
214 × 0 103		/j+ U U K4		

# 第99図 SK5土坑(1) ・・・・・・・・・・・・・99 第 100 図 SK 5 土坑 (2) ・・・・・・・・・・・・・ 100 第 101 図 SK 6 土坑 ・・・・・・・・・・・・・・ 100 第 102 図 SK 7 土坑 ・・・・・・・・・・・・・・ 101 第 103 図 SK8土坑 ・・・・・・・・・・・・・・・ 101 第 104 図 SK 9 土坑 ・・・・・・・・・・・・・・ 101 第 105 図 SK 1 0 土坑 ・・・・・・・・・・・・・ 102 第 106 図 S K 1 1 土坑 ・・・・・・・・・・・・・・ 102 第 107 図 SK 1 2 土坑 ・・・・・・・・・・・・・・ 103 第 108 図 SK 1 3 土坑 ・・・・・・・・・・・・・・ 103 第 109 図 S K 1 4 土坑 ・・・・・・・・・・・・・ 104 第 110 図 SK 1 5 土坑 ・・・・・・・・・・・・・・ 104 第 111 図 SK 1 6 土坑 ・・・・・・・・・・・・・ 105 第 112 図 SK 1 7 土坑 ・・・・・・・・・・・・・・ 105 第 113 図 SK 1 8 土坑 ・・・・・・・・・・・・・・ 106 第 114 図 SK 1 9 土坑 ・・・・・・・・・・・・・ 106 第 115 図 SK 2 0・ 2 1・ 2 2 土坑 ・・・・・・・・・・ 107 第 116 図 SK 2 3 土坑 ・・・・・・・・・・・・・ 108 第 117 図 SK 2 4 土坑 ・・・・・・・・・・・・・ 108 第 118 図 S K 2 5 土坑 ・・・・・・・・・・・・・ 109 第 119 図 SK 2 6 土坑 ・・・・・・・・・・・・ 109 第 120 図 SK 2 7 土坑 ・・・・・・・・・・・・・ 110 第 121 図 SK 2 8 土坑 (1) ・・・・・・・・・・・・ 110 第122 図 SK28土坑(2) ・・・・・・・・・・・・ 111 第123 図 SK28土坑(3) ・・・・・・・・・・・・ 112 第 124 図 SK 2 8 土坑 (4)・・・・・・・・・・・ 113 第125 図 SK28土坑(5) ・・・・・・・・・・・・ 114 第 126 図 SK 2 9・3 0 土坑 ・・・・・・・・・・・ 115 第 127 図 SK 3 1・ 3 2 土坑 ・・・・・・・・・・・ 116 第 128 図 SE 1 井戸跡 ・・・・・・・・・・・・・ 117 第 129 図 その他の出土遺物 - 検出面・排土 - ・・・・・・・ 122 第 130 図 石垣遺跡出土縄文土器 ・・・・・・・・・・・ 124 第131図 石垣遺跡出土土師器(非ロクロ成形) ・・・・・・・・ 125 第132図 石垣遺跡出土土師器 (ロクロ成形)・須恵器 ・・・・・・ 126 第 133 図 石垣遺跡 SK28 出土土師器坏の特徴 ・・・・・・・・ 129 第134図 多賀城跡周辺の土師器坏類の器高/口径比・・・・・・ 129 第 135 図 石垣遺跡主要遺構の重複関係と所属時期 ・・・・・・・ 133 第 136 図 石垣遺跡縄文時代・古墳時代の遺構 ・・・・・・・・ 135 第 137 図 石垣遺跡平安時代の遺構 ・・・・・・・・・・ 137 第 138 図 石垣遺跡近世の遺構 ・・・・・・・・・・・ 140

第 139 図 石垣遺跡と周辺の遺跡 ・・・・・・・・・・ 141

# 表目次

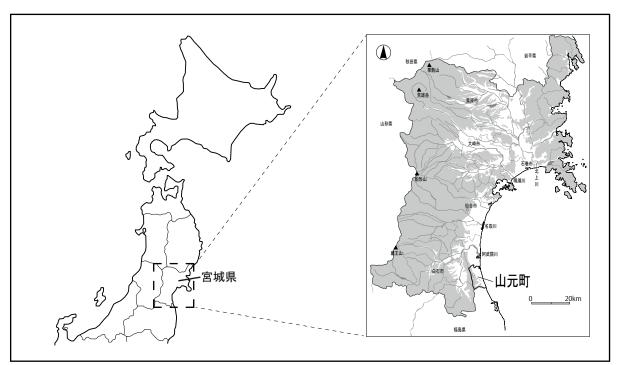
第	1	表	常磐自動車道建設計画に伴う関連遺跡・地点一覧・・・・・6
第	2	表	その他の山元町内の遺跡一覧・・・・・・・・・・6
第	3	表	SI1竪穴状遺構床面施設一覧・・・・・・・・・24
第	4	表	SI2竪穴状遺構床面施設一覧・・・・・・・・26
第	5	表	SI3竪穴状遺構床面施設一覧・・・・・・・・29
第	6	表	SI4竪穴住居跡床面施設一覧・・・・・・・32
第	7	表	SI5竪穴住居跡床面施設一覧・・・・・・・36
第	8	表	SI7竪穴住居跡床面施設一覧・・・・・・・・42
第	9	表	SI8竪穴住居跡床面施設一覧 ・・・・・・・・45
第	10	表	SI9竪穴住居跡床面施設一覧 ・・・・・・・50
第	11	表	石垣遺跡 掘立柱建物跡 属性表 SB1~37 ・・・・59
第	12-	-1表	石垣遺跡 掘立柱建物跡 柱穴跡 属性表 (1) SB 1 ~15・・60
第	12-	-2 表	石垣遺跡 掘立柱建物跡 柱穴跡 属性表 (2) SB16~27・・61
第	12-	-3 表	石垣遺跡 掘立柱建物跡 柱穴跡 属性表 (3) SB28~37・・62
第	13 -	表る	5垣遺跡 柱穴列跡 属性表 SA1~4 ・・・・・・・・94
第	14 -	表る	5垣遺跡 柱穴列跡 柱穴跡 属性表 SA1~4 ・・・・・・94
第	15 🖟	表って	5垣遺跡 土坑・井戸跡 属性表 ・・・・・・・・・97
第	16-	-1 ∄	そ 石垣遺跡 ピット 属性表 (1) ・・・・・・・・119
第	16-	-2 ∄	そ 石垣遺跡 ピット 属性表 (2) ・・・・・・・・120
第	16-	-3 ∄	そ 石垣遺跡 ピット 属性表(3) ・・・・・・・・121
第	17	表	石垣遺跡 遺物出土状況 ・・・・・・・・・・123
第	18	表	塩釜式土器 編年対照表 ・・・・・・・・・・127
第	19	表	石垣遺跡主要遺構の所属時期 ・・・・・・・・・133
第	20 🖥	表す	5 垣遺跡平安時代竪穴住居跡・竪穴状遺構 遺構観察表・・・136
笙	21	表	石垣遺跡掘立柱建物跡観察表・・・・・・・・・・138

# 第1章 遺跡の概要

# 1. 遺跡の位置と地理的環境

宮城県亘理郡山元町は、仙台市から南南東に約40km離れた県南東部に位置し、地理的には仙台平野南端にあたる(第1図)。町の西側は福島県から延びる阿武隈山地の支脈、東側は太平洋で、これらの間には沖積地が広がっている。町内を北上する阿武隈山地は、標高200~300mの山地・丘陵地で、北端では阿武隈川と接する。丘陵縁辺は、阿武隈山地に源を発する小河川によって開析された櫛状の谷地形となり、谷底には谷中平野が形成されている。丘陵の東側には、沖積地を挟んで海岸線に平行した約7列の浜堤が認められる。

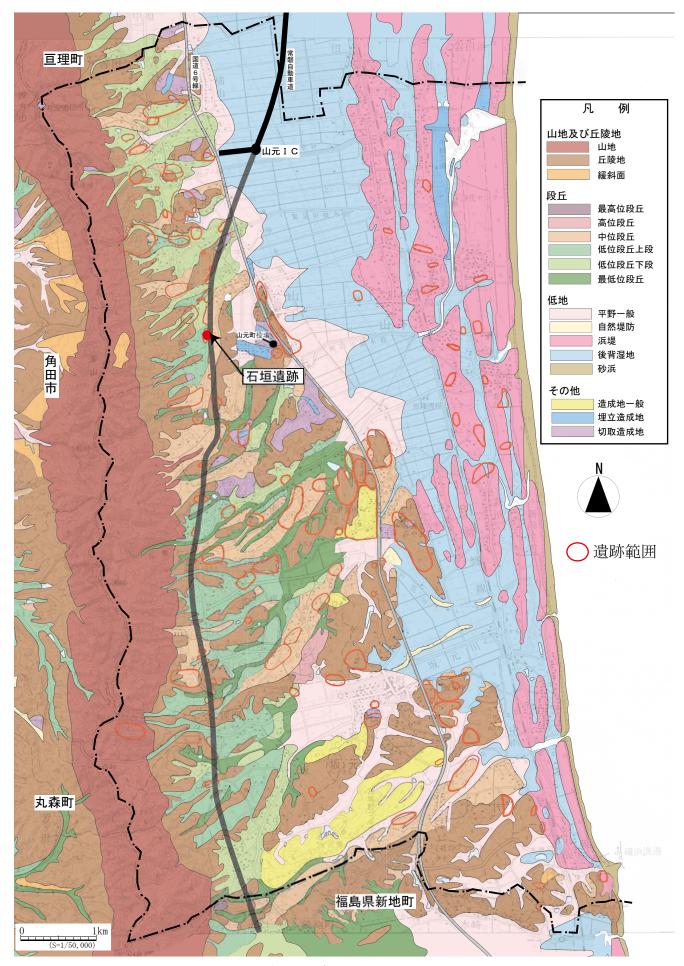
石垣遺跡は、平成19・20年度に実施された分布調査により発見された遺跡で、亘理郡山元町山寺字石垣に所在し、山元町役場の西約800mに位置する(第2・3図)。遺跡は、阿武隈山地から東に延びる丘陵の山寺川西側に広がる標高26~32mの中位段丘に立地する(第2図)。遺跡の範囲は、東西60m、南北200mほどの広がりをもつ。現況は、宅地、畑地、道路である。



第1図 山元町の位置

# 2. 周辺の遺跡

山元町には、現在まで100余りの遺跡が登録されている(第3図、第1・2表)。その分布は、地形的に阿武隈山地裾部、そこから延びる丘陵縁辺部、浜堤列周辺の大きく3つに分けられる。阿武隈山地裾部には縄文時代から中世に至る各時代の遺跡がある。丘陵縁辺部には縄文時代から近世までの遺跡が分布するが、その主体は古代と中世である。浜堤列周辺は近年の分布調査のより発見された遺跡がほとんどで、古代以降の遺跡の分布している。



第2図 石垣遺跡及び山元町内の地形分類図

これまで山元町内の遺跡のうち本格的な発掘調査が実施された遺跡は、中島貝塚や合戦原遺跡、狐塚遺跡などわずか数例で、町内の原始から中世の歴史は未解明な点が多い状況にあった。しかし、平成21年度以降、町内では常磐自動車道山元IC開通に伴う周辺地区の開発や常磐自動車道(県境一山元間)建設工事、平成23年3月11日に発生した東日本大震災に伴う復興事業などに関連した発掘調査が継続的に行われ、これまで知られていなかった山元町の歴史が少しずつ明らかになってきている。

以下これまでに調査された代表的な遺跡について、時代ごとに記述する。

#### 【縄文時代の遺跡】

前期の北経塚遺跡(42)、前期~中期の西石山原遺跡(16)、中期~晩期の中島貝塚(50)、後期の谷原遺跡(4)、晩期の中筋遺跡(1)などがある。

北経塚遺跡では、平成 15・21・23 年に調査が行われ、前期初頭の竪穴住居跡、土坑、遺物包含層、ピット群などが検出された (関 2004、山田・村上・山口 2010、山田・藤田・佐伯 2013)。

西石山原遺跡では、平成22・23年に調査が行われ、前期の土坑、中期末葉の竪穴住居跡などが検出された (初鹿野ほか2012)。

中島貝塚では、昭和53年に調査が行われ、縄文土器・石器とともに貝殻、魚骨・獣骨が数多く出土 した(山元町誌編纂委員会編1986)。

谷原遺跡では、平成20・22・24年の調査により、後期の掘立柱建物跡で構成される環状集落が確認され、この他、土坑や遺物包含層などが検出された。

中筋遺跡では、平成24年の調査で、晩期の遺物包含層が検出された。

## 【弥生時代の遺跡】

中筋遺跡(1)、北経塚遺跡(42)、館ノ内遺跡(39)、狐塚遺跡(92)などがある。

中筋遺跡では、平成24年に調査が行われ、水田跡や遺物包含層などが検出され、中期中葉の枡形囲式の土器や石包丁、板状石器などが出土した。

北経塚遺跡では、平成 21・23 年に調査が行われ、中期後半の十三塚式・後期の天王山式の土器のほか、石包丁が出土した (山田・村上・山口 2010、山田・藤田・佐伯 2013)。

館の内遺跡では、平成13年に調査が行われ、中期後半の十三塚式の土器が出土している(引地2002)。 狐塚遺跡では、平成5年に調査が行われ、溝跡が確認され、中期後半の十三塚式の土器が出土している。(窪田1995)。

#### 【古墳時代の遺跡】

前期の中筋遺跡(1)・石垣遺跡(6)、前期~中期の北経塚遺跡(42)、中期の合戦原遺跡(61)、後期の狐塚遺跡(92)・日向北遺跡(2)・日向遺跡(3)・谷原遺跡(4)・井戸沢横穴墓群(88) などがある。

中筋遺跡では、平成24年の調査で、前期の木棺墓が検出された。

石垣遺跡では、平成23年の調査で、前期の竪穴住居跡が検出された。

北経塚遺跡では、平成 21・23 年の調査で、前期の竪穴住居跡・方形周溝跡、中期の古墳周溝跡が検出された (山田・村上・山口 2010、山田・藤田・佐伯 2013)。

合戦原遺跡では、平成2年に調査が行われ、南小泉式期の大型の竪穴住居跡が検出された(岩見ほか1991)。 日向北・日向・谷原遺跡では、平成22~24年の調査で、後期の竪穴住居跡が検出された。

狐塚遺跡では、平成4・5年に調査が行われ、後期の竪穴住居跡・竪穴状遺構・掘立柱建物跡が検出

された (千葉 1993、窪田 1995)。

井戸沢横穴墓群では、昭和44年の調査により、数基の横穴墓が福島県浜通り地方に点在する横穴墓群との関連が指摘されている(佐々・志間・氏家1971)。

## 【奈良・平安時代の遺跡】

館ノ内遺跡(39)、合戦原遺跡(61)、狐塚遺跡(92)、谷原遺跡(4)、涌沢遺跡(5)、内手遺跡(10)、上宮前北遺跡(13)、向山遺跡(93)、熊ノ作遺跡(94)などがある。

館の内遺跡では、平成13年に調査が行われ、規格的に配置された掘立柱建物跡や竪穴住居跡が検出され、墨書土器や製塩土器などが出土している(引地2002)。

合戦原遺跡では、平成2年に調査が行われ、奈良時代~平安時代の須恵器窯跡が検出された (岩見ほか 1991)。

谷原遺跡では、平成20・22・24年の調査で、竪穴住居跡・掘立柱建物跡・大溝・土坑などが検出され、円面硯や風字硯が出土している。

涌沢遺跡では、平成24年の調査で、平安時代の集落跡や土器廃棄土坑、製鉄関連遺構が検出され、 墨書土器や八稜鏡などが出土した。

内手遺跡では、平成23年の調査で、平安時代の木炭窯跡・横口付木炭窯跡が検出された。

上宮前北遺跡では、平成24年の調査で、平安時代の製鉄炉が検出された。

向山遺跡では、平成25年の調査で、奈良~平安時代の竪穴住居跡や鍛冶工房が検出された。

熊ノ作遺跡では、奈良時代~平安時代の竪穴住居跡や掘立柱建物跡が検出され、「坂本願」と書かれた墨書土器や風字硯、石帯、木簡などが出土している。

#### 【中世の遺跡】

北経塚遺跡(42)、小平館跡(43)、日向遺跡(3)、谷原遺跡(4)、鷲足館跡(49)などがある。

北経塚遺跡では、平成 21・23 年の調査で、13 世紀後半~14 世紀以降の掘立柱建物跡・井戸跡・土坑が確認され、中世の集落の存在が明らかになった (山田・村上・山口 2010、山田・藤田・佐伯 2013)。

日向・谷原遺跡では、平成22~24年の調査で、掘立柱建物跡多数・井戸跡・土坑・溝跡などが検出され、中世の大規模な屋敷跡の存在が確認された。

小平館跡は、室町時代の天文年間(1532~1555年)に亘理要害 14 世亘理宗隆が居館したとされている 館跡で (紫桃 1974)、平成 24・25 年に調査が実施され、掘立柱建物跡・溝跡が検出された。

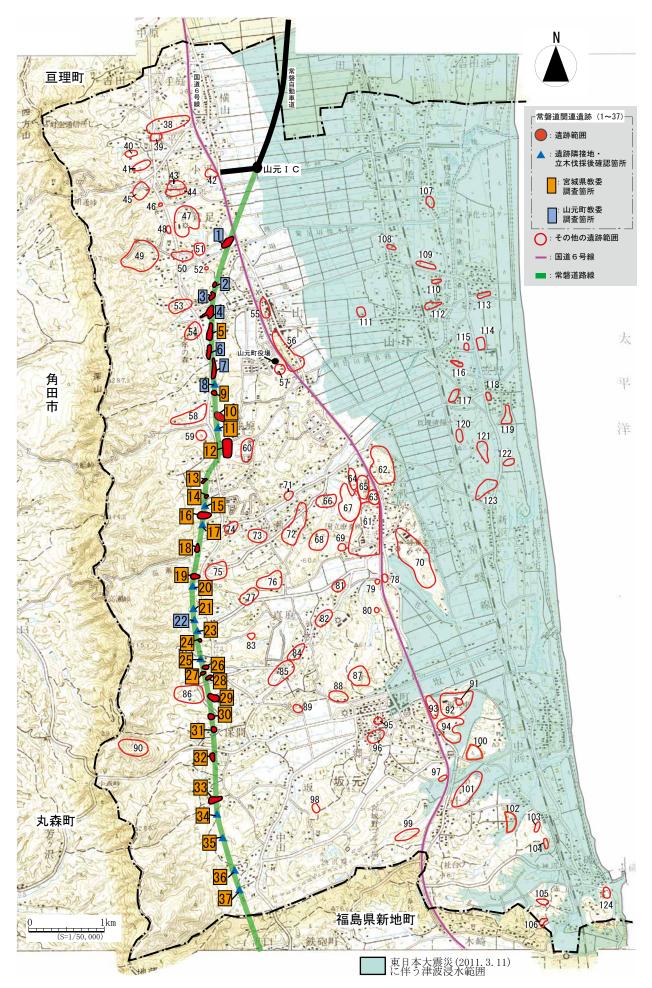
鷲足館跡は、山元町鷲足地区の山間部に位置する中世の山城で、平成25年に調査が実施され、腰郭と柱穴列で区画された曲輪が確認され、掘立柱建物跡が多数検出された。

## 【近世の遺跡】

山王 B 遺跡(9)、蓑首城跡(96)などがある。

山王 B 遺跡では、平成 22 年の調査で、掘立柱建物跡・溝跡・土坑が検出された (初鹿野ほか 2012)。

蓑首城跡は、戦国時代末期に築城され、元和2(1616)年以降、大條氏が長期間にわたり居城した城で、平成25年に二ノ丸跡の調査が実施され、掘立柱建物跡、井戸跡、土坑、溝跡が検出された。



第3図 山元町内の遺跡分布と常磐自動車道建設関連遺跡

第1表 党般白動車道建設計画に伴う関連遺跡・地占一覧

		第1表	<b>常磐目動車迫建設計画</b>	11–1	キカ関連週	砂・地層	<b>点一覧</b>
No.	遺跡名	種別	時代等	No.	遺跡名	種別	時代等
1	中筋遺跡	水田・包含層・墓域	縄文晩・弥生・古墳・中世 【平成23・24年度調査:町】	20	南山神B遺跡 隣接地	集落	試掘の結果、縄文時代の遺構確認、 南山神B遺跡範囲拡大、【平成24年度調査:県】
2	日向北遺跡	集落	立木伐採後確認箇所→日向北遺跡として登録 古墳、中・近世、【平成24年度調査:町】	21	_	_	試掘の結果、遺跡との関わりなし 【平成23年度調査:県・町】
3	日向遺跡	集落	古代・中世 【平成23年度調査:町】	22	_	_	試掘の結果、遺跡との関わりなし 【平成23年度調査:町】
4	谷原遺跡	集落	縄文~中世 【平成22・24年度調査:町】	23	新田B遺跡 隣接地	1	試掘の結果、遺跡との関わりなし 【平成24年度調査:県】
5	涌沢遺跡	集落・生産	立木伐採後確認箇所→涌沢遺跡として登録 古代〜近世、【平成24年度調査:県】	24	新田B遺跡	散布地	古代、試掘の結果、用地内に遺構なし 【平成24年度調査:県】
6	石垣遺跡	集落	縄文・古墳〜近世 【平成23年度調査:町】	25	影倉E遺跡 隣接地		試掘の結果、遺跡との関わりなし 【平成24年度調査:県】
7	的場遺跡	集落	縄文・古墳〜近世 【平成23・25年度調査:町】	26	影倉E遺跡	散布地	縄文・古代〜中世、おとし穴 【平成24年度調査:県】
8	-	_	立木伐採後確認箇所、【平成23年度調査:町】 現地確認の結果、調査不要と判断	27	影倉B遺跡	散布地	縄文 【平成23年度調査:県】
9	山王B遺跡	集落	近世、【平成22・23年度調査:県】 収録文献:宮城県文化財調査報告書第230集	28	影倉C遺跡	散布地	古代 【平成23年度調査:県】
10	内手遺跡	製鉄・生産	平安 【平成23年度調査:県】	29	影倉D遺跡	製鉄	古代、製鉄 【平成24年度調査:県】
11	内手遺跡 南隣接地	生産	古代の木炭窯跡1基確認 内手遺跡範囲拡大、【平成23年度調査:県】	30	荷駄場B遺跡	散布地	古代 【平成23年度調査:県】
12	浅生原遺跡	散布地	縄文中・後、中世、【平成22年度調査:県】 収録文献:宮城県文化財調査報告書第230集	31	荷駄場遺跡	散布地	縄文、試掘の結果、用地内に遺構なし 【平成24年度調査:県】
13	上宮前北遺跡	製鉄	立木伐採後確認箇所→上宮前北遺跡として登録 古代、【平成24年度調査:県】	32	上小山遺跡	散布地	古代~中世 【平成23年度調査:県】
14	上宮前遺跡	散布地	平安・中世、【平成22・23年度調査:県】 収録文献:宮城県文化財調査報告書第230集	33	法羅遺跡	散布地	縄文、試掘の結果、用地内に遺構なし 【平成23年度調査:県】
15	西石山原遺跡 北隣接地	_	試掘の結果、遺跡との関わりなし 【平成22年度調査:県】	34	_	_	試掘の結果、遺跡との関わりなし 【平成23年度調査:県】
16	西石山原遺跡	集落	縄文前・中、平安、【平成22・23年度調査:県】 収録文献:宮城県文化財調査報告書第230集	35	_		現地確認の結果、調査不要と判断 【平成23年度調査:県】
17	西石山原遺跡 南隣接地	集落	時期不明の炭窯跡1基確認 西石山原遺跡範囲拡大、【平成22年度調査:県】	36	_		試掘の結果、遺跡との関わりなし 【平成23年度調査:県】
18	北山神遺跡	散布地	縄文、【平成22・23年度調査:県】 収録文献:宮城県文化財調査報告書第230集	37	_	_	試掘の結果、遺跡との関わりなし 【平成23年度調査:県】
19	南山神B遺跡	散布地	縄文・古代、試掘の結果、用地内に遺構なし 【平成22年度調査:県】 収録文献:宮城県文化財調査報告書第230集		※太字ゴシック体	:本報告遺跡	

# 雪査:県】 5果、用地内に遺構なし 月査:県】 遺跡との関わりなし 関査:県】 遺跡との関わりなし 間査:県】 遺跡との関わりなし 周査:県】

# 第2表 その他の山元町内の遺跡一覧

			・			<sup>一</sup> 見	
No.	遺跡名	種別	時代	No.	遺跡名	種別	時代
38	大平館跡	城館	中世	82	原遺跡	散布地	古墳
39	館の内遺跡	遺物包含地	古代	83	北権現遺跡	製鉄	平安
41	味曽野横穴墓群	横穴墓	古墳後	84	浅生遺跡	散布地	古代
41	味噌野遺跡	散布地	古代	85	南権現遺跡	散布地	縄文早・前・古墳
42	北経塚遺跡	集落・円墳・経塚	縄文前・弥生~中世	86	影倉遺跡	散布地	縄文後・晩
43	小平館跡	城館	中世	87	愛宕山館跡	城館	室町
44	舘横穴墓群	横穴墓	古墳後	88	井戸沢横穴墓群	横穴墓	古墳後
45	清水遺跡	散布地	弥生	89		散布地	古墳中・後
46	北ノ入遺跡	散布地	古代	90	新城山古館跡	城館	中世
47	山崎横穴墓群	横穴墓	古墳後	91	狐塚古墳群	円墳	古墳後
	北遺跡	散布地	古代	92	狐塚遺跡		弥生・古墳・平安
		城館	中世	93	向山遺跡	集落・生産	古墳~平安
50	中島貝塚	貝塚	縄文中~晩	94	熊の作遺跡	集落	古代
	中道遺跡	散布地	古墳後	95	館下遺跡	散布地	弥生
	赤坂遺跡	散布地	縄文・弥生		蓑首城跡	城館	近世
53	石堂遺跡	散布地	古代	97	作田横穴古墳群	横穴墓	古墳後
54	山寺館跡	城館	中世	98	川内遺跡	製鉄	平安?
55	作田山館跡	城館	中世	99	一の沢遺跡	散布地	弥生
56	山下館跡	城館	中世	100	犬塚遺跡	集落・生産	古代
57	日向窯跡	窯跡	古代	101	駒場原遺跡	散布地	古代
58	入山遺跡	散布地	縄文後・古代	102	新中永窪遺跡	集落・生産	古代
59	山王遺跡	製鉄	古代?	103	東作経塚	経塚	平安~室町
60	下大沢遺跡	散布地	縄文前	104	大壇小壇十三壇	塚	中世?
61	合戦原遺跡	集落・円墳・窯跡	古墳中・後・奈良・平安	105	雷神遺跡	集落・生産	古代
62	合戦原B遺跡	製鉄	古代?	106	山ノ上遺跡	散布地・生産	古代
63	合戦原C遺跡	古墳群	古代		北泥沼遺跡	散布地	古代
64	舘下窯跡	窯跡	古代		泥沼遺跡	散布地	古代
	中島館跡	城館	中世		畑合遺跡	散布地	古代
66	大久保遺跡	散布地	縄文・古墳・古代		北頭無遺跡	散布地	古代
	大久保B遺跡	散布地	古代		新田遺跡	散布地	古墳後・古代
68	北名生東窯跡	窯跡	古代	112	頭無遺跡	散布地	古代
	北名生東B窯跡	窯跡	古代		浜遺跡	散布地	古代
	戸花山遺跡	窯跡	縄文~古代		花笠遺跡	散布地	古代
71	ì	散布地	古代		西北谷地A遺跡	散布地	古代
72	1	散布地	古代		西北谷地B遺跡	散布地	古代
	北の原遺跡	散布地	縄文早・前・後		西須賀遺跡	散布地	古代
	石山原遺跡	散布地	縄文		笠野A遺跡	散布地	古代
	南山神遺跡	散布地	縄文早・前		笠野B遺跡	散布地	古代
	真庭館跡	城館	中世		北中須賀遺跡	散布地	古代
	北鹿野遺跡	散布地	古墳		狐須賀遺跡	散布地	古代
	貝吹城跡	城館	中世		笠浜遺跡	散布地	古代
	卯月崎塚	塚	中・近世		新浜遺跡	散布地	古代
	北越塚	塚	近世?	124	唐船番所跡	番所	近世
82	上台遺跡	散布地	弥生・平安				

# 第Ⅱ章 調査に至る経緯と経過

# 1. 常磐自動車道(県境~山元間)建設工事計画と発掘調査に至る経緯

## (1)調査に至る経緯

### ①路線内の埋蔵文化財の取り扱い決定までの経緯

宮城県亘理郡山元町は、常磐自動車道の事業計画地の一つとなっており、平成11年度に山元ICから福島県の新地ICまでのおおよそのルートが決定したことを受け、日本道路公団東北支社仙台工事事務所長から平成12年2月5日付で、道路工事と埋蔵文化財の関わりについての「協議書」が提出された。宮城県教育委員会(以下、県教委)、山元町教育委員会(以下、町教委)では、協議の結果、事業の実施により、遺跡へ与える影響が高いと判断されたことから、平成12年5月29日付け宮城県教育庁文化財保護課長通知により、路線内に含まれる周知の遺跡4カ所については、遺構の分布状況を把握するために、「確認調査」を実施する対応に決定した。しかし、具体的な施工時期等が未決定だったため、その後の高速道路建設工事に関する埋蔵文化財の対応は、平成19年度までの一定期間、具体的な動きがなく、大きな動きがない状態であった。

平成 19 年度になり、常磐自動車道の施工時期・具体的な路線が決定し、用地のセンター杭設置が完了したことを受け、東日本高速道路株式会社(以下、事業主)・県教委・町教委の三者で改めて協議を行った結果、山元 IC 以南から県境までの総長約 10km の路線について、本格的な分布調査を実施し、路線内の遺跡の分布状況について再度調査することとなった。

分布調査は、県教委・町教委のほか、事業主・町担当部局の担当職員が参加し、平成20年2月26日~28日(県教委7名・町教委2名)、平成21年3月23日・24日(県教委10名、町教委1名)の5日間にわたり実施された。その結果、路線内では、十数カ所で新たに遺跡が発見され、すでに確認されていた周知のものを合わせて21遺跡確認された。また、山林のため遺跡の有無が確認できなかった箇所のうち、地形的に遺跡が存在する可能性のある箇所や遺跡隣接地に該当する箇所も16箇所確認され、路線内の要確認箇所は、合計37地点となった。

これを受け、平成 21 年 5 月に県教委・町教委・事業主の三者で、遺跡の取り扱い・調査体制等について協議した結果、路線内に多数の遺跡・確認箇所があり、かつ遺跡保存のための工法変更が難しいと判断されたことから、路線内 37 カ所の全てについて発掘調査が必要であると判断された。しかしながら、平成 21 年時点での町の調査体制では、提示された調査期間内に発掘調査完了見込みが立たないことから、発掘調査は県教委の全面的な協力を得て、県教委と町教委で分担することとなった。また、用地買収の状況により、平成 21 年度中に路線内の発掘調査可能箇所について調査着手するものとした(しかしながら、平成 21 年 11 月の段階で、平成 21 年度中の発掘調査着手が困難な状況となったため、本格的な発掘調査は、平成 22 年度から開始することとなった)。

#### ②文化財保護法に基づく手続き

上記の三者による協議終了後、新発見遺跡の遺跡登録手続きを実施し、平成 21 年 6 月 2 日には、事業主から路線内の 21 遺跡・その他 16 箇所についての「協議書」が提出され、平成 21 年 6 月 17 日付け「文第 519 号」宮城県教育委員会教育長通知により、周知の遺跡 21 遺跡、その他 16 箇所についての取り扱いが決定した(周知の 21 遺跡:確認調査実施後、遺構が存在する場合は本調査を実施、その他 16 箇所:立木伐採後、現地踏査・確認調査を実施し取り扱いを決定する)。その後、平成 21 年 9 月 1 日には事業主から文化財保護法第 94 条に基づく「発掘通知」が提出され、平成 22 年度から本格的な発掘調

査を実施した。発掘調査完了後には、完了した遺跡ごとにその都度、遺失物法・文化財認定に係る手続きを行った。

## (2) 施工路線内の発掘調査の経過

常磐自動車道施工路線内の現地発掘調査については、前述のとおり、県教委と町教委が分担し発掘調査を進めた。発掘調査に先立ち、平成22年4月1日に県教委・町教委・事業主の三者で埋蔵文化財発掘調査に係る協定を締結し、その後、町教委については各年度当初に、事業主と山元町で業務委託契約を締結し発掘調査業務にあたった。施工路線内の発掘調査は、原則として高速道路4車線分の用地幅に対し、今回の施工分(2車線分)と側道等の付帯設備のみを対象として行われ、切土部分や工法の関係で4車線分の工事を要する範囲については、用地幅すべてを調査の対象とした。また、平成23年3月11日に発生した東日本大震災に伴い、常磐自動車道が「復興道路」に位置づけられたため、平成24年度以降の発掘調査実施にあたっては、「復興事業に伴う埋蔵文化財」の適用を受けることとなり、「復興の基準」(平成23年6月3日付け文第268号宮城県教育委員会教育長通知、平成23年4月28日付け23庁財第61号文化庁次長通知)で調査を実施した。

施工路線内の21遺跡、その他16カ所の合計37箇所の現地発掘調査は、平成22年度から開始し、平成25年度までの4カ年にわたり実施した(第3図・第1表)。山林のため遺跡の有無を確認できなかった16箇所については、調査の結果、遺構が発見された日向北(2)・涌沢(5)・上宮前北(13)の3箇所には遺跡として新規登録、遺跡隣接地のうち遺構が発見された3箇所(11・17・20)は隣接する遺跡への範囲拡大措置がとられた。したがって、最終的な路線内の遺跡数は24遺跡という結果となった。

発掘調査は、用地買収等の進捗状況の影響もあり、平成 22 年以前に用地内の確認調査が実施できなかったため、それぞれ遺跡の状況が把握できない状態での開始となった。したがって、発掘調査に際しては、路線内の遺跡範囲について、まず確認調査を実施し、遺構が発見された場合は、本調査に切り替えて調査を行う方法で行った。

なお、各年度の県教委と町教委の調査遺跡については、第3図・第1表のとおりである。

# 2. 石垣遺跡発掘調査の経過

石垣遺跡の確認調査・事前調査は、町教委が主体となり実施した。

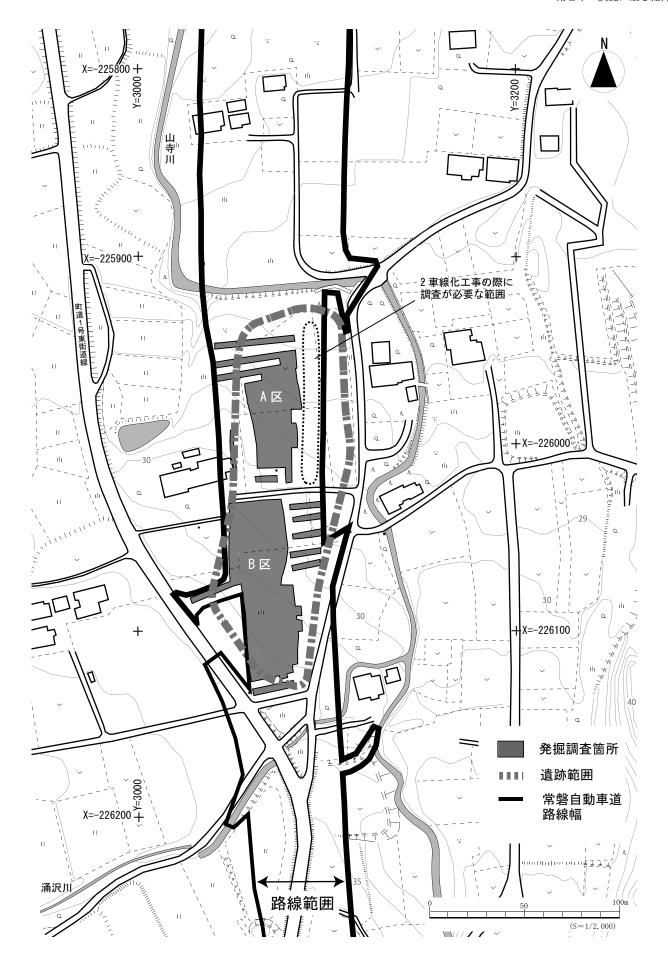
#### (1)確認調査の経過

確認調査は平成23年8月29日~9月1日までの4日間実施し、石垣遺跡範囲内の路線計画部分のほぼ全域にわたり遺構が残存していることが判明した。この結果を受け、事業主と協議した結果、2車線分の路線範囲と町道付替部分について、平成23年度に本格的な調査を行うこととなった。

## (2)事前調査の経過

事前調査は、平成23年9月5日~11月1日の34日間実施した。事前調査の対象となったのは、高速 道路4車線分の用地のうち、今回施工する2車線分の用地範囲である(第4図)。したがって、高速道 路の4車線化工事実施の際は、今回の調査対象とならなかった箇所(A区東側用地)について、再度発 掘調査が必要である。

調査面積は、調査対象となった事業計画面積の約 10,000 ㎡のうち、遺構が確認された約 4,750 ㎡ (A



第4図 調査区の位置

区:約1,730 m<sup>2</sup>、B区:約3,020 m<sup>2</sup>) である

調査は、遺跡南側に隣接する的場遺跡の事前調査終了後すぐに開始したことから、発掘現場事務所については、的場遺跡の調査で使用した現場プレハブをそのまま利用し、石垣遺跡の調査現場には、道具倉庫と仮設トイレのみを設置して調査にあたった。

9月5日から表土除去を開始し(A区9月5日~6日、B区9月6日~8日)、遺構の検出・精査については、A区は9月8日、B区は9月9日から着手した。10月26日にはA・B区の調査がほぼ完了し、11月1日にA・B区全面の空中写真撮影を業務委託により行った。その後、現場の資材等を撤収し、調査区の埋め戻しを実施し、すべての現地作業を終了した。

発掘調査体制は、調査員2名、調査補助員2名、作業員29名である。

## (3) 整理・報告書作成作業の経過

石垣遺跡で出土した遺物、現地の記録類の整理・報告書作成作業は、発掘調査終了後、山元町役場敷地内に設置した整理室内で行った。石垣遺跡の現地調査完了後も、その他の常磐道関連遺跡の現地調査を継続して進めたため、本格的な整理・報告書作成は、平成24年度以降から開始し、平成25年度末に作業を完了した。

## 【平成24年度の作業内容】

- ・出土遺物の整理作業(洗浄・接合・注記・復元)
- ・記録写真のネーミング

#### 【平成25年度の作業内容】

- ・平面図、断面図の修正
- ・出土遺物の実測図・拓本の作成、実測図のトレース、出土遺物の写真撮影
- ・断面図のトレース、平面図・写真類の版組み
- 報告書執筆
- ・出土遺物、記録類の収納

# 第Ⅲ章 発掘調査

# 1. 基本層序

調査区 (A・B区) は、標高 26~32m の平坦面・緩斜面に位置し、南側から北・東側にかけて緩やかに傾斜する。発掘調査前の調査区の土地利用状況は、A・B区ともに畑地である。

基本層序は、上から現代の表土(I層)、旧表土(II層)、旧河川跡(III層)、地山(IV層)の順に構成される。遺構確認面はIII層・IV層上面である。III層の旧河川跡は、A・B区の南東側で確認されており、遺跡の東側を流れる山寺川が起源となると考えられる。

各層の概要は以下のとおりである(第5図)。

**I層**:表土。暗褐色(10YR4/3)シルト。

層厚 12~37cm。現代の耕作土。小礫少量、炭化物片含む。

**Ⅲ層**:旧表土。暗褐色(10YR3/4)シルト。

層厚 10~26cm。小礫少量、炭化物片含む。地山粒子含む。

Ⅲ層: 旧河川跡。河川起源の土と礫、砂で構成される層。

Ⅲa~f 層に細別される。

Ⅲa層:褐色(10YR4/4)シルト。層厚 9~35cm。黒色土粒子、小礫含む。

Ⅲb層:にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂質シルト。層厚7~32cm。小礫少量含む。

Ⅲc層:灰黄褐色 (10YR4/2) 砂質シルト。層厚 8~18cm。小礫含む

Ⅲd層:灰黄褐色 (10YR4/2) 砂質シルト。層厚 6~16cm。黒色土粒子、小礫含む

Ⅲe 層:褐色 (10YR4/6) 砂質シルト。層厚 8~31cm。小礫微量含む。

Ⅲf層:暗褐色 (10YR3/4) 砂質シルト。層厚6~14cm。小礫微量含む。

**Ⅳ層**: 地山。**Ⅳ**a~b 層に分かれる。

さらにIVb層は土色と混入物の違いからIVb1層、IVb2層の2層に細別される。

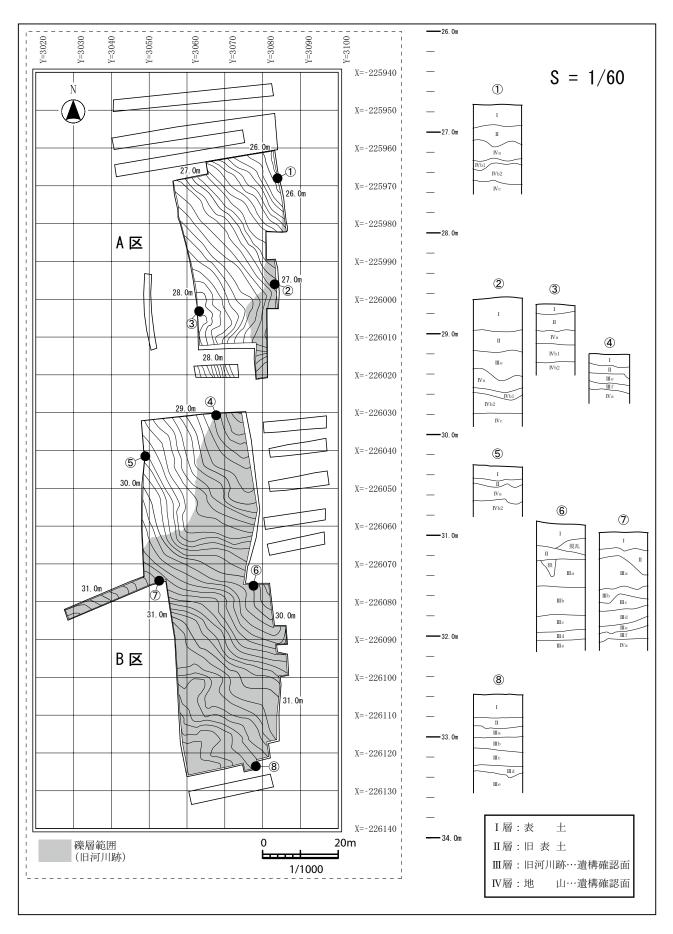
IVa層: 黄褐色(10YR5/6) 粘土質シルト及び砂質シルト。

層厚 12~21cm。小礫微量含む。遺構確認面

IVb1 層:にぶい黄褐色(10YR5/4)シルト。層厚 4~10cm。小礫含む。

IVb2 層: 黄褐色 (10YR5/8) シルト。層厚 12~21cm。小礫多く含む。

IVc 層:にぶい黄褐色 (10YR5/4) シルト。層厚 15cm 程度。小礫微量含む。



第5図 石垣遺跡 基本層序

# 2. 発掘調査の方法

今回の調査は、常磐自動車道(県境~山元間)建設工事に伴う発掘調査であり、本遺跡の現地調査・ 整理作業は下記の方法により行った。

# (1) 現地調査

#### 【調査区の設定】

今回の調査範囲は、既存の私道により南北に分断されている状況であった。このことから、この私道を境として調査区を設定する方法をとった。調査区は、道路の北側を A 区、南側を B 区とした(第 4 図)。

#### 【表土除去・遺構精査】

表土除去作業はバックホー (0.45 m³)、遺構検出以降の作業は人力により行った。なお、遺構検出作業ついては、A 区は基本層Ⅲe・IVa 層上面、B 区は基本層Ⅲa・IVa 層上面で行った。

## 【遺構測量】

検出した遺構や調査区の図面作成については、遺構平面図・等高線作成はトータルステーション (SRX5X)及び電子平板システム (遺構くん cubic 2011 7.02)、遺構断面図は手実測により縮尺 1/20 で実測した。その際、調査対象範囲に設置した国家座標系に基づく基準杭を利用した。測量基準杭の国家座標は例言に示したとおりである。

#### 【遺構番号】

遺構番号は、現地調査の段階で、それぞれの調査区 (A~B区) ごとに1から通し番号 (A-001~、B-001~) を振り、各種記録類を作成した。その後、整理作業の段階で、遺構番号を各遺構の性格ごとに再度振り直した。なお、遺構の性格ごとの略記号については例言に示したとおりである。

#### 【遺構の記録作成】

今回の調査で検出した遺構のうち、竪穴住居跡・竪穴状遺構、土坑、井戸跡については、原則として、すべての記録作成(平面図・断面図・写真撮影)を行った。これら以外の中世以降と判断される柱穴・ピット類は、調査を円滑に進めるため、遺構平面の下場計測や断面図・写真等の記録作成の一部を省略した。具体的には、建物を構成する柱穴については、必要箇所のみ断面図作成・写真撮影等を行い、これ以外の柱穴・ピットは、法量計測・土層注記の記録作成のみを行った。この他、今回の調査で掘り込みを行った遺構の底面標高はすべて記録した。

#### 【遺物の記録・取り上げ】

遺構から出土した遺物のうち、出土状況の平面記録の対象としたものは、遺構に伴う遺物でかつ残存 状況のよいもののみとした。

遺物の取り上げについては、原則として遺構出土遺物は出土層位ごと、遺構外出土遺物は検出面等として記録し取り上げた。ただし、遺構出土の遺物のうち、半裁時(分層前)に出土した遺物で出土層位が明確でないものは、「堆積土」として取り上げた。

#### 【写真撮影】

## (2)室内整理

#### ①遺物の整理作業

#### 【遺物洗浄・接合・復元】

遺物の洗浄は、水洗により作業を行い、比較的脆い遺物(縄文土器・土師器)については、土器強化剤(使用薬剤:バインダー17)による処理を施した。遺物の接合は、まず同一遺構内の出土遺物の接合を行い、その後、別々の遺構間、その他(検出面・排土など)から出土した遺物の接合を行った。遺物の復元は、実測図作成が可能なものを対象に作業を行った。

## 【注記作業】

遺物の注記は、ジェットマーカー(第一合成株式会社)を一定期間リースし、機械による注記を行った。遺物への注記内容は、原則として遺跡名の略号・調査年・出土遺構・出土層位とし、遺物の内面等に注記した。なお、注記した出土遺構名は、現場調査で付した番号とした。

#### 【遺物抽出・実測図・拓本図作成】

遺物の抽出・実測図作成は調査員・調査補助員が行い、拓本作成は整理作業員、報告書用の拓本図作 成は調査補助員が担当した。

遺物抽出に際しては、原則として遺構に伴う遺物を中心に抽出し、遺構に伴わないものや遺構外出土のものについても図化が可能なものは抽出の対象とした。

遺物の実測図については、原則として手実測により作成したが、一部の遺物は遺物くん cubic 2012 4.00 を使用して作成し、また、一部は民間調査機関(株式会社シン技術コンサル)に委託して行った。

拓本図の作成は、墨拓と画仙紙を使用し拓本を作成した後、スキャナーで PC に画像を取り込み、報告書掲載用に加工した。

#### 【実測図トレース、写真撮影】

遺物の実測図のトレース図は、素図をスキャナーで取り込み、PC上でのデジタルトレースを行い作成した。報告書に掲載する遺物の写真撮影・写真加工作業は、民間機関(株式会社アートプロフィール)に委託した。

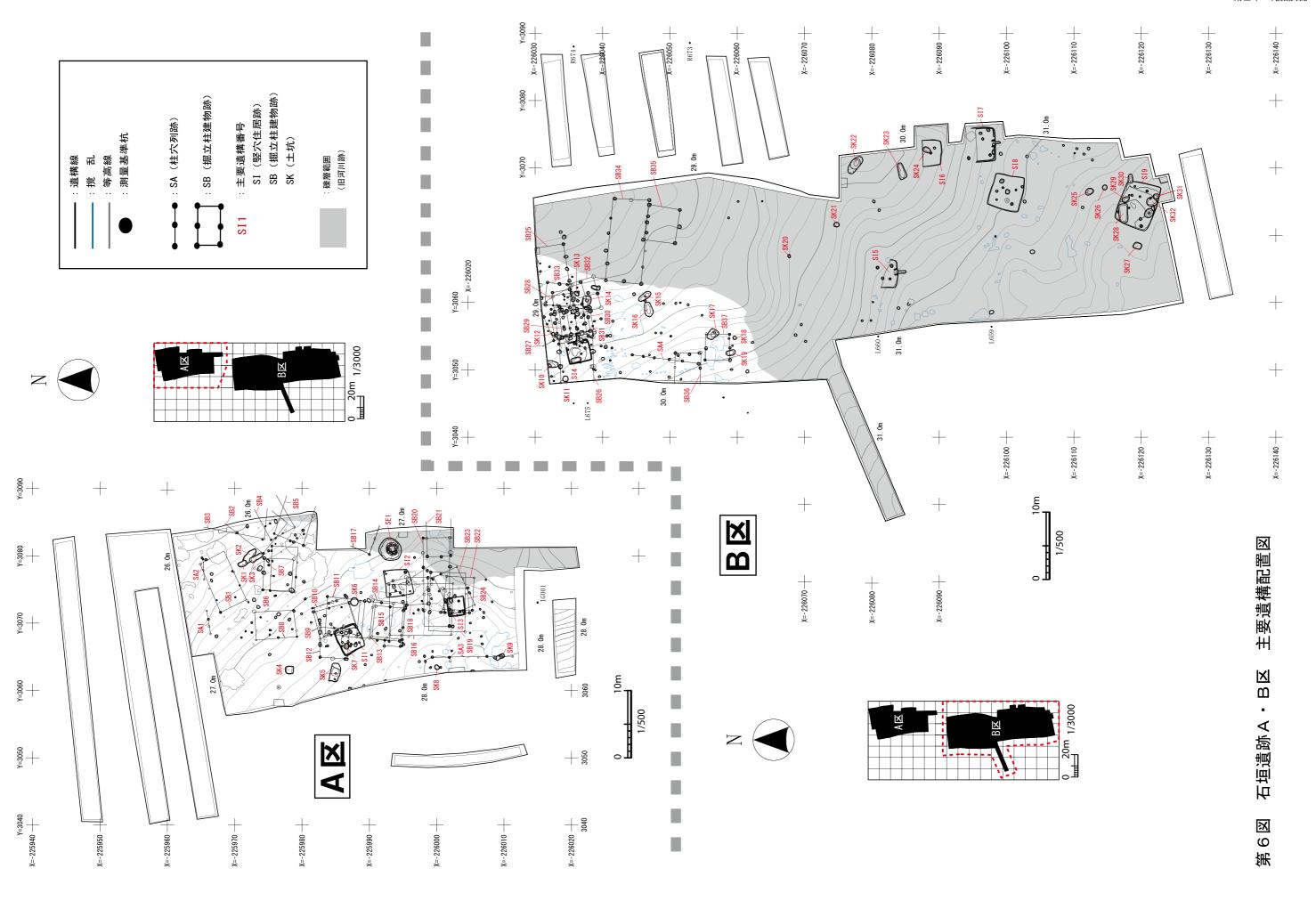
#### ②図面の整理・報告書作成

遺構図の整理作業は、平面図修正、断面図修正・トレース、土層注記等のデータ入力を行ったのち、 図版作成、図面収納の手順で行った。報告書の執筆は、調査員・調査補助員が担当した。

なお、遺物・断面図のトレース図作成、写真画像処理、遺構図等の図版作成、報告書版組みについては、遺構くん cubic 2012 8.03、Adobe Illustrator CS5、Adobe Photoshop CS5、Adobe InDesign CS5、表データ・報告書原稿の作成については Microsoft Office Word ・Excel のソフトウェアを使用した。

# 3. 発見された遺構と遺物

今回の調査では、竪穴住居跡 9 軒、掘立柱建物跡 37 棟、柱穴列跡 4 条、土坑 32 基、井戸跡 1 基、Pit256 個を検出した(第  $6 \cdot 9 \sim 1$  3 図)。出土遺物は、縄文土器、土師器、須恵器、陶器、磁器、石器である。以下、遺構ごとに記載する。





1. 石垣遺跡 調査区全景(北から)

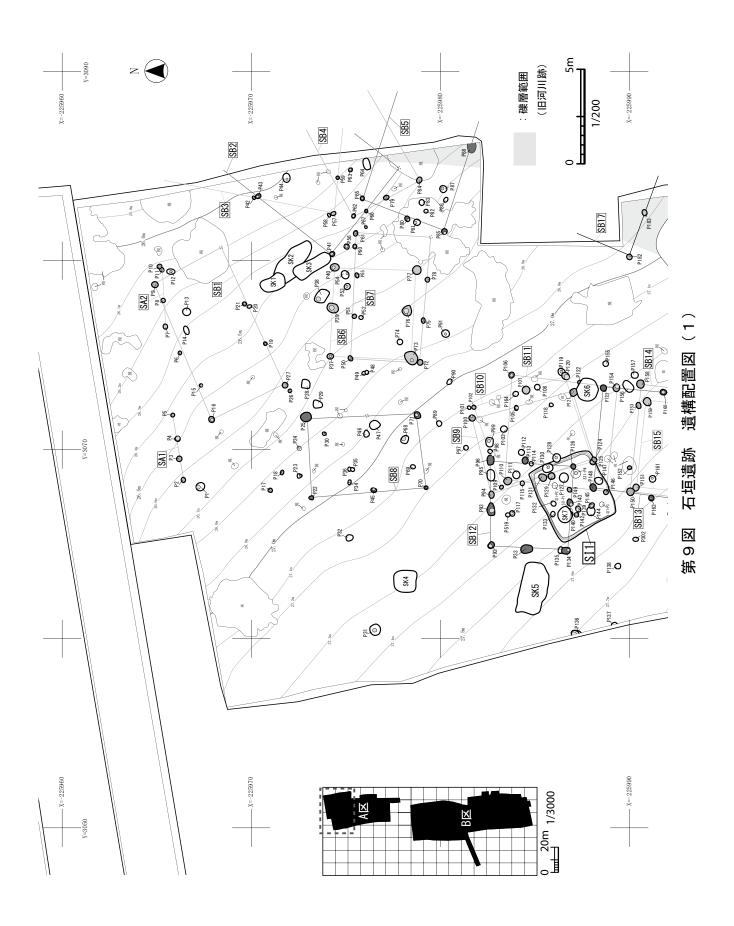


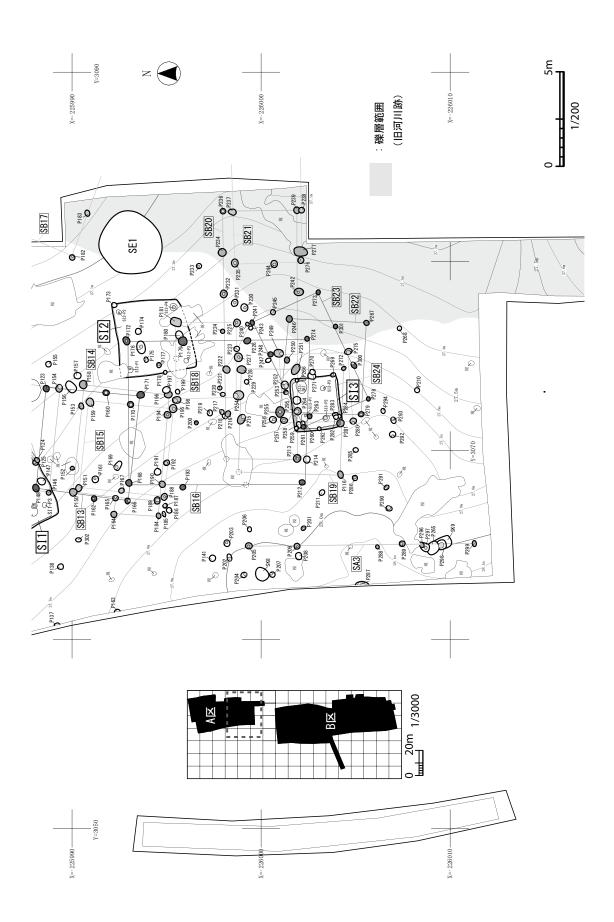
2. 石垣遺跡 調査区全景(南から)

第7図 石垣遺跡 調査区全景(1)



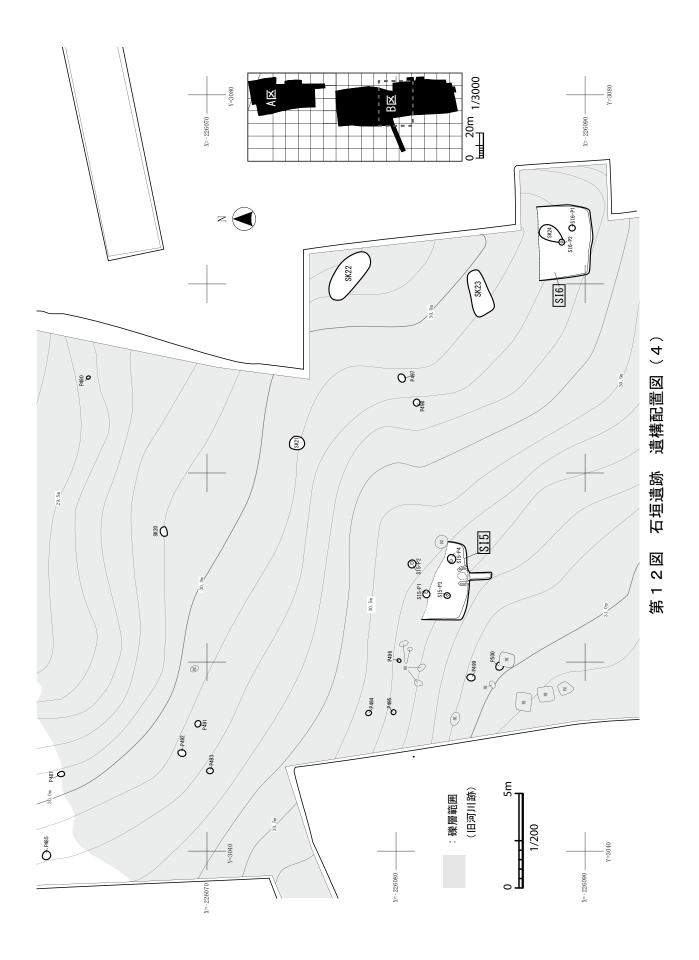
第8図 石垣遺跡 調査区全景(2)

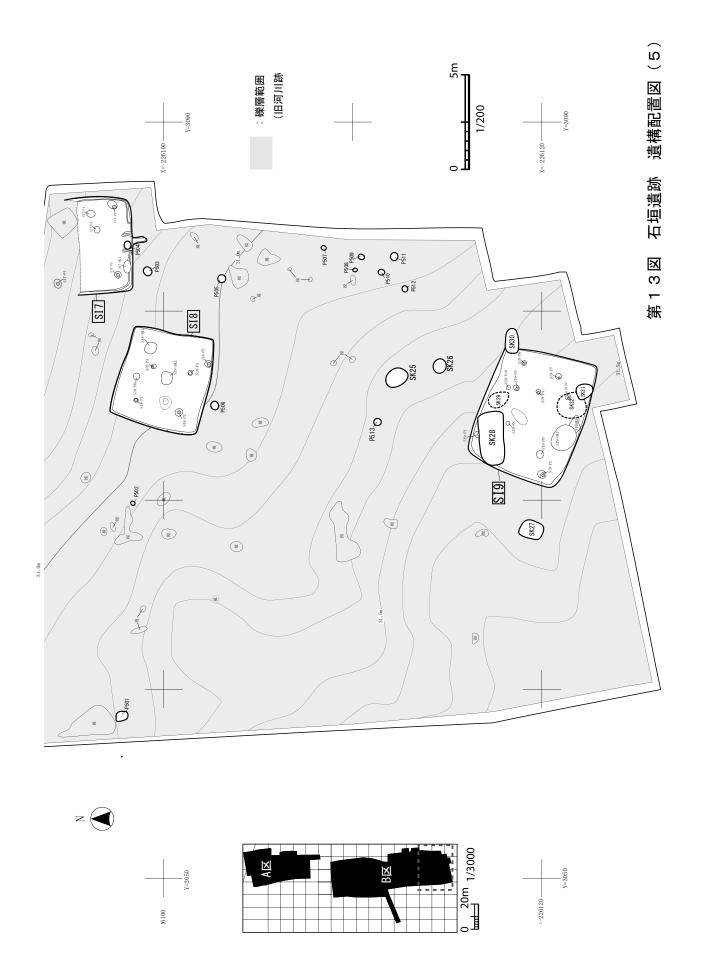




第10図 石垣遺跡 遺構配置図(2)







## (1) 竪穴住居跡·竪穴状遺構

A 区で3軒(SI1~3)、B 区で6軒(SI4~9)、合計9軒検出した。

## 【SI1 **竪穴状遺構**】(第14図、第3表)

A 区中央の標高 27.3~27.6m 前後の平坦面に立地する。確認面は基本層IVa 層である。SB9 (P124・131)・SB10 (P125・129)・SB11 (P146・149)・SB12 (P126・143)・SB13 (P148)、SK7、P127・128・130・132・133・139・140・142・144・145・147と重複し、これらより古い。

**〔規模・平面形〕**北-南2.9m、東-西3.2mの隅丸方形を呈する。

[主軸方向] 竪穴西辺が真北に対し、西に約20°傾く(N-20°-W)。

[壁] 竪穴北東部分が最も残りがよく、高さ 6cm 程度残存していた。

**[床面]** 竪穴中央部・南西部は地山、それ以外は掘方埋土を床面としている。床面はほぼ平坦である。 **[炉・カマド]** 確認されなかった。

【周溝】竪穴壁際を巡る。周溝は全周せず、竪穴南東コーナーと北辺・東辺・西辺のみで確認した。上幅 8~20cm、下幅 3~7cm、深さ 9cm 前後である。周溝は南辺で途切れていることから、出入口は竪穴の南側付近に位置していた可能性が考えられる。

**〔床面施設〕**柱穴跡を1個(P4)、ピットを3個(P1~3)検出した。

柱穴 (P4) は径 51 cm の楕円形を呈し、深さ 25 cm で、径 13 cm の円形の柱痕跡が認められた。ピット (P1 $\sim$ 3) は、径  $20 \sim 21 \text{cm}$  の円形を呈し、深さ  $10 \sim 24 \text{cm}$  である。

これらの柱穴とピットは、竪穴の四隅に配置されていることから、主柱穴である可能性が想定される。

**【堆積土】**竪穴の堆積土は3層に分かれ、1層は竪穴堆積土、2層は周溝堆積土、3層は竪穴の掘方埋土である。1~2層は自然堆積で、3層は人為堆積である。

【出土遺物】出土していない。

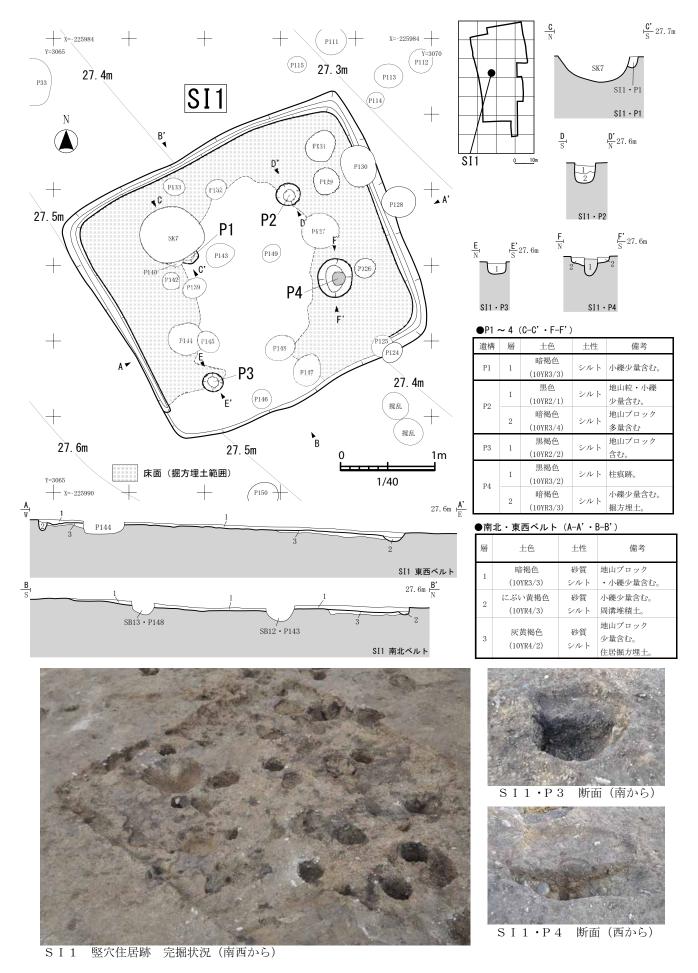
【その他】SI1 は、平面形が隅丸方形を呈し、床面には主柱穴と思われる柱穴・ピットが四隅に配置され、周溝が壁際を巡り、床面は周縁部を掘方埋土としており、その構造が周辺で確認されている竪穴住居跡と類似している。

このことから、現地調査時、SI1 が竪穴住居跡である可能性を想定して調査を進めたが、床面や竪穴周囲で炉やカマドなどの痕跡を確認することができなかったため、SI1 を「住居跡」として認定するには至らなかった。したがって、本報告では SI1 を「竪穴状遺構」として報告する

第3表 SI1 竪穴状遺構 床面施設一覧

遺構	種	規模(長	軸・知	豆軸・	残存深)	
番号	類	平面形	面形 長 短軸 軸		残存 深	備考
SI1 • P1	小穴	円形	20	10	13	
SI1 • P2	小穴	楕円形	32	28	24	
SI1 • P3	小穴	円形	21	19	10	
SI1 • P4	柱穴	楕円形	51	45	25	柱痕跡:円形・径13cm

こととした。



第14図 SI1 竪穴状遺構

## 【SI2 竪穴状遺構】(第15·16図、第4表)

A 区中央の標高 27.2~27.5m 前後の平坦面に立地する。確認面は基本層IVa 層である。SB16 (P172・179)・SB18 (P181)、P173・174・175・176・177・178・180 と重複し、これらより古い。

**〔規模・平面形〕**北−南 3.8m、東−西 3.9mの隅丸方形を呈する。

**〔主軸方向〕**竪穴西辺が真北に対し、西に約8°傾く(N-8°-W)。

**[壁]** 竪穴西側部分が最も残りがよく、高さ 3cm 程度残存していた。北西コーナーの一部と南壁の大部分は後世の撹乱により削平されている。

[床面] 竪穴中央部周辺は地山、それ以外は掘方埋土を床面としている。床面はほぼ平坦である。

**〔炉・カマド〕**確認されなかった。

[周溝] 確認されなかった。

**[床面施設]** 柱穴跡を3個(P1・2・4)、ピットを1個(P3) 検出した。

柱穴 (P1・2・4) は径 30~38cm の円形を呈し、深さ 28~45cm で、径 8~17cm の円形の柱痕跡が認められた。ピット (P3) は、径 23cm の円形を呈し、深さ 28cm である。

これらの柱穴とピットは、竪穴の四隅コーナー付近に配置されていることから、主柱穴である可能性が想定される。

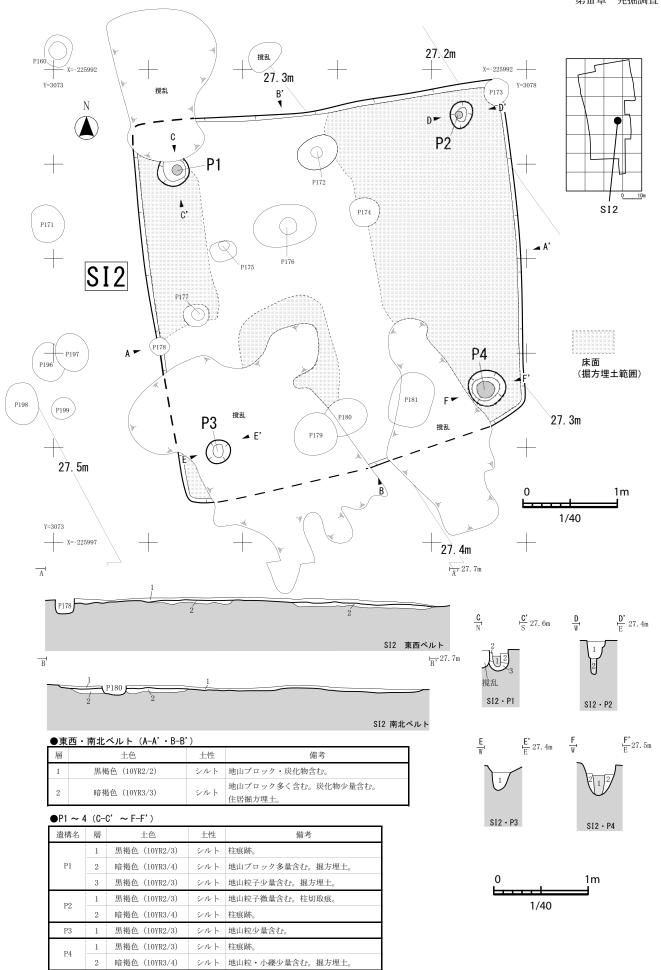
【堆積土】竪穴の堆積土は2層に分かれ、1層は竪穴堆積土、2層は竪穴の掘方埋土である。1層は自然 堆積で、2層は人為堆積である。

**【出土遺物】**堆積土から、縄文土器片・土師器片(ロクロ成形)が出土し、このうち、図示できたものは土師器坏(第 16 図 1 )である。

**【その他】**SI2 は、SI1 と同様、現地調査時、竪穴住居跡である可能性を想定して調査を進めたが、床面や竪穴周囲で炉やカマドなどの痕跡を確認することができず、「住居跡」として認定するには至らなかった。したがって、本報告ではSI2 を「竪穴状遺構」として報告することとした。

遺構	繙	規模	莫(長軸・短	軸・残存深)		
番号	種 類	平面形	長 軸	短 軸	残存 深	備考
SI2 • P1	柱穴	円形?	(33)	30	40	柱痕跡:円形・径12cm
SI2 • P2	柱穴	円形	30	30	45	柱痕跡:円形・径8cm
SI2 • P3	小穴	円形	23	23	28	
SI2 • P4	柱穴	円形	38	37	28	柱痕跡:円形・径17cm

第4表 SI2 竪穴状遺構 床面施設一覧



第15図 SI2 竪穴状遺構(1)



No.	遺構・層	種別	器種	残 存	特徴【技法(外面・内面)→色調(外面・内面)→法量→その他の特徴の順に記載】	登録
	SI2	土師器	坏	口 纽坎	外面:ロクロナデ、内面:ロクロナデ、色調:内外面・橙色(7.5YR6/6)、法量:口径(13.6)cm・残存高2.1cm・	C 1
1	堆積土	工制器	环	口縁部	器厚0.4cm、赤焼土器	C-1



SI2 竪穴状遺構 完掘状況 (南から)



S I 2 · P 1 断面 (西から)



S I 2 · P 4 断面 (南から)

# 第16図 SI2 竪穴状遺構(2)

### 【SI3 竪穴状遺構】(第17・18図、第5表)

A 区南側の標高 27.6~27.8m 前後の平坦面に立地する。確認面は基本層IVa 層である。SB19 (P281)・SB20 (P295)・SB23 (P261)・SB38 (P264)、P258・259・260・262・263・266・269・282・283・284・271と重複し、これらより古い。

**〔規模・平面形〕**北−南 2.5m、東−西 2.8mの隅丸方形を呈する。

**[主軸方向]** 竪穴西辺が真北に対し、西に約5°傾く(N-5°-W)。

【壁】竪穴南辺が最も残りがよく、高さ10cm程度残存していた。

**【床面】**掘方埋土を床面としている。床面はほぼ平坦である。

**[炉・カマド]** 確認されなかった。

【周溝】竪穴壁際を巡る。周溝は全周せず、竪穴南東コーナーから東辺以外で確認した。上幅 12~16cm、下幅 5~8cm、深さ 12cm 前後である。周溝は南東部分で途切れていることから、出入口は竪穴の南東付近に位置していた可能性が考えられる。

**[床面施設]** 柱穴跡を 3 個(P1~3)、土坑を 1 個(SK1) 検出した。

柱穴 ( $P1\sim3$ ) は径  $26\sim43$ cm の円形・楕円形を呈し、深さ  $13\sim22$ cm で、径  $9\sim19$ cm の円形・楕円形の柱痕跡が認められた。これらの柱穴は位置的にみて竪穴の主柱穴と思われる。

土坑 (SK1) は、住居北東コーナー部で確認し、直径 66×55cm、深さ 7cm の楕円形を呈する。堆積土は1層で、自然堆積である。

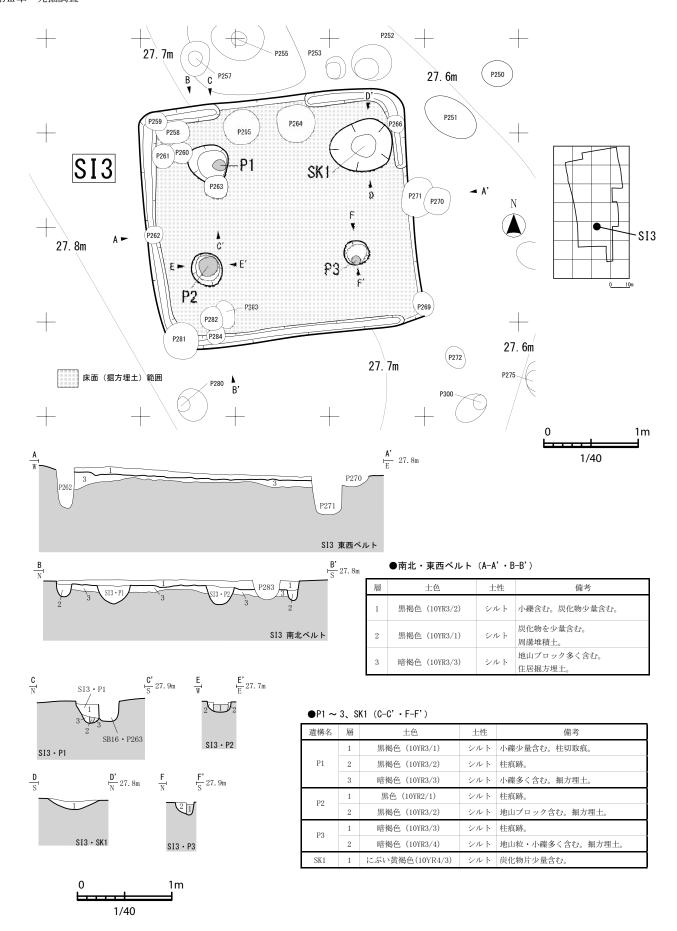
**〔堆積土〕**竪穴の堆積土は3層に分かれ、1層は竪穴堆積土、2層は周溝堆積土、3層は竪穴の掘方埋土である。1~2層は自然堆積で、3層は人為堆積である。

[出土遺物] 出土していない。

**【その他】**SI3 は、SI1・2 と同様、現地調査時、竪穴住居跡である可能性を想定して調査を進めたが、 床面や竪穴周囲で炉やカマドなどの痕跡を確認することができず、「住居跡」として認定するには至 らなかった。したがって、本報告では SI3 を「竪穴状遺構」として報告することとした。

	第3名 313 至八仇退阱 外面爬改 見											
遺構	繙	規模	(長軸・短	軸・残存	深)							
番号	種 類	平面形	長軸	短 軸	残存 深	備考						
SI3 • P1	柱穴	楕円形	43	30	22	柱痕跡:楕円形・径14cm						
SI3 • P2	柱穴	円形	33	33	13	柱痕跡:円形・径19cm						
SI3 • P3	柱穴	円形	26	24	16	柱痕跡:円形・径9cm						
SI3 • SK1	土坑	楕円形	66	55	7							

第5表 SI3 竪穴状遺構 床面施設一覧



第17図 SI3 竪穴状遺構(1)



SI3 竪穴状遺構 完掘状況 (南から)



S I 3・P 1 断面 (西から)



S I 3・S K 1 断面 (東から)



S I 3・P 2 断面 (南から)



S I 3・P 3 断面 (西から)

第18図 SI3 竪穴状遺構(2)

#### 【SI4 **竪穴住居跡**】(第19~21図、第6表)

B 区北側の標高 29.4~29.6m 前後の平坦面に立地する。確認面は基本層IVa 層である。SB26 (P353)・ SB28 (P346)・SB31 (P344)、P357 と重複し、これらより古い。

**〔規模・平面形〕**北−南 3.4m、東−西 3.2mの隅丸方形を呈する。

**[主軸方向]** 住居西辺が真北に対し、西に約 12° 傾く (N-12° -W)。

【壁】住居南辺が最も残りがよく、高さ12cm程度残存していた。

**【床面】**住居中央部から北西部は地山、それ以外は掘方埋土を床面としている。床面はほぼ平坦である。 住居中央部の床面で硬化面が確認された。

**【カマド**】住居東壁中央に付設されており、カマドの煙道・煙出・側壁・焼面が残存していた。カマドの側壁は、地山ブロックを含む暗褐色土と小礫を含む褐色土で構築されていた。

[周溝] 確認されなかった。

[床面施設] 柱穴跡を3個(P1~3)、ピットを2個(P4・5)、土坑を2基(SK1・2)検出した。

柱穴  $(P1\sim3)$  は、径  $25\sim37$ cm の円形・楕円形を呈し、深さ  $12\sim19$ cm で、径  $11\sim13$ cm の円形・楕円形の柱痕跡が認められた。これらの柱穴は、住居の主柱穴であると考えられる。

ピット (P4・5) は、径 21~33cm の円形・楕円形を呈し、深さ 4~9cm である。 P4 は、堆積土に 炭化物片・焼土粒子を含み、カマド付設部付近に位置することから、カマドに関連する遺構である可 能性が考えられる。 P5 については、その性格は不明であるが、位置的に柱穴跡である可能性が想定 される。

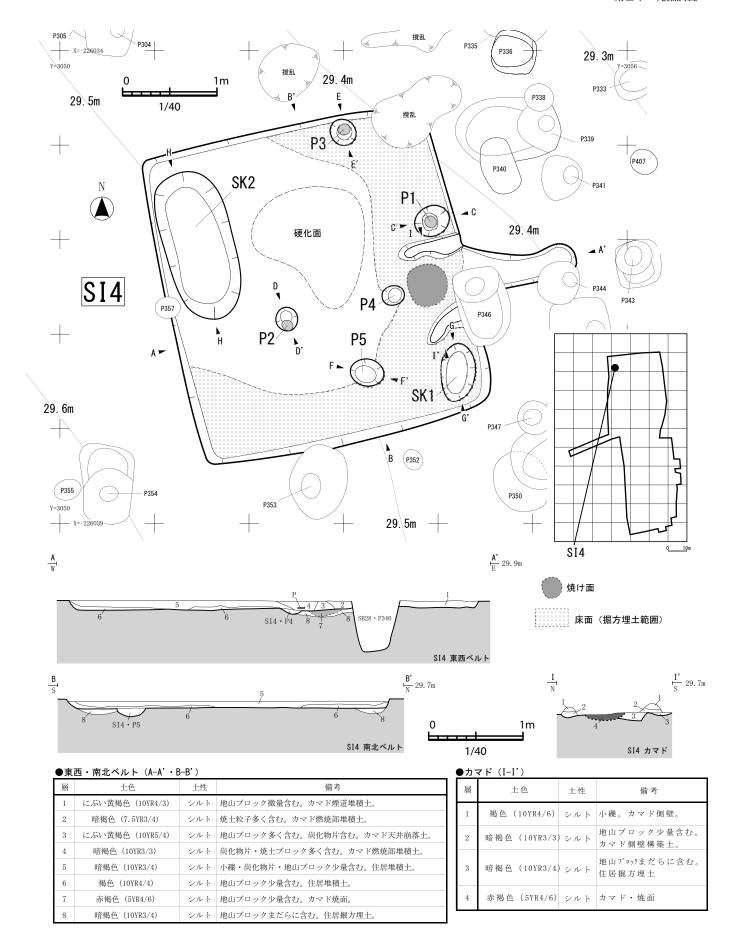
SK1 は、住居南東コーナー部で確認し、直径 56×30cm、深さ 8cm の楕円形を呈する。堆積土は1層の人為堆積層で、炭化物片・焼土粒子が含まれる。カマド付設部の南脇に位置することから、貯蔵穴である可能性が考えられる。SK2 は、住居北西コーナー部で確認し、直径 157×73cm、深さ 9cm の楕円形を呈する。堆積土は1層で、地山ブロック・炭化物片を多く含む人為堆積層である。

【堆積土】住居の堆積土は8層に分かれ、1~4層は住居カマド堆積土、5~6層は住居堆積土、8層は住居の掘方埋土である。7層はカマド燃焼部焼面である。1~6層は自然堆積で、8層は人為堆積である。

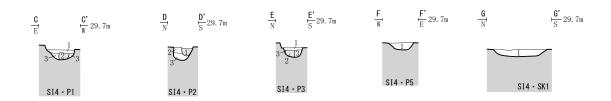
【出土遺物】住居堆積土・床面・掘方埋土、R5・1層、P1・2の掘方埋土、P5・1層から、土師器片(ロクロ成形)・須恵器片が出土し、このうち、図示できたものは土師器坏(第20図1~3)、須恵器甕または鉢(第20図4)である。

第6表 SI4 竪穴住居跡 床面施設一覧

遺構	種	規模(長	軸・領	豆軸・	残存深)		
番号	類	平面形	長軸	短軸	残存 深	備考	
SI4 • P1	柱穴	楕円形	37	30	12	柱痕跡:円形・径12cm、土師器	
SI4 • P2	柱穴	円形	26	22	19	柱痕跡:楕円形・径11cm、土師器	
SI4 • P3	柱穴	円形	25	25	12	柱痕跡:楕円形・径13cm	
SI4 • P4	小穴	円形	21	21	4		
SI4 • P5	小穴	楕円形	33	27	9	土師器	
SI4 - SK1	土坑	楕円形	56	30	8		
SI4 - SK2	土坑	楕円形	157	73	9	土師器	



第19図 SI4 竪穴住居跡(1)



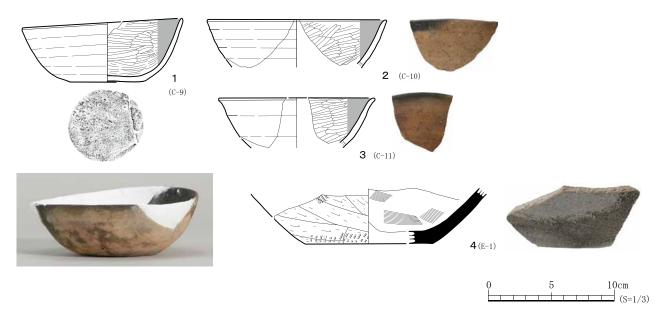
H/S 29.7m



ulletP1 ~ 3 · 5, SK1 · 2 (C-C' ~ G-G')

遺構名	層	土色	土性	備考
	1	暗褐色(10YR3/3)	シルト	小礫・焼土粒子含む。柱切取痕。
P1	2	黒褐色(10YR3/2)	シルト	柱痕跡。
	3	暗褐色(10YR3/4)	シルト	地山粒子多く含む。掘方埋土。
	1	黒褐色(10YR3/2)	シルト	柱痕跡。
P2	2	暗褐色(10YR3/3)	シルト	地山ブロック含む。掘方埋土。
	3	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	シルト	地山ブロック多く含む。掘方埋土。
	1	暗褐色(10YR3/3)	シルト	地山ブロック多く含む。柱切取痕。
Р3	2	暗褐色(10YR3/4)	シルト	柱痕跡。
	3	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	地山ブロック含む。掘方埋土。
P4	1	暗褐色(7.5YR3/3)	シルト	炭化物片・小礫・微量。焼土ブロック多く含む
P5	1	暗褐色(10YR3/3)	シルト	地山ブロック含む。
SK1	1	暗褐色(10YR3/3)	シルト	炭化物片・焼土ブロック・地山ブロック含む。
SK2	1	暗褐色 (10YR3/3)	シルト	地山ブロック・炭化物片多く含む。

SI4 出土遺物



No.	遺構・層	種別	器種	残 存	特徴【技法(外面・内面)→色調(外面・内面)→法量→その他の特徴の順に記載】	登録
1	SI4 掘方埋土	土師器	坏	口縁部~底部	外面:ロクロナデ・底部切り離し技法不明(磨滅)→回転ヘラ削り再調整?、内面:ヘラミガキ・黒色処理、色調:外面・にぶい黄色(2.5Y6/4)、内面・黒色(N2/0)、法量:口径12.6cm・器高5.1cm・底径5.9cm・器厚0.3~0.5cm	C-9
2	SI4 5・6層	土師器	坏	口縁部 ~胴部	外面:ロクロナデ、内面: ヘラミガキ・黒色処理、色調:外面・にぶい橙色(7.5YR6/4)、内面・黒色(N2/0)、 法量:口径(14.2)cm・残存高3.8cm・器厚0.4cm	C-10
3	SI4 5・6層	土師器	坏	口縁部 ~胴部	外面:ロクロナデ、内面: ヘラミガキ・黒色処理、色調:外面・にぶい赤褐色(5YR4/4)、内面・黒色(N2/0)、 法量:口径(14.4)cm・残存高4.0cm・器厚0.4~0.5cm	C-11
4	SI4 5・6層	須恵器	甕or鉢	底部	外面:平行タタキ→ヘラ削り、内面:ナデ・一部磨滅(すり跡?)、色調:外面・黄灰色(2.5Y6/1)、 内面・暗灰黄色(2.5Y5/2)、法量:底径(10.2)cm・残存高4.4cm・器厚0.7~1.0cm	E-1

第20図 SI4 竪穴住居跡(2)



S I 4 竪穴住居跡 完掘状況 (南から)



S I 4 · P 1 断面 (北から)



S I 4・P2 断面 (西から)



S I 4・P 3 断面 (西から)



S I 4 · P 4 断面 (南から)



S I 4・P 5 断面 (南から)





SI4 カマド 完掘状況(西から)

第21図 SI4 竪穴住居跡(3)

# 【SI5 **竪穴住居跡**】(第22~24図、第7表)

B 区中央の標高 30.7~30.9m 前後の平坦面に立地する。確認面は基本層Ⅲ層である。住居北部は後世の削平を受けており、残存していない。

【規模・平面形】北一南 2.5m以上、東一西 4.1mの隅丸方形を呈する住居跡と思われる。

**[主軸方向]** 真北である (N-0°-W)。

【壁】住居南辺が最も残りがよく、高さ 10cm 程度残存していた。住居壁は、北半が後世の削平を受け、 残存していない。

[床面] 地山を床面としている。床面はほぼ平坦である。

【カマド】住居南壁中央に付設されており、カマドの煙道・側壁・焼面が残存していた。カマドの側壁は、小礫・地山ブロックを含むにぶい黄褐色土で構築されており、その内側が部分的に被熱を受け赤く変色していた。

[周溝] 確認されなかった。

**[床面施設]** 柱穴跡を 4 個 (P1~4) 検出した。

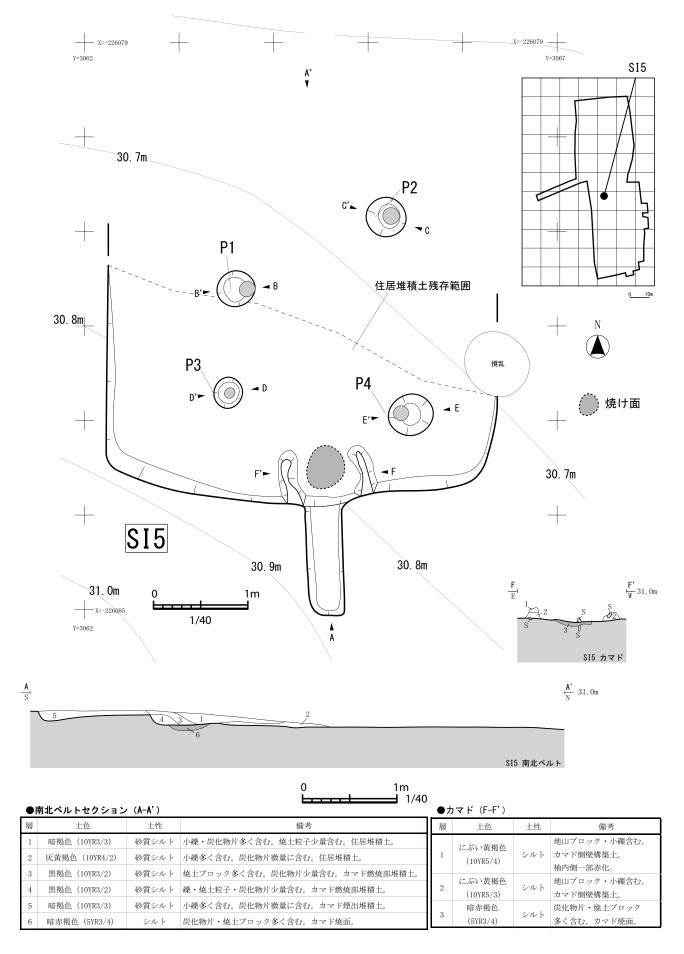
柱穴 (P1~4) のうち 2 個 (P1・2) は住居北側の壁・堆積土残存範囲外で検出されたが、周辺に掘立柱建物跡が存在しないことや住居想定範囲内に位置することから、住居に伴う柱穴跡として認定した。柱穴は径 32~50cm の円形・楕円形を呈し、深さ 15~20cm で、径 11~26cm の円形・楕円形の柱痕跡が認められた。これらの柱穴は、位置的にみて、住居の主柱穴であると考えられる。

【堆積土】住居の堆積土は 5 層に分かれ、1・2 層は住居堆積土、3~5 層は住居カマド堆積土である。 いずれも自然堆積である。なお、住居堆積土は住居南半のみ残存していた。

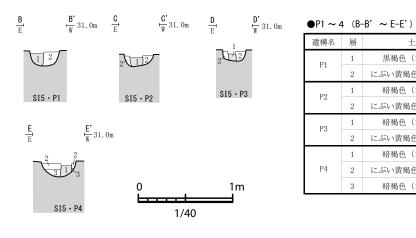
【出土遺物】住居床面、カマド燃焼部・煙出、カマド東側の側壁から、土師器片(非ロクロ成形・ロクロ成形)・須恵器片が出土し、このうち、図示できたものは土師器坏(第23図1~4)・甕(第23図5・6)である。

遺構	種	規模	漠(長軸・短	豆軸・残存器		
番号	類	平面形	長軸	短 軸	残存 深	備考
SI5 • P1	柱穴	楕円形	36	30	20	柱痕跡: 楕円形・径26cm
SI5 • P2	柱穴	円形	41	38	16	柱痕跡:円形・径18cm
SI5 • P3	柱穴	楕円形	32	32	15	柱痕跡: 楕円形・径11cm
SI5 • P4	柱穴	楕円形	50	44	17	柱痕跡:円形・径16cm

第7表 SI5 竪穴住居跡 床面施設一覧

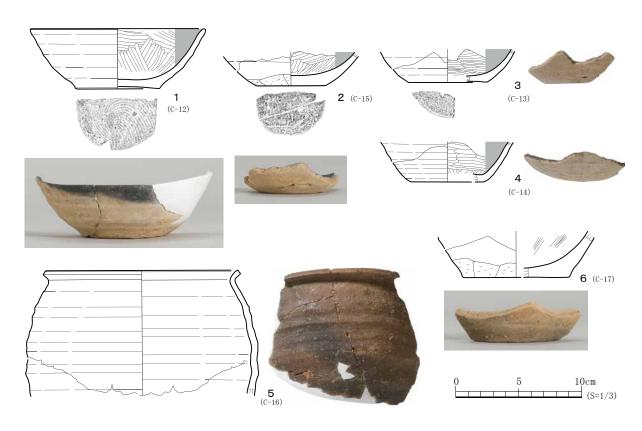


第22図 SI5 竪穴住居跡(1)



遺構名	層	土色	土性	備考
P1	1	黒褐色(10YR3/2)	シルト	柱痕跡。
11	2	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	シルト	小礫多く含む。掘方埋土。
P2	1	暗褐色(10YR3/4)	シルト	柱痕跡。
12	2	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	シルト	小礫多く含む。掘方埋土。
P3	1	暗褐色(10YR3/3)	シルト	柱痕跡。
13	2	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	シルト	小礫多く含む。掘方埋土。
	1	暗褐色(10YR3/3)	シルト	柱痕跡。
P4	2	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	シルト	小礫多く含む。掘方埋土。
	3	暗褐色(10YR3/4)	シルト	小礫多く含む。掘方埋土。

#### SI5出土遺物



No.	遺構・層	種別	器種	残 存	特徴【技法(外面・内面)→色調(外面・内面)→法量→その他の特徴の順に記載】	登録
1	SI5	十師器	坏	口縁部	外面:ロクロナデ・底部回転糸切り無調整、内面:ヘラミガキ・黒色処理、色調:外面・にぶい黄橙色	C-12
1	床面	工制作40	ν,	~底部	(10YR6/4)、内面・黒色(N2/0)、法量:口径(13.8)cm・器高4.8cm・底径6.6cm・器厚0.4~0.9cm、残存50%	C-12
	SI5カマド	1.62000	Ler.	胴部	外面:ロクロナデ・胴部下端へラ削り・底部回転糸切り無調整、内面:ヘラミガキ・黒色処理、色調:外面・	0.15
2	燃焼部	土師器	坏	~底部	にぶい橙色(7.5YR6/4)、内面・黒色(N2/0)、法量:底径5.5cm・残存高2.7cm・器厚0.4~1.0cm	C-15
	SI5カマド	1.62000	坏	胴部	外面:ロクロナデ・底部切り離し技法不明→回転へラ削り再調整、内面:ヘラミガキ・黒色処理、色調:外	0.10
3	燃焼部	土師器	坏	~底部	面・にぶい橙色(7.5YR7/4)、内面・黒褐色(N2/0)、法量:底径(6.2)cm・残存高2.6cm・器厚0.4~0.7cm	C-13
١,	SI5カマド	1. 620 0.0	坏	胴部	外面:ロクロナデ・底部切り離し技法不明、内面:ヘラミガキ・黒色処理、色調:外面・にぶい黄橙色	0.14
4	燃燒部	土師器	坏	~底部	(10YR6/3)、内面・黒色(N2/0)、法量:底径(5.8)cm・残存高3.2cm・器厚0.4~0.6cm	C-14
_ ا	SI5カマド	LATIN	soluti	口縁部	外面:ロクロナデ、内面:ロクロナデ、色調:内外面・にぶい褐色(7.5YR5/3)、法量:口径(15.2)cm・残存高	0.40
5	煙出Pit	土師器	甕	~胴部	10.0cm・器厚0.4~0.6cm	C-16
6	SI5	1.62000	valuati	rate step	外面:ヘラ削り(磨滅)・底部切り離し技法不明(磨滅)、内面:ナデ・黒色化・磨滅、色調:外面・にぶい褐色	0.15
ь	床面	土師器	甕	底部	(7.5YR5/4)、内面・黒褐色(10YR3/1)、法量:底径(6.4)cm・残存高3.7cm・器厚0.7cm	C-17

第23図 SI5 竪穴住居跡(2)



SI5 竪穴住居跡 完掘状況 (東から)



SI5 カマド 完掘状況(南から)



S I 5・P 1 断面 (北から)



S I 5・P 2 断面 (南から)



S I 5・P3 断面 (北から)



S I 5・P4 断面 (北から)

第24図 SI5 竪穴住居跡(3)

### 【SI6 **竪穴状遺構**】(第25図)

B区中央やや東側の標高 30.2~30.3m 前後の平坦面に立地する。確認面は基本層Ⅲ層である。SK24 と 重複し、これより新しい。住居北部は後世の削平を受けており、残存していない。

【規模・平面形】北−南2.9m以上、東−西3.9mの隅丸方形を呈する竪穴と思われる。

**〔主軸方向〕**ほぼ真北である(N-0°-W)。

【壁】竪穴南辺が最も残りがよく、高さ10cm程度残存していた。

[床面] 地山を床面としている。床面はほぼ平坦である。

**〔炉・カマド〕**確認されなかった。

[周溝] 確認されなかった。

**[床面施設]** 柱穴跡を1個(P1)、ピットを1個(P2) 検出した。

柱穴 (P1) は径 31cm の円形を呈し、深さ 26cm で、径 13cm の円形の柱痕跡が認められた。ピット (P2) は、径 32cm の円形を呈し、深さ 3cm である。

**【堆積土】**竪穴の堆積土は3層に分かれ、いずれも竪穴の堆積土で、自然堆積である。

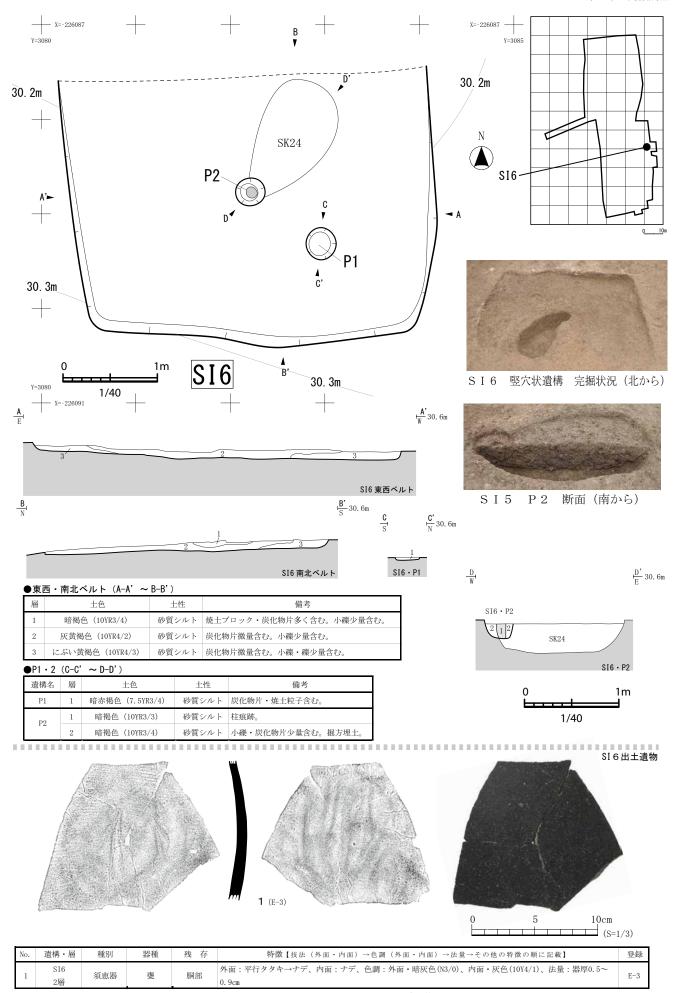
**【出土遺物】**竪穴の堆積土から、土師器片(ロクロ成形)・須恵器片が出土し、このうち、図示できた ものは須恵器甕(第 25 図 1)である。

【その他】SI6 は、SI1・2・3 と同様、現地調査時、竪穴住居跡である可能性を想定して調査を進めたが、床面や竪穴周囲で炉やカマドなどの痕跡を確認することができず、また竪穴の周囲でも柱穴等が認められないことから、「住居跡」として認定するには至らなかった。したがって、本報告では SI6 を「竪穴状遺構」として報告することとした。





石垣遺跡 作業風景



第25図 SI6 竪穴状遺構

#### 【SI7 竪穴住居跡】(第26・27図、第8表)

B 区南東の標高 30.5~30.8m 前後の平坦面に立地する。確認面は基本層Ⅲ層である。P504 と重複し、 これより古い。住居北部は後世の削平を受けており、残存していない。

【規模・平面形】北一南 3.5m以上、東一西 5.1mの隅丸方形を呈する住居跡と思われる。

**〔主軸方向〕**ほぼ真北である(N-0°-W)。

【壁】住居南辺が最も残りがよく、高さ 9cm 程度残存していた。住居壁は、北半が後世の削平を受け、 残存していない。

**〔床面〕**地山を床面としている。床面はほぼ平坦である。

**【カマド】**住居南壁中央に付設されており、カマドの煙道・側壁が残存していた。カマドの側壁は、小礫・地山粒子・炭化物片等を含むにぶい黄褐色・灰黄褐色・暗褐色土で構築されている。

【周溝】住居壁際を巡る。周溝は全周せず、南壁のカマド付設部分以外で確認した。上幅 11~34cm、下幅 6~14cm、深さ 8cm 前後である。

**[床面施設]** 柱穴跡を3個(P1~3)、ピットを2個(P4・5)、土坑1基(SK1) 検出した。

柱穴のうち 1 個(P1)は住居北側の壁・堆積土残存範囲外で検出されたが、周辺に掘立柱建物跡が存在しないことや住居想定範囲内に位置することから、住居に伴う柱穴跡として認定した。柱穴(P1~3)は径  $36\sim50\,\mathrm{cm}$  の円形・楕円形を呈し、深さ  $24\sim32\,\mathrm{cm}$  で、径  $16\sim21\,\mathrm{cm}$  の楕円形の柱痕跡が認められた。これらの柱穴は、住居の四隅に位置することから、住居の主柱穴であると考えられる。また、P1~3 の位置関係から、SI7 の主柱穴は住居跡北東部にも存在した可能性が想定されるが、その部分には後世の撹乱が位置することから、この撹乱に削平されたとみられる。

ピット  $(P4 \cdot 5)$  は、 ${29} \sim 44 \text{cm}$  の円形・楕円形を呈し、深さ  $25 \sim 27 \text{cm}$  である。

SK1 は、住居南西部の壁際で確認し、直径 64×38cm、深さ 26cm の楕円形を呈する。堆積土は 2 層に分かれ、炭化物片・焼土粒子が含まれる自然堆積である。カマド付設部の西脇に位置することから、貯蔵穴である可能性が考えられる。

【堆積土】住居の堆積土は5層に分かれ、1~4層は住居堆積土、5層は周溝堆積土である。いずれも自然堆積である。なお、住居堆積土は住居南半のみ残存していた。

# 【出土遺物】住居堆積土、カマド燃 焼部・煙道、P1 の掘方埋土から、

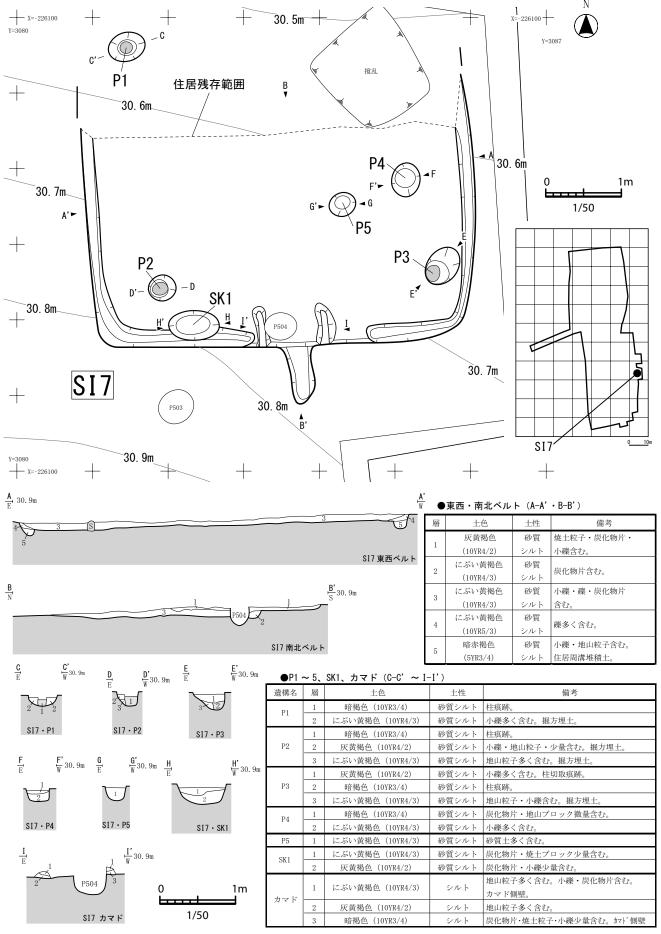
成形)・須恵器片が出土し、このうち、図示できたものは土師器坏(第27図1)・甕(第27図2)、須恵器

坏 (第27図3) である。

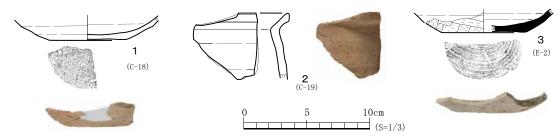
土師器片(非ロクロ成形・ロクロ

第8表 SI7 竪穴住居跡 床面施設一覧

遺構	種	規模(長	軸・知	豆軸・	残存深)		
番号	類	平面形	長軸	短軸	残存 深	備考	
SI7 • P1	柱穴	楕円形	48	38	24	柱痕跡:楕円形・径16cm、土師器	
SI7 • P2	柱穴	円形	37	36	32	柱痕跡:楕円形・径20cm	
SI7 • P3	柱穴	楕円形	50	38	29	柱痕跡:楕円形・径21cm	
SI7 • P4	小穴	楕円形	44	36	27		
SI7 • P5	小穴	円形	30	29	25		
SI7 • SK1	土坑	楕円形	64	38	26		



第26図 SI7 竪穴住居跡(1)



No.	遺構・層	種別	器種	残 存	特徴【技法(外面・内面)→色調(外面・内面)→法量→その他の特徴の順に記載】	登録
1	SI7 3層	土師器	坏	底部	外面:ロクロナデ・底部切り離し技法不明→ヘラ削り再調整、内面:ロクロナデ、色調:外面・にぶい黄橙色 (10YR6/3)、内面・明赤褐色(5YR5/6)、法量:底径(6.0)cm・残存高2.0cm・器厚0.3~0.6cm、赤焼土器	C-18
2	SI7カマド 燃焼部 上層	土師器	甕	口縁部	外面:ロクロナデ、内面:ロクロナデ、色調:外面・にぶい橙色(7.5YR6/4)、内面・にぶい褐色(7.5YR5/4)、 法量:器厚0.5~0.6cm	C-19
3	SI7 3層	須恵器	坏	底部	外面:ロクロナデ・胴部下端手持ちヘラ削り・底部回転糸切り未調整、内面:ロクロナデ、色調:内外面・灰黄色(2.5Y6/2)、法量:底径(6.6)cm・残存高1.9cm・器厚0.4~0.7cm	E-2



SI7 竪穴住居跡 完掘状況 (北から)



SI7 P1 断面(北から)



SI7 P3 断面(北から)



SI7 P4 断面(北から)



SI7 P2 断面(北から)



SI7 SK1 断面(北から)

第27図 SI7 竪穴住居跡(2)

#### 【SI8 **竪穴住居跡**】(第28~31図、第9表)

B区南東の標高30.8~31.0m前後の平坦面に立地する。確認面は基本層Ⅲ層である。

**〔規模・平面形〕**北−南 4.8m、東−西 5.2mの隅丸方形を呈する。

**〔主軸方向〕**住居西辺が真北に対し、東に約12°傾く(N-12°-E)。

【壁】住居西辺が最も残りがよく、高さ 14 cm程度残存していた。

[床面] 地山を床面としている。床面はほぼ平坦である。

[炉] 住居中央やや西寄りで1基確認した。地床炉で、炉には掘方が認められた。

[周溝] 確認されなかった。

**[床面施設]** 柱穴跡を 5 個 (P1~5)、ピットを 1 個 (P6)、土坑 2 基 (SK1・2) 検出した。

柱穴 (P1~5) は径 21~42cm の円形を呈し、深さ 16~30cm で、径 15~20cm の円形・楕円形の柱痕跡が認められた。P4 は柱が抜き取られていた。これらの柱穴のうち、P1~4 については、住居の四隅に位置することから、住居の主柱穴であると考えられる。また、P5 についても上屋を支えた柱穴であると思われる。

ピット (P6) は、径 35cm の円形を呈し、深さ 13cm である。

SK1 は、住居北東部で確認し、直径 63×59cm、深さ 28cm の円形を呈する。堆積土は 2 層に分かれ、1 層は炭化物片を多く含む人為堆積、2 層は自然堆積である。SK2 は、住居中央部で確認し、直径 72×61cm、深さ 19cm の楕円形を呈する。堆積土は 2 層に分かれ、いずれも自然堆積である。

**[堆積土]** 住居の堆積土は4層に分かれ、いずれも住居堆積土で、自然堆積である。

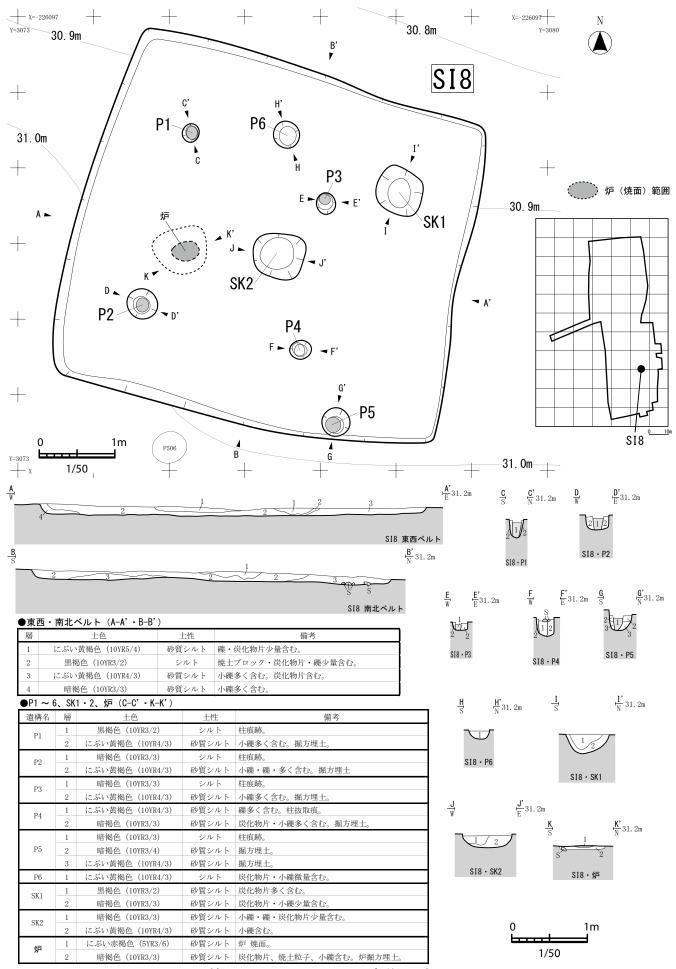
【出土遺物】住居堆積土・床面、SK1・1 層から土師器片(非ロクロ成形)が出土し、このうち、図示できたものは土師器器台(第30・31図1)・鉢?(第30・31図2)・壺?(第30・31図3)・甕(第30・31図4~7)である。

第9表	SI8	竪穴住居跡	床面施設一覧

カ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・					/八四/心成 光	
遺構	種	規模(長	軸・知	豆軸・		
番号	類	平面形	長軸	短軸	残存 深	備考
SI8 • P1	柱穴	円形	24	21	30	柱痕跡:楕円形・径18cm
SI8 • P2	柱穴	円形	42	41	30	柱痕跡:楕円形・径18cm
SI8 • P3	柱穴	円形	25	24	16	柱痕跡:楕円形・径15cm
SI8 • P4	柱穴	円形	31	26	29	柱抜取
SI8 • P5	柱穴	円形	38	37	20	柱痕跡:円形・径20cm
SI8 • P6	小穴	円形	35	35	13	
SI8 • SK1	土坑	円形	63	59	28	土師器
S18 - SK2	土坑	楕円形	72	61	19	



石垣遺跡 SI8 竪穴住居跡 作業風景



第28図 SI8 竪穴住居跡(1)



S I 8 竪穴住居跡 完掘状況 (東から)



SI8·P1 断面 (東から)



S I 8 · P 2 断面 (南から)



SI8·P3 断面 (南から)



SI8·P4 断面 (南から)



S I 8 • P 5 断面 (東から)



SI8·SK1 断面(東から)



SI8·SK2 断面(南から)

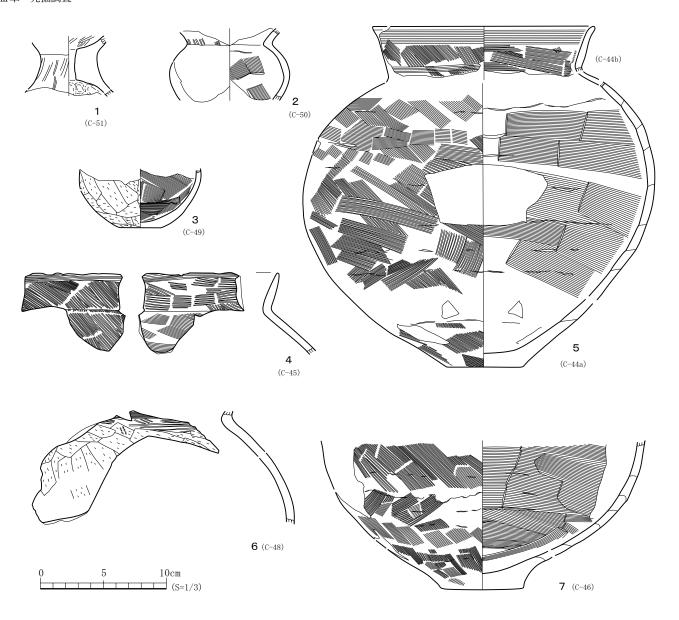


SI8・P6 完掘状況 (東から)



SI8・炉 断ち割り状況 (東から)

第29図 SI8 竪穴住居跡(2)



No.	遺構・層	種別	器種	残 存	特徴【技法(外面・内面)→色調(外面・内面)→法量→その他の特徴の順に記載】	登録
1	SI8 床面	土師器	器台	脚部	外面: 受部磨滅のため不明・脚部ヘラミガキ (磨滅)、内面: 受部ヘラミガキ・脚部指オサエ、色調: 外面・黄褐色(7.5YR5/6)、内面・にぶい黄褐色(7.5YR5/4)、法量: 残存高4.8cm・器厚0.5~1.2cm、貫通孔有り	C-51
2	SI8	土師器	壺or甕	胴部	外面: ヘラ削り、内面: ヘラナデ、色調: 内外面・にぶい褐色(7.5YR5/4)、法量: 底径3.6cm・残存高4.2cm・	C-49
	2層			~底部	器厚0.4~0.7cm	
3	SI8	土師器	壶or甕	頸部	外面:頸部ハケメ・胴部磨滅のため不明、内面:頸部磨滅のため不明・胴部ヘラナデ、色調:内外面・にぶい	C-50
	2層	그나바다	5元017元	~胴部	黄橙色(7.5YR7/4)、法量:胴部径9.5cm・残存高6.3cm・器厚0.5~0.7cm、小型壺or鉢の可能性有り	0.50
4	SI8	土師器	悪	口縁部	外面:口唇部ヨコナデ・頸部~胴部ハケメ、内面:口縁部ヨコナデ・頸部ハケメ・胴部ナデorヘラナデ、色	C-45
4	3層	그라마다	765	~頸部	調:外面・にぶい黄褐色(10YR5/3)、内面・にぶい褐色(7.5YR5/4)、法量:器厚0.3~0.7cm	C 40
				胴部	外面:胴部上半ナデ・胴部下半ハケメ・底部輪台技法?、内面:ヘラナデ、色調:外面・赤色(10R5/8)、内	C-44a
5	SI8	十師器	悪	~底部	面・明赤褐色(5YR5/6)、法量:底径6.1cm・残存高22.8cm・器厚0.4~1.3cm、内外面・輪積痕	C=44a
9	3層	一厂由作404	292	口縁部	外面:ハケメ→ヨコナデ、内面:ハケメ→ヨコナデ、色調:外面・橙色(2.5YR6/8)、内面・橙色(7.5YR7/6)、	C-44b
				~頸部	法量:口径17.7cm・残存高3.8cm・器厚0.35~0.6cm	C-44b
6	SI8	土師器	甕	頸部	外面:頸部(上)ヨコナデ・頸部~胴部ハケメ→ヘラ削り、内面:ヨコナデ、色調:外面・にぶい赤褐色	C 40
б	堆積土	工削益	党	~胴部	(5YR4/3)、内面・灰褐色(7.5YR4/2)、法量:器厚0.6~0.9cm	C-48
7	SI8	土師器	甕	胴部	外面:ハケメ→ナデ・底部輪台技法?、内面:ヘラナデ、色調:外面・橙色(5YR6/6)、内面・明赤褐色	C-46
'	堆積土	工制程	25%	~底部	(2.5YR5/6)、法量:底径6.7cm・残存高11.9cm・器厚0.55~1.3cm、内外面・輪積痕有り	C-46

第30図 SI8 竪穴住居跡(3)



第31図 SI8 竪穴住居跡(4)

#### 【SI9 **竪穴住居跡**】(第32~37図、第10表)

B 区南端の標高 31.4~31.7m 前後の平坦面に立地する。確認面は基本層Ⅲ層である。SK28・29・30・ 31・32 と重複し、SK28・30・31 より古く、SK29・32 より新しい。

【規模・平面形】北-南 5.5m、東-西 6.9mの隅丸長方形を呈する。

**〔主軸方向〕**住居西辺が真北に対し、東に約22°傾く(N-22°-E)。

【壁】住居西辺が最も残りがよく、高さ15cm程度残存していた。

【床面】住居北西部・東辺の一部は地山、それ以外は掘方埋土が床面である。床面はほぼ平坦である。

**〔炉〕**住居中央で1基確認した。地床炉である。

【周溝】確認されなかった。

**【床面施設】**柱穴跡を 7 個(P1~7)、ピットを 3 個 (P8~10)、土坑 2 基 (SK1・2) 検出した。

柱穴 (P1~7) は径 23~42cm の円形を呈し、深さ 11~32cm で、径 11~17cm の円形・楕円形の柱痕 跡が認められた。

ピット (P8~10) は、径 20~35cm の円形を呈し、深さ 9~29cm である。

土坑 (SK1・2) は、住居南辺の壁際で検出し、その重複関係から SK2 は SK1 より新しい。SK1 は、 直径 145×116cm、深さ 42cm の楕円形を呈する。土坑底面の中央部がさらに Pit 状に掘り込まれてお り、長軸方向の断面形は漏斗状となる。堆積土は 5 層に分かれ、いずれも人為堆積である。SK2 は、 直径 60×55cm、深さ 25cm の不整形を呈する。堆積土は2層に分かれ、いずれも人為堆積である。

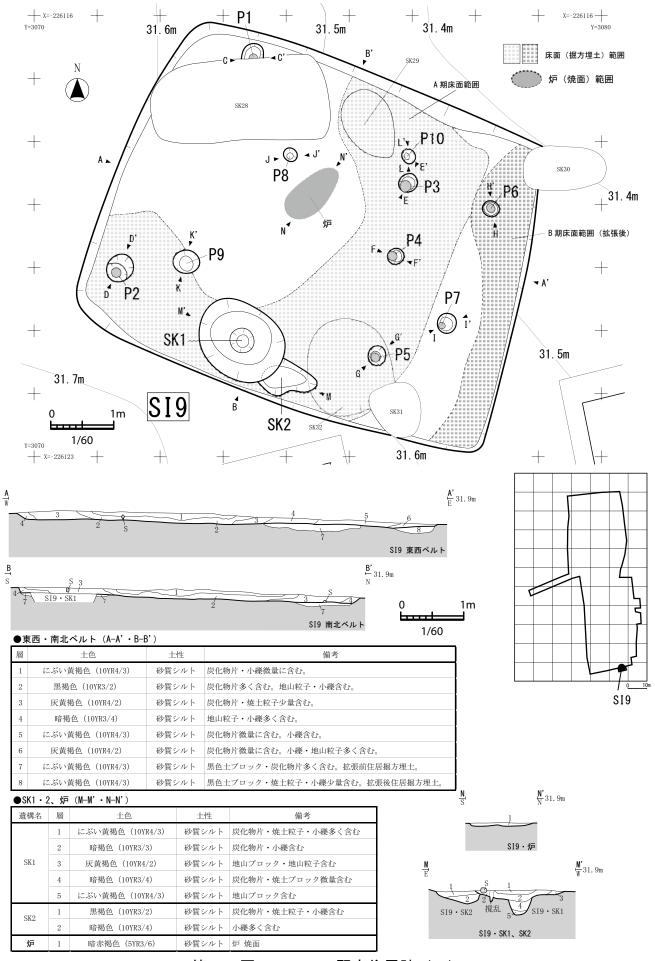
【堆積土】住居の堆積土は8層に分かれ、1~6層は住居堆積土、7・8層は住居掘方埋土である。1~6 層が自然堆積、7~8層が人為堆積である。

【出土遺物】住居検出面・堆積土・床面直上層(2・3 層)、P5 の掘方埋土、SK1・1 層、SK2・2 層から 土師器片(非ロクロ成形、検出面のみロクロ成形)が出土し、このうち、図示できたものは土師器鉢 (第34・35 図1~4)・壺(第34・35 図5)・甕(第34・35 図6・第36・37 図7~10)・壺または甕(第 36・37 図 11・12) である。

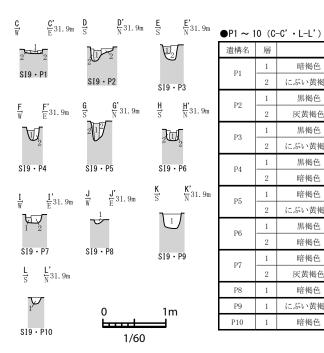
【住居の拡張】SI9 の床面は、地山と掘方埋土を床としている。このうち、掘方埋土を床とする範囲は、 住居中央部から南西にかけての範囲(掘埋 a)と住居東辺の範囲(掘埋 b)に大きく分けられる。こ の二つの掘方埋土には重複関係が認められ、掘埋 a→掘埋 b の順で床面が構築されている状況であっ た。この掘埋aと掘埋bの間には、地山を床とする範囲があり、加えて、掘埋aの東辺範囲は隅丸方 形の形状となる。こうした床面の状況から、SI9 は、住居構築時においては、掘埋 a 範囲の東辺を東 端とする南北 5.5m×東西 5.5m の隅丸方形を呈する住居【SI9a 期:主要床面施設 P1~5(主柱穴)・ SK2・炉】であったが、その後、住居東側を 1.4m ほど拡張し、拡張範囲の壁際付近のみ掘方埋土を床 とする範囲を設け、最終的には南北 5.5m×東西 6.9m の隅丸長方形を呈する住居【SI9b 期:主要床面 施設) P1~5+P6・7 (主柱穴)・SK1・炉】として機能したと想定される。

第10表 SI9 竪穴住居跡 床面施設一覧 規模(長軸・短軸・残存深) 類 平面形 長軸 短軸 SI9 - P1 SI9 - P2 円形 42 柱痕跡:円形・径15cm SI9 - P3 円形 柱痕跡: 円形・径17cm 23 SI9 - P5 円形 29 柱痕跡:楕円形・径15cm、土師器 柱穴 SI9 - P6 円形 柱痕跡:楕円形・径15cm

遺構	種	規模	長軸・	短軸・劈	(仔深)	備考			
番号	類	平面形	長軸	短軸	残存深	<b>ル曲 で</b>			
SI9 - P7	柱穴	円形	32	30	16	柱痕跡:円形・径11cm			
SI9 - P8	小穴	円形	23	22	9				
SI9 - P9	小穴	円形	35	34	29				
SI9 - P10	小穴	円形	20	20	13				
SI9 - SK1	土坑	楕円形	145	116	42	土師器			
SI9 - SK2	土坑	不整形	60	55	25	土師器			



第32図 SI9 竪穴住居跡(1)



遺構名	層	土色	土性	備考
P1	1	暗褐色(10YR3/3)	砂質シルト	柱痕跡。
11	2	にぶい黄褐色(10YR4/3)	砂質シルト	小礫多く含む。掘方埋土。
P2	1	黒褐色(10YR3/2)	砂質シルト	柱痕跡。
12	2	灰黄褐色(10YR4/2)	砂質シルト	地山(砂質シルト土)粒子多く含む。掘方埋土。
P3	1	黒褐色(10YR3/2)	砂質シルト	柱痕跡。
15	2	にぶい黄褐色(10YR4/3)	砂質シルト	掘方埋土。
P4	1	黒褐色(10YR3/2)	砂質シルト	柱痕跡。
14	2	暗褐色(10YR3/3)	砂質シルト	焼土粒子・小礫含む。掘方埋土。
P5	1	暗褐色(10YR3/3)	砂質シルト	柱痕跡。
15	2	にぶい黄褐色(10YR4/3)	砂質シルト	炭化物片・焼土粒子・小礫含む。掘方埋土。
P6	1	黒褐色(10YR3/2)	砂質シルト	柱痕跡。
10	2	暗褐色(10YR3/3)	砂質シルト	小礫・地山ブロック多く含む。掘方埋土。
P7	1	暗褐色(10YR3/4)	砂質シルト	柱痕跡。
11	2	灰黄褐色(10YR4/2)	砂質シルト	小礫含む。掘方埋土。
P8	1	暗褐色(10YR3/3)	砂質シルト	小礫含む。
P9	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	砂質シルト	小礫少量含む。
P10	1	暗褐色(10YR3/3)	砂質シルト	炭化物片微量含む。



SI9 竪穴住居跡 完掘状況(北から)



SI9 炉 完掘状況 (東から)



SI9·SK1、2 断面 (北から)





S I 9・P 3 断面 (東から)



S I 9・P 4 断面 (南から)

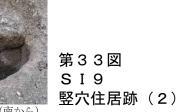


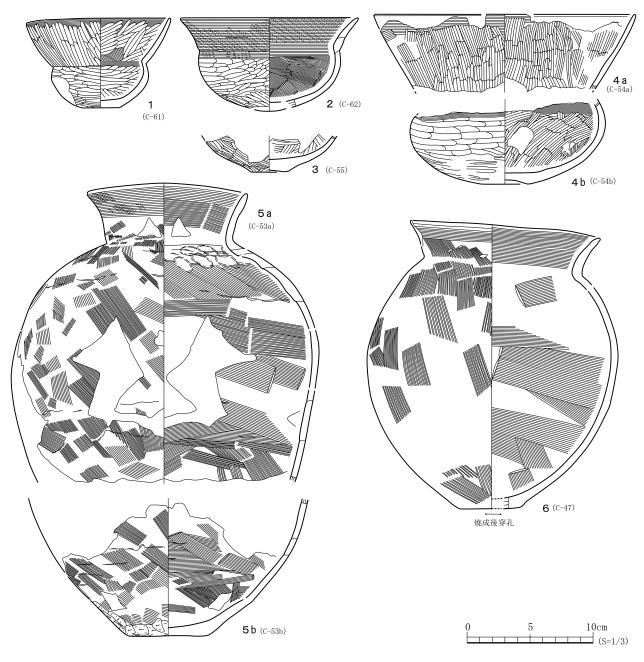
S I 9・P 5 断面 (東から)



S I 9 · P 6 断面 (東から) S I 9 · P 7 断面 (南から)



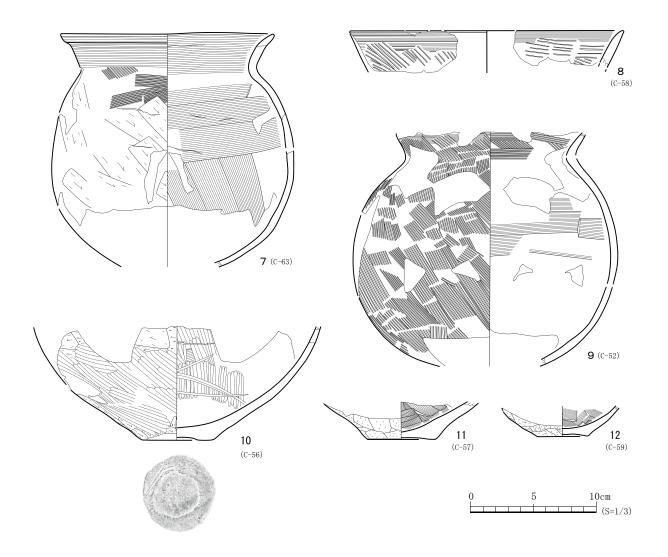




No.	遺構・層	種別	器種	残 存	特徴【技法(外面・内面)→色調(外面・内面)→法量→その他の特徴の順に記載】	登録
1	SI9・SK1 1層	土師器	鉢	口縁部~底部	外面:口縁部ヨコナデ→ヘラミガキ・胴部ヘラミガキ・底部ヘラ削り→ヘラミガキ、内面:口縁部ヨコナデ→ヘラミガキ・胴部〜底部ヘラナデ→ヘラミガキ、色調:外面・橙色(7.5YR6/6)、内面・明褐色(7.5YR5/6)、法量:口径11.5cm・器高7.1cm・底径3.0cm・器厚0.2~0.7cm	C-61
2	SI9・SK1 1層	土師器	鉢	口縁部~底部	外面:口縁部ハケメ→ヨコナデ・胴部〜底部ヘラミガキ、内面:口縁部ハケメ→ヨコナデ・胴部ヨコナデ→へラナデ・底部ヘラナデ、色調:内外面・浅黄橙色(10YR8/3)、法量:口径14.1cm・器高cm・器厚0.3〜0.68cm、外面・輪積痕有り	C-62
3	SI9 2・3層	土師器	鉢	底部	外面: ヘラミガキ、内面: ヘラミガキ・底部に赤色染料付着、色調: 内外面・にぶい褐色(7.5YR5/4)、法量: 底径3.0cm・残存高2.9cm・器厚0.4~1.1cm	C-55
4a	SI9 2層	土師器	鉢	口縁部 ~頸部	外面: ヨコナデ→ヘラミガキ、内面: ヨコナデ→ヘラミガキ、色調: 外面・明赤褐色(2.5YR5/6)、内面・にぶい赤褐色(5YR5/4)、法量: 口径27.0cm・残存高6.2cm・器厚0.2~0.45cm	C-54a
4b	SI9 2層	土師器	鉢	頸部 ~底部	外面: ヨコナデ→ヘラミガキ、内面: ヨコナデ→ヘラミガキ、色調: 外面・赤褐色(2.5YR4/8)、内面・にぶい 赤褐色(2.5YR4/4)、法量: 底径3.7cm・残存高6.3cm・器厚0.4~0.9cm	C-54b
5a	SI9 2層	土師器	壺	口縁部~胴部	外面:口縁部ハケメ→ヨコナデ・胴部ハケメ→ナデ、内面:口縁部ハケメ→ヨコナデ・胴部(上)ヘラナデ→指 オサエ・胴部(下)ハケメ→ヘラナデ、色調:外面・明黄褐色(10YR7/6)、内面・明褐色(7.5YR5/6)、法量:口径 12.8cm・残存高23.9cm・器厚0.35~0.85cm、内外面・輪積痕有り	C-53a
5b	SI9 2層	土師器	壺	胴部 ~底部	外面:ハケメ・ナデ・底部へラ削り、内面:ハケメ→ヘラナデ、色調:外面・橙色(7.5YR6/6)、内面・にぶい 黄橙色(10YR6/4)、法量:底径6.5cm・残存高10.8cm・器厚0.45~1.1cm、内外面・輪積痕有り	C-53b
6	SI9・SK1 1層	土師器	甕	口縁部	外面:口縁部ヨコナデ・胴部〜底部ハケメ、内面:口縁部ヨコナデ・胴部〜底部ヘラナデ、色調:外面・赤橙色(10R6/6)、内面・橙色(7.5YR6/6)、法量:口径15.1cm・器高22.9cm・底径4.9cm・器厚0.35〜1.0cm、底部焼成後穿孔	C-47

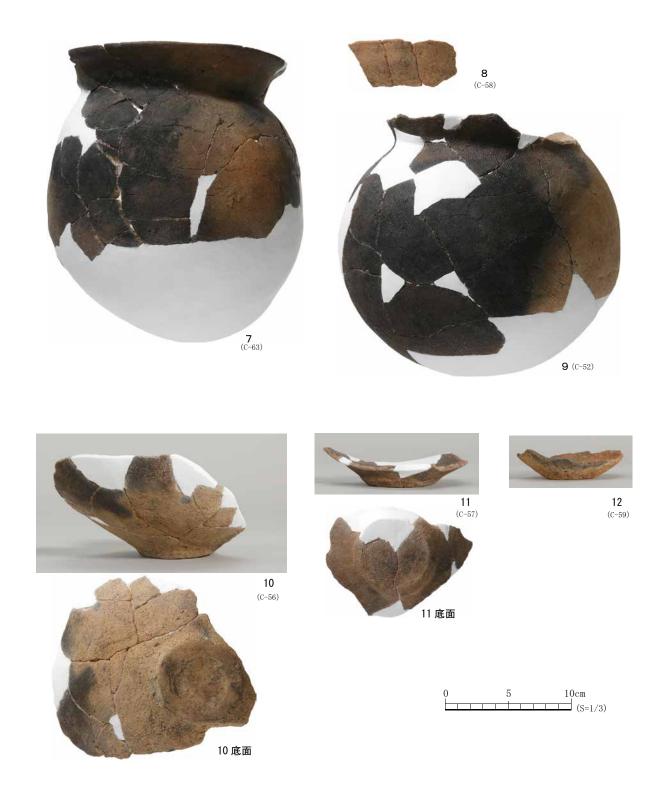
第34図 SI9 竪穴住居跡(3)





No.	遺構・層	種別	器種	残 存	特徴【技法(外面・内面)→色調(外面・内面)→法量→その他の特徴の順に記載】	登録
7	SI9・SK1 1層	土師器	甕	口縁部~胴部	外面:口縁部ヨコナデ・胴部ハケメ→ヘラ削り、内面:口縁部ヨコナデ・胴部ヘラナデ、色調:外面・橙色 (5YR6/6)、内面・明赤褐色(2.5YR5/8)、法量:口径16.9cm・残存高18.6cm・器厚0.35~0.7cm、内外面・輪積 痕有り	C-63
8	SI9 2・3層	土師器	甕	口縁部	外面: ヨコナデ→ハケメ、内面: ヨコナデ→ハケメ、色調: 外面・にぶい褐色(7.5YR5/4)、内面・にぶい褐色(7.5YR5/3)、法量: 口径(21.6)cm・残存高3.3cm・器厚0.2~0.75cm	C-58
9	SI9 2・3層	土師器	甕	口縁部~胴部	外面:口縁部ヨコナデ・胴部ハケメ、内面:口縁部ハケメ・胴部ヘラナデ、色調:外面・橙色(2.5YR6/8)、内面・にぶい黄橙色(10YR7/4)、法量:口径14.8cm・残存高18.6cm・器厚0.35~0.85cm	C-52
10	SI9 2・3層下層	土師器	壺	胴部 ~底部	外面: ヘラ削り→ヘラミガキ・底部輪台技法、内面: ヘラナデ→ヘラミガキ、色調: 外面・明黄褐色 (10YR6/6)、内面・にぶい黄橙色(10YR6/4)、法量: 底径5.8cm・残存高9.0cm・器厚0.35~1.45cm、内面・輪積 痕有り	C-56
11	SI9 2・3層	土師器	壺or甕	底部	外面: ヘラ削り・底部輪台技法?、内面: ヘラナデ、色調: 外面・灰褐色(7.5YR4/2)、内面・にぶい赤褐色 (5YR4/3)、法量: 底径5.2cm・残存高3.0cm・器厚0.4~1.3cm	C-57
12	SI9 堆積土	土師器	壺or甕	底部	外面: ヘラ削り・底部ヘラ削り、内面: ヘラナデ、色調: 外面・にぶい褐色(7.5YR5/4)、内面・明赤褐色(5YR5/6)、法量: 底径4.0cm・残存高2.4cm・器厚0.3~0.9cm	C-59

第36図 SI9 竪穴住居跡(5)



第37図 SI9 竪穴住居跡(6)

# (2) 掘立柱建物跡・柱穴列跡

掘立柱建物跡は、A区、B区で 37 棟を検出した(第 38~90 図、第  $11 \cdot 12 \cdot 1 \sim 3$  表)。柱穴列跡は、A区、B区で 4 条を検出した(第  $91 \sim 96$  図、第  $13 \cdot 14$  表)。

## 1) 掘立柱建物跡の認定方法

今回報告する掘立柱建物跡については、原則として現地調査の段階で繰り返し検討を行い、建物を認定した。建物跡の認定は、次の手順で検討を行った。①:遺構検出段階で、柱穴及び柱痕跡のプランを測量して作成した図をもとに建物を検討。②:遺構精査(半裁)時に遺構の重複関係・深さ・埋土の状態を確認し、①で検討した建物と照らし合わせ、切り合いの矛盾や柱筋等を考慮しながら再度建物を検討。③:①と②の検討により、建物として想定しても差し支えないと判断できたものを建物として認定。④:建物として認定できなかった柱穴のみを抽出し、かつ柱穴群の周囲を再度精査し、柱穴の検出漏れがないか確認したうえで、残った柱穴で再度建物を検討。

以上の方法により、掘立柱建物跡を認定したが、今回の調査で認定できた建物跡以外にも、「柱穴跡」は多数残されている。これらは「ピット」として報告した(ピットの項参照)。ピットとして報告したものについても、本来は建物を構成する柱穴であったと考えられるが、現地調査・整理作業において検討を行った結果、建物として認定できなかった柱穴である。したがって、今回の調査区内ではさらに建物跡が存在したことが想定される。また、今回建物として認定したものの中には、調査区外に延びていると想定したものもある。このことから、今回報告する建物跡については、今後の掘立柱建物研究の進展や建物群の再検討等により、変更・追加する可能性がある。

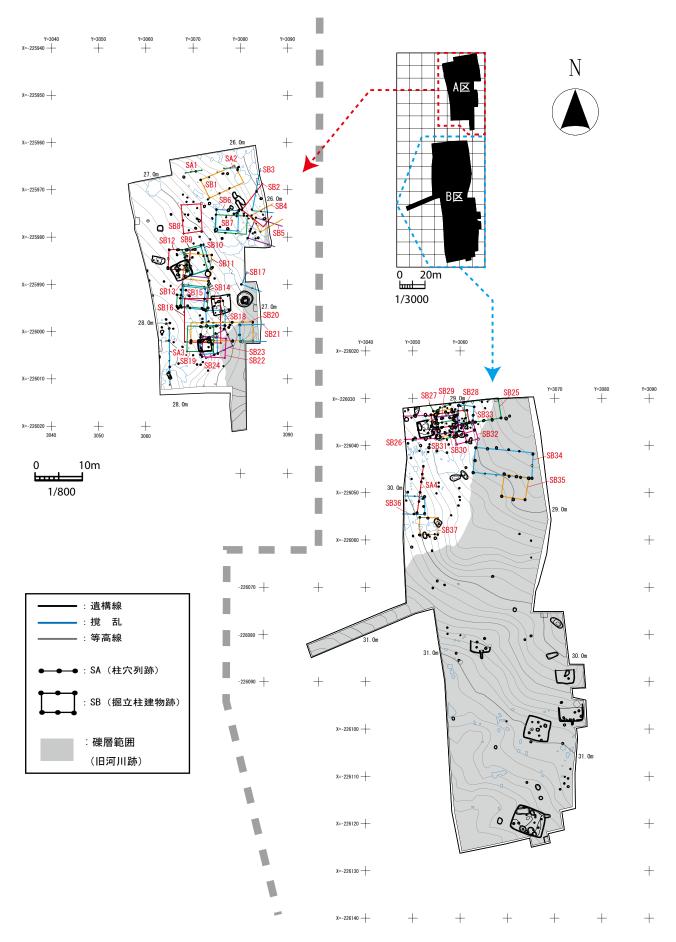


1.B 区掘立柱建物跡 完掘状況 (真上から・上が北)



2. A 区掘立柱建物跡 完掘状況 (真上から・上が北)

第38図 石垣遺跡 A・B区 掘立柱建物跡完掘状況



第39図 石垣遺跡 掘立柱建物跡・柱穴列跡 遺構配置図

第11表 石垣遺跡 掘立柱建物跡 属性表 SB1~37

	建物	即粉			平面規模							
遺構			棟方向		+4		şa	} <i>4</i> ∓ <i>4</i> ⁄	長(m)		の万回 [斜角度/	備考
No.	桁行	梁行		/湯		テ行総長(m) ヒ列/柱間寸法(m)			(M) 柱間寸法(m)		科用度/  と基準	【構成Pit・重複関係・その他】
SB-1	3	1	東西	7.7	北	1. 8+2. 0+3. 9	4.3	西	4.3	西24°	N-24° -₩	構成Pit: P6・9・15・16・19・20・27
SB-2	2	1以上	-	5.8	南	2.9+ (2.9)	5. 0	西	5. 0	西52°	N-52° -W	構成Pit:P41・43・66 SK2・3より新。
SB-3	1以上	1以上	-	4. 2	西	4. 2	1.9	南	1. 9	東10°	N-10° -E	構成Pit: P42・57・59
SB-4	2	-	-	4. 0	西	2. 0+2. 0	-	-	-	西28°	N-28° -₩	構成Pit: P62・79・84
SB-5	1以上	2	-	4.7	西	2. 6+2. 1	4.6	南	4. 6	東21°	N-21° -E	構成Pit:P65・80・85・88
SB-6	2	1	東西	4.7	北	2.5+2.2	4. 3	西	4. 3	東2°	N−2° −E	構成Pit: P37・39・40・73・76・77
SB-7	3	1	東西	6. 7	北	2. 2+2. 2+2. 3	3.8	西	3. 8	東2°	N−2° −E	
SB-8	2	1	南北	6. 1	西	3. 4+2. 7	4. 3	北	4. 3	西5°		構成Pit: P22・25・45・70・71 構成Pit: P94・100・105・121・124・131
SB9	2	1	南北	5. 5	東	2. 5+3. 0	4. 1	北	4. 1	西15°	N-15° -W	SI1、SB10より新。SK6より古。
SB-10	2	1	南北	5. 2	東	2. 9+2. 3	4.6	南	4.6	西18°	N-18° -₩	構成Pit:P102・107・109・120・125・129 SI1、P119より新。SB9より古
SB-11	2	1	-	5. 6	東	3. 6+2. 0	5. 7	北	5. 7	東6°	N−6° −E	構成Pit: P106・110・122・146・149・154 SI1より新。SK6より古。
SB-12	2	2	東西	4. 5	北	2. 0+2. 5	4. 2	西	2. 0+2. 2	東2°	N−2° −E	構成Pit: P33・92・93・96・113・126・134・143
												SI1、P135より新。 構成Pit: P123・148・160・162・166・171
SB-13	2	1	-	5. 0	東	3. 2+1. 8	5. 5	北	5. 5	東6°	N−6° −E	SI1より新。
SB-14	(1)+3	2	東西	6. 4	北	<b>0.8</b> +1.3+3.3+1.1	4.5	西	2. 3+2. 2	東6°	N−6° −E	構成Pit: P150・152・153・158・164・165・184・ 189・190・194・196
												西側に1間の張出が付く。SB15より新。P197より古。 構成Pit: P151・159・167・188・192・195
SB-15	2	2	東西	4. 6	南	1. 8+2. 8	4. 5	西	2. 2+2. 3	東6°	N−6° −E	SB14より古。
SB-16	3	2	南北	9. 4	東	2. 8+3. 5+3. 1	7. 6	北	4. 2+3. 4	真北	N−0° −E	構成Pit: P168・170・172・179・193・212・226・ 263・274。
OD 47	1以上		_	0.5	+	0.5		_	_	±00°	N 00° F	SI2・3より新。
SB-17				2.5	南	2. 5				東20°		構成Pit: P182・183 構成Pit: P181・198・225・227・254
SB-18	2	1	東西	4. 1	南	2. 2+1. 9	3. 3	西	3. 3	西1°	N−1° −W	SI2より新。
SB-19	2	1	東西	5. 6	南	2. 7+2. 9	5. 5	東	5. 5	東1°	N-1° -E	構成Pit:P116・215・228・272・281 S13より新。
SB-20	5	1	東西	13. 1	南	2. 5+2. 2+4. 1+2. 1+2. 2	3. 9	東	3. 9	西1°	N−1° -W	構成Pit: P213・216・222・224・232・234・236・ 239・242・251・277・295 SI3より新。SB21より古。
SB-21	2	1以上	-	3. 4	西	2. 0+1. 4	2. 7	北	2. 7	西3°	N-3° -₩	構成Pit: P235・237・238・244・276 SB20より新。
SB-22	2	1	東西	5. 0	北	2. 7+2. 3	4.2	西	4. 2	東4°	N-4° -E	構成Pit: P246・250・255・267・279
SB-23	3	1	東西	6. 2	北	2. 1+2. 2+1. 9	3. 8	東	3.8	西25°	N-25° -W	構成Pit: P241・248・253・261・273・278・300・301 SI3、P260より新。
SB-24	1	1	-	3. 6	北	3. 6	3. 6	東	3. 6	西1°	N−1° −W	構成Pit: P249・257・275・280
SB-25	4	1	東西	7. 4	南	1. 8+1. 8+1. 8+2. 0	4. 3	西	4. 3	西8°	N−8° −W	構成Pit: P319・320・396・400・432・433・434・437・438・442
SB-26	9 P. L.	1			北			東	5, 0	中小	N−0° −E	SB28より新。 構成Pit: P304・308・311・335・350・353・354
SB-20	3以上	1	東西	6. 9	4년	2. 5+2. 2+2. 2	5. 0	果	5. 0	真北		P305、SI4より新。SK11、SB29・31、P347より古。 構成Pit: P306・312・313・314
SB-27	3	-	-	3. 8	南	1. 3+1. 3+1. 2	-	-	-	西23°	N-23° -W	SB31より新。
SB-28	5	1	東西	7. 7	南	1. 8+1. 7+1. 9+1. 4+0. 9	2. 5	東	2. 5	西8°	N−8° −W	構成Pit: P322 · 323 · 327 · 332 · 334 · 337 · 343 · 346 · 374 · 382 · 392 · 401
												SI4、SB30・31、P328より新。SB25、P342より古。
SB-29	3	1	東西	4. 5	南	1. 5+1. 3+1. 7	3. 5	西	3. 5	西9°	N-9° -W	
0.5	_					<u> </u>		_4-			N -0	P347、372より古。 構成Pit: P341・345・351・379・384・409
SB-30	2	1	-	3. 5	西	1. 7+1. 8	3. 5	南	3. 5	西8°	N-8° -W	SB28・29・31・32、P347より古。
SB-31	3	1	南北	5. 3	西	1. 9+1. 7+1. 7	3. 5	南	3. 5	西10°	N-10° -W	構成Pit: P307・315・339・344・349・378・381・408 SB26・30、SI4より新。 SB27・29・32、P338・340・347・380より古。
SB-32	2	2	-	4.6	北	2. 3+2. 3	3. 7	西	1. 8+1. 9	西15°	N-15° -W	構成Pit: P383・394・397・402・406・410・413・415・430 SB30・31、P403より新。SB33、P393より古。総柱建物。
SB-33	2	1	南北	3.8	西	1. 9+1. 9	3. 3	北	3. 3	東6°	N−6° −E	構成Pit: P317・321・326・385・391・395
SB-34	5	2	東西	12. 4	南	2. 5+2. 4+2. 7+2. 4+2. 4	5. 3	西	2. 7+2. 6	東5°	N-5° -E	SB32より新。SB29より古。 構成Pit: P416・417・418・419・420・421・422・423・424・425・426・ 427・429・429
SB-35	2	1			N−7° −E	427 · 428 · 429 -7° -E 構成Pit: P443 · 444 · 445 · 446 · 447 · 448						
SB-36	1以上	1	東西				2. 2	真北	N−0° −E	構成Pit:P497・468・472・475		
SB-37	2											P473より新。 構成Pit: P476・477・478・480・482・483
			果四は推定値。	J. 9	16	1.1 - 4.4	5.0	水	5.0	來1	N 1 E	HEAVITY 1 410 . 411 . 410 . 407 . 409

※建物が調査区外に延びているため規模が不明な建物や、柱の一部が残存していない建物については、下記のとおり標記した。

〇調査区外に延びる建物・・・建物間数:「ullet以上imes1間」、 平面規模:総長を「ulletm以上」と表記 、柱間寸法:「ullet+ullet+ullet」と表記

○柱穴の一部が残存していない建物・・・総長・柱間寸法は推定値(数字)で計測し、総長(6.6)、「2.2+(2.2)+(2.4)」と表記

※建物間数の欄で「2+(1)」とあるのは、「身舎2間、南側または東側に廂(または張出し)1間」であることを示す。

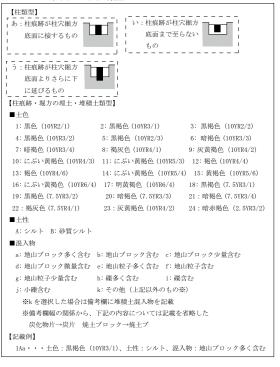
※柱間寸法は、東西方向のものは西から、南北方向のものは北から順に記した。 柱間寸法の**ゴシック体数字**は廂または張出しの柱間寸法を示す。

<b>第12-1</b> 表	石垣遺跡	掘立柱建物跡	柱穴跡	屋性表(1	)SB1~15
777 I C I 1 1 X		1/11 - 1/2 1 1 X-+ 1/21 UVIV	7 1 / \ 11/1	1 / XP   1 <del>2</del>	/001 10

遺構								1表	石	垣	遺	迹	
	直構 長号		で掘方 長	(長軸 短	・短軸:	cm、底	面標高:m) 埋土		柱痕		ı	柱類	備 考 (重複・出土遺物等)
19	9	平面形	軸	軸	深	標高	堆土	平面形	長軸	短軸	堆土	型	(主汉 出土起初寺/
	P6	不整形	20	19	15	26. 1	抜穴:9Ad	-	-	-	-	-	柱抜取
	P9	円形	34	30	16	25. 9	抜穴:19Aa・j	_	_	_	-	_	柱抜取
SB	P15	円形	18	18	50	25.9	4Ad	円形	14	14	6A	Į,	
1	P16	円形	31	30	8	26. 4	6Ag	円形	17	16	19A	ъ	
	P19	円形	19	19	14	26. 2	9Ac	円形	12	12	3A	あ	
	P20	楕円形	26	18	12	26. 2	抜穴:7Aa	-	-	-	-	-	柱抜取
	P27	円形	30	30	10	26. 5	抜穴1:8Ag 抜穴2:9Ag	-	-	-	-	-	柱抜取
SB	P41	円形	28	26	22	26. 2	10Ac	円形	16	16	2A	あ	SK2、3より新
2	P43	楕円形 円形	30 19	19	24	25. 8 26. 0	4Aa 19Aa	円形	16	12 9	4A 6A	うあ	
	P42	楕円形	30	20	14	25. 8	按穴:4Aa	-	-	-	-	-	柱抜取
SB 3	P57	楕円形	28	20	23	25.9	抜穴:2Ag	-	-	-	-	-	柱抜取
	P59	円形	18	18	11	25. 9	4Aa	円形	10	10	2A	ly's	
SB	P62 P79	円形	24	20	9	25.9	10Ag 切穴:1Ac	円形	15	14	4A	l'	Alla lart VC.
4	P/9	楕円形	30	24	15	26. 1	据埋:6Aa	円形	10	10	1A	ъ -	柱切取 柱抜取
	P65	楕円形 円形	34 26	26	19	26. 1 25. 7	抜穴:1A1 10Aa	円形	13	13	 4A	- あ	堆1:黑色土
	P00	円形	26	20	40	25. 1	10A8	円形	13	13	4A	B	
SB 5	P80	楕円形	30	25	18	26. 1	3Ac	楕円形	15	12	1A	l/ N	
	P85	円形	30	30	8	26. 4	5Aa	円形	17	14	1A	あ	
	P88	円形	50	47	42	26.5	抜穴1:3Ac 抜穴2:4Aa	-	-	-	-	-	柱抜取
	P37	円形	33	30	34	26.3	6Aa 掘埋1:4Ad	円形	14	14	1A	V)	
	P39	楕円形	59	49	47	26. 1	掘埋2:7Aa 掘埋1:6Ad	円形	29	26	1A	あ	
SB 6	P40	楕円形	47	40	26	26. 1	掘埋2:5Aa 掘埋1: 9Ac	円形	18	17	2A	V .	
	P73	楕円形 円形	75 50	63 50	38	26. 4	掘埋2:10Aa 掘埋1: 4Ad	円形	19	17	2A 2A	いあ	
	P77	円形	48	46	40	26. 2	掘埋2:10Aa 抜穴1:4Aa	H785	_	26	2A _	-	柱抜取
	P50	円形	30	26	10	26. 5	抜穴2:4Ac 6Ag	円形	9	8	7A	あ	12:22 AX
	P51	円形	23	21	2	26.5	抜穴:6Ad	-	-	-	-	-	柱抜取
	P55	楕円形	26	20	9	26.3	13Aa	円形	13	12	3A	あ	
SB 7	P61	楕円形	29	22	16	26. 1	掘埋1:4Aa 掘埋2:7Aj	円形	11	9	7A	ð	
	P72	円形	30	30	33	26. 5	抜穴1:18Ad 抜穴2: 5Ac	-	-	-	-	-	柱抜取
	P75	楕円形	30	20	30	26.4	10Aa 抜穴1:4Ad	円形	12	9	4A	V.	
	P78	円形	26	24	30	26. 2	抜穴2:4Aa	-	-	-	-	-	柱抜取
	P22 P25	円形 楕円形	24 58	22 50	14 9	26. 8 26. 6	抜穴: 6Ag 抜穴: 4Ad	_	_	_	_	_	柱抜取
SB 8	P45	楕円形	40	22	23	26.7	切穴:4Ag 掘埋:6Ad	楕円形	16	12	10A	あ	柱切取
	P70	円形	21	19	33	26.8	12Ak	円形	9	8	10A	あ	
	P71	円形	37	32	12	26.8	12Ac	円形	18	18	7A	あ	
	P94	楕円形	44	32	6	27. 1	抜穴:10Ak	-	-	-	-	-	柱抜取
	P100 P105	円形 楕円形	30 27	28	16	26. 9 27. 0	6Aj 1Ad	円形	13	13	6A 1A	あ	
SB 9	P121	円形	38	37	23	26.9	3Aa	円形	11	10	1A	あ	SK6より古
	P124	楕円形	30	23	22	27. 1	抜穴:19Ag	-	-	-	-	-	SI1、SB10・P125より新 柱抜取
	P131	楕円形	43	34	11	27. 1	抜穴:10Ae	-	-	-	-	-	SI1より新 柱抜取
	P102	円形	22	22	19	26.8	抜穴:3Af	-	-	-	-	-	柱抜取
	P107	円形	42	40	15	26.9	抜穴1:4Ad 抜穴2:4Aa	-	-	-	-	-	柱抜取
SB	P109	円形	23	23	35	26.9	抜穴:3Ac	-	-	-	-	-	柱抜取 P119より新
10	P120	楕円形	42	36	16	26.9	5Aa	円形	26	26	3A	あ	縄文土器 SB9・P124より古
	P125	円形	30	26	33	26. 9	6Ad	円形	15	15	2A	あ	SI1より新 SI1より新
	P129	円形	35	34	8	27. 1	抜穴:5Ac	-	-	-	-	-	柱抜取 土師器
	P106	円形	35	30	30	26.7	掘埋1:4Ad 掘埋2:5Ah	円形	18	17	6A	Į,	
	P110	楕円形	47	38	25	27.0	抜穴:4Ac	-	-	-	-	-	柱抜取
SB	P122	円形	27	22	5	27. 1	抜穴:4Ag	-	-	-	-	-	SK6より古 柱抜取
11	P146	円形	26	26	18	27. 2	抜穴:2A1	-	-	-	-	-	SI1より新 柱抜取 堆1:黒褐色土
	P149	円形	26	23	23	27. 1	抜穴:19Ag・j	-	_	_	_	_	項1:無荷巴工 SI1より新 柱抜取
	P154	円形	38	35	24	27. 1	6Aa	円形	26	22	9A	あ	江汉平
	P33	楕円形	64	45	22	27. 2	抜穴:3Aa	-	-	-	-	-	柱拔取
	P92	楕円形	37	30	13	27. 1	9Ad	円形	19	18	4A	あ	
	P93	楕円形	64 52	40	22	27.0	2Ac	楕円形	28	24	4A	あ _	此址而
SB 12	P96 P113	楕円形 楕円形	52 38	36 32	36 40	26. 9 26. 8	抜穴:6Ag 抜穴:6Ad	-	_	_	_	_	柱抜取 柱抜取
	P126	円形	28	26	30	26. 9	抜穴:19Ad	-	-	_	-	_	SI1より新 柱抜取
	P134	楕円形	44	35	15	27.3	1Aa	円形	17	16	9A	あ	性放取 P135より新
	P143	楕円形	40	30	12	27. 1	7Af	円形	17	17	12A	あ	SI1より新

ľ	<u> </u>	<u> </u>	エノバ	יועע	/	<u> </u>	<u> </u>	(1/30	1 1	1 -	<u></u>				
	1	直構	柱穴・ビ	ット担	屈方 (	長軸・気	亚軸:cm	、底面標高:m)	柱 痕 跡					備考	
		号	平面形	長軸	短軸	残存深	底面 標高	埋土 堆土	平面形	長軸	短軸	堆土	類型	(重複・出土遺物等)	
		P123	円形	34	31	15	27. 1	抜穴1:1A1 抜穴2:6Aa・1	-	-	-	-	-	柱抜取 堆1(抜穴1):黒色土 堆1(抜穴2):崩落土まだら	
	SB	P148	楕円形	39	33	12	27. 2	抜穴1:4A1 抜穴2:6A1	1	-	-	-	-	SI1より新、柱抜取 堆1(抜穴1):黒褐色土 堆1(抜穴2):砂	
	13	P160	楕円形	34	29	40	27.0	3Ac	円形	19	19	1A	あ		
		P162	円形	30	28	22	27.3	4Ad	円形	12	10	4A	あ		
		P166	円形	30	29	26	27.3	6Ad	楕円形	15	12	4A	V		
		P171	円形	43	34	25	27.0	抜穴:2Ac	1	-	1	-	-	柱抜取	
		P150	円形	40	40	28	27. 2	抜穴:9Ba	-	-	-	-	-	SB15・P151より新 柱抜取	
		P152	楕円形	23	19	18	26. 9	抜穴:3Aj	-	-	-	-	-	柱抜取 土師器	
		P153	楕円形	33	25	11	27.3	抜穴:2Ag	-	-	-	-	-	柱抜取	
		P158	楕円形	44	40	28	27.1	抜穴:6Ag	-	-	-	-	-	柱抜取	
		P164	円形	33	30	30	27.3	抜穴: 4Ag	-	-	-	-	-	柱抜取	
	SB 14	P165	円形	30	27	20	27.3	6Aa	円形	14	14	9A	あ		
		P184	楕円形	30	24	35	27.4	抜穴:6Aa	1	-	-	-	-	柱抜取	
		P189	楕円形	39	31	46	27. 2	6Aa	円形	20	18	2A	あ		
		P190	円形	35	31	62	27.1	抜穴:7Aa	1	ı	1	ı	-	柱抜取	
		P194	円形	36	34	25	27.1	掘埋1: 4Ad 掘埋2:18Aa	円形	15	13	2A	V.		
		P196	楕円形	41	27	23	27. 2	抜穴:5Ac	-	-	-	-	-	P197より古 柱抜取	
		P151	楕円形	36	32	9	27.3	抜穴:5A1	ï	Ī	-	Ī	-	SB14・P150より古 柱抜取 堆1:黒褐色土	
		P159	楕円形	44	39	27	27. 1	抜穴:6Ad	-				-	柱抜取	
	SB 15	P167	楕円形	30	25	20	27.3	抜穴:6Ad	-	-	-	-	-	柱抜取	
	1	P188	楕円形	37	32	28	27. 4	3Aa	楕円形	14	10	1A	あ		
			円形	32	28	41	27.1	2Ad	円形	16	16	4A	あ		
		P195	円形	40	38	29	27. 1	掘埋1: 4Aa 掘埋2: 9Aa	円形	16	15	4A	あ		

#### ●ピット(柱穴・小穴)類型



#### ●その他の記載事項

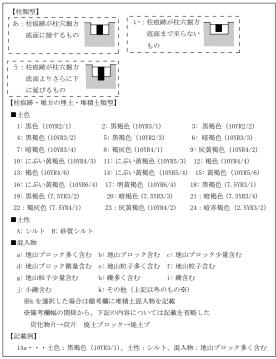
- ■柱穴・ピットの計測値
- (数値) は推定値を示す
- ■柱穴・ピット掘欄の「埋土・堆土(堆積土)」記載事項
- ・柱穴の場合は「掘方埋土」を意味する
- ・「1 層・2 層」等の記載:「柱穴・小穴」の埋土等が 2 層以上に分層した場合を示す
- ・「抜穴」:柱抜き取り穴の埋土・堆積土 / 「抜穴 1 」:抜き取り穴 1 層の埋土・堆積土
- ・「切穴」:柱切り取り穴の埋土・堆積土 / 「切穴1」:切き取り穴1層の埋土・堆積土
- ■備考欄の記載事項
- ・柱抜取:柱が抜き取られているもの ・柱切取:柱が切り取られているもの
- ・この他、重複関係・出土遺物を記載

# 第12-2表 石垣遺跡 揮立柱建物跡 柱穴跡 屋性表(2)SR16~27

						Ē	第12−2	2表	石	坦i	貴跔	<u>J</u>	掘立柱建筑
遣	構	柱穴	г —			m、底面			柱痕	跡		柱類	備考
#	号	平面形	長軸	短軸	残存深	底面 標高	埋土 堆土	平面形	長軸	短軸	堆土	型型	(重複・出土遺物等)
	P168	円形	35	32	52	27.0	抜穴:2Ac	-	-	-	-	-	柱抜取
	P170	円形	33	31	17	27. 1	据埋1: 6Ac 据埋2:10Aa	円形	19	18	4A	あ	
													SI2より新
	P172	楕円形	44	34	30	26. 9	切穴:6Aa	円形	12	12	1A	V	柱切取
	P179	円形	46	44	23	27. 0	抜穴:4Ad	-	-	-	-	-	P180、SI2より新 柱抜取
SB	P193	円形	31	31	28	27. 3	抜穴:3Aa	_	_	_	_	_	柱抜取
16													
	P212	円形	30	27	12	27. 7	抜穴:4Ad	-	-	-	-	-	柱抜取
	P226	楕円形	37	32	26	27.1	抜穴:3Ac	-	-	-	-	-	柱抜取
													SI3より新
	P263	円形	25	24	20	27.3	抜穴:2Ag	_	_	_	_	_	柱抜取
	P274	円形	26	24	36	27. 1	抜穴:4Aj	_	_	_	_	_	柱抜取
												_	TE3X 4X
SB17	P182	円形	30	29	20	26.8	6Aa	円形	12	11	3A	5	
	P183	楕円形	33	25	25	26. 6	抜穴:6Aa	-	-	-	-	-	柱抜取
	P181	楕円形	58	44	25	26.9	抜穴:1Ag	-	-	-	-	-	SI2より新 柱抜取
	P198	円形	44	40	45	26. 9	掘埋1:24Aa 掘埋2:24Ab	円形	23	20	2A	あ	
er.	Door	m =v	10	00	0.0	07.0		m =v	1.1	10	6.	1.	
SB 18	P225	円形	40	36	26	27. 2	2Aa	円形	14	13	8A	V)	
	P227	円形	45	43	36	27. 1	3Aa	楕円形	15	12	1A	V	
	-		Ė	Ŀ	Ŀ				<u> </u>	<u> </u>	<u> </u>		
	P254	楕円形	54	48	45	27.1	5Ac	楕円形	29	25	3A	ð	
	P116	楕円形	40	27	13	27.7	抜穴:13Ad	-	-	-	-	-	柱抜取
		Life (TV)						m ==				L.	
SB 19	P215	楕円形	54	33	30	27. 2	5Aa	円形	23	20	3A	-	55-14-3F
19	P228	楕円形 **TF	45	39	6	27. 3	抜穴:1Ac	_	_	_	_	_	柱抜取
	P272	楕円形	25	20	27	27.5	抜穴:4Ac 切穴:2Ag						柱抜取 SI3より新
	P281	楕円形	40	37	30	27.3	掘埋:4Aa	円形	8	7	2A	あ	柱切取
	P213	円形	40	39	22	27. 3	切穴:6Ac 掘埋:6Aa	円形	13	12	2A	あ	柱切取
	P216	楕円形	35	28	20	27. 3	抜穴:6Aa	_	_	_	_	_	P218より新 柱抜取
							抜穴1:3A1						縄文土器 柱抜取
	P222	円形	40	36	17	27. 3	按穴2:5Aa	-	-	-	-	-	性放取 堆1:黑褐色土
	P224	円形	23	22	18	27. 2	抜穴:3Ac	-	-	-	-	-	柱抜取
	P232	円形	40	38	45	26. 8	9Ac	円形	16	15	4A	あ	ALLE W.
SB 20	P234	円形	42	41	30	26. 9	抜穴:1A1	-	-	-	-	-	柱抜取 堆1:黑色土
20	P236	円形	30	29	26	26.8	4Aa	円形	16	15	1A	あ	
	P239	円形?	35	(30)	26	26.8	抜穴:4Ac	-	-	-	-	-	SB21・P238より古 柱抜取
	P242	楕円形	56	39	37	26.8	切穴1:4Aa 切穴2:4Ab	円形	11	11	3A	あ	柱切取
	1242	1811772	00	- 05		20.0	掘埋 :6Aa	11/10	**	**	0.1	.,	LL 9744
	P251	楕円形	59	37	24	27. 2	抜穴1: 9Aj 抜穴2:2Ad・j	-	-	-	-	-	柱抜取
	P277	楕円形	75	45	27	26. 9	抜穴:2Ab	-	-	-	-	-	柱抜取
	P295	円形	38	37	36	27. 2	4Ad	楕円形	25	20	2A	V	SI3より新
	P235	隅丸方形	42	36	29	26.9	4Ad	楕円形	18	15	6A	あ	
or	P237	楕円形	45	32	18	26.9	抜穴:4Aa	-	-	-	-	-	柱抜取
SB 21	P238	円形	33	30	12	26. 9	抜穴:2Ac	-	-	-	-	-	SB20・P239より新 柱抜取
	P244	円形	37	36	18	27.0	23Ad	円形	17	15	4A	あ	
	P276	円形	34	32	20	26.9	5Aa	楕円形	14	10	3A	V	
	P246	楕円形	36	32	40	27.1	抜穴:9Ag	-	-	-	-	-	柱抜取
	P250	楕円形	33	28	24	27. 2	抜穴:4Ad	-	-	-	-	-	柱抜取
SB 22	P255	楕円形	54	44	28	27. 2	切穴:2Ag 掘埋:4Aa	楕円形	16	12	1A	あ	柱切取
	P267	円形	29	26	7	27.3	抜穴:23Ag	-	-	-	-	-	柱抜取
	P279	円形	28	28	18	27.5	18Ag	円形	15	13	4A	Į,	
	P241	楕円形	29	22	36	27.0	抜穴:3Aa	-	-	-	-	-	柱抜取
	P248	円形	27	27	23	27.3	抜穴:2Aj	-	-	-	-	-	柱抜取
	P253	円形	24	21	28	27.3	2Ag	円形	18	15	3A	ð	mana ara b
SB	P261	円形	26	24	28	27. 2	抜穴:2Ab	-	-	-	-	-	P260、SI3より新 柱抜取
23	P273	円形	26	21	30	27.1	抜穴:4Aj	-	-	-	-	-	柱抜取
	P278	円形	23	20	14	27.5	抜穴:23Aj	-	-	-	-	-	柱抜取 土師器
	P300	楕円形	38	27	22	27.3	4Aj	楕円形	17	14	23A	ð	
	P301	円形	23	21	9	27.3	抜穴:3Aa	-	-	-	-	-	柱抜取
	P249	楕円形	50	40	50	27.1	切穴:2Ad 掘埋:1Aa	円形	20	18	4A	あ	柱切取
SB	P257	楕円形	37	30	26	27. 2	3Aa	円形	15	14	1A	あ	
					00	27. 3	6Aa	円形	23	20	4A	あ	
24	P275	楕円形	36	30	20	21.0	Outu	14/10					

加州代入则 禹住衣(Z/3D/0~Z/													
,	直構	柱穴・は	ピット掘	方(長朝	由・短軸	: cm、盾	面標高:m)		柱痕	跡		柱類	備考
	香号	平面形	長軸	短軸	残存深	底面標高	埋土 堆土	平面形	長軸	短軸	堆土	型型	(重複・出土遺物等)
	P319	円形?	48	(30)	47	28. 4	6Aa	楕円形	19	16	4A	あ	
	P320	隅丸方形?	(50)	40	40	28. 5	抜穴1:4Ab・j 抜穴2:15Aa 掘埋:2Ab	-	-	-	-	-	柱抜取
	P396	円形	49	46	48	28. 5	据埋1:7Aa 据埋2:6Ab	楕円形	20	17	4A	Į,	
	P400	楕円形	54	42	57	28. 5	据埋1:7Aa 据埋2:6Ac	円形	17	16	4A	Į,	SB28・P401より新
SB	P432	楕円形	54	43	32	28. 5	抜穴:23Ac・k 掘埋1:6Ab 掘埋2:10Ab	-	-	-	-	-	柱抜取
25	P433	円形	42	39	35	28. 5	掘埋1:9Aa 掘埋2:6Aa	楕円形	18	15	4A	あ	
	P434	円形	40	38	12	28. 5	6Ak • 1	楕円形	18	15	4A	あ	堆1:炭片
	P437	円形?	(30)	(10)	22	28. 5	抜穴:6Ak	-	-	-	-	-	柱抜取
	P438	楕円形?	55	(18)	26	28. 5	切穴:7Aa 掘埋:6Ab	円形?	25	-	4A	あ	柱切取
	P442	円形?	44	(34)	31	28. 5	抜穴:4Ab・k・1 掘埋:2Ab	-	-	-	-	ı	柱抜取 堆1:炭片
	P304	隅丸方形	50	48	40	29.0	掘埋1:6Ab 掘埋2:2Ag	楕円形	18	15	4A	あ	P305より新
	P308	楕円形	62	52	33	29. 1	6Ab	円形	15	14	4A	あ	
	P311	隅丸方形?	52	(31)	49	29.0	切穴:6Aa 掘埋:4Aa	円形?	15	-	4A	あ	SK11より古 柱切取
SB 26	P335	円形	53	51	24	29.0	抜穴:6Aa 掘埋1:7Aa 掘埋2:4Ab	ı	-	-	-	-	SB29・P336より古 柱抜取 土師器
	P350	楕円形	60	53	44	29. 0	抜穴:4Ac・i	-	-	-	-	-	SB29・P348、SB31・P349、 P347より古 柱抜取、土師器
	P353	隅丸方形	66	60	49	29. 0	掘埋1: 6Aa 掘埋2:10Aa	楕円形	27	20	4A	あ	SI4より新
	P354	隅丸長方形	84	54	47	29. 0	切穴1:6Ac 切穴2:4Ac 掘埋: 2Aa	円形	20	16	2A	あ	柱切取 土師器
	P306	楕円形	31	24	14	29. 1	7Aa	円形	17	15	4A	あ	SB31・P307より新
SB	P312	円形	27	26	16	29. 1	抜穴:10Aa	-	-	-	-	-	柱抜取
27	P313	円形	27	26	15	29.0	10Aa	楕円形	13	11	4A	あ	
	P314	円形?	40	(36)	30	28.8	6Ab	楕円形	18	13	2A	あ	

#### ●ピット(柱穴・小穴)類型



## ●その他の記載事項

- ■柱穴・ピットの計測値
- (数値) は推定値を示す
- ■柱穴・ピット掘欄の「埋土・堆土(堆積土)」記載事項
- ・柱穴の場合は「掘方埋土」を意味する
- ・「1 層・2 層」等の記載:「柱穴・小穴」の埋土等が 2 層以上に分層した場合を示す
- ・「抜穴」:柱抜き取り穴の埋土・堆積土 / 「抜穴 1 」:抜き取り穴 1 層の埋土・堆積土
- ・「切穴」: 柱切り取り穴の埋土・堆積土 / 「切穴1」: 切き取り穴1層の埋土・堆積土
- ■備考欄の記載事項
- ・柱抜取:柱が抜き取られているもの ・柱切取:柱が切り取られているもの
- ・この他、重複関係・出土遺物を記載

第12-3表 石垣遺跡 掘立柱建物跡 柱穴跡 属性表(3)SB28~37

							第12-	<b>3</b> 4	<u>'</u> L	1 4	.夏	יועע	<b>拙立枉建物</b> 跡	
	排	柱穴	掘方(長	長軸・短	轴:cm、		高:m)		柱痕	2/4		柱類	備考	
7	号	平面形	長軸	短軸	残存深	底面標高	埋土 堆土	平面形	長軸	短軸	堆土	型	(重複・出土遺物等)	ì
	P322	円形	32	31	32	28.6	振埋1: 9Aa 振埋2:12Aa	円形	12	11	4A	あ		ıſ
	P323	円形	43	39	16	28. 8	抜穴:4Ac	-	-	-	-	-	柱抜取	ıl
	P327	円形	43	43	36	28. 7	4Ab	円形	13	12	4A	あ	P328より新	
	P332	楕円形	50	40	32	28.9	切穴: 6Aa	円形	26	22	4A	Į,	土師器 柱切取	Н
							掘埋:10Aa 掘埋1:6Ab						12 90 %	
	P334	円形	36	35	20	29. 1	掘埋2:9Aa	円形	14	13	4A	あ		
SB	P337	円形	37	34	51	28.8	掘埋1:6Ac 掘埋2:2Ac	円形	15	14	4A	Į,		ì
28	P343	円形	40	36	46	28. 8	切穴:6Ag・k 掘埋:4Ab	楕円形	21	18	4A	あ	P342より古 柱切取 土師器	
	P346	円形	32	32	54	29.3	切穴:6Ak・1 掘埋:4Ab	楕円形	22	18	4A	あ	SI4より新。柱切取、土師器 堆1:炭片、焼土ブ	ì
	P374	円形	23	23	35	28.8	10Aa	円形	13	11	4A	あ		ì
	P382	楕円形	34	26	22	28. 8	切穴:7Aa	円形	20	19	4A	あ	SB30・P384、SB31・P381より新、	
	P392						据埋:4Ab 据埋1:6Aa						柱切取。 土師器、須恵器	
		円形	45	43	25	28.8	据埋2:9Ab 切穴:7Ab	楕円形	17	14	4A	あ	SB25・P400より古	ì
	P401	円形	43	40	13	28. 9	据埋:4Ab	円形	14	12	4A	あ	柱切取	ì
	P325	楕円形	50	40	22	28. 8	抜穴:18Aj 掘埋:4Ab	-	-	-	-	_	SB33・P326より新 柱抜取	ì
	2004	mar						_	_	_			土師器	ì
	P331	円形	41	38	10	29. 1	抜穴:10Ab	_	-	_	-	-	柱抜取 SB26・P335より新	ŀ
	P336	隅丸方形	49	44	21	29. 1	抜穴:6Ab・1 掘埋:4Aa	-	-	-	-	-	柱抜取 堆1:炭片	
SB 29													P347より古。 SB31・P349、	ì
29	P348	楕円形	54	48	38	29. 0	切穴:6Ac・1 掘埋:4Aa	円形	21	19	4A	5	SB26・P350、SB30・P351より新 柱切取 、土師器	
													堆1:焼土粒子少量	
	P371	円形	44	43	10	29. 2	6Ab	円形	15	14	4A	あ	P372より古	ì
	P405	円形	35	34	19	28. 9	9Ab	円形	12	11	10A	あ	SB30・P409、SK14より新	
	P411	円形	38	36	13	29.0	9Aa	円形	14	13	7A	l/s		
	P341	円形	46	44	35	29.0	4Aa	円形	19	17	4A	あ	土師器	ıL
	P345	隅丸方形	65	64	42	28. 9	据埋1:4Ab・1 据埋2:18Aa	円形	22	19	4A	あ	SB31・P344より古 SI4より新 堆1:焼土粒子 土師器	
	P351	隅丸長方形	54	40	23	29. 1	抜穴:19Aa 掘埋: 4Aa	-	-	-	-	-	SB29・P348、SB31・P349、 P347より古	1
SB 30	P379	円形	54	53	22	28. 9	据埋1: 4Aa 据埋2:19Ac	円形	19	19	4A	ly v	柱抜取、土師器 SB31・P378より古	1
							抜穴1: 4Aa						P380、SB31 • P381、SB28 • P382、	ì
	P384	不整形	56	47	25	28. 9	抜穴2:10Aa	-	-	_	-	-	SB32・P383より古 柱抜取、土師器	ì
	P409	円形	50	(46)	17	29. 0	掘埋1:6Ab 掘埋2:7Ab	円形	20	17	4A	Į,	SB29・P405、SB32・P406、 SB31・P408、 SB32・P410より古 SK14より新	
	P307	円形	45	45	33	28. 9	抜穴:20Af・1 掘埋:4Ab	-	-	-	-	-	SB27・P306より古 柱抜取、土師器 堆1:炭片、焼土ブ	
	P315	円形	43	36	23	28.8	据埋1:4Ab 掘埋2:9Aa	楕円形	20	16	4A	あ		
							切穴1: 4Aa						P338、P340より古	
	P339	楕円形	54	46	40	28.9	切穴2:12Aa 掘埋 : 6Aa	円形	18	17	4A	あ	柱切取	
SB	P344	円形	45	43	39	29. 0	据埋1:4Ac・1 据埋2: 10Aa	楕円形	17	14	4A	あ	SB30・P345、SI4より新 堆1:炭片少量	
31	P349	楕円形	128	62	47	28. 9	据埋1: 6Aa 据埋2:10Aa	楕円形	16	13	4A		P347、SB29・P348より古	
	F349	18 F3 702	120	02	-11	20.9	掘埋3: 7Aa	18 F3 7/2	10	10	4A	あ	SB26・P350、SB30・P351より新	ıL
	P378	円形	49	45	24	28.8	4Ab	円形	16	14	4A	あ	SB30・P379より新	ì
	P381	円形?	73	(68)	19	28. 8	6Ab	円形	16	16	4A	あ	SB28・P382、SB32・P383、 P380より古	ì
													SB30・P384より新 SB30・P409、SK14より新	ì
	P408	楕円形	53	44	16	28.9	抜穴:6Aa・1 掘埋:4Ab	-	-	-	-	-	柱抜取 堆1:炭片多量	ì
	P383	円形	66	66	22	28. 9	抜穴1: 6Aa	_	_	_	-	_	SB31・P381、SB30・P384より新	ì
	P394	円形?	(56)	52	25	28. 7	抜穴2:10Aa 切穴:9Ac・k	楕円形	20	16	4A	あ	柱抜取、土師器 SB33・P395、P393より古	ì
	P394	円形	44	42	12	28.9	据埋:6Ab 10Aa	相口ルシ 楕円形	23	20	6A	あ	柱切取	ì
	P402		64	58	24	28.8	4Aa	円形	23	21	4A	H	P402 F h #	ì
SB	P402	楕円形	64	38	24	28. 8		P1709	23	21	4A	あ	P403より新 SB30・P409、SK14より新	ì
32	P406	円形	50	50	17	28. 9	抜穴1:6Ac 抜穴2:4Aa	-	-	-	-	-	柱抜取 土師器	
	P410	楕円形 m=s	64	52	22	29. 0	10Aa	円形	26	24	6A	あ	SB30・P409、SK14より新	1
	P413	円形	42	42	16	29. 0	6Aa 抜穴1:4Ac	円形	16	14	4A	あ	D. H.W.	1
	P415	円形	55	53	18	29.0	抜穴2:9Ae	-	-	-	-	-	柱抜取	l
	P430	楕円形	56	51	14	28.8	抜穴:10Aa 掘埋1: 4Aa	-	-	-	-	-	柱抜取	l
	P317	楕円形	50	40	50	28.5	掘埋2:10Aa	楕円形	16	13	2A	あ		l
	P321	隅丸長方形	38	28	42	28.5	掘埋1:4Aa 掘埋2:2Ad	円形	18	16	4A	あ		1
	P326	楕円形	58	40	28	28.7	切穴:20Aa 掘埋: 4Ab	楕円形	20	13	4A	あ	SB29・P325より古 柱切取	1
SB 33	P385	円形	39	38	32	28.8	据埋1:18A1	楕円形	18	14	2A	Į,	推1:炭片、焼土粒子	1
Ì	P391	楕円形	38	27	36	28.5	据埋2: 4Ad 据埋1:9Aa	楕円形	21	17	4A	あ		1
1	LOBI	18 PUTS	38	21	36	26. 0	掘埋2:6Aa	相当形	21	1/	4A	D	SB32・P394より新	l
	P395	楕円形	46	38	37	28.6	抜穴1:4Ab・j 抜穴2:2Aa	-	-	-	-	-	5832・F394より新 柱抜取 土師器	1
Щ														

							0020	07		n.			
	構	柱バ・ロッ	_	記方(長軸・短軸:cm、			柱痕跡		(83		柱類	備考	
番	号	平面形	長軸	短軸	残存 深	底面 標高	埋土 堆土	平面形	長軸	短軸	堆土	型	(重複・出土遺物等)
	P416	円形	46	43	5	28.9	6Ab	円形	11	9	4A	あ	
	P417	楕円形	51	46	9	28.9	2Ak	円形	20	18	4A	あ	
	P418	楕円形	50	42	43	28.7	7Aa	円形	19	18	4A	あ	
	P419	楕円形	46	40	19	28.8	切穴:7Ab・j 掘埋:6Ak	円形	24	21	4A	あ	柱切取
	P420	円形	25	24	8	28. 9	抜穴:10Bk	-	-	-	-	-	柱抜取
	P421	円形	39	38	12	28.8	10Bk	楕円形	20	16	6A	W	
SB	P422	楕円形	42	36	12	28.7	10Bk	楕円形	22	18	7B	あ	
34	P423	円形	43	42	12	28.7	6Bk	円形	19	17	4A	あ	
	P424	円形	38	37	6	28.6	抜穴:9B1	-	-	ı	-	-	柱抜取 堆1:砂多量
	P425	楕円形	50	45	19	28. 4	10Bi	円形	19	17	4B	あ	
	P426	円形	32	29	15	28.5	10Bk	円形	14	13	4B	あ	
	P427	円形	34	33	18	28. 5	6Ak	円形	21	19	4A	あ	
	P428	楕円形	48	39	27	28. 4	6Ak	楕円形	33	26	4A	5	土師器
	P429	楕円形	48	42	18	28.7	2Ab	楕円形	29	24	4A	あ	
	P443	隅丸方形	49	47	23	28. 7	10Bb • k	円形	19	18	4A	あ	須恵器
SB	P444	隅丸方形	44	43	12	28. 9	10Bk	楕円形	22	17	4A	あ	
35	P445	円形	60	56	16	28.8	10Bk • 1	円形	22	21	7B	あ	堆1:砂質土多量
	P446	円形	46	42	18	28.7	抜穴:7Ak 掘埋:10Bk・1	-	-	-	-	-	柱抜取 堆1:砂質土
	P447	隅丸方形	46	42	16	28.6	10Bb • k	円形	20	20	6A	あ	
	P448	隅丸方形	50	45	15	28.6	10Bb • k	楕円形	26	20	7B	あ	
	P467	円形	33	33	33	29. 6	抜穴:4Ad	-	-	I	П	-	柱抜取 土師器
SB 36	P468	楕円形	50	40	19	29. 6	6Ac	円形	22	19	4A	あ	
	P472	楕円形	40	34	17	29.7	抜穴1:6Ad・j 抜穴2:10Ab	-	-	-	-	-	P473より新 柱抜取
	P475	円形	37	33	25	29. 7	据埋1: 6Ab 据埋2:10Aa	楕円形	21	17	4A	Į,	
	P476	円形	34	33	16	29.8	4Ab	楕円形	15	12	4A	あ	
	P477	楕円形	46	36	25	29. 6	7Aa	楕円形	19	16	4A	あ	
SB 37	P478	円形	33	27	7	29.7	抜穴:10Ab	-	-	-	-	-	柱抜取
	P480	楕円形	38	28	7	29.6	10Aa	楕円形	15	12	4A	あ	
	P482	楕円形	37	31	34	29.6	6Ab·k	円形	18	16	6A	あ	
	P483	楕円形	47	39	36	29. 6	4Ab•k	楕円形	13	9	2A	あ	土師器

### ●ピット(柱穴・小穴)類型

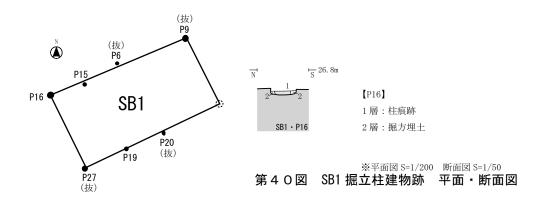
	, w=						
【柱類型】							
あ:柱痕跡が柱穴掘方	い:柱痕跡が柱穴掘方						
! 底面に接するもの □	底面まで至らない 💻						
li e	60						
う:柱痕跡が柱穴掘方							
底面よりさらに下 💆							
に延びるもの	i						
【柱痕跡・堀方の埋土・堆積土類型】							
■土色							
1: 黒色(10YR2/1)	2: 黒褐色 (10YR3/1) 3: 黒褐色 (10YR2/2)						
4: 黒褐色 (10YR3/2)	5: 黒褐色 (10YR2/3) 6: 暗褐色 (10YR3/3)						
7: 暗褐色 (10YR3/4)	8: 褐灰色 (10YR4/1) 9: 灰黄褐色 (10YR4/2)						
10: にぶい黄褐色 (10YR4/3)	11: にぶい黄褐色 (10YR5/3) 12: 褐色 (10YR4/4)						
13: 褐色 (10YR4/6)	14: にぶい黄褐色(10YR5/4) 15: 黄褐色(10YR5/6)						
16: にぶい黄褐色(10YR6/4)	17: 明黄褐色(10YR6/4) 18: 黒褐色 (7.5YR3/1)						
19: 黒褐色 (7.5YR3/2)	20: 暗褐色 (7.5YR3/3) 21: 暗褐色 (7.5YR3/4)						
22:褐灰色 (7.5YR4/1)	23: 灰黄褐色 (10YR4/2) 24: 暗赤褐色 (2.5YR3/2)						
■土性							
A: シルト B: 砂質シルト							
■混入物							
a: 地山ブロック多く含む	b: 地山ブロック含む c: 地山ブロック少量含む						
d: 地山ブロック微量含む	e: 地山粒子多く含む f: 地山粒子含む						
g: 地山粒子少量含む	h: 礫多く含む i: 礫含む						
j: 小礫含む	k: その他(上記以外のもの※)						
※k を選択した場合は備考欄に堆積土混入物を記載							
※備考欄幅の関係から、	下記の内容については記載を省略した						
炭化物片→炭片 焼土ブロック→焼土ブ							
【記載例】							
1Aa・・・十色 · 里褐色 (10	OVP3/1) 土性・シルト 混入物・地山ブロック名く今to						

#### **2) A区建物跡** (第 40~70 図、第 11·12·1·2 表)

SB1~24 掘立柱建物跡の計 24 棟を検出した。確認面は $III \cdot IV$ 層である。建物跡は、標高 26~28m の平坦面に立地している。特に調査区中央の標高 27~28m 地点において多くの建物跡を検出した。以下、その詳細について説明する。

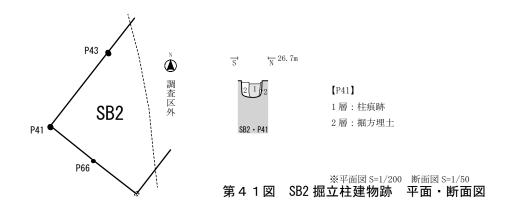
### 【SB1 掘立柱建物跡】(第 40・47・48 図、第 11・12-1 表)

東西 3 間、南北 1 間の東西棟建物跡である。建物は  $P6 \cdot 9 \cdot 15 \cdot 16 \cdot 19 \cdot 20 \cdot 27$  の 7 個の柱穴で構成される。検出した柱穴のうち、 $P15 \cdot 16 \cdot 19$  の 3 個から柱痕跡を確認し、4 個( $P6 \cdot 9 \cdot 20 \cdot 27$ )は柱が抜き取られていた。平面規模については、桁行が北側柱列で総長 7.7m、梁行が西側柱列で総長 4.3mである。方向は真北に対して西に 24° 傾く(N-24° -W)。柱穴は掘方の規模が長軸 18~34cm、平面形が円形・楕円形・不整形で、深さは 8~50cm である。柱痕跡は長軸が 12~17cm、平面形が円形である。遺物は出土していない。



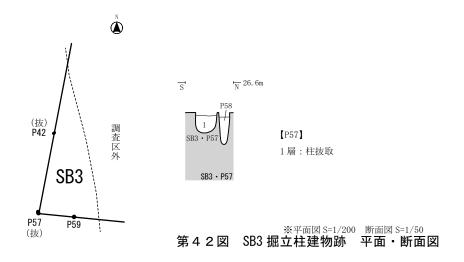
#### 【SB2 掘立柱建物跡】(第 41・47・48 図、第 11・12-1 表)

東西 2 間、南北 1 間以上の建物跡である。建物は  $P41 \cdot 43 \cdot 66$  の 3 個の柱穴で構成される。 $SK2 \cdot 3$  と重複し、これらより新しい。検出した柱穴のすべてから柱痕跡を確認した。平面規模については、桁行が南柱列で総長 5.8m、梁行が西側柱列で総長 5.0m である。方向は真北に対して西に  $52^\circ$  傾く( $N-52^\circ-W$ )。柱穴は掘方の規模が長軸  $19\sim30cm$ 、平面形が円形・楕円形で、深さは  $14\sim24cm$  である。柱痕跡は長軸が  $10\sim16cm$ 、平面形が円形である。遺物は出土していない。



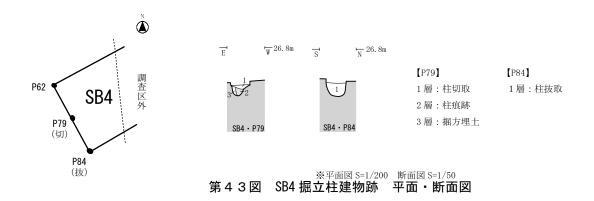
### 【SB3 掘立柱建物跡】(第 42・47・48 図、第 11・12-1 表)

東西 1 間以上、南北 1 間以上の建物跡である。建物は  $P42 \cdot 57 \cdot 59$  の 3 個の柱穴で構成される。検出した柱穴のうち、P59 から柱痕跡を確認し、2 個 ( $P42 \cdot 57$ ) は柱が抜き取られていた。平面規模については、桁行が西側柱列で総長 4.2m、梁行が南側柱列で総長 1.9m である。方向は真北に対して東に $10^\circ$  傾く ( $N-10^\circ$  -E)。柱穴は掘方の規模が長軸  $18\sim 30cm$ 、平面形が円形・楕円形で、深さは  $11\sim 23cm$  である。柱痕跡は長軸が 10cm、平面形が円形である。遺物は出土していない。



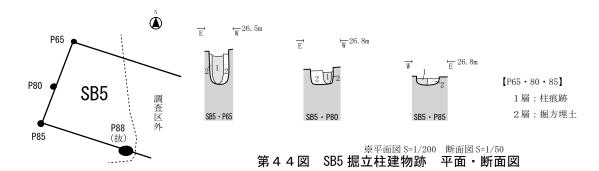
### 【SB4 掘立柱建物跡】(第 43・47・48 図、第 11・12-1 表)

南北 2 間の建物跡である。建物は  $P62 \cdot 79 \cdot 84$  の 3 個の柱穴で構成される。検出した柱穴のうち、  $P62 \cdot 79$  の 2 個から柱痕跡を確認し、P79 は柱が切り取られていた。P84 は柱が抜き取られていた。平面規模については、桁行が西側柱列で総長  $4.0 \mathrm{m}$  である。方向は真北に対して西に  $28^\circ$  傾く( $N-28^\circ$  -W)。柱穴は掘方の規模が長軸  $24 \sim 34 \mathrm{cm}$ 、平面形が円形・楕円形で、深さは  $9 \sim 19 \mathrm{cm}$  である。柱痕跡は長軸が  $10 \sim 15 \mathrm{cm}$ 、平面形が円形である。遺物は出土していない。



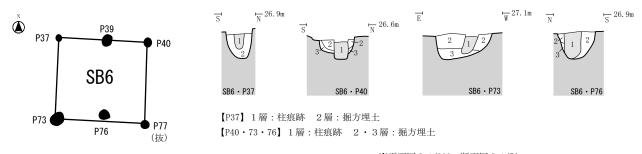
### 【SB5 掘立柱建物跡】(第 44・47・48 図、第 11・12-1 表)

東西 1 間以上、南北 2 間の建物跡である。建物は  $P65 \cdot 80 \cdot 85 \cdot 88$  の 4 個の柱穴で構成される。検出した柱穴のうち、 $P65 \cdot 80 \cdot 85$  の 3 個から柱痕跡を確認し、P88 は柱が抜き取られていた。平面規模については、桁行が西側柱列で総長 4.7m、梁行が南側柱列で総長 4.6m である。方向は真北に対して東に  $21^\circ$  傾く( $N-21^\circ-E$ )。柱穴は掘方の規模が長軸  $26\sim 50cm$ 、平面形が円形・楕円形で、深さは  $8\sim 42cm$  である。柱痕跡は長軸が  $13\sim 17cm$ 、平面形が円形・楕円形である。遺物は出土していない。



# 【SB6 掘立柱建物跡】(第45・47・48図、第11・12-1表)

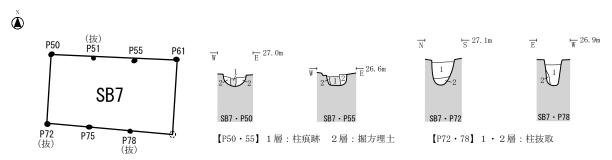
東西 2 間、南北 1 間の東西棟建物跡である。建物は  $P37 \cdot 39 \cdot 40 \cdot 73 \cdot 76 \cdot 77$  の 6 個の柱穴で構成 される。検出した柱穴のうち、 $P37 \cdot 39 \cdot 40 \cdot 73 \cdot 76$  の 5 個から柱痕跡を確認し、P77 は柱が抜き取られていた。平面規模については、桁行が北側柱列で総長 4.7m、梁行が西側柱列で総長 4.3m である。方向は真北に対して東に  $2^\circ$  傾く  $(N-2^\circ-E)$ 。柱穴は掘方の規模が長軸  $33\sim75$ cm、平面形が円形・楕円形で、深さは  $26\sim47$ cm である。柱痕跡は長軸が  $14\sim29$ cm、平面形が円形である。遺物は出土していない。



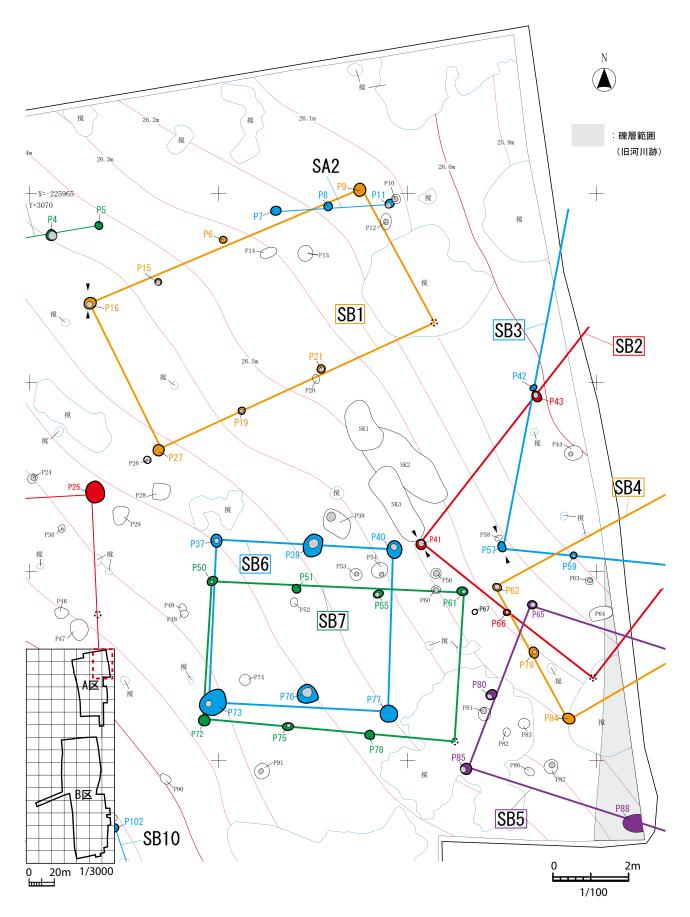
※平面図 S=1/200 断面図 S=1/50 第45図 SB6 掘立柱建物跡 平面・断面図

### 【SB7 掘立柱建物跡】(第 $46\sim48$ 図、第 $11\cdot12\cdot1$ 表)

東西 3 間、南北 1 間の東西棟建物跡である。建物は  $P50 \cdot 51 \cdot 55 \cdot 61 \cdot 72 \cdot 75 \cdot 78$  の 7 個の柱穴で構成される。検出した柱穴のうち、 $P50 \cdot 55 \cdot 61 \cdot 75$  の 4 個から柱痕跡を確認し、3 個 ( $P51 \cdot 72 \cdot 78$ ) は柱が抜き取られていた。平面規模については、桁行が北側柱列で総長 6.7m、梁行が西側柱列で総長 3.8m である。方向は真北に対して東に  $2^\circ$  傾く ( $N-2^\circ-E$ )。柱穴は掘方の規模が長軸  $23\sim30cm$ 、平面形が円形・楕円形で、深さは  $2\sim33cm$  である。柱痕跡は長軸が  $9\sim13cm$ 、平面形が円形である。遺物は出土していない。



※平面図 S=1/200 断面図 S=1/50 第46図 SB7 掘立柱建物跡 平面・断面図



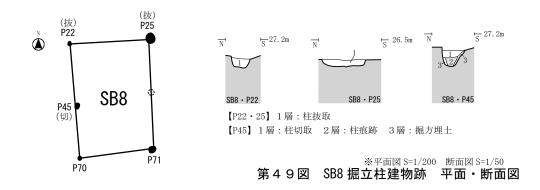
第47図 SB1~7 掘立柱建物跡(1)



第48図 SB1~7 掘立柱建物跡(2)

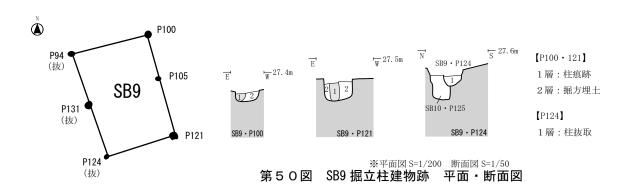
## 【SB8 掘立柱建物跡】(第49・54・55 図、第11・12-1 表)

南北 2 間、東西 1 間の南北棟建物跡である。建物は  $P22 \cdot 25 \cdot 45 \cdot 70 \cdot 71$  の 5 個の柱穴で構成される。検出した柱穴のうち、 $P70 \cdot 71$  の 2 個から柱痕跡を確認し、P45 は柱が切り取られ、2 個( $P22 \cdot 25$ )は柱が抜き取られていた。平面規模については、桁行が西側柱列で総長 6.1m、梁行が北側柱列で総長 4.3m である。方向は真北に対して西に 5° 傾く (N-5° -W)。柱穴は掘方の規模が長軸 21  $\sim 58$ cm、平面形が円形・楕円形で、深さは  $9\sim 33$ cm である。柱痕跡は長軸が  $9\sim 18$ cm、平面形が円形・楕円形である。遺物は出土していない。



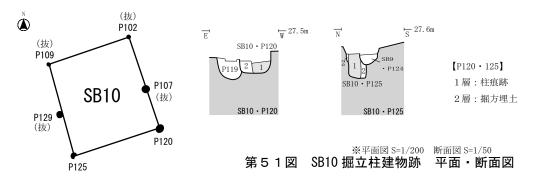
## 【SB9 掘立柱建物跡】(第50·54·55図、第11·12·1表)

南北 2 間、東西 1 間の南北棟建物跡である。建物は  $P94 \cdot 100 \cdot 105 \cdot 121 \cdot 124 \cdot 131$  の 6 個の柱穴で構成される。SI1、SB10、SK6 と重複し、SI1、SB10 より新しく、SK6 より古い。検出した柱穴のうち、 $P100 \cdot 105 \cdot 121$  の 3 個から柱痕跡を確認し、3 個 ( $P94 \cdot 124 \cdot 131$ ) は柱が抜き取られていた。平面規模については、桁行が東側柱列で総長 5.5m、梁行が北側柱列で総長 4.1m である。方向は真北に対して西に 15° 傾く (N-15° -W)。柱穴は掘方の規模が長軸  $27 \sim 44$ cm、平面形が円形・楕円形で、深さは  $6 \sim 23$ cm である。柱痕跡は長軸が  $11 \sim 16$ cm、平面形が円形である。遺物は出土していない。



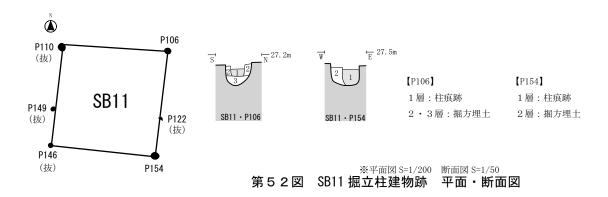
### 【SB10 掘立柱建物跡】(第 51・54・55 図、第 11・12-1 表)

南北 2 間、東西 1 間の南北棟建物跡である。建物は  $P102 \cdot 107 \cdot 109 \cdot 120 \cdot 125 \cdot 129$  の 6 個の柱穴で構成される。SI1、SB9、P119 と重複し、SI1、P119 より新しく、SB9 より古い。検出した柱穴のうち、 $P120 \cdot 125$  の 2 個から柱痕跡を確認し、4 個( $P102 \cdot 107 \cdot 109 \cdot 129$ )は柱が抜き取られていた。平面規模については、桁行が東側柱列で総長 5.2m、梁行が南側柱列で総長 4.6m である。方向は真北に対して西に 18° 傾く(N-18° -W)。柱穴は掘方の規模が長軸  $22 \sim 42$ cm、平面形が円形・楕円形で、深さは  $8 \sim 35$ cm である。柱痕跡は長軸が  $15 \sim 26$ cm、平面形が円形である。遺物は P120 の掘方埋土から縄文土器片、P129 の柱抜取穴から土師器片が出土した。



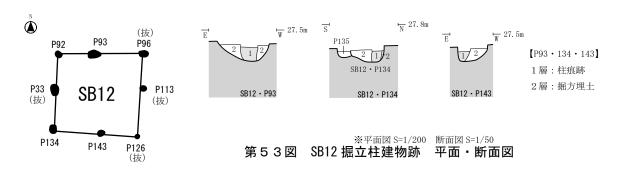
## 【SB11 掘立柱建物跡】(第52・54・55 図、第11・12-1 表)

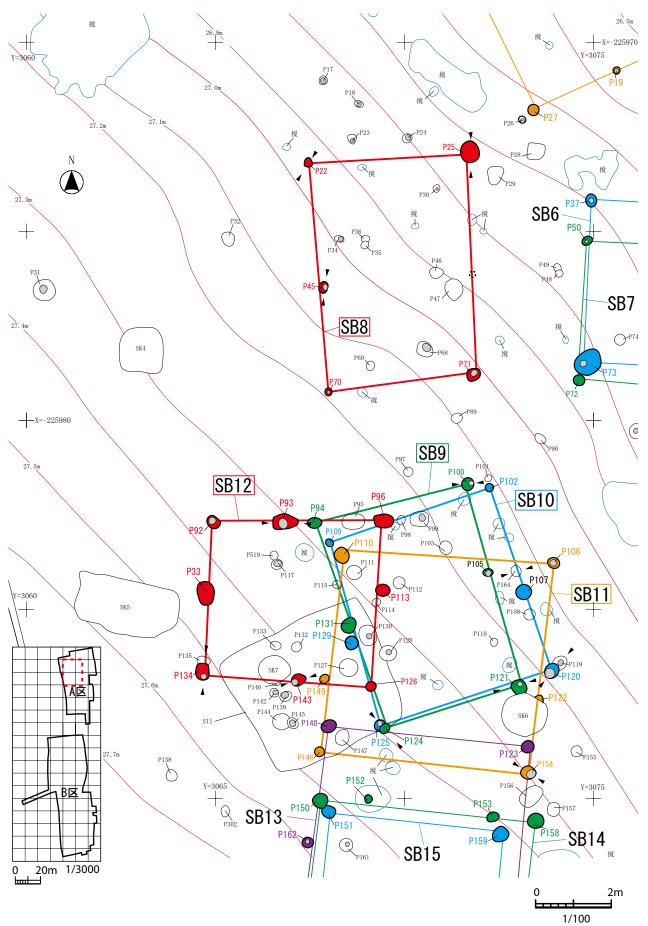
南北 2 間、東西 1 間の建物跡である。建物は P106・110・122・146・149・154 の 6 個の柱穴で構成 される。SI1、SK6 と重複し、SI1 より新しく、SK6 より古い。検出した柱穴のうち、P106・154 の 2 個から柱痕跡を確認し、4 個(P110・122・146・149)は柱が抜き取られていた。平面規模については、 桁行が東側柱列で総長 5.6m、梁行が北側柱列で総長 5.7m である。方向は真北に対して東に 6° 傾く(N -6° -E)。柱穴は掘方の規模が長軸 26~47cm、平面形が円形・楕円形で、深さは 5~30cm である。柱痕跡は長軸が 18~26cm、平面形が円形である。遺物は出土していない。



#### 【SB12 掘立柱建物跡】(第 $53\sim55$ 図、第 $11\cdot12\cdot1$ 表)

東西 2 間、南北 2 間の東西棟建物跡である。建物は  $P33 \cdot 92 \cdot 93 \cdot 96 \cdot 113 \cdot 126 \cdot 134 \cdot 143$  の 8 個の柱穴で構成される。SI1、P135 と重複し、これらより新しい。検出した柱穴のうち、 $P92 \cdot 93 \cdot 134 \cdot 143$  の 4 個から柱痕跡を確認し、4 個 ( $P33 \cdot 96 \cdot 113 \cdot 126$ ) は柱が抜き取られていた。平面規模については、桁行が北側柱列で総長 4.5m、梁行が西側柱列で総長 4.2m である。方向は真北に対して東に 2° 傾く (N-2° -E)。柱穴は掘方の規模が長軸  $28 \sim 64$ cm、平面形が円形・楕円形で、深さは  $12 \sim 40$ cm である。柱痕跡は長軸が  $17 \sim 28$ cm、平面形が円形・楕円形である。遺物は出土していない。





第54図 SB8~12 掘立柱建物跡(1)



掘立柱建物跡 完掘状況(北から)



2. SB8・P22 断面 (東から)



3. SB8・P45 断面(西から)



4. SB9 ~ 10 掘立柱建物跡 完掘状況 (東から)



5. SB9・P100 断面(北から)











8. SB10·P125(左)、 P124(右) 断面(西から)

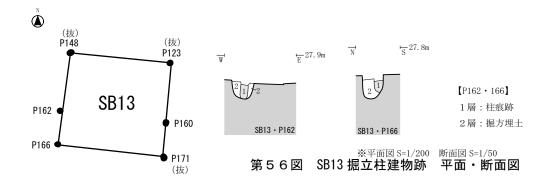


9. SB11・P106 断面(東から) 10. SB11・P146 断面 (西から) 11. SB12・P93 断面 (北から)

第55図 SB8~12 掘立柱建物跡(2)

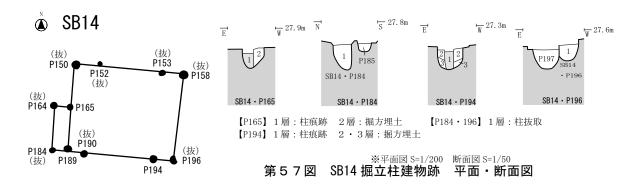
### 【SB13 掘立柱建物跡】(第56・61・62 図、第11・12-1 表)

南北 2 間、東西 1 間の建物跡である。建物は P123・148・160・162・166・171 の 6 個の柱穴で構成される。SI1 と重複し、これより新しい。検出した柱穴のうち、P160・162・166 の 3 個から柱痕跡を確認し、3 個 (P123・148・171) は柱が抜き取られていた。平面規模については、桁行が東側柱列で総長 5.0m、梁行が北側柱列で総長 5.5m である。方向は真北に対して東に 6° 傾く (N-6° -E)。柱穴は掘方の規模が長軸 30~43cm、平面形が円形・楕円形で、深さは 12~40cm である。柱痕跡は長軸が 12~19cm、平面形が円形・楕円形である。遺物は出土していない。



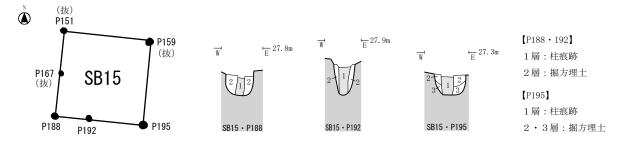
# 【SB14 掘立柱建物跡】(第 57・61・62 図、第 11・12-1 表)

東西 3 間、南北 2 間の身舎の西側に 1 間の庇が付く東西棟建物跡である。建物は P150・152・153・158・164・165・184・189・190・194・196の 11 個の柱穴で構成される。SB15、P197 と重複し、SB15 より新しく、P197 より古い。検出した柱穴のうち、P165・189・194の 3 個から柱痕跡を確認し、8 個 (P150・152・153・158・164・184・190・196) は柱が抜き取られていた。平面規模については、桁行が北側柱列で総長 6.4m、梁行が西側柱列で総長 4.5m である。方向は真北に対して東に 6° 傾く (N -6° -E)。柱穴は掘方の規模が長軸 23~44cm、平面形が円形・楕円形で、深さは 11~62cm である。柱痕跡は長軸が 14~20cm、平面形が円形である。遺物は P152 の柱抜取穴から土師器片が出土した。



# 【SB15 掘立柱建物跡】(第58·61·62 図、第11·12·1 表)

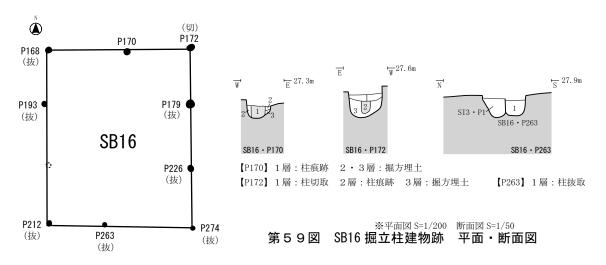
東西 2 間、南北 2 間の東西棟建物跡である。建物は P151・159・167・188・192・195 の 6 個の柱穴で構成される。SB14 と重複し、これより古い。検出した柱穴のうち、P188・192・195 の 3 個から柱痕跡を確認し、3 個 (P151・159・167) は柱が抜き取られていた。平面規模については、桁行が南側柱列で総長 4.6m、梁行が西側柱列で総長 4.5m である。方向は真北に対して東に 6° 傾く (N-6° -E)。柱穴は掘方の規模が長軸 30~44cm、平面形が円形・楕円形で、深さは 9~41cm である。柱痕跡は長軸が 14~16cm、平面形が円形・楕円形である。遺物は出土していない。



※平面図 S=1/200 断面図 S=1/50 第58図 SB15 掘立柱建物跡 平面・断面図

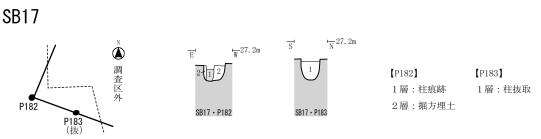
## 【SB16 掘立柱建物跡】(第59・61・62 図、第11・12-2 表)

南北 3 間、東西 2 間の南北棟建物跡である。建物は  $P168 \cdot 170 \cdot 172 \cdot 179 \cdot 193 \cdot 212 \cdot 226 \cdot 263 \cdot 274$  の 9 個の柱穴で構成される。 $SI2 \cdot 3$  と重複し、これらより新しい。検出した柱穴のうち、P170 から柱痕跡を確認し、P172 は柱が切り取られていた。7 個( $P168 \cdot 179 \cdot 193 \cdot 212 \cdot 226 \cdot 263 \cdot 274$ )は柱が抜き取られていた。平面規模は、桁行が東側柱列で総長 9.4m、梁行が北側柱列で総長 7.6m である。方向は真北である。( $N-0^\circ-E$ )。柱穴は掘方の規模が長軸  $25\sim 46$ cm、平面形が円形・楕円形で、深さは  $12\sim 52$ cm である。柱痕跡は長軸が  $12\sim 19$ cm、平面形が円形である。遺物は出土していない。

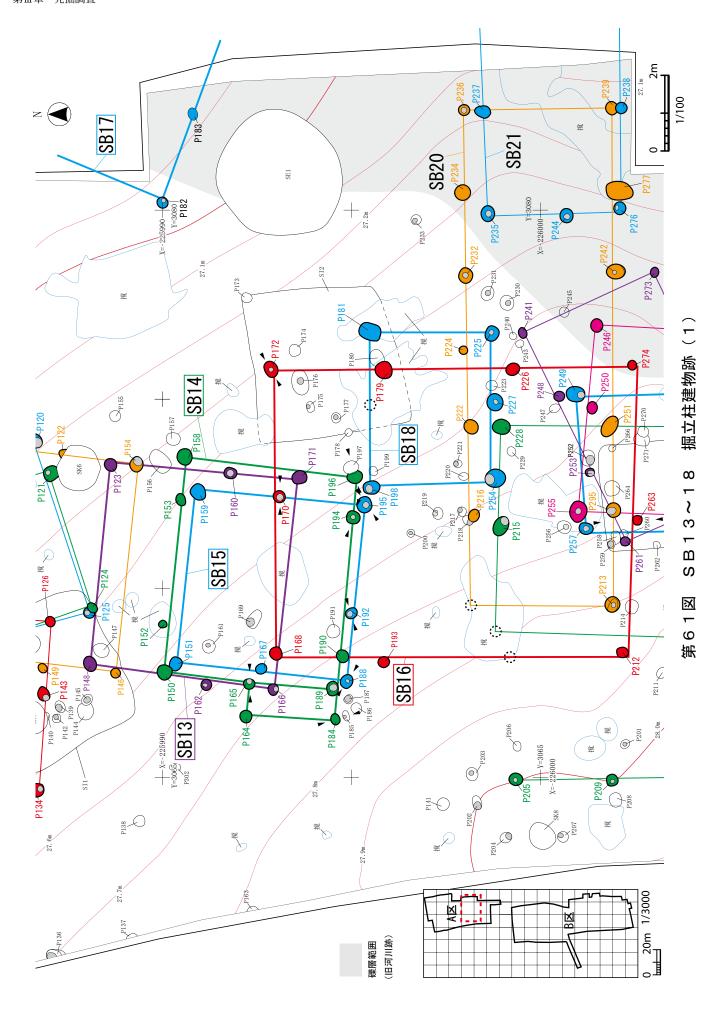


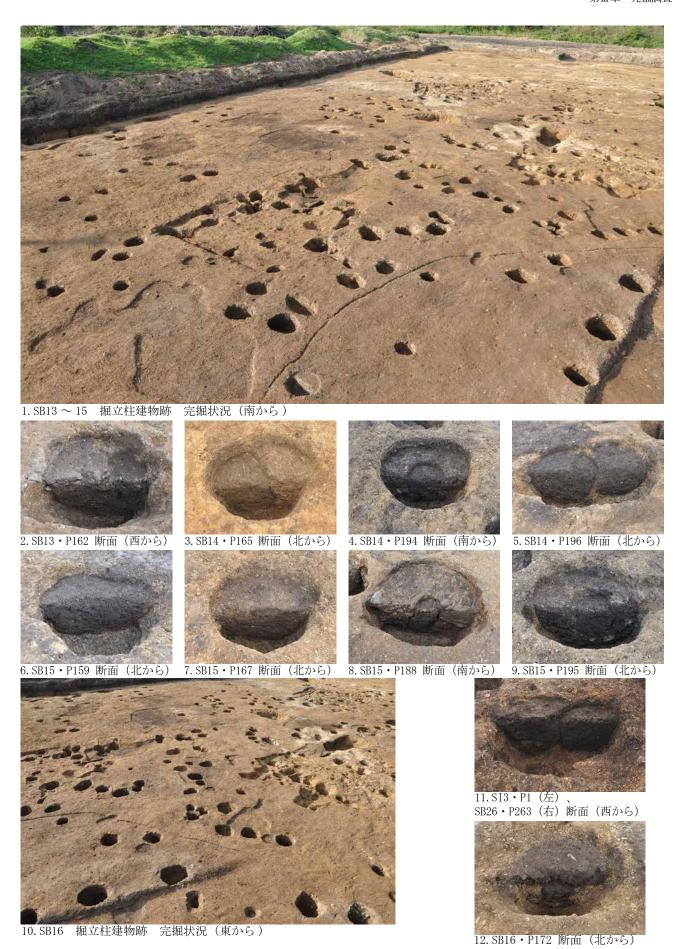
#### 【**SB17 掘立柱建物跡**】(第 60~62 図、第 11・12-2 表)

東西 1 間以上の建物跡である。建物は  $P182 \cdot 183$  の 2 個の柱穴で構成される。検出した柱穴のうち、 P182 から柱痕跡を確認し、P183 は柱が抜き取られていた。平面規模については、桁行が南側柱列で総長 2.5m である。方向は真北に対して東に  $20^\circ$  傾く  $(N-20^\circ-E)$ 。柱穴は掘方の規模が長軸  $30\sim33$ cm、平面形が円形・楕円形で、深さは  $20\sim25$ cm である。柱痕跡は長軸が 12cm、平面形が円形である。遺物は出土していない。



※平面図 S=1/200 断面図 S=1/50 第60図 SB17 掘立柱建物跡 平面・断面図

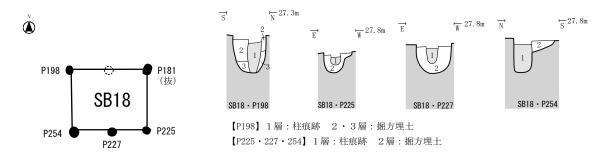




第62図 SB13~16 掘立柱建物跡(2)

## 【SB18 掘立柱建物跡】(第63・70・71 図、第11・12-2 表)

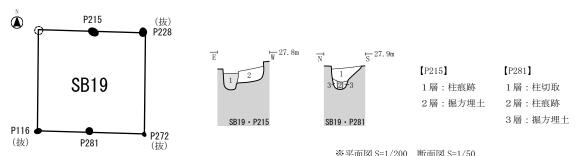
東西 2 間、南北 1 間の東西棟建物跡である。建物は P181・198・225・227・254 の 5 個の柱穴で構成される。SI2 と重複し、これより新しい。検出した柱穴のうち、P198・225・227・254 の 4 個から柱痕跡を確認し、P181 は柱が抜き取られていた。平面規模については、桁行が南側柱列で総長 4.1m、梁行が西側柱列で総長 3.3m である。方向は真北に対して西に 1° 傾く (N-1° -W)。柱穴は掘方の規模が長軸 40~58cm、平面形が円形・楕円形で、深さは 25~45cm である。柱痕跡は長軸が 14~29cm、平面形が円形・楕円形である。遺物は出土していない。



※平面図 S=1/200 断面図 S=1/50 第63図 SB18 掘立柱建物跡 平面・断面図

### 【SB19 掘立柱建物跡】(第 64・70・71 図、第 11・12-2 表)

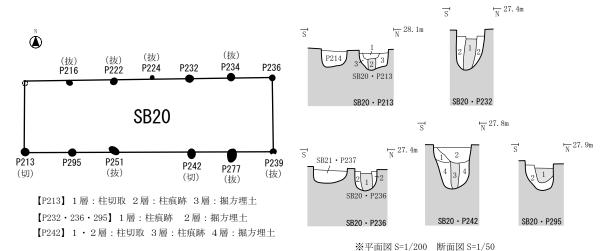
東西 2 間、南北 1 間の東西棟建物跡である。建物は P116・215・228・272・281 の 5 個の柱穴で構成される。SI3 と重複し、これより新しい。検出した柱穴のうち、P215・281 の 2 個から柱痕跡を確認し、3 個 (P116・228・272) は柱が抜き取られていた。平面規模については、桁行が南側柱列で総長 5.6m、梁行が東側柱列で総長 5.5m である。方向は真北に対して東に 1° 傾く  $(N-1^\circ-E)$ 。柱穴は 掘方の規模が長軸 25~54cm、平面形が楕円形で、深さは 6~30cm である。柱痕跡は長軸が 8~23cm、平面形が円形である。遺物は出土していない。



第64図 SB19 掘立柱建物跡 平面・断面図

#### 【SB20 掘立柱建物跡】(第65・70・71 図、第11・12-2 表)

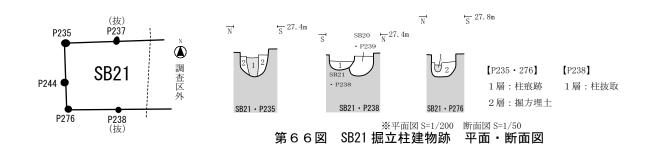
東西 5 間、南北 1 間の東西棟建物跡である。建物は  $P213 \cdot 216 \cdot 222 \cdot 224 \cdot 232 \cdot 234 \cdot 236 \cdot 239 \cdot 242 \cdot 251 \cdot 277 \cdot 295$  の 12 個の柱穴で構成される。SI3、SB21、P218 と重複し、SI3、P218 より新しく、SB21 より古い。検出した柱穴のうち、 $P232 \cdot 236 \cdot 295$  の 3 個から柱痕跡を確認した。 $P213 \cdot 242$  の 2 個は柱が切り取られ、 $P216 \cdot 222 \cdot 224 \cdot 234 \cdot 239 \cdot 251 \cdot 277$  の 7 個は柱が抜き取られていた。平面規模については、桁行が南側柱列で総長 13.1m、梁行が東側柱列で総長 3.9m である。方向は真北に対して西に  $1^\circ$  傾く  $(N-1^\circ-W)$ 。柱穴は掘方の規模が長軸  $23\sim75cm$ 、平面形が円形・楕円形で、深さは  $17\sim45cm$  である。柱痕跡は長軸が  $11\sim25cm$ 、平面形が円形・楕円形である。遺物は P216 の柱抜取穴から縄文土器片が出土した。



第65図 SB20 掘立柱建物跡 平面・断面図

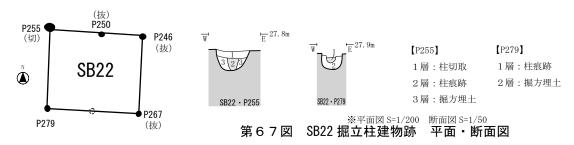
# 【SB21 掘立柱建物跡】(第66・70・71図、第11・12-2表)

南北 2 間、東西 1 間以上の建物跡である。建物は  $P235 \cdot 237 \cdot 238 \cdot 244 \cdot 276$  の 5 個の柱穴で構成 される。SB20 と重複し、これより新しい。検出した柱穴のうち、 $P235 \cdot 244 \cdot 276$  の 3 個から柱痕跡 を確認し、2 個 ( $P237 \cdot 238$ ) は柱が抜き取られていた。平面規模については、桁行が西側柱列で総長 3.4m、梁行が北側柱列で総長 2.7m である。方向は真北に対して西に  $3^\circ$  傾く ( $N-3^\circ-W$ )。柱穴は 掘方の規模が長軸  $33\sim45cm$ 、平面形が円形・楕円形・隅丸方形で、深さは  $12\sim29cm$  である。柱痕跡 は長軸が  $14\sim18cm$ 、平面形が円形・楕円形である。遺物は出土していない。



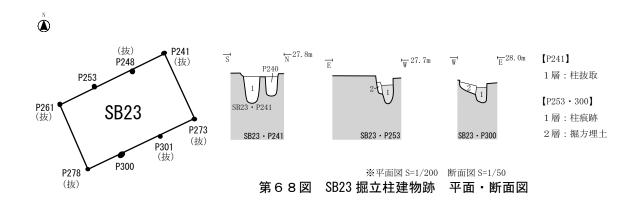
#### 【SB22 掘立柱建物跡】(第 67・70・71 図、第 11・12-2 表)

東西 2 間、南北 1 間の東西棟建物跡である。建物は  $P246 \cdot 250 \cdot 255 \cdot 267 \cdot 279$  の 5 個の柱穴で構成される。検出した柱穴のうち、P279 から柱痕跡を確認し、P255 は柱が切り取られ、3 個 ( $P246 \cdot 250 \cdot 267$ ) は柱が抜き取られていた。平面規模については、桁行が北側柱列で総長 5.0m、梁行が西側柱列で総長 4.2m である。方向は真北に対して東に 4° 傾く (N-4° -E)。柱穴は掘方の規模が長軸  $28 \sim 54$ cm、平面形が円形・楕円形で、深さは  $7 \sim 40$ cm である。柱痕跡は長軸が  $15 \sim 16$ cm、平面形が円形・楕円形である。遺物は出土していない。



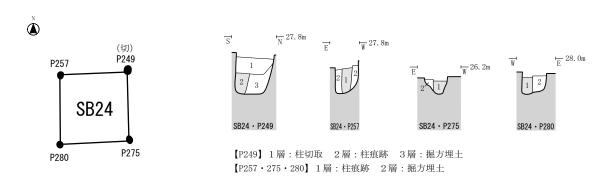
### 【SB23 掘立柱建物跡】(第68・70・71 図、第11・12-2 表)

東西 3 間、南北 1 間の東西棟建物跡である。建物は P241・248・253・261・273・278・300・301 の 8 個の柱穴で構成される。SI3、P260 と重複し、これらより新しい。検出した柱穴のうち、P253・300 の 2 個から柱痕跡を確認し、P241・248・261・273・278・301 の 6 個は柱が抜き取られていた。平面規模については、桁行が北側柱列で総長 6.2m、梁行が東側柱列で総長 3.8m である。方向は真北に対して西に 25° 傾く (N-25° -W)。柱穴は掘方の規模が長軸 23~38cm、平面形が円形・楕円形で、深さは 9~36cm である。柱痕跡は長軸が 17~18cm、平面形が円形・楕円形である。遺物は P278 の柱 抜取穴から土師器片が出土した。

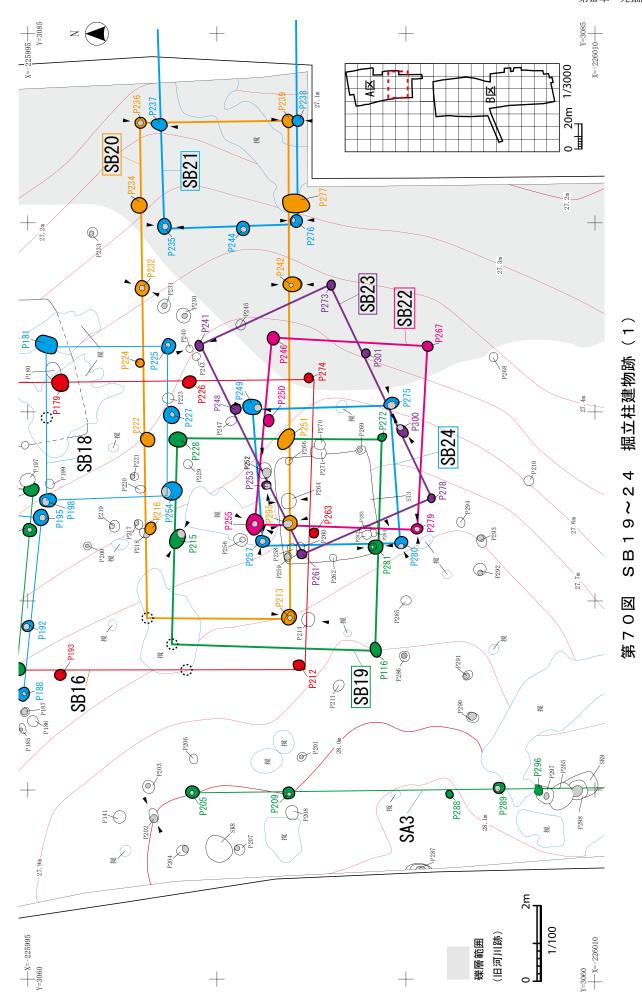


## 【SB24 掘立柱建物跡】(第 $69\sim71$ 図、第 $11\cdot12-2$ 表)

東西 1 間、南北 1 間の建物跡である。建物は  $P249 \cdot 257 \cdot 275 \cdot 280$  の 4 個の柱穴で構成される。検出した柱穴のうち、 $P257 \cdot 275 \cdot 280$  の 3 個から柱痕跡を確認し、P249 は柱が切り取られていた。平面規模は、桁行が北側柱列で総長 3.6m、梁行が東側柱列で総長 3.6m である。方向は真北に対して西に  $1^\circ$  傾く  $(N-1^\circ-W)$ 。柱穴は掘方の規模が長軸  $35\sim 50cm$ 、平面形が円形・楕円形で、深さは  $20\sim 50cm$  である。柱痕跡は長軸が  $15\sim 23cm$ 、平面形が円形・楕円形である。遺物は出土していない。



※平面図 S=1/200 断面図 S=1/50 第69図 SB24 掘立柱建物跡 平面・断面図



79



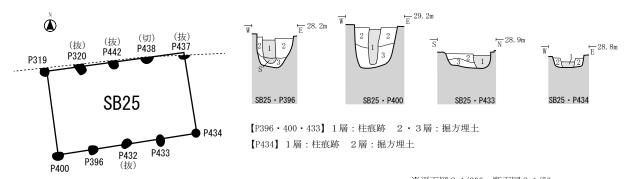
第71図 SB17~24 掘立柱建物跡(2)

### **3) B 区建物跡** (第 72~90 図、第 11・12-2・3 表)

SB25~37 掘立柱建物跡の計 13 棟を検出した。確認面は $III \cdot IV$ 層である。建物跡は調査区北側の標高 29~30m の平坦面に立地している。

### 【SB25 掘立柱建物跡】(第72・83・84 図、第11・12-2 表)

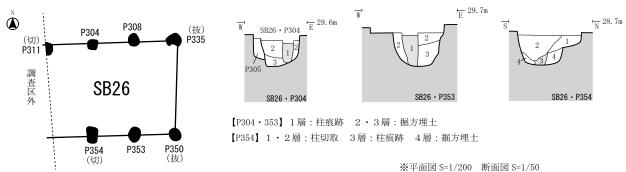
東西 4 間、南北 1 間の東西棟建物跡である。建物は  $P319 \cdot 320 \cdot 396 \cdot 400 \cdot 432 \cdot 433 \cdot 434 \cdot 437 \cdot 438 \cdot 442$  の 10 個の柱穴で構成される。SB28 と重複し、これより新しい。検出した柱穴のうち、 $P319 \cdot 396 \cdot 400 \cdot 433 \cdot 434$  の 5 個から柱痕跡を確認し、P438 は柱が切り取られ、4 個( $P320 \cdot 432 \cdot 437 \cdot 442$ )は柱が抜き取られていた。平面規模については、桁行が南側柱列で総長 7.4m、梁行が西側柱列で総長 4.3m である。方向は真北に対して西に 8° 傾く (N-8° -W)。柱穴は掘方の規模が長軸  $30 \sim 55$ cm、平面形が円形・楕円形・隅丸方形で、深さは  $12 \sim 57$ cm である。柱痕跡は長軸が  $17 \sim 25$ cm、平面形が円形・楕円形である。遺物は出土していない。



※平面図 S=1/200 断面図 S=1/50 第72図 SB25 掘立柱建物跡 平面・断面図

### 【SB26 掘立柱建物跡】(第73・83・84 図、第11・12-2 表)

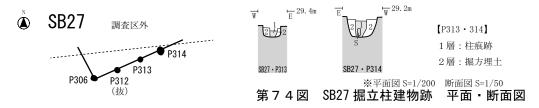
東西 3 間以上、南北 1 間の東西棟建物跡である。建物は P304・308・311・335・350・353・354の 7 個の柱穴で構成される。SI4、SK11、P305・347、SB29・31と重複し、SI4、P305より新しく、SK11、P347、SB29・31より古い。検出した柱穴のうち、P304・308・353の 3 個から柱痕跡を確認し、P311・354 は柱が切り取られていた。2 個(P335・350)は柱が抜き取られていた。平面規模については、桁行が北側柱列で総長 6.9m、梁行が東側柱列で総長 5.0m である。方向は真北である(N $-0^\circ$  -E)。柱穴は掘方の規模が長軸 50~84cm、平面形が円形・楕円形・隅丸方形・隅丸長方形で、深さは 24~49cm である。柱痕跡は長軸が 15~27cm、平面形が円形・楕円形である。遺物は P354 の柱切取穴、P335・350 の柱抜取穴から土師器片が出土した。



※平面図 S=1/200 断面図 S=1/50 第73図 SB26 掘立柱建物跡 平面・断面図

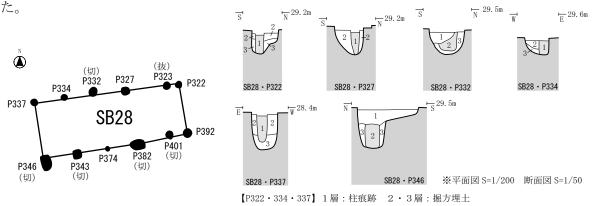
## 【SB27 掘立柱建物跡】(第74・83・84 図、第11・12-2 表)

東西 3 間以上の建物跡である。建物は P306・312・313・314 の 4 個の柱穴で構成される。SB31 と重複し、これより新しい。検出した柱穴のうち、P306・313・314 の 3 個から柱痕跡を確認し、P312 は柱が抜き取られていた。平面規模は、桁行が南側柱列で総長 3.8 m である。方向は真北に対して西に  $23^\circ$  傾く  $(N-23^\circ-W)$ 。柱穴は掘方の規模が長軸  $27\sim40 \text{cm}$ 、平面形が円形・楕円形で、深さは  $14\sim30 \text{cm}$  である。柱痕跡は長軸が  $13\sim18 \text{cm}$ 、平面形が円形・楕円形である。遺物は出土していない。



## 【SB28 掘立柱建物跡】(第 75・83・84 図、第 11・12-3 表)

東西 5 間、南北 1 間の東西棟建物跡である。建物は P322・323・327・332・334・337・343・346・374・382・392・401 の 12 個の柱穴で構成される。SI4、SB25・30・31、P328・342 と重複し、SI4、SB30・31、P328より新しく、SB25、P342より古い。検出した柱穴のうち、P322・327・334・337・374・392 の 6 個から柱痕跡を確認し、5 個 (P332・343・346・382・401) は柱が切り取られていた。P323 は柱が抜き取られていた。平面規模については、桁行が南側柱列で総長 7.7m、梁行が東側柱列で総長 2.5m である。方向は真北に対して西に 8°傾く(N-8°-W)。柱穴は掘方の規模が長軸 23~50cm、平面形が円形・楕円形で、深さは 13~54cm である。柱痕跡は長軸が 12~26cm、平面形が円形・楕円形である。遺物は P327・343・346 から土師器片、P382 の柱切取穴から土師器片、須恵器片が出土し



【P327】 1 層:柱痕跡 2 層:掘方埋土

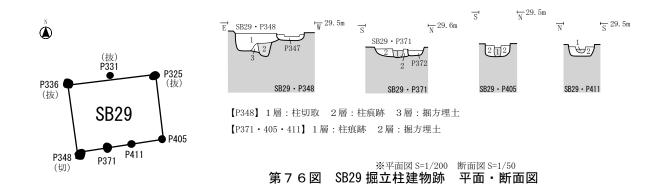
第75図 SB28 掘立柱建物跡

【P332·346】 1 層:柱切取 2 層:柱痕跡 3 層:掘方埋土

平面・断面図

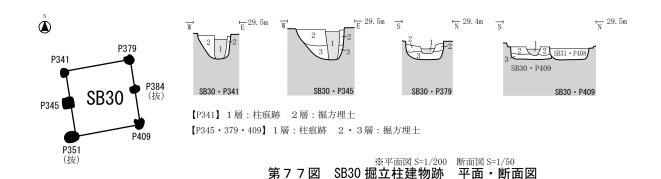
## 【SB29 掘立柱建物跡】(第 76・83・84 図、第 11・12-3 表)

東西 3 間、南北 1 間の東西棟建物跡である。建物は  $P325 \cdot 331 \cdot 336 \cdot 348 \cdot 371 \cdot 405 \cdot 411$  の 7 個の柱穴で構成される。 $SB26 \cdot 30 \cdot 31 \cdot 33$ 、SK14、 $P347 \cdot 372$  と重複し、 $SB26 \cdot 30 \cdot 31 \cdot 33$ 、SK14、より新しく、 $P347 \cdot 372$  より古い。検出した柱穴のうち、 $P371 \cdot 405 \cdot 411$  の 3 個から柱痕跡を確認し、P348 は柱が切り取られていた。3 個 ( $P325 \cdot 331 \cdot 336$ ) は柱が抜き取られていた。平面規模については、桁行が南側柱列で総長 4.5m、梁行が西側柱列で総長 3.5m である。方向は真北に対して西に 9° 傾く(N-9° -W)。柱穴は掘方の規模が長軸  $35 \sim 54$ cm、平面形が円形・楕円形・隅丸方形で、深さは  $10 \sim 38$ cm である。柱痕跡は長軸が  $12 \sim 21$ cm、平面形が円形である。遺物は P325 の掘方埋土から土 師器片、P348 の柱切取穴から土師器片が出土した。



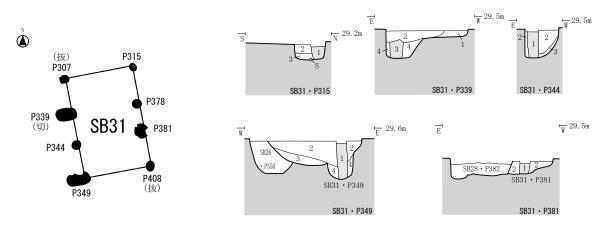
## 【SB30 掘立柱建物跡】(第77・83・84 図、第11・12-3 表)

南北 2 間、東西 1 間の建物跡である。建物は  $P341 \cdot 345 \cdot 351 \cdot 379 \cdot 384 \cdot 409$  の 6 個の柱穴で構成される。 $SB28 \cdot 29 \cdot 31 \cdot 32$ 、P347 と重複し、これらより古い。検出した柱穴のうち、 $P341 \cdot 345 \cdot 379 \cdot 409$  の 4 個から柱痕跡を確認し、2 個( $P351 \cdot 384$ )は柱が抜き取られていた。平面規模については、桁行が西側柱列で総長 3.5m、梁行が南側柱列で総長 3.5m である。方向は真北に対して西に 8° 傾く (N-8° -W)。柱穴は掘方の規模が長軸  $46 \sim 65$ cm、平面形が円形・隅丸方形・隅丸長方形・不整形で、深さは  $17 \sim 42$ cm である。柱痕跡は長軸が  $19 \sim 22$ cm、平面形が円形である。遺物は  $P341 \cdot 345$  の掘方埋土から土師器片、 $P351 \cdot 384$  の柱抜取穴から土師器片が出土した。



## 【SB31 掘立柱建物跡】(第 78・83・84 図、第 11・12-3 表)

南北 3 間、東西 1 間の南北棟建物跡である。建物は P307・315・339・344・349・378・381・408 の 8 個の柱穴で構成される。SI4、SB26・27・29・30・32、P338・340・347・380 と重複し、SI4、SB26・30 より新しく、SB27・29・32、P338・340・347・380 より古い。検出した柱穴のうち、P315・344・349・378・381 の 5 個から柱痕跡を確認した。P339 は柱が切り取られていた。2 個 (P307・408) は柱が抜き取られていた。平面規模については、桁行が西側柱列で総長 5.3m、梁行が南側柱列で総長 3.5mである。方向は真北に対して西に 10° 傾く (N-10° -W)。柱穴は掘方の規模が長軸 43~128cm、平面形が円形・楕円形で、深さは 16~47cm である。柱痕跡は長軸が 16~20cm、平面形が円形・楕円形である。遺物は 200 の柱抜取穴から土師器片が出土した。



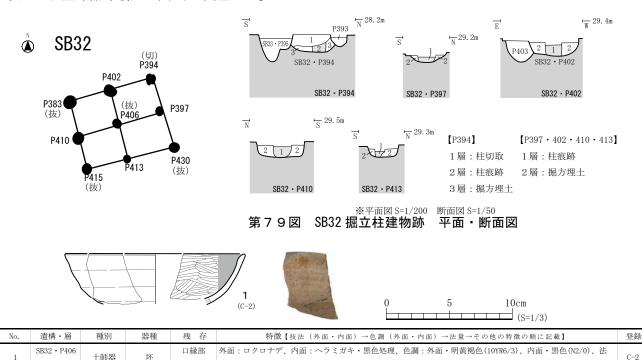
 【P315・344】 1 層: 柱痕跡
 2・3 層: 掘方埋土
 【P339】 1・2 層: 柱切取
 3 層: 柱痕跡
 4 層: 掘方埋土

 【P349】 1 層: 柱痕跡
 2・3・4 層: 掘方埋土
 【P381】 1 層: 柱痕跡
 2 層: 掘方埋土

※平面図 S=1/200 断面図 S=1/50 第78図 SB31 掘立柱建物跡 平面・断面図

### 【SB32 掘立柱建物跡】(第79・80・83・84 図、第11・12-3 表)

東西 2 間、南北 2 間の総柱建物跡である。建物は P383・394・397・402・406・410・413・415・430の9個の柱穴で構成される。SB30・31・33、P393・403と重複し、SB30・31、P403より新しく、SB33、P393より古い。検出した柱穴のうち、P397・402・410・413の4個から柱痕跡を確認した。P394は柱が切り取られていた。4個(P383・406・415・430)は柱が抜き取られていた。平面規模については、桁行が北側柱列で総長 4.6m、梁行が西側柱列で総長 3.7m である。方向は真北に対して西に15°傾く(N-15°-W)。柱穴は掘方の規模が長軸 42~66cm、平面形が円形・楕円形で、深さは12~25cm である。柱痕跡は長軸が16~26cm、平面形が円形・楕円形である。遺物はP383・406の柱抜取穴から土師器坏(第80図-1)が出土した。



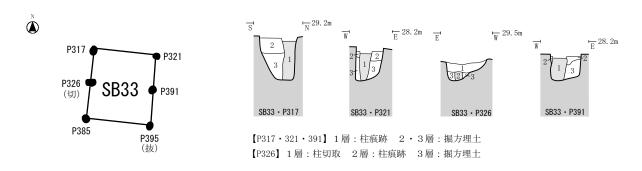
第80図 SB32·P406 出土遺物

量:口径(14.2)cm・残存高4.0cm・器厚0.4cm

抜散穴

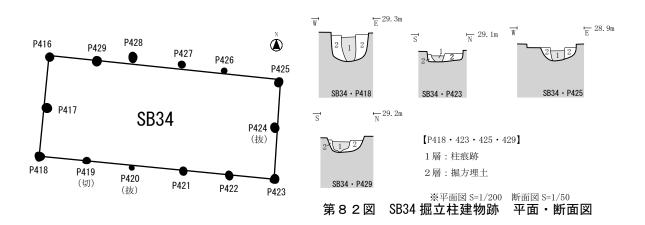
## 【SB33 掘立柱建物跡】(第81・83・84 図、第11・12-3 表)

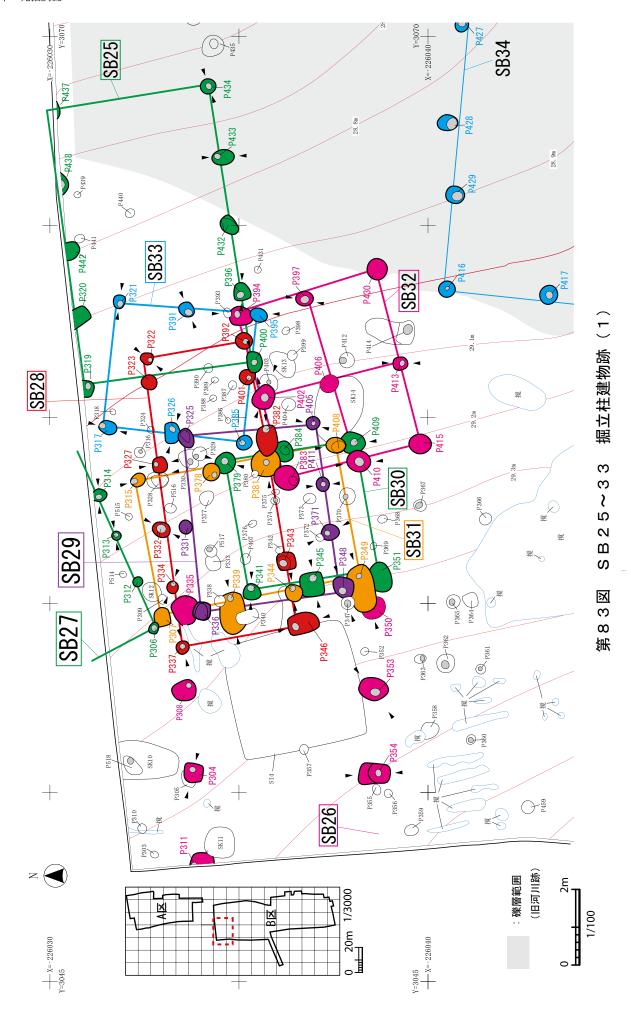
南北 2 間、東西 1 間の南北棟建物跡である。建物は  $P317 \cdot 321 \cdot 326 \cdot 385 \cdot 391 \cdot 395$  の 6 個の柱穴で構成される。 $SB29 \cdot 32$  と重複し、SB32 より新しく、SB29 より古い。検出した柱穴のうち、 $P317 \cdot 321 \cdot 385 \cdot 391$  の 4 個から柱痕跡を確認した。P326 は柱が切り取られていた。P395 は柱が抜き取られていた。平面規模については、桁行が西側柱列で総長 3.8m、梁行が北側柱列で総長 3.3m である。方向は真北に対して東に 6° 傾く(N-6° -E)。柱穴は掘方の規模が長軸  $38\sim58$ cm、平面形が円形・楕円形・隅丸長方形で、深さは  $28\sim50$ cm である。柱痕跡は長軸が  $16\sim21$ cm、平面形が円形・楕円形である。遺物は P395 の柱抜取穴から土師器片が出土した。



## 【SB34 掘立柱建物跡】(第82・88・90図、第11・12-3表)

東西 5 間、南北 2 間の東西棟建物跡である。建物は P416・417・418・419・420・421・422・423・424・425・426・427・428・429の 14 個の柱穴で構成される。検出した柱穴のうち、P416・417・418・421・422・423・425・426・427・428・429の 11 個から柱痕跡を確認し、P419 は柱が切り取られていた。2 個 (P420・424) は柱が抜き取られていた。平面規模については、桁行が南側柱列で総長 12.4m、梁行が西側柱列で総長 5.3m である。方向は真北に対して東に 5°傾く(N-5° -E)。柱穴は掘方の規模が長軸 25 $\sim$ 51cm、平面形が円形・楕円形で、深さは 5 $\sim$ 43cm である。柱痕跡は長軸が 11 $\sim$ 33cm、平面形が円形・楕円形である。遺物は P428 の掘方埋土から土師器片が出土した。





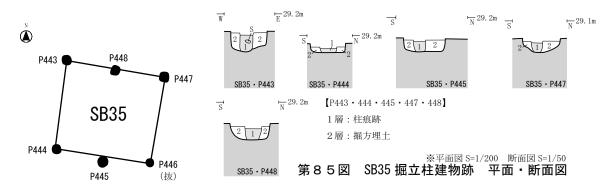
86



第84図 SB25~33 掘立柱建物跡(2)

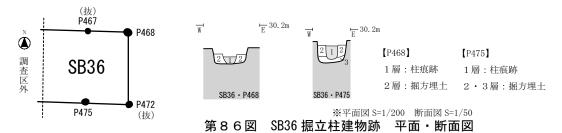
## 【SB35 掘立柱建物跡】(第85・88・90図、第11・12-3表)

東西 2 間、南北 1 間の東西棟建物跡である。建物は P443・444・445・446・447・448 の 6 個の柱穴で構成される。検出した柱穴のうち、P443・444・445・447・448 の 5 個から柱痕跡を確認し、P446 は柱が抜き取られていた。平面規模については、桁行が北側柱列で総長 5.3m、梁行が西側柱列で総長 4.7m である。方向は真北に対して東に 7° 傾く(N-7° -E)。柱穴は掘方の規模が長軸 44~60cm、平面形が円形・隅丸方形で、深さは 12~23cm である。柱痕跡は長軸が 19~26cm、平面形が円形・楕円形である。遺物は P443 の掘方埋土から須恵器片が出土した。



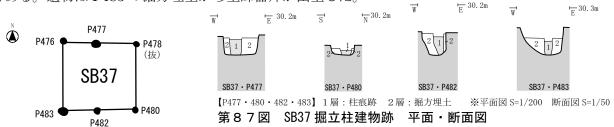
【SB36 掘立柱建物跡】(第86・89・90図、第11・12-3表)

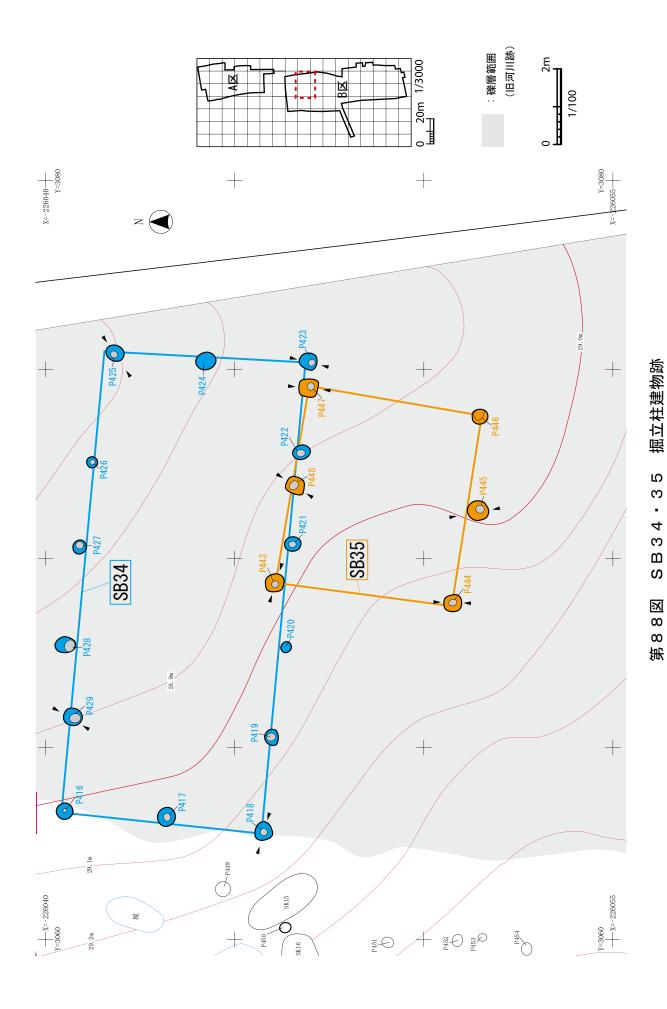
東西 1 間以上、南北 1 間の東西棟建物跡である。建物は  $P467 \cdot 468 \cdot 472 \cdot 475$  の 4 個の柱穴で構成される。P473 と重複し、これより新しい。検出した柱穴のうち、 $P468 \cdot 475$  の 2 個から柱痕跡を確認し、2 個 ( $P467 \cdot 472$ ) は柱が抜き取られていた。平面規模については、桁行が東側柱列で総長 3.7m、梁行が北側柱列で総長 2.2m である。方向は真北である ( $N-0^\circ-E$ )。柱穴は掘方の規模が長軸  $33\sim 50cm$ 、平面形が円形・楕円形で、深さは  $17\sim 33cm$  である。柱痕跡は長軸が  $21\sim 22cm$ 、平面形が円形・楕円形である。遺物は P467 の柱抜取穴から土師器片が出土した。



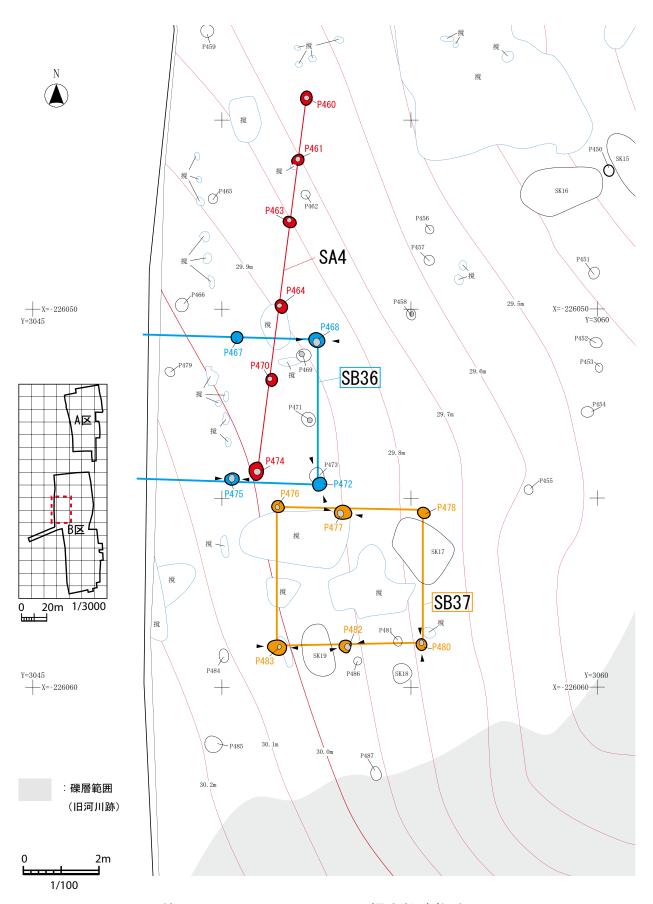
# 【SB37 掘立柱建物跡】(第87・89・90図、第11・12-3表)

東西 2 間、南北 1 間の東西棟建物跡である。建物は P476・477・478・480・482・483 の 6 個の柱穴で構成される。検出した柱穴のうち、P476・477・480・482・483 の 5 個から柱痕跡を確認し、P478 は柱が抜き取られていた。平面規模については、桁行が北側柱列で総長  $3.9 \,\mathrm{m}$ 、梁行が東側柱列で総長  $3.6 \,\mathrm{m}$  である。方向は真北に対して東に  $1^\circ$  傾く  $(N-1^\circ-E)$ 。柱穴は掘方の規模が長軸  $33\sim47 \,\mathrm{cm}$ 、平面形が円形・楕円形で、深さは  $7\sim36 \,\mathrm{cm}$  である。柱痕跡は長軸が  $13\sim19 \,\mathrm{cm}$ 、平面形が円形・楕円形である。遺物は P483 の掘方埋土から土師器片が出土した。





89



第89図 SB36・37 掘立柱建物跡



1. SB34・35 掘立柱建物跡 完掘状況(南から)





2. SB34・P418 断面(南から) 3. SB34・P419 断面(東から)





4. SB34・P423 断面(東から) 5. SB34・P429 断面(東から)



6. SB36 掘立柱建物跡 完掘状況 (南から)



7. SB35・P447 断面(東から)



8. SB35 · P444 断面 (東から)



9. SB28・P468 断面(南から)



10. SB37 掘立柱建物跡 完掘状況(東から)





13. SB28・P480 断面 (東から)



12. SB27 · P477 断面 (南から)



14. SB27 · P483 断面 (南から)

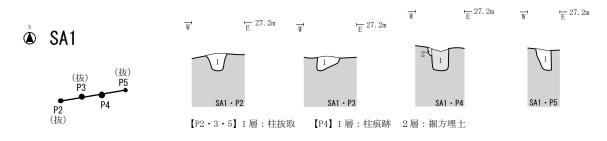
第90図 SB34~37 掘立柱建物跡

## **4) 柱穴列跡** (第 91~96 図、第 13·14 表)

A区北端・南端、B区中央部で 4 条確認した。確認面はIVa 層である。それぞれの特徴については第  $13\cdot 14$  表にまとめた。

### 【SA1 柱穴列跡】(第91・95・96 図、第13・14 表)

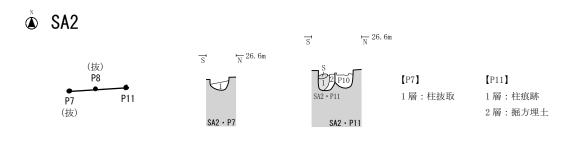
東西方向に延びる 3 間の柱穴列である。A 区北側で確認した。柱列は  $P2 \cdot 3 \cdot 4 \cdot 5$  の 4 個の柱穴で構成される。検出した柱穴のうち、P4 から柱痕跡を確認し、3 個 ( $P2 \cdot 3 \cdot 5$ ) は柱が抜き取られていた。総長 3.5m で、柱間寸法は西から 1.2m  $\cdot 1.0$ m  $\cdot 1.3$ m である。方向は真北に対して西に  $80^\circ$  傾く ( $N-80^\circ$  -W)。柱穴は長軸  $21\sim 29$ cm の円形で、深さは  $20\sim 30$ cm である。柱痕跡は長軸 22cm の円形である。遺物は出土していない。



※平面図 S=1/200 断面図 S=1/50 第91図 SA1 柱穴列跡 平面・断面図

## 【SA2 柱穴列跡】(第92・95・96 図、第13・14 表)

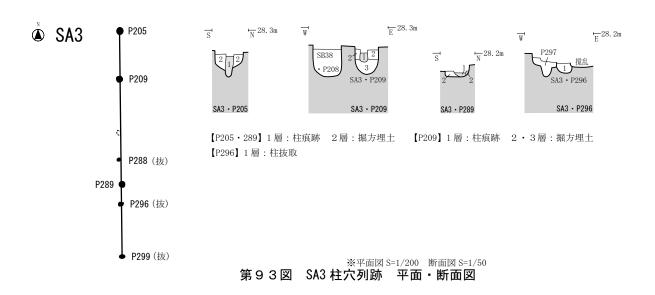
東西方向に延びる 2 間の柱穴列である。A 区北側で確認した。柱列は  $P7 \cdot 8 \cdot 11$  の 3 個の柱穴で構成される。P10 と重複し、これより古い。検出した柱穴のうち、P11 から柱痕跡を確認し、2 個( $P7 \cdot 8$ )は柱が抜き取られていた。総長 3.0m で柱間寸法は西から 1.4m  $\cdot 1.6$ m である。方向は真北に対して西に 86° 傾く(N-86° -W)。柱穴は長軸  $22\sim29$ cm の円形・不整形で、深さは  $10\sim26$ cm である。柱痕跡は長軸 15cm の円形である。遺物は出土していない。



※平面図 S=1/200 断面図 S=1/50 第92図 SA2 柱穴列跡 平面・断面図

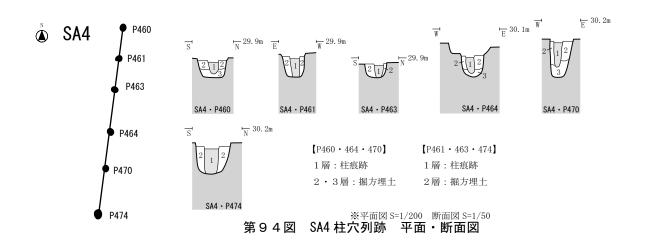
### 【SA3 柱穴列跡】(第93・95・96 図、第13・14 表)

南北方向に延びる 5 間の柱穴列である。A 区南側で確認した。柱列は  $P205 \cdot 209 \cdot 288 \cdot 289 \cdot 296 \cdot 299$  の 6 個の柱穴で構成される。SK9、 $P265 \cdot 297 \cdot 298$  と重複し、これらより新しい。検出した柱穴のうち、 $P205 \cdot 209 \cdot 289$  から柱痕跡を確認し、3 個 ( $P288 \cdot 296 \cdot 299$ ) は柱が抜き取られていた。総長 11.9m で、柱間寸法は北から 2.5m  $\cdot 4.3$ m  $\cdot 1.3$ m  $\cdot 1.0$ m  $\cdot 2.8$ m である。方向は真北に対して東に  $1^\circ$  傾く ( $N-1^\circ$  -E)。柱穴は長軸  $22\sim 32$ cm の円形・楕円形で、深さは  $8\sim 31$ cm である。柱痕跡は長軸  $11\sim 16$ cm の円形である。遺物は出土していない。



#### 【SA4 柱穴列跡】(第 94~96 図、第 13·14 表)

南北方向に延びる 5 間の柱穴列である。B区北側で確認した。柱列は  $P460 \cdot 461 \cdot 463 \cdot 464 \cdot 470 \cdot 474$  の 6 個の柱穴で構成される。検出した柱穴のすべてから柱痕跡を確認した。総長 10.0m で、柱間寸法は北から 1.7m  $\cdot 1.6$ m  $\cdot 2.3$ m  $\cdot 1.9$ m  $\cdot 2.5$ m である。方向は真北に対して西に 8° 傾く (N-8° -W)。柱穴は長軸  $34 \sim 42$ cm の円形・楕円形で、深さは  $18 \sim 50$ cm である。柱痕跡は長軸  $13 \sim 19$ cm の円形である。遺物は P474 掘方埋土から土師器片が出土している。



#### 第13表 石垣遺跡 柱穴列跡 属性表 SA1~4

遺構 NO.	規模	方向		平面規模	柱穴列の方向		/#tv.	
			桁行総長(m)/柱間寸法		柱穴列傾斜角度 /真北基準		備考 【構成Pit・重複関係・その他】	
SA1	3間	東西	3. 5	1. 2+1. 0+1. 3	西80°	N-80° -₩	構成Pit: P2·3·4·5。	
SA2	2間	東西	3.0	1. 4+1. 6	西86°	$N-86^{\circ}$ -W	構成Pit: P7・8・11。P10より古。	
SA3	5間	南北	11. 9	2. 5+4. 3+1. 3+1. 0+2. 8	東1°	N−1° −E	構成Pit: P205・209・288・289・296・299。P265・297・298、SK9より新。	
SA4	5間	南北	10.0	1. 7+1. 6+2. 3+1. 9+2. 5	西8°	N-8° -₩	構成Pit: P460・461・463・464・470・474。	

※柱間寸法は、東西方向のものは西から、南北方向のものは北から順に記した。

#### 第14表 石垣遺跡 柱穴列跡 柱穴跡 属性表 SA1~4

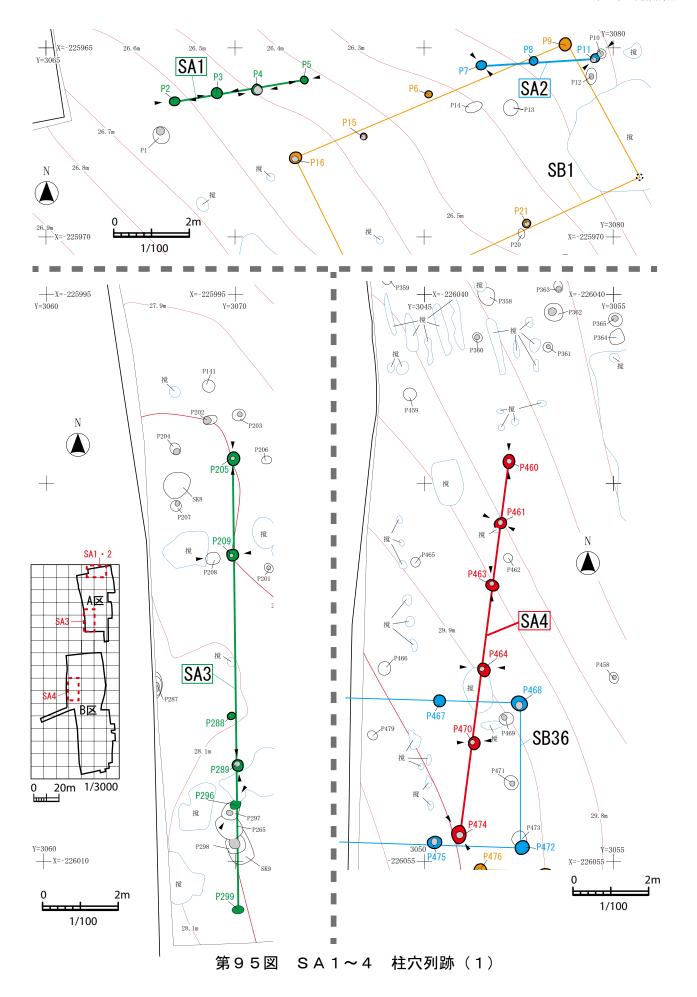
遺構 番号		柱穴	掘方	(長軸・短軸:cm、		底面標高:m)		柱 痕 跡			跡		備考
		平面形 長軸		短 残存軸 深		底面 埋土 標高 堆土		平面形	長軸 短軸		堆土	類型	偏 考 (重複・出土遺物等)
SA 1	2	円形	27	23	24	26.6	抜穴:2Ad	-	_	_	_	-	柱抜取
	3	円形	29	29	20	26. 6	抜穴:4Ad	-	-	-	-	-	柱抜取
	4	円形	29	28	30	26. 4	掘埋1:18Ad	円形	22	22	4A	j	
	5	円形	21	20	28	26. 4	抜穴:1Ac	-	-	-	-	-	柱抜取
SA 2	7	不整形	29	25	10	26. 1	抜穴:8Ad	-	_	_	_	-	柱抜取
	8	不整形	23	23	18	26.0	抜穴:9Ad		-	_	_	-	柱抜取
	11	円形	22	22	26	25. 8	23Aj	円形	15	15	2A	あ	P10より古 縄文土器
SA 3	205	円形	29	29	30	27. 5	4Ag	円形	13	10	1A	う	
	209	円形	30	30	30	27. 6	掘埋1:9Ad 掘埋2:4Aa	円形	11	11	6A	Į,	
	288	円形	22	19	10	27. 9	抜穴:9Ag	-	_	_	_	-	柱抜取
	289	円形	32	29	8	27. 9	12Aa	円形	16	14	4A	あ	
	296	楕円形?	26	(21)	13	27.6	抜穴:3A1	-	-	_	_	_	P265・297・P298、SK9より新。 柱抜取。堆1:黒褐色土
	299	楕円形	31	22	31	27.7	抜穴:1Aa	-	-	_	_	_	柱抜取
SA 4	460	楕円形	38	32	25	29. 4	掘埋1: 6Aa 掘埋2:10Aa	円形	15	13	4A	V	
	461	楕円形	37	28	28	29. 4	6Ab	円形	14	14	4A	あ	
	463	円形	34	32	18	29.6	4Ab·k	円形	13	13	4A	あ	
	464	円形 4		36	47	29. 4	掘埋1:4Ab 掘埋2:7Aa	円形	14	12	4A	V	
	470	円形	37	35	50	29. 4	掘埋1:6Ab 掘埋2:4Ab	円形	13	12	4A	V	
	474	円形	42	40	39	29. 6	6Ab	円形	19	17	4A	あ	土師器

#### ●ピット(柱穴・小穴)類型



### ●その他の記載事項

- ■柱穴・ピットの計測値
- (数値) は推定値を示す
- ■柱穴・ピット掘欄の「埋土・堆土(堆積土)」記載事項
- ・柱穴の場合は「掘方埋土」を意味する
- ・「1層・2層」等の記載:「柱穴・小穴」の埋土等が2層以上に分層した場合を示す ・「抜穴」: 柱抜き取り穴の埋土・堆積土/「抜穴1」: 抜き取り穴1層の埋土・堆積土
- ・「切穴」: 柱切り取り穴の埋土・堆積土 / 「切穴1」: 切き取り穴1層の埋土・堆積土
- ■備考欄の記載事項
- ・柱抜取:柱が抜き取られているもの ・柱切取:柱が切り取られているもの
- ・この他、重複関係・出土遺物を記載





9. SA4・P460 断面(東から) 10. SA4・P474 断面(東から) 11. SA4・P463 断面(東から) 12. SA4・P470 断面(南から) 第96図 SA1~4 柱穴列跡(2)

## (3) 土坑・井戸跡

土坑32基、井戸1基を検出した。それぞれの特徴については第15表にまとめた。

遺構No. 平面形 断面形 堆積土 出土遺物 備考  $1.34 \times 0.89$ 0.25 SK2より新しい。 SK 2 楕円形  $2.60 \times 1.00$ 0.35 皿状 人為 SB2・P41、SK1・3より古い。 SB2・P41より古い。 SK 3 楕円形  $2.11 \times 0.69$ 0.44 不整形 自然 縄文土器 陥し穴。 SK 4 方形 1. 17×1. 14 0.20 皿状 自然 SK 5 不整形  $2.72 \times 1.46$ 不整形 自然 縄文土器 円形 皿状 自然 SB9・P121、SB11・P122より新しい。 楕円形 SK 7  $0.71 \times 0.56$ 0.20 U字形 人為 P140、SI1より新しい。 SK 8 楕円形  $0.70 \times 0.58$ 0.12 皿状 人為 SK 9 楕円形 1.71×1.63 0.24 皿状 人為 SA3・P296、P265・297・298より古い。 SK 10 P518より新しい 不整形  $1.53 \times 1.04$ 0.39 皿状 自然 SK 11 円形  $0.80 \times 0.80$ 土師器 SB26・P311より新しい。 SK 12 円形 0.14 U字形 自然 P309より古い。  $0.53 \times 0.48$ SK 13 楕円形  $0.88 \times 0.50$ 0.13 不整形 人為 十師器 P399より古い。 SK 14 不整形 SB29・P405、SB30・P409、SB31・P408、SB32・P406、SB32・P410より古い。 0.24 陥し穴。 SK 15 隅丸長方形 0.87(1.10) 漏斗形  $2.10 \times 0.94$ 自然 SK 16 楕円形  $2.15 \times 1.24$ 皿状 自然 楕円形 不整形 自然 SK 18 円形 白然  $0.50 \times 0.49$ 0.09 皿状 SK 19 隅丸長方形  $1.34 \times 0.78$ 0.24自然 土師器 SK 20 楕円形  $0.45 \times 0.44$ 0.15 人為 SK 21 円形  $0.80 \times 0.73$ 0.13 U字形 自然 SK 22 楕円形 不整形 SK 23 長楕円形  $2.31 \times 1.08$ 0.24 皿状 自然 SK 24 楕円形?  $(1.14) \times 0.74$ 0.33 U字形 白然 SI6より古い。 SK 25 楕円形  $1.21 \times 0.91$ SK 26 円形  $0.73 \times 0.70$ U字形 自然 0.46 SK 27 楕円形  $1.23 \times 0.97$ 0.19皿状 自然 十師器 十師器 SK 28 隅丸長方形  $2.90 \times 1.17$ SI9より新しい。 須恵器 SK 29 楕円形  $1.18 \times 0.77$ 0.48 U字形 人為 縄文土器 SI9より古い。 SK 30 長楕円形  $1.30 \times 0.66$ U字形 SI9より新しい。 0.77 自然 SK 31 楕円形  $0.83 \times 0.69$ 0 29 II字形 白妖 SI9、SK32より新しい。 SK 32 円形 U字形 SI9、SK31より古い。  $1.50 \times 1.36$ 0.42 SE 1 円形  $3.34 \times 3.31$ 自然

第15表 石垣遺跡 土坑・井戸跡属性表

## 【SK1土坑】(第97図、第15表)

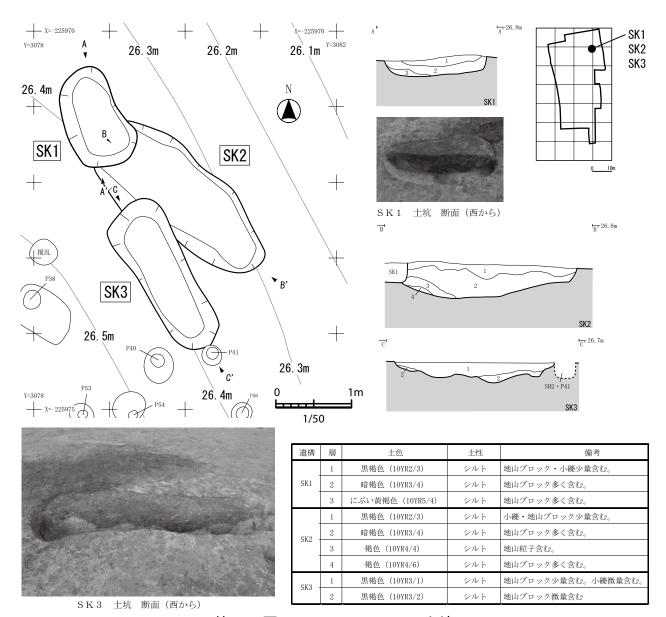
A区の北側の標高 26.4 m の平坦面に位置する。確認面はIVa 層である。SK2 と重複し、これより新しい。平面形は長軸 1.34 m、短軸 0.89 m の南北方向に長軸をもつ楕円形を呈し、深さは 25 cm である。断面形は U 字形、底面は平坦である。堆積土は 3 層に分かれ、いずれも人為堆積である。遺物は出土していない。

## 【SK2土坑】(第97図、第15表)

A区の北側の標高 26.3m の平坦面に位置する。確認面はIVa 層である。SB2、 $SK1 \cdot 3$  と重複し、これらより古い。平面形は長軸 2.6m、短軸 1.0m の南北方向に長軸をもつ楕円形を呈し、深さは 35cm である。断面形は皿状、底面は平坦である。堆積土は 4 層に分かれ、いずれも人為堆積である。遺物は出土していない。

### 【SK3土坑】(第97図、第15表)

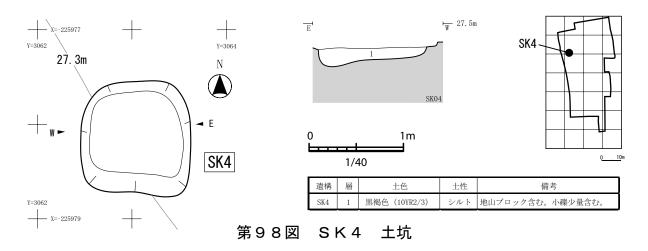
A 区の北側の標高 26.4m の平坦面に位置する。確認面はIVa 層である。SK2 と重複し、これより新しい。平面形は長軸 2.11m、短軸 0.69m の南北方向に長軸をもつ楕円形を呈し、深さは 44cm である。断面形は不整形、底面には凹凸がある。堆積土は 2 層に分かれ、いずれも自然堆積である。遺物は堆積土から縄文土器片が出土した。



第97図 SK1・2・3 土坑

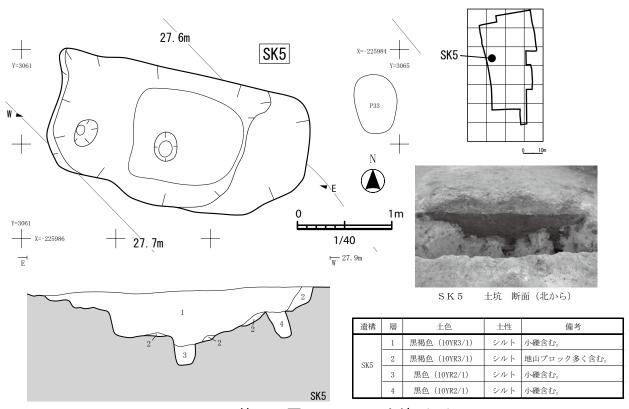
# 【SK4土坑】(第98図、第15表)

A 区の北側の標高 27.3m の平坦面に位置する。確認面はIVa 層である。平面形は長軸 1.17m、短軸 1.14m の方形を呈し、深さは 20cm である。断面形は皿状、底面は平坦である。堆積土は自然堆積の単層である。遺物は出土していない。

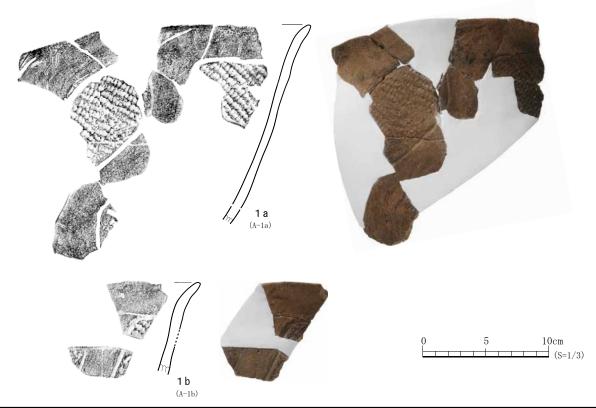


## 【SK5土坑】(第99・100 図、第15表)

A 区の北側の標高 27.6m の平坦面に位置する。確認面はIVa 層である。平面形は長軸 2.72m、短軸 1.46m の東西方向に長軸をもつ不整形を呈し、深さは 79cm である。断面形は不整形で、底面には凹凸があり、西側に直径 31cm、深さ 28cm、中央に直径 31cm、深さ 20cm の小穴がある。堆積土は 4 層に分かれ、いずれも自然堆積である。形状から陥し穴と推定される。遺物は堆積土から縄文土器深鉢(第 100 図  $1a \cdot b$ )が出土した。



第99図 SK5 土坑(1)

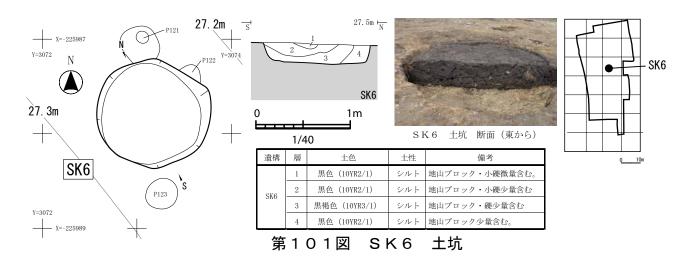


No.	遺構・層	種別	器種	残 存	特徴【技法(外面・内面)→色調(外面・内面)→法量→その他の特徴の順に記載】	登録
10.1	SK5	縄文土器	深鉢	口縁部	外面:縄文(LR)・(充填縄文)・沈線・ミガキ、内面:ナデ、色調:内外面・灰褐色(7.5YR4/2)、法量:器厚0.5	A-1a
la•b	堆積土	<b>爬</b> 又工	休晔	~胴部	∼0.8cm	A-1b

第100図 SK5 土坑 (2)

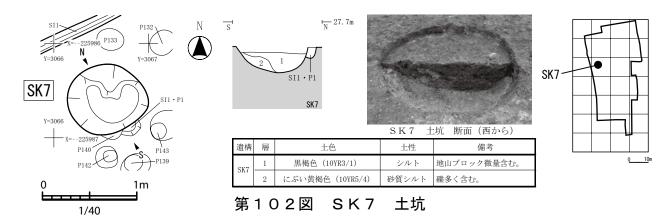
### 【SK6土坑】(第 101 図、第 15 表)

A 区の中央の標高 27.3m の平坦面に位置する。確認面はIVa 層である。 $SB9 \cdot 11$  と重複し、これらより新しい。平面形は長軸 1.2m、短軸 1.17m の円形を呈し、深さは 23cm である。断面形は皿状、底面は平坦である。堆積土は 4 層に分かれ、いずれも自然堆積である。遺物は出土していない。



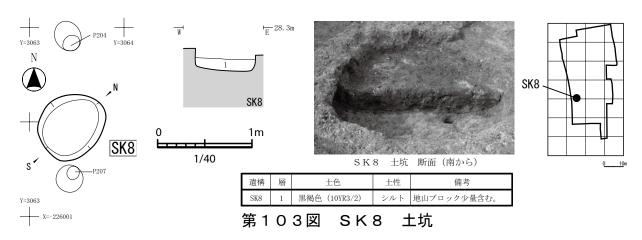
### 【SK7土坑】(第 102 図、第 15 表)

A 区の北側の標高 27.4m の平坦面に位置する。確認面はIVa 層である。SI1、P140 と重複し、これらより新しい。平面形は長軸 0.71m、短軸 0.56m の楕円形を呈し、深さ 20cm である。断面形は U 字形、底面は平坦である。堆積土は 2 層に分かれ、いずれも人為堆積である。遺物は出土していない。



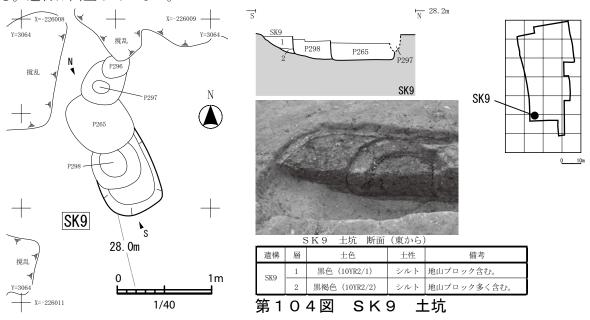
【SK8土坑】(第 103 図、第 15 表)

A区の西側の標高 28.0m の平坦面に位置する。確認面はIVa 層である。平面形は長軸 0.7m、短軸 0.58m の南北方向に長軸をもつ楕円形を呈し、深さは 12cm である。断面形は皿状、底面は平坦である。堆積 土は人為堆積の単層である。遺物は出土していない。



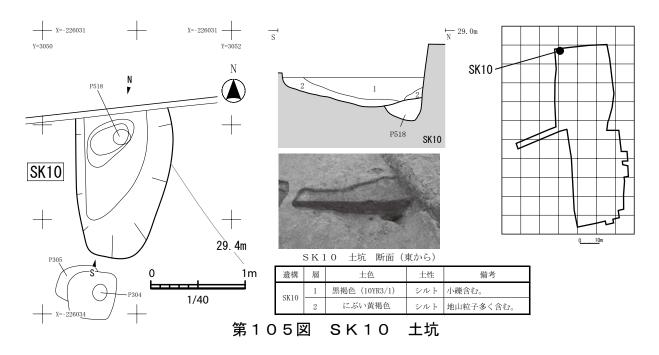
### 【SK9土坑】(第 104 図、第 15 表)

A区の南側の標高 28.0m の平坦面に位置する。確認面はIVa 層である。SA3、 $P265 \cdot 297 \cdot 298$  と重複し、これらより古い。平面形は長軸 1.71m、短軸 1.63m の南北方向に長軸をもつ楕円形を呈し、深さは 24cm である。断面形は皿状、底面は平坦である。堆積土は 2 層に分かれ、いずれも人為堆積である。遺物は出土していない。



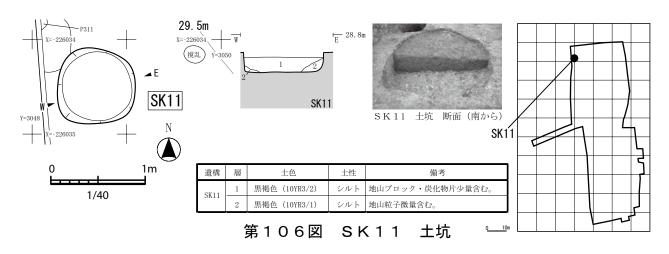
### 【SK10土坑】(第105 図、第15 表)

B 区の北側の標高  $29.4 \mathrm{m}$  の平坦面に位置する。確認面は $\mathrm{IVa}$  層である。 $\mathrm{P518}$  と重複し、これより新しい。平面形は長軸  $1.53 \mathrm{m}$ 、短軸  $1.04 \mathrm{m}$  の南北方向に長軸をもつ不整形を呈し、深さは  $39 \mathrm{cm}$  である。断面形は皿状、底面は平坦である。堆積土は 2 層に分かれ、いずれも自然堆積である。遺物は出土していない。



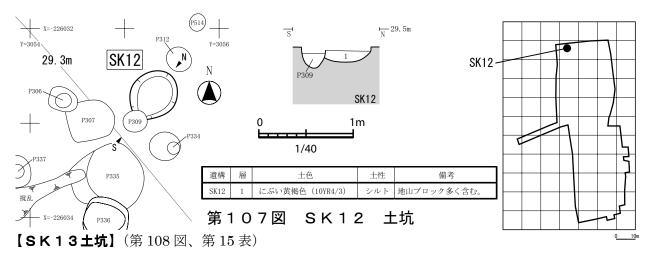
### 【SK11土坑】(第 106 図、第 15 表)

B区の北側の標高  $29.5 \,\mathrm{m}$  の平坦面に位置する。確認面は $\mathrm{IVa}$  層である。 $\mathrm{SB26}$  と重複し、これより新しい。平面形は長軸  $0.8 \,\mathrm{m}$  、短軸  $0.8 \,\mathrm{m}$  の円形を呈し、深さは  $22 \,\mathrm{cm}$  である。断面形は  $\mathrm{U}$  字形、底面は平坦である。堆積土は 2 層に分かれ、いずれも自然堆積である。遺物は土坑底面から土師器片が出土している。



### 【SK12土坑】(第107 図、第15 表)

B 区の北側の標高  $29.3 \mathrm{m}$  の平坦面に位置する。確認面は $\mathrm{IVa}$  層である。 $\mathrm{P309}$  と重複し、これより古い。平面形は長軸  $0.53 \mathrm{m}$ 、短軸  $0.48 \mathrm{m}$  の円形を呈し、深さは  $14 \mathrm{cm}$  である。断面形は  $\mathrm{U}$  字形、底面は平坦である。堆積土は自然堆積の単層である。遺物は出土していない。



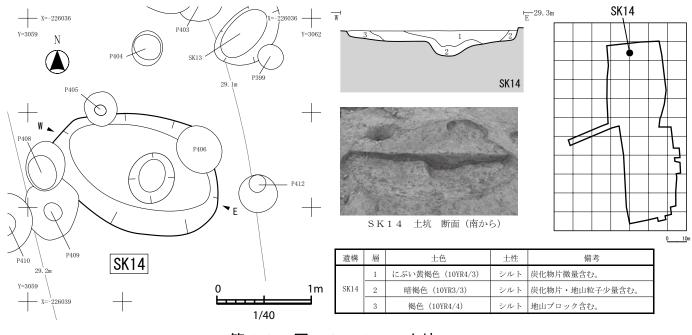
B 区の北側の標高 29.1 m の平坦面に位置する。確認面はIVa 層である。P399 と重複し、これより古い。平面形は長軸 0.88 m、短軸 0.5 m の南北方向に長軸をもつ楕円形を呈し、深さは 13 cm である。断面形は不整形、底面は平坦である。堆積土は 2 層に分かれ、いずれも人為堆積である。遺物は堆積土 1



第108図 SK13 土坑

#### 【SK14土坑】(第109図、第15表)

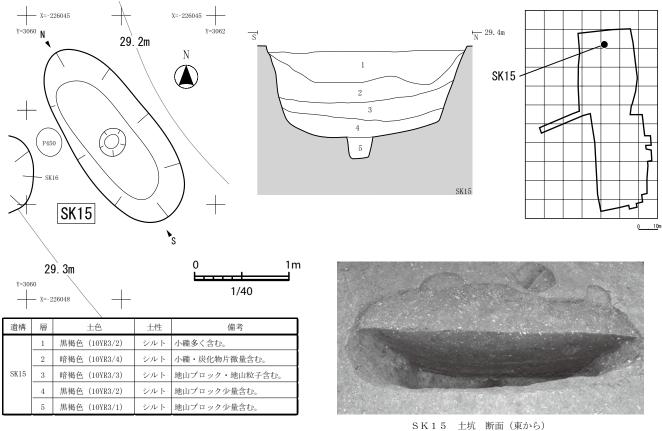
B区の北側の標高 29.1m の平坦面に位置する。確認面はIVa 層である。 $SB29 \cdot 30 \cdot 31 \cdot 32$  と重複し、これらより古い。平面形は長軸 1.78m、短軸 1.12m の東西方向に長軸をもつ不整形を呈し、深さは 24cm である。断面形は不整形、底面は平坦である。堆積土は 2 層に分かれ、いずれも人為堆積である。遺物は出土していない。



第109図 SK14 土坑

### 【SK15土坑】(第110 図、第15表)

B区の北側の標高 29.2m の平坦面に位置する。確認面はIVa 層である。平面形は長軸 2.1m、短軸 0.94m の南北方向に長軸をもつ隅丸長方形を呈し、深さは 87cm である。中央に直径 30cm、深さ 22cm の小穴がある。断面形は漏斗形、底面は平坦である。堆積土は 5 層に分かれ、いずれも自然堆積である。形状から陥し穴と推定される。遺物は出土していない。

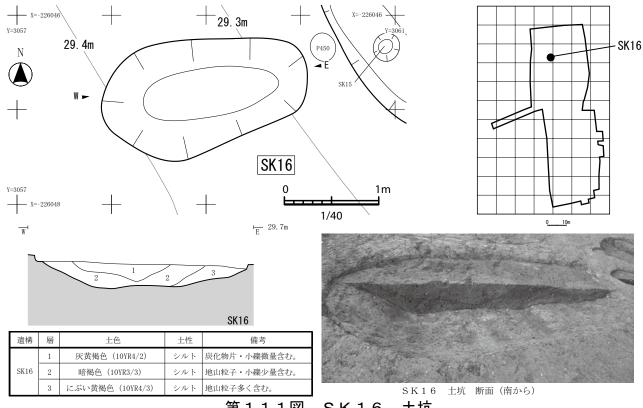


SKIO EM MI

第110図 SK15 土坑

### 【SK16土坑】(第111 図、第15表)

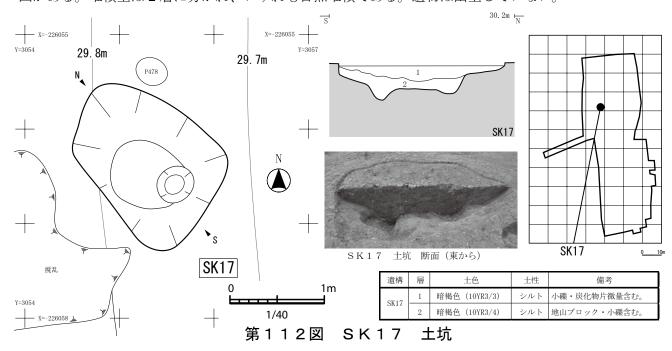
B 区の北側の標高 29.3m の平坦面に位置する。確認面はIVa 層である。平面形は長軸 2.15m、短軸 1.24m の東西方向に長軸をもつ楕円形を呈し、深さは 28cm である。断面形は皿状、底面は平坦である。 堆積土は3層に分かれ、いずれも自然堆積である。遺物は出土していない。



第111図 土坑 SK16

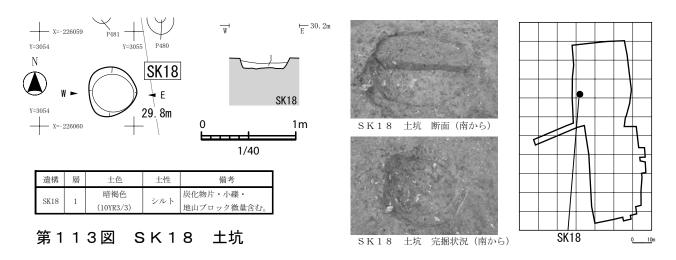
### 【SK17土坑】(第 112 図、第 15 表)

B 区の中央の標高 29.8m の平坦面に位置する。確認面はIVa 層である。平面形は長軸 1.77m、短軸 1.18m の南北方向に長軸をもつ楕円形を呈し、深さは  $35\sim45$ cm である。断面形は不整形、底面には凹 凸がある。堆積土は2層に分かれ、いずれも自然堆積である。遺物は出土していない。



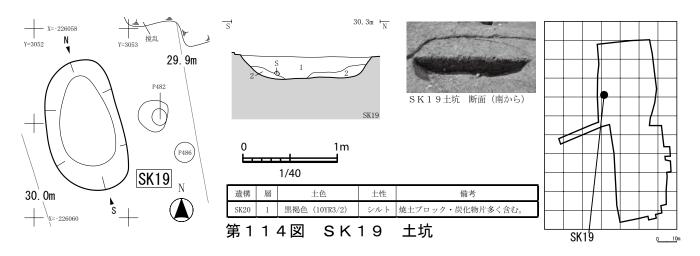
### 【SK18土坑】(第113 図、第15 表)

B区の中央の標高 29.8m の平坦面に位置する。確認面はIVa 層である。平面形は長軸 0.5m、短軸 0.49m の円形を呈し、深さは 9cm である。断面形は皿状、底面は平坦である。堆積土は自然堆積の単層である。 遺物は出土していない。



### 【SK19土坑】(第114 図、第15 表)

B区の中央の標高 30.0m の平坦面に位置する。確認面はIVa 層である。P518 と重複し、これより新しい。平面形は長軸 1.34m、短軸 0.78m の南北方向に長軸をもつ隅丸長方形を呈し、深さは 24cm である。断面形は皿状、底面は平坦である。堆積土は 2 層に分かれ、いずれも自然堆積である。堆積土 1 層から土師器片が出土した。



#### 【SK20土坑】(第115 図、第15 表)

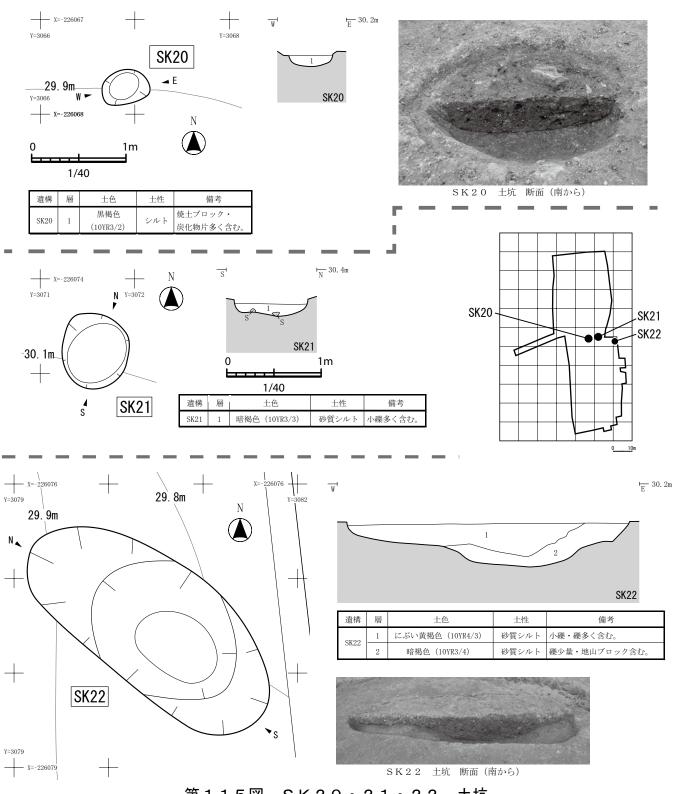
B 区の中央の標高 29.9m の平坦面に位置する。確認面はIVa 層である。平面形は長軸 0.45m、短軸 0.44m の南北方向に長軸をもつ楕円形を呈し、深さは 15cm である。断面形は U 字形、底面は平坦である。堆積土は 2 層に分かれ、いずれも人為堆積である。遺物は出土していない。

### 【SK21土坑】(第115 図、第15 表)

B区の中央の標高 30.1m の平坦面に位置する。確認面はIVa 層である。平面形は長軸 0.8m、短軸 0.73m の円形を呈し、深さは 13cm である。断面形は U 字形、底面は平坦である。堆積土は自然堆積の単層である。遺物は出土していない。

### 【SK22土坑】(第115 図、第15 表)

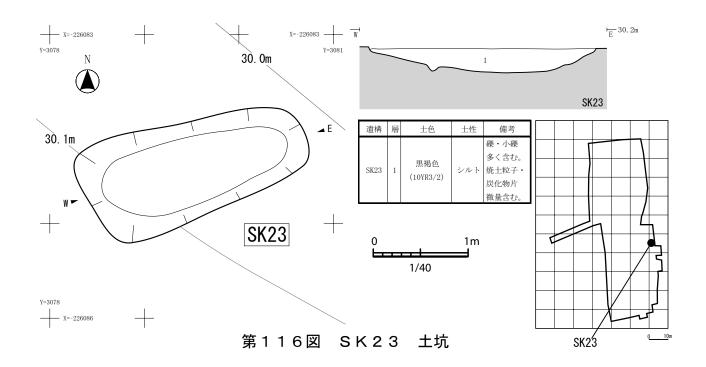
B 区の中央、東側の標高 29.9m の平坦面に位置する。確認面はIVa 層である。平面形は長軸 3.02m、短軸 1.23m の東西方向に長軸をもつ楕円形を呈し、深さは 42cm である。断面形は不整形、底面は平坦である。堆積土は 2 層に分かれ、いずれも自然堆積である。遺物は出土していない。



第115図 SK20・21・22 土坑

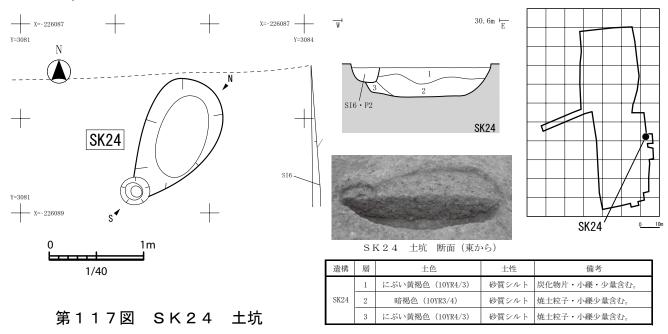
### 【SK23土坑】(第116 図、第15表)

B区の中央、東側の標高 30.1m の平坦面に位置する。確認面はIVa 層である。平面形は長軸 2.31m、短軸 1.08m の東西方向に長軸をもつ長楕円形を呈し、深さは 24cm である。断面形は皿状、底面は平坦である。堆積土は自然堆積の単層である。遺物は出土していない。



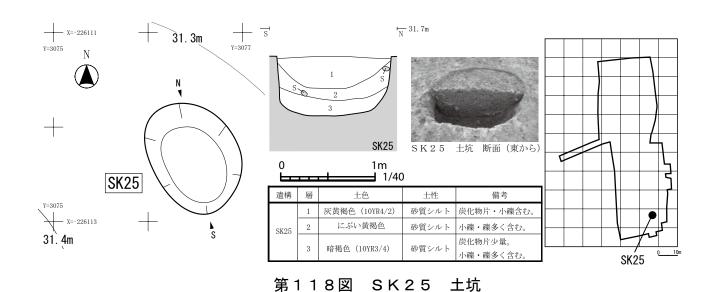
### 【SK24土坑】(第117 図、第15 表)

B区の中央、東側の標高 30.2m の平坦面に位置する。確認面はIVa 層である。SI6 と重複し、これより古い。平面形は長軸 1.14m、短軸 0.74m の南北方向に長軸をもつ楕円形を呈し、深さは 33cm である。断面形は U 字形、底面は平坦である。堆積土は 3 層に分かれ、いずれも自然堆積である。遺物は出土していない。



#### 【SK25土坑】(第118 図、第15 表)

B 区の南側の標高 31.3m の平坦面に位置する。確認面はIVa 層である。平面形は長軸 1.21m、短軸 0.91m の南北方向に長軸をもつ楕円形を呈し、深さは 62cm である。断面形は U 字形、底面は平坦である。堆積土は 3 層に分かれ、いずれも自然堆積である。遺物は堆積土から土師器片が出土した。



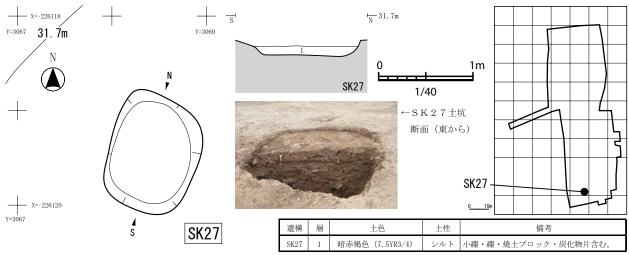
【SK26土坑】(第119図、第15表)

B 区の南側の標高 31.3m の平坦面に位置する。確認面はIVa 層である。平面形は長軸 0.73m、短軸 0.7m の円形を呈し、深さは 46cm である。断面形は U 字形、底面は平坦である。堆積土は 2 層に分かれ、いずれも自然堆積である。遺物は出土していない。



### 【SK27土坑】(第120図、第15表)

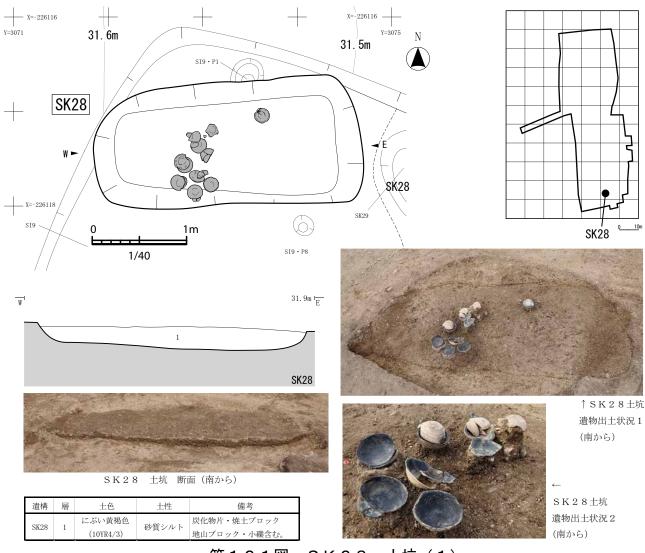
B区の南側の標高 31.7m の平坦面に位置する。確認面はIVa 層である。平面形は長軸 1.23m、短軸 0.97m の南北方向に長軸をもつ楕円形を呈し、深さは 19cm である。断面形は皿状、底面は平坦である。 堆積土は自然堆積の単層である。 遺物は堆積土 1 層から土師器片が出土した。



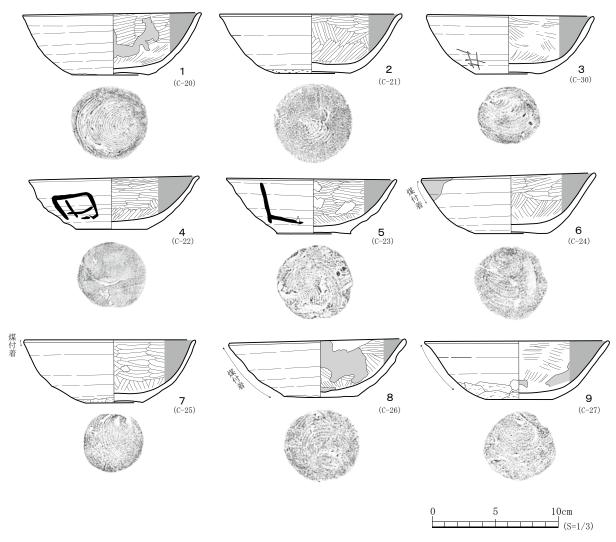
第120図 SK27 土坑

### 【SK28土坑】(第 121~125 図、第 15 表)

B区の南側の標高 31.5m の平坦面に位置する。確認面はIVa 層である。SI9 と重複し、これより新しい。平面形は長軸 2.9m、短軸 1.17m の南北方向に長軸をもつ隅丸長方形を呈し、深さは 22cm である。断面形は皿状、底面は平坦である。堆積土は 1 層で、人為堆積である。遺物は堆積土 1 層から土師器坏(第  $122\sim125$  図  $1\sim24$ )、須恵器坏(第 125 図 25)が出土した。

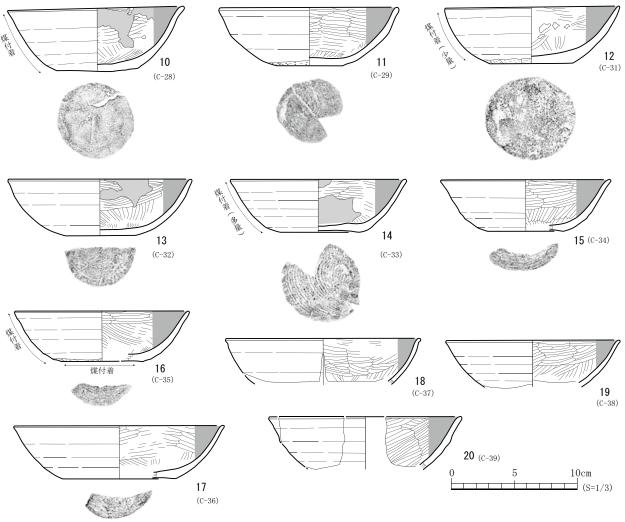


第121図 SK28 土坑(1)



No.	遺構・層	種別	器種	残 存	特徴【技法(外面・内面)→色調(外面・内面)→法量→その他の特徴の順に記載】	登録
1	SK28 1層	土師器	坏	口縁部	外面: ロクロナデ・胴部下半手持ちヘラ削り・底部回転糸切り→周縁部手持ちヘラ削り、内面: ヘラミガキ・ 黒色処理、色調: 外面・にぶい黄褐色(10YR5/3)、内面・黒色(N2/0)、法量: 口径14.0cm・器高4.9cm・底径6.0 cm・器厚0.3~0.8cm、内外面・媒付着→灯明皿	C-20
2	SK28 1層	土師器	坏	口縁部 〜底部	外面:ロクロナデ・胴部下端回転ヘラ削り・底部回転糸切り→回転ヘラ削り再調整、内面:ヘラミガキ・黒色処理、色調:外面・にぶい褐色(7.5YR6/3)、内面・黒色(N2/0)、法量:口径14.3cm・器高4.7cm・底径6.0cm・器厚0.4~0.8cm、内外面・煤付着/外面・焼けはじけ→灯明皿、残存100%	C-21
3	SK28 1層	土師器	坏	口縁部 ~底部	外面:ロクロナデ・底部回転糸切り無調整、内面:ヘラミガキ・黒色処理、色調:外面・にぶい黄橙色 (10YR6/3)、内面・黒色(N2/0)、法量:口径13.2cm・器高4.7cm・底径5.5cm・器厚0.3~0.8cm、残存ほぼ 100%、胴部下半にヘラ描き有り	C-30
4	SK28 1層	土師器	坏	口縁部 〜底部	外面:ロクロナデ・底部切り離し技法不明→回転ヘラ削り再調整、内面:ヘラミガキ・黒色処理、色調:外面・にぶい橙色(7.5YR6/4)、内面・黒色(N2/0)、法量:口径13.4cm・器高4.2cm・底径5.6cm・器厚0.3~0.9 cm、残存100%、胎土:非常に良好、墨書「田」	C-22
5	SK28 1層	土師器	坏	口縁部~底部	外面:ロクロナデ・底部回転糸切り無調整、内面:ヘラミガキ・黒色処理、色調:外面・にぶい褐色 (7.5YR5/4)、内面・黒色(N2/0)、法量:口径13.4cm・器高4.4cm・底径5.8cm・器厚0.4~1.0cm、内外面・煤付着/焼けはじけ→灯明皿、残存100%、墨書「人」	C-23
6	SK28 1層	土師器	坏	口縁部 〜底部	外面: ロクロナデ・底部回転糸切り無調整、内面: ヘラミガキ・黒色処理、色調: 外面・にぶい黄橙色 (10YR6/3)、内面・黒色(N2/0)、法量: 口径13.6cm・器高4.8cm・底径5.8cm・器厚0.4~0.9cm、残存95%、内外面・煤付着→灯明皿	C-24
7	SK28 1層	土師器	坏	口縁部 〜底部	外面:ロクロナデ・胴部下端手持ちヘラ削り・底部回転糸切り無調整、内面:ヘラミガキ・黒色処理、色調: 外面・にぶい黄橙色(10YR7/2)、内面・黒色(N2/0)、法量:口径13.5cm・器高5.0cm・底径4.6cm・器厚0.3~0.8 cm、残存70%、内外面・煤付着/内面・焼けはじけ→灯明皿	C-25
8	SK28 1層	土師器	坏	口縁部 〜底部	外面:ロクロナデ・底部回転糸切り→手持ちヘラ削り再調整、内面:ヘラミガキ・黒色処理、色調:外面・にぶい黄橙色(10YR6/3)、内面・黒色(№2/0)、法量:口径13.9cm、器高4.8cm、底径5.9cm、器厚0.4~0.8cm、残存80%、内外面・煤付着→灯明皿	C-26
9	SK28 1層	土師器	坏	口縁部~底部	外面:ロクロナデ・胴部下端手持ちヘラ削り・底部回転糸切り無調整、内面:ヘラミガキ・黒色処理・磨滅、 色調:外面・にぶい黄橙色(10YR7/3)、内面・黒色(N2/0)、法量:口径14.5cm・器高4.8cm・底径5.3cm・器厚 0.4~0.7cm、内外面・煤付着/内面・焼けはじけ→灯明皿	C-27

第122図 SK28 土坑(2)

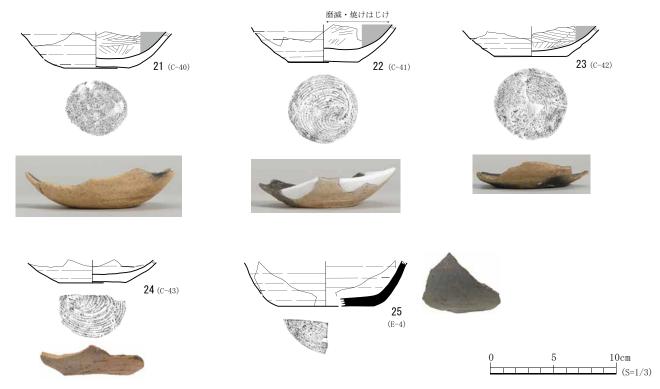


No.	遺構・層	種別	器種	残 存	特徴【技法(外面・内面)→色調(外面・内面)→法量→その他の特徴の順に記載】	登録
10	SK28 1層	土師器	坏	口縁部~底部	外面:ロクロナデ・底部回転ヘラ切り無調整、内面:ヘラミガキ・黒色処理、色調:外面・灰黄褐色 (10YR5/2)/黒褐色(10YR3/1)、内面・黒色(N2/0)、法量:口径13.8cm・器高5.2cm・底径6.4cm・器厚0.4~0.8 cm、内外面・煤付着/内面・焼けはじけ→灯明皿	C-28
11	SK28 1層	土師器	坏	口縁部 ~底部	外面:ロクロナデ・胴部下端手持ちへラ削り・底部回転糸切り→手持ちへラ削り再調整、内面:ヘラミガキ・ 黒色処理・器面焼けはじけ、色調:外面・にぶい橙色(7.5YR6/4)、内面・黒色(N2/0)、法量:口径13.9cm・器 高4.7cm・底径5.2cm・器厚0.4~0.7cm、残存90%、灯明皿?	C-29
12	SK28 1層	土師器	坏	口縁部~底部	外面:ロクロナデ・胴部下端手持ちへラ削り・磨滅・底部切り離し技法不明→手持ちへラ削り再調整・煤少量付着、内面:ヘラミガキ・黒色処理・器面焼けはじけ・磨滅、色調:外面・にぶい黄橙色(10YR6/3)、内面・黒色(N2/0)、法量:口径13.7cm・器高4.6cm・底径6.6cm・器厚0.4~1.0cm、残存90%、灯明皿?	C-31
13	SK28 1層	土師器	坏	口縁部~底部	外面:ロクロナデ・底部回転糸切り無調整、内面:ヘラミガキ・黒色処理・煤少量付着、色調:外面・にぶい 黄橙色(10YR6/3)、内面・黒色(N2/0)、法量:口径14.5cm・器高4.5cm・底径5.4cm・器厚0.3~0.6cm、残存 50%、灯明皿?	C-32
14	SK28 1層	土師器	坏	口縁部~底部	外面: ロクロナデ・底部回転糸切り無調整・煤多量付着、内面: ヘラミガキ・黒色処理・煤少量付着、色調: 外面・にぶい黄橙色(10YR7/4)、内面・黒色(N2/0)、法量: 口径(13.8)cm・器高4.2cm・底径6.2cm・器厚0.3~ 0.7cm、残存50%、灯明皿?	C-33
15	SK28 1層	土師器	坏	口縁部~底部	外面:ロクロナデ・底部回転糸切り無調整・煤付着、内面:ヘラミガキ・黒色処理・煤付着、色調:外面・灰 黄褐色(10YR5/2)、内面・黒色(N2/0)、法量:口径(13.6) cm・器高4.1cm・底径(8.0) cm・器厚0.4~0.6cm、残存 1/3、灯明皿	C-34
16	SK28 1層	土師器	坏	口縁部~底部	外面:ロクロナデ・胴部下端へラ削り・煤付着・焼けはじけ・底部切り離し技法不明→回転へラ削り再調整、 内面:ヘラミガキ・黒色処理、色調:外面・灰褐色(7.5YR4/2)、内面・黒色(N2/0)、法量:口径(13.8)cm・器 高4.0cm・底径(6.4)cm・器厚0.3~0.7cm、灯明皿?	C-35
17	SK28 1層	土師器	坏	口縁部~底部	外面:ロクロナデ・底部切り離し技法不明→手持ちヘラ削り再調整、内面:ヘラミガキ・黒色処理・器面焼けはじけ、色調:外面・にぶい褐色(7.5YR5/3)、内面・黒色(N2/0)、法量:口径(16.6)cm・器高4.2cm・底径(9.0)cm・器厚0.3~0.5cm、灯明皿?	C-36
18	SK28 1層	土師器	坏	口縁部~胴部	外面:ロクロナデ、内面:ヘラミガキ・黒色処理、色調:外面・にぶい黄橙色(10YR6/3)、内面・黒色(N2/0)、 法量:口径(15.4)cm・残存高3.7cm・器厚0.3~0.4cm	C-37
19	SK28 1層	土師器	坏	口縁部~胴部	外面:ロクロナデ、内面:ヘラミガキ・黒色処理、色調:外面・にぶい黄橙色(10YR7/3)、内面・黒色(N2/0)、 法量:口径(13.8)cm・残存高3.7cm・器厚0.3~0.4cm、口唇部・煤付着→灯明皿	C-38
20	SK28 1層	土師器	坏	口縁部~胴部	外面:ロクロナデ、内面:ヘラミガキ・黒色処理、色調:外面・にぶい橙色(7.5YR6/4)、内面・黒色(N2/0)、 法量:口径(15.2)cm・残存高4.2cm・器厚0.4~0.6cm	C-39

第123図 SK28 土坑(3)



第124図 SK28 土坑(4)



No.	遺構・層	種別	器種	残存	特徴【技法(外面・内面)→色調(外面・内面)→法量→その他の特徴の順に記載】	登録
0.1	SK28	土師器	坏	胴部	外面:ロクロナデ・底部回転糸切り無調整、内面:ヘラミガキ・黒色処理、色調:外面・にぶい橙色	0.40
21	1層	工則奋	坏	~底部	(7.5YR6/4)、内面・黒色(N2/0)、法量:底径5.2cm・残存高3.4cm・器厚0.5~0.7cm	C-40
22	SK28 1層	土師器	坏	胴部 ~底部	外面:ロクロナデ・底部回転糸切り無調整、内面:ヘラミガキ・黒色処理・磨滅・器面焼けはじけ、色調:外面・にぶい橙色(7.5YR7/4)、内面・黒褐色(N2/0)、法量:底径5.6cm・残存高3.0cm・器厚0.4~1.1cm、灯明皿?	C-41
23	SK28 1層	土師器	坏	胴部 ~底部	外面:ロクロナデ・底部回転糸切り無調整、内面:ヘラミガキ・黒色処理、色調:外面・にぶい褐色 (7.5YR5/4)、内面・黒色(N2/0)、法量:底径5.8cm・残存高2.4cm・器厚0.3~0.7cm	C-42
24	SK28 1層	土師器	坏	底部	外面:ロクロナデ・底部回転糸切り無調整、内面:ロクロナデ、色調:内外面・にぶい橙色(7.5YR6/4)、法量:底径5.2cm・残存高1.8cm・器厚0.3~0.6cm、赤焼土器	C-43
25	SK28	須恵器	坏	胴部	外面:ロクロナデ・底部切り離し技法不明→回転へラ削り再調整、内面:ロクロナデ、色調:内外面・黄灰色	E-4
25	1層	須忠奋	平	~底部	(2.5Y5/1)、法量:底径(7.6)cm・残存高3.5cm・器厚0.4~0.8cm	E-4

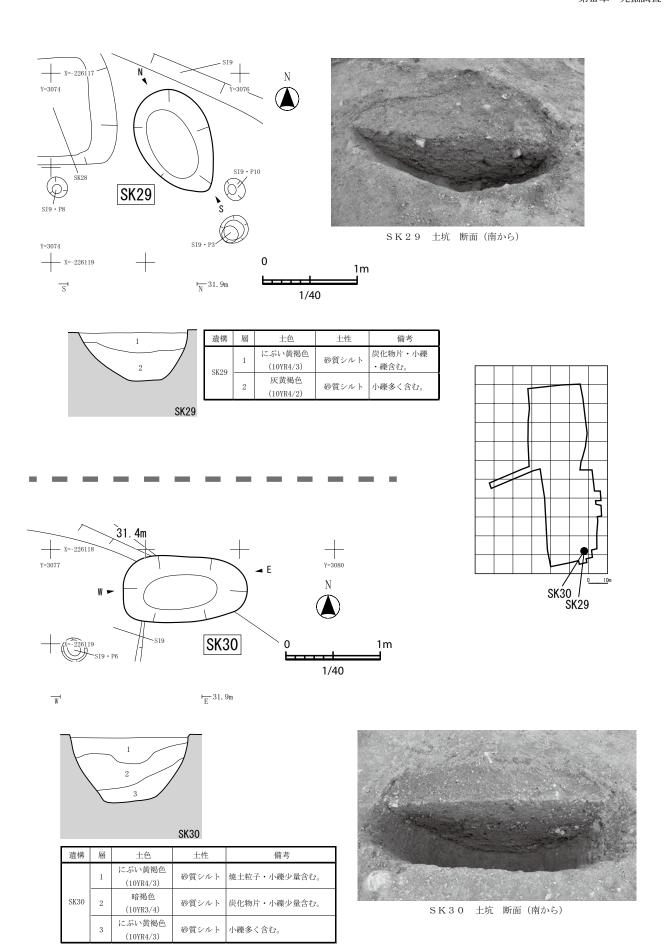
第125図 SK28 土坑(5)

### 【SK29土坑】(第126 図、第15表)

B区の南側の標高 31.5m の平坦面に位置する。確認面はIVa 層である。SI9 と重複し、これより新しい。平面形は長軸 1.18m、短軸 0.77m の南北方向に長軸をもつ楕円形を呈し、深さは 48cm である。断面形は U 字形、底面は平坦である。堆積土は 2 層に分かれ、いずれも人為堆積である。遺物は堆積土 2 層から縄文土器片が出土した。

### 【SK30土坑】(第126 図、第15 表)

B区の南側の標高 31.4m の平坦面に位置する。確認面はIVa 層である。SI9 と重複し、これより新しい。平面形は長軸 1.3m、短軸.066m の東西方向に長軸をもつ長楕円形を呈し、深さは 77cm である。断面形は U 字形、底面は平坦である。堆積土は 3 層に分かれ、いずれも自然堆積である。遺物は出土していない。



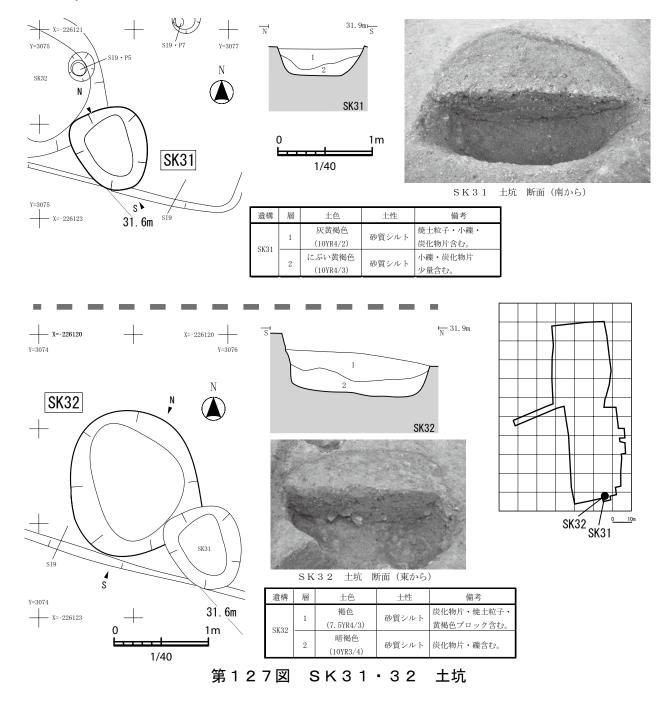
第126図 SK29・30 土坑

### 【SK31土坑】(第127図、第15表)

B 区の南側の標高 31.6m の平坦面に位置する。確認面はIVa 層である。SI9、SK32 と重複し、これらより新しい。平面形は長軸 0.83m、短軸 0.69m の南北方向に長軸をもつ楕円形を呈し、深さは 29cm である。断面形は U 字形、底面は平坦である。堆積土は 2 層に分かれ、いずれも自然堆積である。遺物は出土していない。

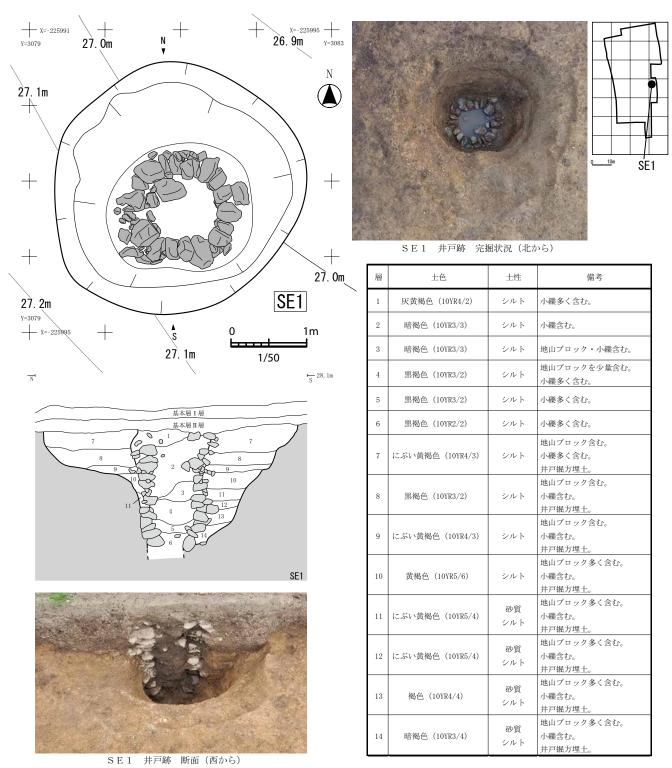
# 【SK32土坑】(第127図、第15表)

B 区の南側の標高 31.6m の平坦面に位置する。確認面はIVa 層である。SI9、SK31 と重複し、SI9 より新しく、SK31 より古い。平面形は長軸 1.5m、短軸 1.36m の円形を呈し、深さは 42cm である。断面形は U 字形、底面は平坦である。堆積土は 2 層に分かれ、いずれも自然堆積である。遺物は出土していない。



### 【SE1井戸跡】(第 128 図、第 15 表)

A 区中央東寄りの標高 27m の平坦面に立地する。基本層 IIIe 層から掘り込まれ、確認面はIVa 層である。 石組の井戸であり、平面形は長軸 3.34m、短軸 3.31m の円形を呈し、深さは 1.58m である。 断面形は漏斗形である。 堆積土は 14 層に分かれ、 $1\sim6$  層は自然堆積、 $7\sim14$  層は人為堆積である。 6 層掘削時に水が湧き、掘ることを止めたため、底面形は不明である。 遺物は出土していない。



第128図 SE1 井戸跡

### (4) ピット (第9~13 図、第16-1~3 表)

ピットには、柱痕跡が認められる「柱穴跡」と柱痕跡が認められない「小穴跡」がある。このうち、本項で報告する「柱穴」は、掘立柱建物や柱穴列などを構成する柱穴跡であった可能性も考えられるが、現地調査・整理作業段階において、これらで構成する構造物を認定することができなかったため、ここではピットとして報告することとした。

ピットは 256 個検出した(第 9~13 図)。確認面はIVa 層である。それぞれの規模、柱痕跡の有無、堆積土、埋土、重複関係については第  $16\cdot1$ ~3 表にまとめた。これらのピットは、長軸 15~80cm、短軸 11~61cm の円形・楕円形・隅丸長方形・隅丸方形・不整形を呈し、深さ 3~44cm である。これらは A 区から B 区の北側に多く分布する。遺物は P53・68・128・161・309・340・404・414・459・500・501・503・506・513 から出土している。P53・68・506 から縄文土器片、P161・309・404・414・459・500・501・503・513 から土師器片、P128 から土師器片・須恵器片、P340 から磁器片が出土した。











石垣遺跡 作業風景

備 考 (重複・出土遺物等)

P145よりさ SI1より新

SI1より新

柱抜取

土師器

SI2より新

SI2より新

SI2より新 堆1:黒褐色土

SB16・P179より古 SI2より新

SB14・P196より新

SI1、P144より新

# 第16-1表 石垣遺跡 <u>ピット 属性表(1)</u>

Page											第1	6-	-1	表 石垣遺跡	<u>ピ</u>	<u>゚ット</u>				ζ
	構品			_	_					柱痕	20%			備 考 (電響・出土透物等)	72	構	柱穴・ビ	ット掘	方(: 短	É
	7	ХR	平面形						平面形	長軸	短軸	堆土	型	(主後・山工起物寺/	-	17	平面形	軸	軸	ļ
	1	柱穴	円形	46	43	17	26. 4	12Ad	円形	22	22	10A	あ		P140	小穴	楕円形	29	11	
	0	柱穴	円形	26	24	14	25. 9	9Aa	円形	16	16	2A	Į,	P11より新	P141	小穴	円形	33	30	Ī
	$\dashv$								楕円形		12				P142	柱穴	円形	25	23	ļ
									_		-		_		P144 P145	小穴	円形 楕円形	47	43	ł
No.         No. <td>_</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>2層:9Aa</td> <td></td> <td></td> <td>16</td> <td></td> <td>- あ</td> <td></td> <td>P145</td> <td><b>在</b>穴</td> <td>精円形</td> <td>33 43</td> <td>26 38</td> <td>ļ</td>	_							2層:9Aa			16		- あ		P145	<b>在</b> 穴	精円形	33 43	26 38	ļ
	_												1		P155	小穴	円形	30	30	t
Page	21	柱穴	円形	23	22	14	26. 1	10Ad	楕円形	14	11	6A	あ		P156	小穴	楕円形	65	45	İ
Page	23	柱穴	円形	28	23	3	26.8	16Ak	円形	14	13	6A	VΥ		P157	柱穴	円形	36	33	I
Page	24	柱穴	円形	25	25	15	26. 6	17Ag	円形	14	14	13A	V		P161	柱穴	円形	35	34	
Propose	26	柱穴	円形	19	18	6	26. 4		円形	13	13	4A	あ		P163	小穴	円形?	29	-	
								2層:2Aa			-				P169	柱穴	楕円形	48	33	ļ
	-										-				P173	小穴	楕円形 円形	33	15 30	Ŧ
Page	-													柱切取	P175	柱穴	楕円形	28	24	Ŧ
Page	-	小穴	楕円形	39	33	28	26. 8	22Ag	_	_	_	_	_		P176	柱穴	楕円形	67	44	t
Pice	14	柱穴	楕円形	27	16	13	26.8	7Ad	円形	13	13	6A	あ		P177	柱穴	円形	24	24	t
Page	15	小穴	円形	23	20	22	26.7	2Aa	-	-	-	-	-	P36より新	P178	小穴	円形	19	19	I
No.   No.				23					-		-	-	-	P35より古	P180	小穴	楕円形	43	35	1
Page	_												+		P185	柱穴	楕円形	28	17	ļ
Mathematical Registration	-										12	4A —	<i>ā</i> 5		P186 P187	小穴	円形	30 25	28	ł
Page	17	小穴	円形	44	43	19	26.7		-	-	-	-	_		P189	柱穴	楕円形	39	31	t
PR	18	小穴	楕円形	23	18	20	26.5	7Ag	-	-	-	-	-	P49より新	P191	小穴	円形	36	33	Ī
P3	19	小穴	円形	20	19	33	26.4	7Ad	-	-	-	-	-	P48より古	P197	小穴	楕円形	41	35	Ī
PM	-												-	681-A- 1 00	P199	柱穴	円形	25	21	ļ
PSS	-									-			-	縄丈士器	P200	柱穴	円形	21	20	1
Pos   世代   円形   25   21   44   25.9   12.4g   円形   12   12   12   14   15   15   15   15   15   15   15	i6				26		25. 9			-	17	4A	あ			ピッ	, F (	柱グ	₹•	,
Post	i8	小穴	楕円形	21	14	41	25.7	7Ac	-	-	-	-	-			【柱類	型】			_
Pot	-												1				腹跡が			
Pos	_															Æ	低面に接	する	E 0)	
P69         小穴         円形         24         22         20         26.8         10.0d         一一         一一         一一         日         日	57	小穴	円形	15	13	20	26	2Aa	-	-	-	-	-		-	 		 		-
P74         小穴         門形         30         30         15         26.5         2Ac         一         一         一         一         一         一         一         一         一         一         日	8	柱穴	楕円形	46	38	12	26.9	2Ag	楕円形	25	19	12A	あ	縄文土器	1		E痕跡が E面より			
Page	_			-							-	-	-		1		延びる			
P83         小穴         円形         31         29         6         26.3         3A1         -	-																	の埋	± •	j
P86         小穴         楕円形         23         22         18         26.3         3 Al         -	12	小穴	円形	22	18	13	26.3	3Ac	-	-	-	-	-			■土色 1: 単	色 (10)	VR9/1	1)	
P87         柱穴         楕円形         39         35         20         26.2         報酬: 1-2Ac Miller: Alaba         円形         17         16         1A         い           P89         小穴         円形         22         25         23         26.8         10Ad         一	-																褐色 (1			
P88	-													堆1:黑褐色土			f褐色 (1			
P90         小穴         楕円形         32         23         26         26.7         1품·4Ad 2 / 2月·4Ad								掘埋2:4Aa			16	1A	_				:ぶい黄i B色 (10Y			Æ
P91         柱穴         円形         42         40         24         26.4         10Ad         円形         14         12         6A         い           P95         小穴         楕円形         60         40         20         27         2Ad         一 <t< td=""><td>-</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>1層:4Ad</td><td>_</td><td>_</td><td>_</td><td>_</td><td>_</td><td></td><td></td><td></td><td>に (101 :ぶい黄</td><td></td><td></td><td>Y</td></t<>	-							1層:4Ad	_	_	_	_	_				に (101 :ぶい黄			Y
P97         小穴         円形         25         25         19         26.9         9 Aa         一	1	柱穴	円形	42	40	24	26.4		円形	14	12	6A	Į,			19: 馬	褐色 (7	. 5YR	3/2	1
P98         小穴         円形         25         22         8         27         4Ag         ー <t< td=""><td>15</td><td>小穴</td><td>楕円形</td><td>60</td><td>40</td><td>20</td><td>27</td><td>2Ad</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td></td><td></td><td></td><td>8灰色(7</td><td>7. 5YF</td><td>R4/1</td><td>)</td></t<>	15	小穴	楕円形	60	40	20	27	2Ad	-	-	-	-	-				8灰色(7	7. 5YF	R4/1	)
P99         柱穴         楕円形         49         40         20         26.9         報酬::10Ak 別報::16Ak 円形         20         17         6A         あ           P101         小穴         楕円形         30         22         17         16         26.4         3Ac         -         <	-															■土性 A: シ	ルト I	3: 砂	質シ	/)
P101         小穴         楕円形         20         17         16         26         4         3Ac         -	$\dashv$															■混入				
P103         小穴         円形         36         33         20         2Ag         一         一         一         一         一         一         一         円         一         <								掘埋2:16Ak					<i>a</i> 5				山ブロ			
P108         小穴         円形         30         22         49         26.6         6Ad         一	_												-				山ブロ			
P111         小穴         楕円形         41         37         19         27.1         4Ag         ー	04	小穴	楕円形	30	25	14	27	22Ac	-	-	-	-	-				、礫含む			
P112         小穴         円形         32         32         20         27         1層:2Ad 2層:2Ad 2層:2Ad 2層:2Ad 2層:2Ad 2層:2Ad 2層:2Ad 2層:2Ad 2層:2Ad 2層:2Ad 2	-			-					-	-	-	-	-				k を選択			
P114         小穴         楕円形         24         17         19         27         2Ag         -	-							-	-	-	-	-	-				備考欄帕 炭化物戶			
P115         小穴         円形         25         22         12         27.1         1Ag         ー	_															【記載的				
P118         小穴         円形         23         20         23         26.9         10Ac         一         二         二         二         二         二         二         二         二         二         二         二         二         二         一         一         一         一         一         一         一         一         一         一         一         一	_			-						-	_		-			1Aa	· · · ±	色:	黒袍	56
P119         柱穴         円形         34         33         28         26.8         3Ac         円形         16         15         1A         あ         5310・P120 より古           P127         小穴         円形         50         50         17         27.1         6Ak         - </td <td>17</td> <td>柱穴</td> <td>円形</td> <td>30</td> <td>27</td> <td>35</td> <td>27</td> <td>6Ad</td> <td>円形</td> <td>20</td> <td>17</td> <td>5A</td> <td>V</td> <td>SA1・P5より新</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td>	17	柱穴	円形	30	27	35	27	6Ad	円形	20	17	5A	V	SA1・P5より新						
P127         小穴         円形         50         50         17         27.1         6Ak         -	-								-	-	-	-	-				の他の			_
P128         柱穴         円形         45         42         34         27         切穴: 3Ac 機理: 4Aa         円形         16         16         1a         b         S11より新 性切取           P130         柱穴         楕円形         55         45         90         26.5         切穴: 3Ac 展理: 4Ac         円形         15         14         1A         b         S11より新 世切取           P132         小穴         円形         25         22         14         27.2         19Ad         -         -         -         -         -         -         511より新 世切取           P133         小穴         楕円形         28         23         19         26.9         7Ab         -         -         -         -         -         511より新 日かる           P135         小穴         楕円形         33         17         6         27.3         4Ad         -	_												Ė				・ピット (i) は推			
P128         柱穴         円形         45         42         34         27         網班4Aa         円形         16         10         1A         影 性切取           P130         柱穴         楕円形         55         45         90         26.5         切穴に3ac 銀門4Aa         円形         15         14         1A         あ 511.1 少所 世切取           P132         小穴         円形         25         22         21         4         27.2         19Ad         -														SI1より新			・ピット ・ピット			
P132     七六     HFTHS     25     22     14     27.2     19Md     -	∠đ	任穴	円形	45	42	34	27	掘埋:4Aa	円形	16	16	1A	ā5	土師器、須恵器			の場合に			
P133     小穴     楕円形     28     23     19     26.9     7Ab     - <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>掘埋:4Ac</td> <td></td> <td></td> <td>14</td> <td></td> <td>あ</td> <td>柱切取</td> <td></td> <td></td> <td>・2 層」 で」: 柱抜</td> <td></td> <td></td> <td></td>								掘埋:4Ac			14		あ	柱切取			・2 層」 で」: 柱抜			
P135     小穴     楕円形     35     17     6     27.3     4Ad     -     -     -     -     -     -     SB12・P134より古       P136     柱穴     円形?     50     -     46     27.2     切穴:6Aa 網理:5Ab     円形?     25     -     4A     あ     柱切取       P137     小穴     円形?     31     -     17     26.6     7Aa     -     -     -     -     -     -	-										-		-				い: 性が い: 柱ち			
P136     柱穴     円形?     50     —     46     27.2     切穴:6An 網班:5Ab     円形?     25     —     4A     あ     柱切取       P137     小穴     円形?     31     —     17     28.6     7Aa     —     —     —     —     —	-										_					■備考	欄の記載	<b>戊事</b> 項	Ę	
P137 小穴 円形? 31 - 17 26.6 7Aa	$\dashv$							切穴:6Aa	円形?	25	-	4A	あ				取:柱が			
P138 小庁 排印形 36 28 25 27 4 34g	37	小穴	円形?	31	Ŀ	17	26. 6		-	_	_	_	_		L	· _0	他、重複	対対	K • 1	Ц
	_	小穴	楕円形	36	28	25	27. 4	3Ag	-	-										
P139         住穴         楕円形         33         25         12         27.1         6Ac         円形         20         17         3A         あ         SI1より新	39	柱穴	楕円形	33	25	12	27. 1	6Ac	円形	20	17	3A	あ	SI1より新						

#### ●ピット(柱穴・小穴)類型

柱穴・ビット掘方(長輪・短輪:cm、底面標高:m)

10 27.8 9Ad

12 27. 1 6Ad

8 27. 3 19Ad

10 27.1 4Ac

22

22 27.0 抜穴:6Ad

40 27.1

29 26.6

33 27. 2 4Ad

10 26.9

16 27

30 26.9 3Aa

20 27 3Ag

30 26. 9 6Ad

11 27.6 3Ac

44 27 7Ac

46 27. 2 6Aa

30 27.3 1層:9Aa 2層:4Ad

26 27 3Ac

19 27.3

26. 9

27. 2

27 1層:7A1 2層:5Aa

11 10 27. 2 1A1 平面形

楕円形 19

円形 12

円形 24 22 4A

円形 12

円形 19

楕円形 13

円形 10

円形

円形

1層:4Ac 2層:6Ac

掘埋1:7Ae 掘埋2:5Ad

4Aa

長軸 短軸

堆土

4A

4A

1A

5A v SI2より新

1A あ SI2より新

4A あ

4A あ

18 2A



#### ●その他の記載事項

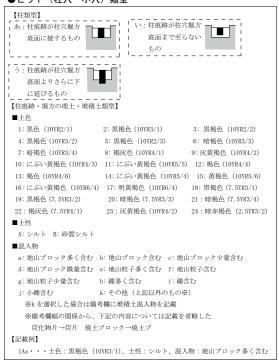
- ■柱穴・ピットの計測値
- ・(数値) は推定値を示す
- ■柱穴・ピット掘欄の「埋土・堆土(堆積土)」記載事項
- ・柱穴の場合は「掘方埋土」を意味する
- ・「1層・2層」等の記載:「柱穴・小穴」の埋土等が2層以上に分層した場合を示す
- ・「抜穴」: 柱抜き取り穴の埋土・堆積土 / 「抜穴1」: 抜き取り穴1層の埋土・堆積土
- ・「切穴」: 柱切り取り穴の埋土・堆積土 / 「切穴1」: 切き取り穴1層の埋土・堆積土
- ■備者欄の記載事項
- ・柱抜取:柱が抜き取られているもの ・柱切取:柱が切り取られているもの
- ・この他、重複関係・出土遺物を記載

### 第16-2表 石垣遺跡 ピット 属性表(2)

											弗	6-	2	表 石垣遺跡
	遺構		柱2							柱痕	跡			備考
150         160         170 <th>番号</th> <th></th> <th>平面形</th> <th></th> <th></th> <th></th> <th></th> <th></th> <th>平面形</th> <th>長軸</th> <th>短軸</th> <th>堆土</th> <th></th> <th>(重複・出土遺物等)</th>	番号		平面形						平面形	長軸	短軸	堆土		(重複・出土遺物等)
1968	P201	柱穴	楕円形						円形	11	11	9A	あ	
Mathematical	P202	柱穴	楕円形	38	25	25	27.7	7Ae	円形	22	20	5A	あ	
18	P203	柱穴	円形	35	32	27	27.6		楕円形	14	12	4A	あ	
180	P204		檜田形	32	27	25	27.7			19	16	4A	-5	
196	P206		1131 4715											
四番	P207	-							円形					
100   100	P208												-	<b>柱</b> 拔取
190	P210								_	_	_	_	_	Listan
14	P211								_	_			_	
17	P214								_				_	
19	P217								楕円形	17		4A	か	
19	P218					17								SB20・P216より古
	P219										13			
	P220								_	_	_	_	_	###W
23    中の	P221								円形	13	13	5A	あ	100000
19														+1-+1-1E-
20									_					性级权
23	P229								-	-		_	-	
232   松木   円形   27   25   21   27   28   24   24   24   25   24   25   24   25   24   25   24   25   24   25   24   25   25	P230													
20   小穴   円形   20   17   25   27.1   3.4g   一   一   一   一   一   一   一   一   一	P231													
24	P233								円形	15				
14   1   1   1   1   1   1   1   1   1	P240	小穴	円形	20	17	25	27. 1	3Ag	-	-	-	-	-	
27	P243	小穴	円形	22	20	17	27. 2	3Ac	-	-	-	-	-	
27    中の	P245	小穴	円形	27	26	7	27. 2	2Ad	_	-	-	-	-	
19   19   19   19   19   19   19   19	P247			30					-	-	-	-	-	
15   15   15   16   17   18   18   19   19   10   10   10   10   10   10	P252			42	40	21	27. 1	4Aa	円形	26	23	2A	5	
256   小穴 横門形 35   24   17   27.4   77.6   1.4   1.7   1.5   2.4   3.8   252.9   1.5   1.5   1.5   1.5   2.5   3.8   2.5   1.5   1.5   2.5   3.8   2.5   3.5   2.5   3.5   2.5   3.5   2.5   3.	P256													
299 性穴 円形 22 20 34 27.2 64a 円形 17 15 22 A P2SA, 173.1 9 所 25 27 27 27 27 24 4a 1 2 A 1 2	P258					17			-	_				
1987   1988   25   21   29   27   18   18   18   18   18   18   18   1	P259								DD #6	17	15	91	ti.	
200									11/12			2n	a)	
244 比元 円形 40 40 28 27.2 22.1	P260	小穴	円形	25	21	29	27.6	2層: 7Ae	_	_	_		_	SI3より新
288	P262	小穴	円形	19	18	34	27.2		-	-	-	-	-	堆1:黑褐色土
200	P264	柱穴	円形	40	40	28	27.2	抜穴1:5Ag・j 抜穴2: 5Ac	-	-	-	-	-	SI3より新 柱抜取
266   小穴   円形   20   18   22   27.2   2編: 18.4 *   -   -   -   -   -   -   -   -   -	P265	小穴	楕円形	70	61	18	27.6	2Aa	_	_	_	_	-	
288	P266	水空	III #6	20	10	99	97.9	1層: 7Aa・k	_				_	
258   柱木   円形   27   24   40   27.2   37穴-44b   円形   14   12   24   25   51以上り新   270   4人木   円形   30   27   3   27.5   22人」     1271、131より新   270より方   4人木   4人人   4人木   4人人														313 4. 7 10
299 住													-	S13 l- n #F
272	P269	柱穴	円形	27	24	40	27. 2	据埋:6Aa	円形	14		2A	あ	柱切取
222	P270	小穴	円形	30	27	3	27.5	22Aj	-	-	-	-	-	
288	P271	小穴	楕円形	42	26	41	27	4Ag	-	-	-	-	-	
283   小穴   楕円形   30   17   20   27.4   6Ab - 1   一   一   一   一   一   一   一   一   一	P282	小穴	円形	25	23	19	27. 2	4Aa • 1	-	-	-	_	-	
284 小穴 円形? (20) (15) (15) (15) 27.4 12Ae・k														P282より古
288	P283	小穴	楕円形	30	17	20	27. 4	6Ab • 1	_	_	_	_	-	P284、SI3より新 堆1:小石少量
288	P284	小穴	円形?	(20)	(15)	(15)	27.4	12Ae • k	-	-	-	-	-	
288 住穴 円形 28 27 27 27.5 編集:64c 円形 16 14 2A 5 柱切取  287 住穴 楕円形 70 - 29 27 切穴:44c 円形 24 - 3A 5 柱切取  297 柱穴 楕円形 33 28 26 27.6 4Ad 円形 23 22 4A 5  297 柱穴 楕円形 28 22 29 27.7 8Ad 円形 17 16 9A 5  222 柱穴 円形 30 30 23 27.5 8Ad 円形 14 14 9A 5  233 柱穴 円形 25 22 26 27.4 19Aj  234 小穴 円形 25 22 26 27.4 19Aj  237 柱穴 楕円形 31 32 15 27.6 8Aa 楕円形 19 13 2A 1、 25.5 25.6 25.6 25.6 25.6 25.6 25.8 26.8 27.4 19Aj  238 柱穴 楕円形 43 32 15 27.6 8Aa 楕円形 19 13 2A 1、 25.5 22.8 26 27.4 19Aj  239 柱穴 楕円形 51 40 16 27.7 2Aa 円形? (27) 27 1A 5 29.25 28.8 29.2 10Aa	P285	小穴	円形	28	25	19	27. 6	2Ad	-	-	_	_	-	510 % 7 %
287   柱穴 楕円形   70   - 29   27   28   27   28   27   27   28   27   28   28	P286	柱穴	円形	28	27	27	27. 5		円形	16	14	2A	あ	柱切取
287 世					2.									
技元   横円形   28   22   9   27.7   SAd   円形   17   16   9A   あ   5	P287				-			掘埋:6Aa			-			性切取
292   柱穴   円形   30   30   23   27.5   44d   円形   14   14   94   5	P290												-	
293 柱穴 楕円形 34 26 15 27.6 23Ad 円形 18 17 4A う 294 小穴 円形 25 22 26 27.4 19Aj 297 柱穴 楕円形 43 32 15 27.6 8Aa 楕円形 19 13 2A い 243.5 P265、P268、E383上り新 298 柱穴 楕円形 51 40 16 27.7 2Aa 円形? (27) 27 1A あ P265、P268、E383上り新 2902 小穴 楕円形 30 22 20 27.2 2Ag 2003 小穴 円形 22 20 28 29.2 10Aa 2004 小穴 岡丸方形 34 30 30 29.1 4Ac 2005 小穴 岡丸方形 34 30 30 29.1 4Ac 2006 小穴 円形 24 24 20 29 4Ag 2007 小穴 円形 24 23 12 29.3 2Ag 2008 小穴 円形 24 23 12 29.3 12 29.3 12 Ag 2016 柱穴 円形 33 28 25 28.7 6Aa 円形 11 10 4A あ 11 28.8 10Ac 2017 神穴形 33 28 25 28.7 6Aa 円形 11 10 4A あ 12 28 28 28 28 28 28 28 28 28 28 28 28 28	P291													
294	P292													
297 柱大 楕円形 43 32 15 27.6 84a 楕円形 19 13 2A い 23A3・P296より古 298 柱穴 楕円形 51 40 16 27.7 2Aa 円形? (27) 27 1A あ P265、P285、S30・P361、F361、F361、F361、F361、F361、F361、F361、F	P293									18		4A	う	
257 世	P294	小穴	円形	25	22	26	27. 4	19Aj	-	-	-	-	-	
288 住へ 何下形 34 40 10 21.4 22ag 「下形? 32.7 21ag 「下形? 32.7 21ag 「下 1 1 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	P297	柱穴	楕円形	43	32	15	27. 6	8Aa	楕円形	19	13	2A	V	P265、P298、SK9より新
302   小穴   楕円形   30   22   20   27.2   2Åg	P298	柱穴	楕円形	51	40	16	27. 7	2Aa	円形?	(27)	27	1A	あ	P265、SA3・P296、 P297より古 SK9より新
930	P302	小穴	楕円形	30	22	20	27. 2	2Ag	_	-	-	-	-	
1970   小穴 円形   24   24   20   29   4Ag       1812 上 9 新   18	P303	小穴	円形	22	20	28	29. 2	10Aa	-	-	-	-	-	
1970   小穴 円形   24   24   20   29   44g	P305	小穴	隅丸方形	34	30	30	29. 1	4Ac	-	-	-	-	-	SB26・P304より古
310   小六   円形   24   23   12   29.3   2Ag	P309			24	24	20	29	4Ag	_	-	_	-	-	SK12より新
316 柱穴 円形 33 28 25 28.7 6Aa 円形 11 10 4A か 331 28 27 15 28.8 10Ac ー ー ー ー ー ー ー 322 27 15 28.8 10Ac ー ー ー ー ー ー ー ー 323 4 小穴 円形 18 17 11 28.9 6Ag ー ー ー ー ー ー ー ー	P310								_	_	_	_	-	上申審
318	P310											48		
324 小穴 円形 18 17 11 28.9 6Ag	P318	-												
328														
228 住穴 柳外ルカル 42 37 20 28.8 6Am 円形 14 13 4A か P330より新 333 柱穴 円形 58 (48) 10 28.9 7Ab 円形 16 14 4A か P320より古 333 小穴 円形 44 40 11 29.2 1曜 6Ag -1	P324													
339   柱穴 円形   58   (48)   10   28.9   7Ab   円形   16   14   4A   あ   F329より古   7Ab   円形   16   14   4A   あ   F329より古   7Ab	P328							2層:4Aa						
333   小穴 円形   44   40   11   29.2   1曜:6Åg · 1	P329	柱穴	楕円形	42	37	20	28.8	6Aa	円形	14	13	4A	あ	P330より新
338 小穴 円形   33   29   9   29.2   44k · 1     -   -	P330	柱穴	円形	58	(48)	10	28. 9		円形	16	14	4A	あ	
338   小穴   円形   33   29   9   29.2   44k・1	P333	小穴	円形	44	40	11	29. 2	1層:6Ag・1 2層: 4Ac	-	-	-	-	-	
340 小穴 楕円形   60   53   44   29.3   4Ac・i     -	P338	小穴	円形	33	29	9	29. 2		_	-	_	-	-	SB31・P339より新
342   小八   円形   23   23   16   29.1   44g     2528   P343より新   247   柱穴   円形   26   35   16   29.3   64b   円形   20   17   4A   3   5826   P350   5836   P351より引   252   小八   円形   23   20   14   29.3   44g													H	SB31・P339より新
347 柱穴 円形 36 35 16 29.3 6ab 円形 20 17 4A あ SE29 P348, SS31 P349, SE26 P350, SS30 P351より1 352 小穴 円形 23 20 14 29.3 44g	P340								-	_		_	Ľ	磁器
997 任人 日形 90 30 10 25.0 tool 日形 20 11 43 50 SE26 - P350、SE30 - P351 より 1 352 小穴 円形 23 20 14 29.3 44g	P342	小穴	円形	23	23	16	29. 1	4Ag	-	-	-	-	-	SB28・P343より新
Sago France	P347	柱穴	円形	36	35	16	29. 3	6Ab	円形	20	17	4A	あ	
													L	:000、3800 / [351 未り新
355 小穴   楕円形   34   25   14   29.4   10Aa   -   -   -   -	P352								-	-	-	-	_	
	P355	小穴	楕円形	34	25	14	29.4	10Aa	-	_	-	-	<u> </u>	<u> </u>

	<u> </u>		注					12 At 00					1	
遺構	種	柱穴・ヒ					面標高:m)		柱痕	跡		柱類	(電館・中土造物館)	
番号	類	平面形	長軸	短軸	残存深	底面標高	埋土 堆土	平面形	長軸	短軸	堆土	泛型	(重複・出土遺物等)	
P356	小穴	円形	25	22	7	29. 5	10Aa	-	-	-	-	-		
P357	小穴	円形	28	25	20	29. 2	7Af	1	-	-	-	1	SI4より新	
P358	小穴	楕円形	50	43	13	29. 4	1層: 7Ak 2層:10Aa	-	-	-	-	-		
P359	小穴	楕円形	35	27	18	29. 5	2Ak	-	-	-	-	-		
P360	柱穴	円形	30	28	20	29. 3	4Ab	円形	14	14	4A	あ		
P361	柱穴	円形	29	28	15	29. 4	4Ab·k	円形	11	10	4A	あ		
P362	柱穴	楕円形	63	50	17	29. 3	7Ab	円形	22	21	4A	あ		
P363	柱穴	円形	30	22	10	29. 3	10Aa	円形	15	12	2A	あ		
P364	小穴	楕円形	40	35	18	29. 3	4Ak	-	-	-	-	-		
P365	柱穴	楕円形	37	32	10	29. 3	6Ak	円形	18	16	4A	あ		
P366	小穴	円形	31	30	15	29. 1	4Ag	-	-	-	-	-		
P367	柱穴	円形	33	33	11	29. 2	4Ad•k	楕円形	21	16	2A	あ		
P368	小穴	円形	25	25	10	29. 2	2Ak	-	-	-	-	-		
P369	小穴	楕円形	23	18	16	29. 2	4Ag	-	-	-	-	-		
P370	柱穴	円形	44	43	15	29	10Aa	円形	15	14	2A	あ		
P372	小穴	円形	22	18	10	29. 2	2A1	1	ı	1	ı	1	SB29・P371より新 堆1:炭片、焼土粒子微量	
P373	小穴	円形	36	32	34	28.8	6Aa	-		-		-		
P374	柱穴	円形	23	23	35	28. 8	10Aa	円形	13	11	4A	あ		
P375	小穴	円形	24	21	13	29.1	6Ak	ı	-	-	-	1		
P376	小穴	楕円形	23	18	15	29.1	4Ag	-	-	-	-	-		
P377	小穴	楕円形	41	34	18	29	1層:6Ab・1 2層: 4Ab	-	-	-	-	-	堆1:炭片少量	
P380	小穴	円形	19	18	15	28.9	4Ag	-	-	-	-	-	SB31・P381、 SB30・P384より新	
P386	小穴	円形	18	18	18	28.9	7Ab	-	-	-	-	-		
P387	小穴	円形	24	23	19	28.8	4Ag	-	-	-	-	-		
P388	小穴	円形	22	18	13	28. 9	4Ag	1	-		-	-		
P389	小穴	円形	19	19	16	28. 9	7Ab	1	-		-	-		
P390	小穴	円形	26	25	9	28.9	2Af•j	-				_		
P393	小穴	楕円形	27	19	14	28.8	4Ak	ı				1	SB32・P394より新	
P398	小穴	円形	20	20	12	28. 9	7Ak • 1	-	_	_	_	-	堆1:炭片微量	
P399	小穴	円形	27	27	8	29	4A1	-	-	-	-	-	SK13より新 堆1:焼土粒子少量	

#### ●ピット(柱穴・小穴)類型



#### ●その他の記載事項

- ■柱穴・ピットの計測値
- (数値) は推定値を示す
- ■柱穴・ピット掘欄の「埋土・堆土(堆積土)」記載事項
- ・柱穴の場合は「掘方埋土」を意味する
- ・「1 層・2 層」等の記載:「柱穴・小穴」の埋土等が 2 層以上に分層した場合を示す
- ・「抜穴」: 柱抜き取り穴の埋土・堆積土 / 「抜穴1」: 抜き取り穴1層の埋土・堆積土
- ・「切穴」:柱切り取り穴の埋土・堆積土 / 「切穴1」:切き取り穴1層の埋土・堆積土
- ■備考欄の記載事項
- ・柱抜取:柱が抜き取られているもの ・柱切取:柱が切り取られているもの
- ・この他、重複関係・出土遺物を記載

### 第16-3表 石垣遺跡 ピット 属性表(3)

										第	516	3-3	3表	、 石垣遺跡 ヒ
	遊	梢	柱穴掘	方(5	長軸・短	轴:cm、	底面標	高 : m)		柱痕			柱	
			平面形	長軸		残存深	底面標高	埋土 堆土	平面形	長軸	短軸	堆土		
140	P403	柱穴	円形?					切穴:4Aa·k	円形	12	11	6A	あ	
	P404	小穴	権円形	40	34	8	29. 1		_	_	_	_	_	堆1:炭片少量、焼土ブ多量
No.   No.	P407								_	_	_	_	_	土即器
Policy				-						19		6A	あ	
Figure 1.1. Properties of the continue o														
No.         No. <td>P414</td> <td>柱穴</td> <td>隅丸長方形</td> <td>50</td> <td>46</td> <td>40</td> <td>28. 6</td> <td></td> <td>楕円形</td> <td>28</td> <td>24</td> <td>4A</td> <td>11</td> <td>土師器</td>	P414	柱穴	隅丸長方形	50	46	40	28. 6		楕円形	28	24	4A	11	土師器
No.   No	P431	小穴	円形	20	16	13	28.8		-	-	-	-	-	堆1:焼土粒子微量
	P435	小穴	円形	50	49	18	28. 4		-	-	-	-	-	
PACE         PACE <th< td=""><td>P436</td><td>小穴</td><td>円形</td><td>40</td><td>38</td><td>12</td><td>28. 4</td><td>10Ag</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td></td></th<>	P436	小穴	円形	40	38	12	28. 4	10Ag	-	-	-	-	-	
Policy         Amery Result	P439	小穴	円形	22	21	14	28.6	4Ag	-	-	-	-	-	
Policy         Amery Result	P365		楕円形	37	32	10	29. 3		円形	18	16	4A	あ	
Professor         Professor <t< td=""><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></t<>														
Peach	P367	杜宗	四形	22	33	11	20.2		梅田彩	21	16	24	本	
Page														
Page														
No.         No. <td></td> <td></td> <td></td> <td>-</td> <td></td>				-										
Mathematical Colora														SB29・P371上り新
Part														堆1:炭片、焼土粒子衡量
Page	-													
Post Path Path Path Path Path Path Path Pat				-						13	11		あ	
Pote Path Path Path Path Path Path Path Path				-						_	_		-	
18th								1層:6Ab·1						<b>催1:</b> 岸片少量
Page								2層: 4Ab						
Page				-										ono1・roo1、SB3U・r384より新
Page				-									_	
Page													-	
Page									_	_	_	_	_	
P398									_	_	_	_	_	
Page   中央				-					_	_	-	_	_	SB32・P394より新
Page									_	-	-	-	-	
PASS   PASS	P399	小穴	円形	27	27	8	29	4A1	-	_	-	_	_	
Post	P403	杜宗	四形?	47	(33)	29	28.7		四彩	12	11	64	杰	SB32・P402より古
Part													_	
P412         社次         同期         43         40         9         29         600         門形         19         13         60         50         200											_	_		
P414         柱穴         開入長が形         50         46         40         28.6         開催日 200         10         11         28.8         411         一一         二十         二十         上野 200         11         28.8         411         一一         二十         二十         一門 200         押託 200         11         28.8         411         二十         二十         二十         一門 200         押託 200         12         28.4         11日本 200         二十				-							-	-		
P41         扩大         與大夫力幣         50         46         40         26         機調(3) 1 40 4 1 4 1 4 1 4 1 4 1 4 1 4 1 4 1 4	P412	杜八	円形	43	40	9	29		円形	19	18	bA.	d)	
P431	P414	柱穴	隅丸長方形	50	46	40	28.6	掘埋2:19Aa	楕円形	28	24	4A	V	土師器
1988   1989	P431	小穴	円形	20	16	13	28.8		-	-	-	-	-	堆1:焼土粒子微量
PASS         小穴         円形         40         38         12         28.4         10Ag         一一	P435	小穴	円形	50	49	18	28. 4	1層:9Ag	-	-	-	-	-	
P440         小穴         円形         26         24         14         28.6         AAf         -	P436	小穴	円形	40	38	12	28. 4		_	-	-	-	-	
P441         小穴         円形         28         28         11         28.7         10Ac         一	P439	小穴	円形	22	21	14	28.6	4Ag	-	-	-	-	-	
P449         小穴         円形         44         48         37         28.7         1월 *** Abd *** 1 28*******************************	P440	小穴	円形	26	24	14	28.6	4Af	-	-	-	-	-	
745   74	P441	小穴	円形	28	28	11	28.7	10Ac	-	-	-	-	-	
P450         小穴         円形         30         28         12         29.1         44g         ー	P449	小穴	円形	44	43	37	28.7		-	-	-	-	-	堆1:炭片
P452         小穴         円形         30         30         15         29.3         4A1         -         -         -         -         -         本         15         21.3         4A1         -	P450	小穴	円形	30	28	12	29. 1		-	-	-	-	-	
PA53         小穴         円形         26         23         7         29.4         Aag         一	P451	小穴	円形	28	27	12	29. 2	10Ab			_	_	L-	
P454         小穴         円形         33         30         17         29.3         4Ag         -	P452	小穴	円形	30	30	15	29.3	4A1	-	-	-	-	-	堆1:炭片
P455         小穴         円形         29         28         4         6Ag         一         上         上         日         日         日         日         日         日         日         日         日         日         日         日         日 <th< td=""><td>P453</td><td>小穴</td><td>円形</td><td>26</td><td>23</td><td>7</td><td>29. 4</td><td>4Ag</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td></td><td></td></th<>	P453	小穴	円形	26	23	7	29. 4	4Ag	-	-	-	-		
P456         小穴         円形         24         23         14         29.4         10Ab         一									-	-	-	-	_	
P457         小穴         楕用形         32         25         22         29.3         6Ab         一									-	-	-	-	-	
P458         性穴         円形         30         29         17         29.4         10Aa         円形         13         10         6A         あ           P459         小穴         円形         34         32         35         29.3         1元 4ab         -														
P459         小穴         円形         34         32         35         29.3         1届:64b         -	-													
P460         小穴         円形         24         2.2         33         2.9.3         2.9.3         2.9.6         2.4.6         -<									円形	13	10	6A	B)	I ACOD
P465         小穴         円形         26         25         24         29.6         GAg         -								2層:4Ac	-	-	-	-	_	工則發
P466         小穴         円形         23         22         12         29.8         10Aa         一								-						
P469         柱穴         円形         37         36         14         29.7         7Ab         円形         15         14         6A         い           P471         柱穴         円形         38         37         22         29.7         7Ab         円形         14         6A         か           P473         小穴         円形         44         (30)         14         29.7         10Ac         —         <	-													
P471         柱穴         円形         38         37         22         29.7         7Ab         円形         14         14         6A         あ           P473         小穴         円形?         44         (30)         14         29.7         10Ac         —				-										
P473         小穴         円形?         44         (30)         14         (29.7)         10Ac         一				-										
P479         小穴         円形         26         25         10         29.9         6Ab         -										-	-		-	SB36・P472より古
P481         小穴         円形         28         26         35         29.5         6An         -										_	_		-	
P485       小穴       円形       45       45       20       29.9       7Af · 1       -				-						-	-	-	-	
P485         小穴         円形         45         45         20         29.9         7Af · 1         一	P484			34	26	17	29. 9	10Ag	-	-	-	-	-	
P487     小穴     楕円形     43     25     20     29.7     6Af · k     -	P485			45	45	20			-	-	-	-	-	堆1:炭片含む
P488         小穴         円形         34         33         6         29.1         98k         -			円形	24	23	9	29.8	6Ac		_	_	_	_	
P469     小穴     楕円形     40     32     17     29.1     GBk     -     -     -     -     -     -       P480     小穴     円形     20     20     15     29.3     6Åg     -     -     -     -     -     -       P491     小穴     円形     36     34     18     29.9     4ÅK     -     -     -     -     -     -	P486	小穴						010 1		_	_	-	_	
P490     小穴     円形     20     20     15     29.3     6Ag     -     -     -     -     -       P491     小穴     円形     36     34     18     29.9     4Ak     -     -     -     -     -     -			楕円形	43	25	20	29. 7	bai · k					_	
P491 小穴 円形 36 34 18 29.9 4Ak	P487	小穴		-					-	-	-	-	-	
	P487 P488	小穴	円形	34	33	6	29. 1	9Bk	-	-	-	-	-	
P492         小穴         楕円形         43         33         20         29.9         4Ak         -	P487 P488 P489	小穴 小穴 小穴	円形	34 40	33 32	6	29. 1 29. 1	9Bk 6Bk						
	P487 P488 P489 P490 P491	小穴 小穴 小穴 小穴 小穴	円形 楕円形 円形	34 40 20 36	33 32 20 34	6 17 15	29. 1 29. 1 29. 3 29. 9	9Bk 6Bk 6Ag 4Ak	-	-	-	-	-	

<u>'ツ</u> ト	//-	岛 (土)					- Amerika -			24			
造番		柱穴・ピッ							柱痕	跡		柱類	備考
帝	7	平面形	長軸	短軸	残存 深	底面 標高	埋土 堆土	平面形	長軸	短軸	堆土	型	(重複・出土遺物等)
P493	小穴	円形	37	36	11	30	6Ak	-	-	-	-	-	
P494	小穴	楕円形	32	27	11	30.4	10Ac • 1	-	-	-	-	-	堆1:炭片少量
P495	小穴	円形	28	25	19	29.9	10Ak • 1	-	-	-	-	-	堆1:炭片微量
P496	小穴	円形	22	22	17	29.9	6Ak • 1	-	-	-	-	-	堆1:炭片微量
P497	小穴	楕円形	45	35	7	30	6Ak • 1	-	-	-	-	-	堆1:炭片、焼土粒子微量
P498	小穴	円形	39	35	16	30	6Bk • 1	-	-	-	-	-	堆1:炭片
P499	小穴	楕円形	45	38	23	30.6	10Bk	-	-	-	-	-	
P500	小穴	円形	38	37	19	30.8	10Bk • 1	-	-	-	-	-	堆1:炭片微量 土師器
P501	小穴	楕円形	60	46	19	31	7Aj•1	-	-	-	-	-	堆1:炭片、焼土ブ 土師器
P502	小穴	円形	19	17	13	30. 9	4Ag	-	-			-	
P503	小穴	円形	50	48	33	30.5	6Ak • 1	-	-	-	-	-	堆1:炭片、焼土ブ微量 土師器
P504	小穴	円形	38	36	25	30.3	6B1	-	-	-	-	-	SI7より新 堆1:炭片、焼土ブ多量
P505	小穴	円形	45	41	24	30.7	6Aj•k• 1	-	-	-	-	-	堆1:炭片少量
P506	小穴	円形	46	42	18	30.8	10Ai•k	ı	-	ı	ı	-	縄文土器
P507	小穴	円形	25	24	9	30.9	10Bj	-	-	-	-	-	
P508	小穴	円形	23	20	17	30.8	10Bk	-	-	-	-	-	
P509	小穴	円形	34	32	24	30.7	6Bk	-	-	-	-	-	
P510	小穴	円形	33	33	23	30.8	6Bk	-	-	-	-	-	
P511	小穴	円形	37	36	34	30.6	7Bk	-	-	-	-	-	
P512	小穴	円形	30	30	20	30. 9	10Bj	-	-	-	-	-	
P513	小穴	円形	40	37	34	31	10Bj•k	-	-	-	-	-	土師器
P514	小穴	円形	20	20	22	28. 9	4Ag	-	-	-	-	-	
P515	小穴	円形	19	18	10	29	4Ag	-	-	-	-	-	
P516	小穴	円形	25	22	10	29	10Ab • 1	-	-	-	-	-	堆1:黒色土ブ
P518	柱穴	楕円形	63	35	23	28.9	9Aa	円形	19	16	4A	あ	SK10より古
P519	小穴	円形	21	20	13	27. 1	10A1	-	-	-	-	-	P117より古 堆1:炭片

#### ●ピット(柱穴・小穴)類型

	/ 及王	
【柱類型】		
あ:柱痕跡が柱穴掘方	■ い:柱痕跡が柱穴	掘方
底面に接するもの	■ 底面まで至ら	ない
	- ! もの	
	,	
う:柱痕跡が柱穴掘方		
底面よりさらに下 💆		
に延びるもの		
【柱痕跡・堀方の埋土・堆積土	類型】	
■土色		
1: 黒色(10YR2/1)	2: 黒褐色 (10YR3/1)	3: 黒褐色 (10YR2/2)
4: 黒褐色 (10YR3/2)	5: 黒褐色(10YR2/3)	6: 暗褐色 (10YR3/3)
7: 暗褐色 (10YR3/4)	8: 褐灰色 (10YR4/1)	9: 灰黄褐色(10YR4/2)
10: にぶい黄褐色 (10YR4/3)	11: にぶい黄褐色 (10YR5/3)	12: 褐色 (10YR4/4)
13: 褐色 (10YR4/6)	14: にぶい黄褐色(10YR5/4)	) 15: 黄褐色(10YR5/6)
16: にぶい黄褐色(10YR6/4)	17: 明黄褐色 (10YR6/4)	18: 黒褐色 (7.5YR3/1)
19: 黒褐色 (7.5YR3/2)	20: 暗褐色 (7.5YR3/3)	21:暗褐色 (7.5YR3/4)
22: 褐灰色 (7.5YR4/1)	23:灰黄褐色 (10YR4/2)	24:暗赤褐色 (2.5YR3/2)
■土性		
A: シルト B: 砂質シルト		
■混入物		
a: 地山ブロック多く含む	b: 地山ブロック含む c: 地山	プロック少量含む
d: 地山ブロック微量含む	e: 地山粒子多く含む f: 地山	粒子含む
g: 地山粒子少量含む	h: 礫多く含む i: 礫含	it
j: 小礫含む	k: その他(上記以外のもの※	)
※k を選択した場合は備さ	5欄に堆積土混入物を記載	
※備考欄幅の関係から、	下記の内容については記載を行	<b>当略した</b>
炭化物片→炭片 焼土:	ブロック→焼土ブ	
【記載例】		
1Aa・・・土色: 黒褐色 (10	YR3/1)、土性:シルト、混入	物:地山ブロック多く含む

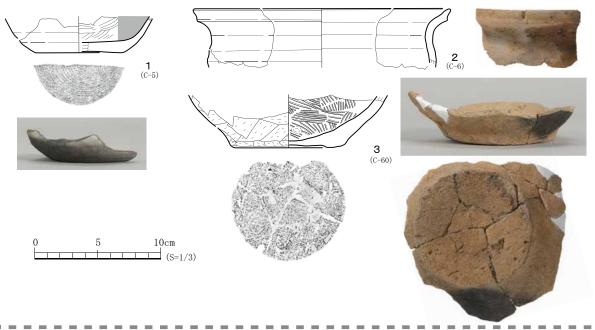
#### ●その他の記載事項

- ■柱穴・ピットの計測値
- (数値) は推定値を示す
- ■柱穴・ピット掘欄の「埋土・堆土(堆積土)」記載事項
- ・柱穴の場合は「掘方埋土」を意味する
- ・「1 層・2 層」等の記載:「柱穴・小穴」の埋土等が 2 層以上に分層した場合を示す
- ・「抜穴」:柱抜き取り穴の埋土・堆積土 / 「抜穴1」:抜き取り穴1層の埋土・堆積土
- ・「切穴」:柱切り取り穴の埋土・堆積土 / 「切穴1」:切き取り穴1層の埋土・堆積土
- ■備考欄の記載事項
- ・柱抜取:柱が抜き取られているもの ・柱切取:柱が切り取られているもの
- ・この他、重複関係・出土遺物を記載

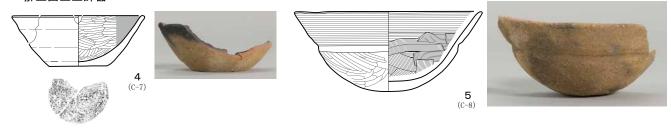
# (5) 遺構検出面、排土等出土遺物(第129図)

このほか、遺構検出面・排土・撹乱などから縄文土器・土師器・須恵器・陶器・磁器・石器が出土した。 このうち図示できたものは、土師器坏(第 129 図  $1\cdot 4$ )、甕(第 129 図  $2\cdot 3$ )、鉢(第 129 図 5)、陶器擂鉢 (第 129 図  $6\cdot 7$ )、磁器徳利(第 129 図 8)である。

### B区検出面出土土師器



#### 排土出土土師器



B 区検出面・撹乱出土陶磁器

No.	遺構・層	種別	器種	残存	特徴【技法(外面・内面)→色調(外面・内面)→法量→その他の特徴の順に記載】	登録
1	B区 検出面	土師器	坏	胴部 ~底部	外面:ロクロナデ・底部回転糸切り無調整、内面:ヘラミガキ・黒色処理、色調:外面・黒褐色(10YR3/1)、内面・黒色(N2/0)、法量:底径(8,8)cm・残存高2,9cm・器厚0,4~0,9cm	C-5
2	B区 検出面	土師器	甕	口縁部	外面:ロクロナデ、内面:ロクロナデ、色調:外面・にぶい褐色(7.5YR6/3)、内面・にぶい赤褐色(5YR5/4)、 法量:口径(20.4)cm・残存高4.7cm・器厚0.5~0.6cm	C-6
3	B区 検出面	土師器	甕	底部	外面: ヘラ削り・底部輪台技法、内面: ハケメ・底部指オサエ、色調: 外面・にぶい褐色(7.5YR5/4)、内面・にぶい橙色(7.5YR6/4)、法量: 底径8.8cm・残存高4.2cm・器厚0.4~1.3cm	C-60
4	B区 排土	土師器	坏	口縁部~底部	外面:ロクロナデ・底部切り離し技法不明→回転へラ削り再調整、内面:ヘラミガキ・黒色処置、色調:外面・にぶい黄褐色(10YR5/3)、内面・黒色(N2/0)、法量:口径(10.5)cm・器高4.0cm・底径(4.6)cm・器厚0.4~0.8cm	C-7
5	B区 排土	土師器	鉢	口縁部 〜底部	外面:口縁部〜頸部ヨコナデ・胴部〜底部〜ラミガキ、内面:ヘラナデ→ヨコナデ、色調:外面・にぶい橙色 (7.5YR6/4)、内面・橙色(7.5YR6/6)、法量:口径14.3cm・器高6.3cm・器厚0.3~0.8cm	C-8

No.	層	種別	器種	残存	特徴	登録
6	B区検出面	陶器	擂鉢	底部	法量: 残存高3.5cm・器厚1.2~1.8cm、おろし目、鉄釉、産地・時期不明	I-1
7	B区検出面	陶器	擂鉢	口縁部	法量:器厚0.6~1.0cm、鉄釉、産地:岸窯、17世紀中葉	I-2
8	B区撹乱	磁器	徳利	胴部	法量:器厚0.3~0.4cm、染付草花文、産地不明、19世紀代	J-1

第129図 その他の出土遺物-検出面・排土-

# 第Ⅳ章 総 括

今回の調査で検出した遺物・遺構について、ここでは、その特徴や時期を検討し、本遺跡における各時代 の特徴をまとめる。

# 1. 出土遺物の特徴と時期

出土した遺物は、縄文土器、土師器、須恵器、陶器、磁器、石器である。出土した土器類の総数は 914 点 (約 19, 115g)、出土した石器類の総数は 1 点 (15g) である。このうち、土器類の内訳は、縄文土器が 65 点 (約 1, 180g)、土師器が 826 点 (約 17, 155g)、須恵器が 19 点 (約 670g)、陶器が 2 点 (約 45g)、磁器 2 点 (65g) である。これらの出土遺物のうち、本報告では、土器類 71 点について図示した。なお、それぞれの遺構から出土した遺物については第 17 表にまとめた。

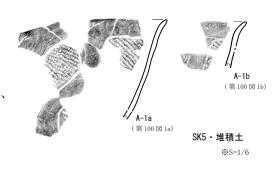
以下、それぞれについて検討を行う。

第17表 石垣遺跡 遺物出土状況

5	出土層位 堆積土 - 6層	縄文土器 3 (45)	【上段:出3 土 師 器	出土 土点数、「 須	.点数 F段:乾燥	₽重量 (g)							di 4	L ± 46								<b></b>			
構名 SI2	堆積土	文 土 器	土師器	須	出土点数 【上段:出土点数、下段:乾燥重量(g)】			- 1	貴	出上	± 40					遺	出	出土点数 【上段:出土点数、下段:乾燥重量(g)】							
4J 5 床	層			惠器	陶器	磁器	<u>a+</u>	4	構名	土層位	縄文土器	土師器	須惠器	陶器	紫森	ät	構名	土 層 位	縄文土器	土 師 器	須惠器	器	常森	石器	81
5 床		(40)	1 (1) (5)				4 (50)	SA2	P11	掘方 埋土	1 (5)					1 (5)	SK3	堆積土	6 (25)						6 (25)
床	- 6屋		7 (7) (110)				7 (110)	SA4	P474	掘方 埋土		3 (10)				3 (10)	SK5	堆積土	12 (460)						12 (460)
排	U/III		20 (20) (180)	1 (90)			21 (270)		P120	掘方 埋土	1 (15)					1 (15)	SK11	底面		1 (5)					1 (5)
- F	ま 面		19 (19) (175)				19 (175)	SB10	P129	柱抜 取穴		1 (5)				1 (5)	SK13	1層		12 (12) (170)					12 (170)
SI4 Pa	量方埋土		1 (1) (120)				1 (120)		小		1 (15)	1 (5)				2 (20)	SK19	1層		1 (1) (20)					1 (20)
	理工		1 (1) (5)				1 (5)	SB14	P152	柱抜 取穴		1 (15)				1 (15)	SK25	堆積土		7 (2) (25)					7 (25)
P2	2 掘方 埋土		1 (1) (5)				1 (5)	SB20	P216	柱抜 取穴	(30)					1 (30)	SK27	1層		2 (1) (10)					2 (10)
P	5 1層		1 (1) (5)				1 (5)	SB23	P278	柱抜 取穴		1 (10)				1 (10)	SK28	1層		273 (249) (4120)	5 (275)				278 (4395)
Sł	K1 1層		1 (1) (10)				1 (10)		P335	柱切取穴		1 (1)				1 (5)	SK29	2層	3 (25)						3 (25)
	小計		51 (51) (610)	1 (90)			52 (700)	SB26	P350	柱抜 取穴		4 (3) (20)				4 (20)	P53	掘方 埋土	4 (10)						4 (10)
床	R面		2 (2) (180)				2 (180)	3020	P354	柱取		3 (1) (15)				3 (15)	P68	掘方 埋土	7 (140)						7 (140)
カ	フマド燃焼部	5	20 (20) (165)	5 (30)			25 (195)		小	計		8 (5) (40)				8 (40)		柱切 取穴			1 (5)				1 (5)
SI5 オ	ワマド煙出P		12 (12) (115)				12 (115)		P327	掘方埋土		1 (1) (10)				1 (10)	P128	掘方 埋土		2 (5)					2 (5)
	フマド袖 (東)		10 (5) (60)	1 (5)			11 (65)		P343	柱切 取穴		1 (10)				1 (10)		小計		2 (5)	1 (5)				3 (10)
	小計		44 (39) (520)	6 (35)			50 (555)	SB28	P346	柱切 取穴		1 (15)				1 (15)	P161	掘方 埋土		1 (10)					1 (10)
SI6	2層		13 (13) (105)	1 (150)			14 (255)		P382	柱切 取穴		13 (3) (25)	1 (50)			14 (75)	P309	1層		1 (1)					1 (5)
3/	層		11 (11) (65)	2 (40)			13 (105)		小	計		16 (4) (60)	1 (50)			17 (110)	P340	堆積土					1 (50)		1 (50)
カ上	マド燃焼部 :層		10 (5) (115)				10 (115)		P327	掘方 埋土		1 (20)				1 (20)	P404	1層		3 (3) (55)					3 (55)
SI7 Å	ワマド煙道		2 (2) (10)				2 (10)	SB29	P382	柱切 取穴		1 (1) (10)				1 (10)	P414	掘方埋土		1 (1)					1 (5)
P1	1 掘方 埋土		1 (1) (5)				1 (5)		小	計		2 (1) (30)				2 (30)	P459	1層		1 (1)					1 (5)
	小計		24 (19) (195)	2 (40)			26 (235)		P341	掘方 埋土		2 (5)				2 (5)	P500	1層		8 (8) (45)					8 (45)
堆	推積土		2 (520)				2 (520)		P345	掘方 埋土		2 (5)				2 (5)	P501	1層		1 (1)					1 (5)
2)	層		6 (190)				6 (190)	SB30	P351	柱抜 取穴		1 (5)				1 (5)	P503	1層		1 (1) (10)					1 (10)
2	• 3層		10 (80)				10 (80)		P384	柱抜 取穴		3 (3)				3 (5)	P506	堆積土	4 (35)						4 (35)
SI8 3	層		10 (2005)				10 (2005)		小			8 (3)				8 (20)	P513	1層	(00)	2 (35)					2 (35)
房	ド面		8 (130)				8 (130)	SB31	P307	柱抜 取穴		1 (1)				1 (5)	検出面		11 (155)	43 (25)		2 (45)			56 (1035)
SI	K1 1層		1 (25)				1 (25)		P383	柱抜 取穴		1 (1)				1 (10)	搅乱		12 (235)	2 (2)		(10)	1 (15)		15 (260)
F	小計		37 (2950)				37 (2950)	SB32	P406	柱抜 取穴		2 (2) (20)				(20)	表土		(200)	2 (145)			(10)		(260) 2 (145)
杉	食出面		15 (4)				15	I	小	- 0-7 -		3 (3)				3	表採			(145)				1	1
H	<b>推積土</b>	-	(60)				(60)	SB33	P395	柱抜		(30)				(30)	排土			32 (6)	1			(15)	(15)
H	層		(55)				(55) 37	SB34	P428	取穴 掘方		(15) 2 (2)				(15)		計	65	(830) 826 (462)	(15) 19	2	2	1	(845) 915
			(2685) 115				(2685) 115			埋土 掘方		(70)	1			(70) 1		i ei	(1180)	(17155)	(670)	(45)	(65)	(15)	(19130)
SI9	・3層		(1800)				(1800)	SB35	P443	埋土			(10)			(10)									
PF	5 掘方 埋土		1 (10)				1 (10)	SB36	P467	柱抜 取穴		2 (5)				2 (5)									
SF	K1 1層		37 (1455)				37 (1455)	SB37	P483	掘方 埋土		1 (1) (5)				1 (5)									
SF	K2 1層		4 (35)				4 (35)									器の点数であ									
	小計		210 (4) (6100)				210 (6100)	0	り総重量	(g) (		)」である		、下段	()内の	数字が「出土	遺物								

### (1) 縄文土器 (第130図)

縄文土器は65点出土した。図示できたものは、SK5から出土した深鉢(第100図1a・b)1点のみである。全体として小破片が多く、器形・文様の検討が十分に行えないものが多かった。第100図1a・bは、平口縁で口縁部が外反する深鉢である。胴部を沈線によって区画したのちLR縄文を施したものであり、中期後葉の大木9式に位置付けられる。大木9式土器は、大木9a式、大木9b式に2分される(宮城県教育委員会1988ほか)。土器は、破片資料であるが、体部文様帯にみられるステッキ状あるいは楕円の表現が縦に配置される点から大木9b式に位置付けられると考えられる。



第130図 石垣遺跡出土縄文土器

### (2) 土師器

#### 1) 土師器の特徴

826 点出土し、このうち 63 点を図示した。これらは、非ロクロ成形のもの(364 点)とロクロ成形のもの(462 点)に分けられる。以下、非ロクロ成形とロクロ成形に分けてその特徴について示す。

### ①非ロクロ成形 (第131図)

非ロクロ成形の土師器は SI8・9 竪穴住居跡及び検出面・廃土から出土し、このうち 21 点図示した。出土器種は、鉢、器台、壺、甕である。

鉢 (第 34 図 1~4b・第 129 図 5) は、いずれも半球形に近い胴部に、外上方にのびる口縁が付くもので、底部が丸底のもの (第 34 図 2・第 129 図 5)、平底のもの (第 34 図 1)、凹むもの (第 34 図 3・4b) がある。器面調整は、内外面の口縁部にヨコナデ・口縁部~底部に丁寧なヘラミガキを施すもの (第 34 図 1・3・4a・4b)、内外面の口縁部にハケメ→ヨコナデ・外面の胴部にヘラミガキ・内面の胴部~底部にヘラナデを施すもの (第 34 図 2)、外面の口縁部にヨコナデ・胴部~底部にヘラミガキ、内面の口縁部にヨコナデ・胴部~底部にヘラナデを施すもの (第 129 図 5) がある。

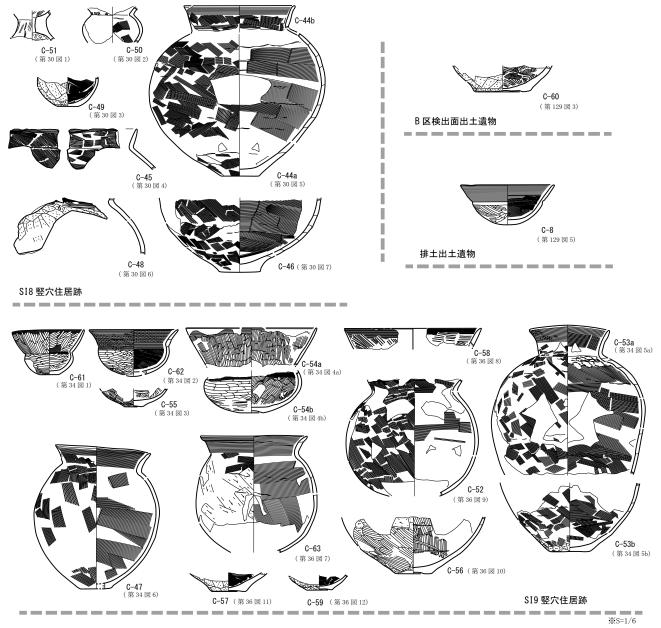
器台(第30図1)は、受部の一部と脚上部のみが残存しており、全体の器形は不明である。受部内面・脚部外面にヘラミガキ、脚部内面に指オサエを施し、貫通孔が認められる。

壺(第34図5a・5b)は、平底で短く外傾する単純口縁の壺で、外面の口縁部~胴部下半にハケメ→口縁部ヨコナデ・胴部ナデ・底部へラ削りを施し、内面の口縁部にハケメ→ヨコナデ・胴部上半にヘラナデ→指オサエ・胴部下半にハケメ→ヘラナデを施す。第36図10は、底部資料のため、甕の可能性もあるが、内外面に丁寧なヘラミガキを施していることから、壺の底部である可能性が高いと考えられる。

甕は8点図示した。出土した甕のうち、口縁部が残存しているものは、いずれも口縁部が外傾して立ち上がる単純口縁のもので、底部は平底である。甕の器面調整については、第30図5の甕は、内外面の口縁部にハケメ→ヨコナデ、外面の胴部にハケメ→胴部上半にナデ、内面の胴部にヘラナデを施す。第34図6の甕は、外面の頸部〜胴部下半にハケメ、内面の胴部〜底部にヘラナデ、内外面の口縁部にヨコナデを施し、底部中央に焼成後の穿孔が認められた。第36図7の甕は、外面の口縁部にヨコナデ・胴部にハケメ→胴部上半〜下半にヘラ削り、内面の口縁部にヨコナデ、胴部にヘラナデを施す。第36図9図の甕は、外面の口

縁部にヨコナデ・頸部~胴部下半にハケメ、内面の頸部にハケメ・胴部にヘラナデを施す。この他、甕の口縁~頸部資料では、内外面の口縁部にハケメ→口縁上部にヨコナデを施すもの(第 30 図 4・第 36 図 8)、頸部にハケメ→胴部上半にヘラ削りを施すもの(第 30 図 6)、底部資料では、外面にハケメ→ナデ、内面にヘラナデを施すもの(第 30 図 7)がある。壺また甕の底部資料はいずれも平底で、外面にヘラ削りを施し、内面がヘラナデのもの(第 36 図 11・12)とハケメのもの(第 129 図 3)がある。なお、壺・甕類のうち、輪台充填技法が確認されたものは 2 点(第 36 図 10・第 129 図 3)ある。

この他、小型の壺また甕と思われる破片資料(第30図2・3)も出土している。



第131図 石垣遺跡出土土師器(非ロクロ成形)

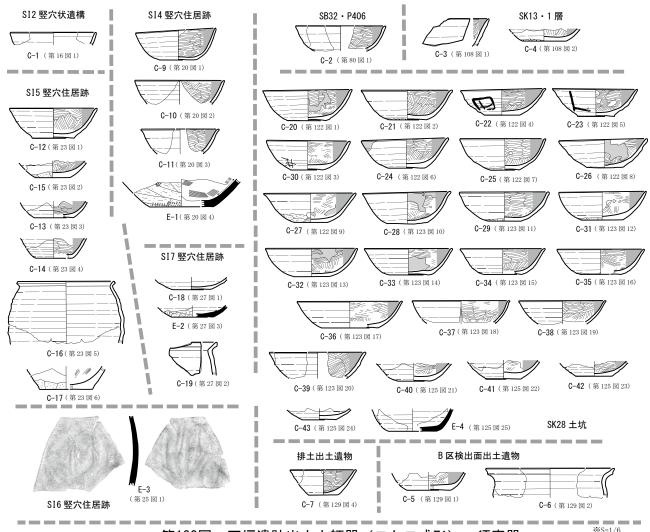
#### ②ロクロ成形 (第132図)

ロクロ成形の土師器は 462 点出土した。器種は、坏、高台付坏、甕である。このうち、図示できたものは、 SI2 竪穴状遺構、SI4・5・7 竪穴住居跡、SB32 掘立柱建物跡柱穴(P406)、SK13・28 土坑、検出面・排土か ら出土した 42 点である。なお、SK28 土坑出土遺物は、遺物の出土状況から一括廃棄された土器群であると

#### 判断される。

坏は 38 点図示した。内面黒色処理・ミガキ調整を施したもの (36 点)と非黒色処理のもの (1 点) (註 1) に分けられる。坏の器形は、境形を呈するもので、底部から内弯気味みに立ち上がり口縁部に至るものである。口縁端部の形態は、外上方に外傾するものがほとんどだが、端部付近が外反するものも認められた。底部が残存している資料のうち、底部の切り離し技法の内訳は、回転糸切り無調整のものが 1 点、回転糸切り→手持ちへラ削り再調整のものが 1 点、回転糸切り→ 周縁部のみ手持ちへラ削り再調整のものが 1 点、切り離し技法不明→手持ちへラ削り再調整のものが 4 点、切り離し技法不明→回転へラ削り再調整のものが 6 点である。外面の調整については、ロクロ成形後、特に調整を行わないものが多いが、胴部下端にへラ削りを施すものも 7 点認められた。なお、SK28 土坑から出土した坏には、ヘラ描きの認められるものが 1 点(第 122 図 3)、墨書の認められるものが 2 点(第 122 図 4:「田」、第 122 図 5:「人」)認められたほか、内面・外面に煤が付着し、器面が非熱を受け部分的に剥落しているものが 1 点(第 122 図 1・2・5~9、第 123 図 10~17・19、第 125 図 22)確認され、これらは「灯明皿」として利用されたと考えられる。

甕は4点図示した。口縁部~胴部資料(第23図5・第27図2・第129図2)は、頸部にくびれを持つもので、このうち、第23図5の甕は、胴部中位に最大径を持つものである。底部資料(第23図6)は、外面の胴部下端にヘラ削り、内面にナデを施すものである。



第132図 石垣遺跡出土土師器 (ロクロ成形)・須恵器

#### 2) 土師器の時期

### ①非ロクロ成形

今回の調査で出土した非ロクロ成形の土師器は、器台、輪台充填技法で製作された壺・甕の存在、土器の器形・製作技術の諸点から古墳時代前期の特徴を有しており、当地域における土師器編年の塩釜式(氏家1957)に位置づけられる。塩釜式については、丹羽茂、次山淳、辻秀人、青山博樹などにより編年案が示されている(丹羽1985、次山1992、辻1995、青山2010)。これらの編年(第18表)を参考にし、当該時期の土師器が多く出土したSI8竪穴住居跡及び9竪穴住居跡出土土器の編年的位置付けについて検討する。

丹羽編年	I 段階		ⅡA 段階	ⅡB段階	Ⅲ段階		
(1985)	1 权怕		11 A 段陷	11日 段陷	皿 权怕		
次山編年	1 段階	階 2 段階 3 段階			4 段階	5•6 段階	
(1992)	1 投門	2 43	X PE	3 段階	4 权恒	3-0 权阳	
辻編年	Ⅱ-1期	Ⅱ-2期	Ⅲ-1 期	Ⅲ-2期	Ⅲ-3 期	Ⅲ-4期	
(1994-1995)	<u>π_ι ₩</u>	ш −2 җј	ш-і жі	ш-2 жі	皿-3 粉		
青山編年	塩釜1式	塩釜1式	塩釜2式	塩釜2式	塩釜3式	塩釜3式	
(2010-2011)	(古相)	(新相)	(古相)	(新相)	(古相)	(新相)	

第 18 表 塩釜式土器 編年対照表(田嶋 2012)

### 【SI9 竪穴住居跡出土土器】

SI9 では、鉢・壺・甕が 216 点出土し、このうち 12 点について図示した。

鉢は、いずれも半球形に近い胴部に、外上方にのびる口縁部を呈するもので、「小型丸底鉢」とよばれる器形のものである。口径が15cm以下の小型のもののほかに、20cm以上の大型のものも含まれる。底部は丸底・平底・凹底があり、器面調整は内外面に丁寧なヘラミガキを施すものと内外面の口縁部にハケメが残り、内面にヘラナデを施すものが認められた。この小型丸底鉢は、次山編年2段階、辻編年Ⅲ−1期、青山編年塩釜2式(古)段階から出現し、大型の丸底鉢は青山編年塩釜2式(新)段階以降に出現するとされている。また、底部が凹底のものは青山編年塩釜2式(新)段階に通有の特徴として定着することが指摘されている(青山2010)。加えて、器面調整が丁寧なヘラミガキのものとハケメ痕跡を残すものが共存しており、粗雑化の要素が一部みられる。以上の特徴から、これらの鉢類は次山編年の2~3段階・辻編年のⅢ-1~2段階・青山編年の塩釜2式(古)~2式(新)に相当すると考えられる。

甕は、いずれも口縁部が外傾して立ち上がる単純口縁のもので、口唇端部を丸くおさめ、胴部中位に最大径があるものである。外面の調整は、口縁部~頸部については、頸部までヨコナデが及ぶものと口縁部中位までヨコナデを施すものがあり、胴部については、ハケメを残すもの、ハケメ→胴部中位までへラ削りを施すものがある。口唇端部を丸くおさめるものは次山編年2段階以降、口縁部~頸部までヨコナデが及ぶものは次山編年3段階以降に位置付けられている。外面胴部の調整では、胴部中位までへラ削りを施すものが含まれるが、ハケメを残すものが主体である。以上の特徴から、これら甕は、次山編年の2~4段階、辻編年のⅢ-1~3段階、青山編年の塩釜2(古)~塩釜3(古)式に幅におさまるものとして捉えておきたい。

#### 【SI8 竪穴住居跡出土土器】

SI8 では、鉢・器台・壺・甕が 27 点出土し、このうち 7 点について図示した。SI9 と比較すると土師器の出土点数は少ない。

器台は、貫通孔がある脚部資料で、全体の器形は不明であり、その位置づけは難しい。器面調整の面では、 内外面ともにヘラミガキを施し、貫通孔径は比較的小さいものである。これらの特徴から丹羽編年のⅡ段階 以降のものであると想定しておきたい。

甕については、口縁形態・外面調整の面で、SI9 出土土器と共通した特徴を有しており、これに近い時期のものであると考えられる。

#### 【検出面・排土出土土器】

この他、検出面・排土からも非ロクロ成形の土師器が出土しているが、これらの特徴が SI8・9 と類似していること、SI9 の周辺で出土したことから、本来は SI9 に帰属するものであると考えられ、SI9 出土土器と同様の年代幅におさまるものと考えられる。

#### 【まとめ】

以上の検討から、SI8・9 竪穴住居跡、検出面・排土から出土した非ロクロ成形の土師器は、古墳時代前期の塩釜式の範疇におさまるもので、鉢・甕の器面調整や形態の特徴から、丹羽編年のⅡ段階、次山編年の2~4 段階、辻編年のⅢ-1~Ⅲ-3 期、青山編年の塩釜2(古)~塩釜3(古)式の枠内で捉えることができると考えられ、塩釜式の中でもおおよそ中頃から後半にかけてのものと推定される。

なお、亘理郡内において、発掘調査により古墳時代前期の土器が出土した遺跡は、北から亘理町の堤の内遺跡 (鈴木 2002)・舘南囲遺跡 (古川ほか 1991)・堀の内遺跡 (亘理町教育委員会 1997)・宮前遺跡 (丹羽 1983)、山元町の北経塚遺跡 (山田ほか 2010・2013) などが挙げられるが、当該時期の土器が多く出土しているのは宮前遺跡のみであり、亘理郡における古墳時代前期の土器変遷については不明な点が多い。今回石垣遺跡で出土した土器群についても、出土量は決して多いとはいえず、土器組成の面でも欠落している器種があることから、その詳細な位置付けについては、今後、周辺地域の調査事例の増加を待って、検討することとしたい。

#### ②ロクロ成形

今回の調査で出土したロクロ成形の土師器は、形態的特徴や製作技法から表杉ノ入式(氏家 1957)の範疇に含まれる。表杉ノ入式は平安時代全般に対応するものと考えられており、多賀城周辺の出土している土師器坏類の様相からいくつかの段階に細分されている(白鳥 1980・1982、加藤 1982、柳澤 1994、村田 1994・1995)。これらの編年を参考にし、土師器坏類が比較的多く出土した SK28 土坑出土土器を中心にその年代について検討を行う。

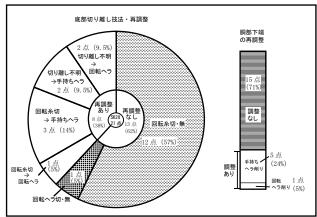
#### 【SK28 土坑出土土器】

SK28 土坑からは、土師器坏・高台付坏・甕が出土した。出土状況から一括廃棄された土器群であると考えられ、このうち、坏類は、図示しなかったものも含めると、250 点中、内黒処理のものが 195 点、非内黒処理のものが 55 点である。器形は、底部から内弯して立ち上がる境形のもので、口縁端部が外傾して立ち上がるものが主体だが、端部が外反して立ち上がるものもわずかに含まれる。外面調整は、胴部下端にヘラ削りの再調整を施すものが 21 点中 6 点に認められた。底部切り離し技法は、回転糸切りのものが主体で、切り離し後再調整を施すものが 21 点中 8 点あり、再調整は回転へラ削り・手持ちへラ削り両者が認められた。法量は、口径 13.2~16.6cm、底径 4.6~9.0cm、器高 4.0~5.2cm で、口径 13~14cm 台・底径 5~6cm 台のものが主体である。底径/口径比は 0.34~0.59 と幅があるが、0.42~0.48 のものが多い。器高/口径比は 0.25~0.38 で、0.35 前後のものが主体である(第 133 図)。

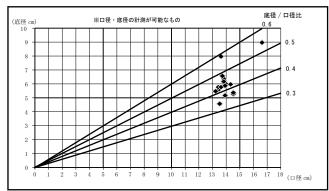
以上、SK28 土坑出土の坏類の主な特徴をまとめると、次のとおりである。①内黒処理を施したもの主体(全体の約8割)で、須恵器の割合は少ない、②器形が埦形、③底部切り離し技法は回転糸切りが主体、④切り離し後再調整を施すものは全体の4割程度(手持ちへラ削りが主体)、⑤胴部下端にヘラ削りの再調整を施すものが約3割、⑥底径/口径比は0.45前後が主体。器高/口径比は0.35前後が主体である。

亘理郡内において、SK28 土坑出土土器群と類似する土器は、亘理町宮前遺跡第 54 号住居跡(丹羽 1981)・三十三間官衙遺跡 SX114 土器埋設遺構(鈴木ほか 2006)、山元町涌沢遺跡 SX118 土器廃棄土坑(宮城県教育委員会 2012)などで出土しているが、その出土量・事例は少なく、未報告のものも含まれるため、周辺地域での位置付けは難しい(註 2)。

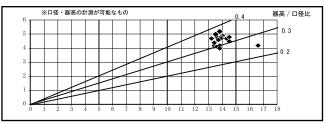
そこで、当該時期の土器変遷について検討が進 められている多賀城周辺出土の土器群と比較する と、SK28 十坑出十十器と法量の面で類似するもの には、多賀城跡第61次調査第10層出土土器群(柳 沢1992)、山王遺跡第9次調査SX543出土土器群(石 川ほか1991)が挙げられ、前者は9世紀後半、後 者は10世紀前葉に位置付けられている(村田・柳 沢)。これらの事例について、製作技法・土器組成 の面でみてみると、前者は、底部切り離し後再調 整が施されるものが約1/2で手持ちヘラ削りが主 体、内黒処理のものが全体の8割以上を占め、胴 部下端のヘラ削り再調整を施すものが約1/2であ るのに対し、後者は、底部切り離し後の再調整・ 胴部下端の再調整が施されるものは全体の 1 割以 下で、内黒処理のものが全体の約3割であり、両 者の間に製作技法・土器組成の違いがみられる。 この両者の特徴と、SK28 土坑出土の坏類の特徴を 比較すると、法量の面では両者に類似しているが、 製作技法・土器組成の面では、多賀城第61次調査 第10層出土土器群に近い特徴を有している。した がって、SK28 土坑出土土器の年代は、9 世紀後半 を中心とするものと考えられる。



石垣遺跡 SK28 出土土師器坏底部・胴部下端の調整

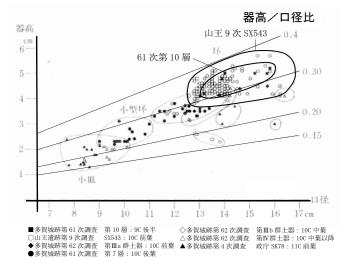


石垣遺跡 SK28 土坑出土土師器坏 底径 / 口径比



石垣遺跡 SK28 出土土師器坏 器高/口径比

#### 第 133 図 石垣遺跡 SK28 出土土師器坏の特徴



【※出典(柳澤 1993)一部加筆】

第134図 多賀城跡周辺の土師器坏類の器高/口径比

#### 【SI2 竪穴状遺構、SI4・5・7 竪穴住居跡、その他の遺構出土土器】

SI2・4・5・7 から出土した坏類は、口縁部~底部まで残存している資料は少ないが、口径 12~14cm 台、底部 5~6cm、器高 4~5cm 台のもので、底径/口径比は 0.47~0.48、器高/口径比は 0.35~0.40 である。器形は、底部から内弯して立ち上がる境形のもので、底部切り離し技法は、回転糸切り無調整のものと、切り離し後再調整を施すもの(切り離しは不明)が同等数認められた。これらの特徴と SK28 土坑出土土器を比較した場合、器形・製作技法・法量の面で類似点が多く、また、遺跡内の遺構の分布を考慮した場合、同時存在が可能であることから、竪穴住居・竪穴状遺構出土土器は、SK28 土坑と同様の年代幅 (9世紀後半頃)におさまるものと想定される。また、SB32 掘立柱建物跡柱穴(P406)、SK13 土坑、検出面・排土から出土した土師器についても、SK28・竪穴住居跡と同様の年代と考えられる。

## (3) 須恵器 (第132図)

19 点出土し、このうち 4 点図示した。出土した器種は、坏・甕である。今回の調査で出土した土師器が826 点(うちロクロ土師器は462 点)であるのに対し、須恵器の出土数は非常に少ない。出土した須恵器は遺構に伴うものであるが、出土点数が少ないことから、ここでは、それぞれの個別の特徴と共伴している土師器の年代からおおよその時期について検討する。

今回図示できたものは、SI4 竪穴住居跡出土の甕または鉢(第 20 図 4)、SI6 竪穴状遺構出土の甕(第 25 図 1)、SI7 竪穴住居跡出土の坏(第 27 図 3)、SK28 土坑出土の坏(第 125 図 25)である。

SI4 出土の甕または鉢(第 20 図 4) は底部資料で、外面に平行タタキ→ヘラ削り、内面にナデを施す。内面の胴部下半に磨滅している箇所が認められることから、鉢の可能性も考えられる。共伴している土師器坏の年代から、9世紀後半頃のものと思われる。

SI6 出土の甕 (第 25 図 1) は胴部資料で、外面に平行タタキ→ナデ、内面にナデを施す。同住居でロクロ 成形の土師器片が出土していることから、平安時代のものと思われる。

SI7 出土の坏(第27図3) は底径 6.6cm の回転糸切り無調整の底部資料で、外面の胴部下端にヘラ削りを施す。器形と底部切り離し技法の特徴、共伴している土師器坏の年代から9世紀後半頃のものと思われる。 SK28 出土の坏(第125図25) は底径 7.6cm の底部資料で、底部切り離し後、回転ヘラ削り再調整を行うものである。破片資料のため、全体の器形は不明であるが、底部からの立ち上がりから、比較的の深身の坏であると考えられる。共伴している土師器の年代から、9世紀後半頃のものと思われる。

#### (4) 陶器•磁器

陶器は2点、磁器は2点出土した。このうち、図示できたものは、B区検出面出土の陶器・擂鉢2点(第 129図6・7)、B区撹乱出土の磁器・徳利1点(第129図8)である。

擂鉢には口縁部資料(第129図7)と底部資料(第129図6)があり、いずれも内外面に鉄釉がかかる。 口縁部資料は、口唇部の形態的特徴から生産地は岸窯のものと推定され、その年代は17世紀中葉頃とみられる。底部資料は、内面におろし目があるが、その生産地・時期は不明である。

徳利は胴部資料で、19 世紀代のものとみられ、その生産地は不明である(註 3)。

### (5) 石器

石器は、玉髄製の剥片が出土した。

# 2. 検出した遺構の特徴と時期

今回の調査では、竪穴住居跡 5 軒、竪穴状遺構 4 軒、掘立柱建物跡 37 棟、柱穴列跡 4 条、土坑 32 基、井戸跡 1 基、ピット 256 個を検出した。ここでは、これら遺構の堆積土の特徴・出土遺物・遺構の重複関係等からその時期について検討する。

### (1) 出土遺物・遺構の重複関係等からみた各遺構の時期

今回、調査で検出した遺構の堆積土のうち、自然堆積のものは、黒褐色・暗褐色シルトを主体とするものである。検出した遺構は、出土遺物や遺構の規模、重複関係から、大きく縄文時代・古墳時代・平安時代・近世に分けられるが、その堆積土に大きな差異は認められなかった。そこで、今回の調査で検出した遺構について、出土遺物や重複関係等から各遺構の時期を検討する。

### 1) 竪穴住居跡・竪穴状遺構

竪穴住居跡 5 軒 ( $SI4 \cdot 5 \cdot 7 \sim 9$ )、竪穴状遺構 4 軒 ( $SI1 \sim 3 \cdot 6$ ) が確認された (註 4)。これらは、いずれも平面形が  $2.5 \sim 6.9$ m の隅丸方形を呈し、床面に柱穴が配置される。

竪穴住居跡は、カマドが付設されるもの(SI4・5・7)と炉が付設されるもの(SI8・9)がある。SI4 竪穴住居跡は、堆積土・床面施設(P1・2・5・SK1)から9世紀後半代の土師器坏、須恵器甕または鉢が出土している。SI5 竪穴住居跡は、床面・カマド燃焼部・カマド構築土・カマド煙出しピットから9世紀後半代の土師器坏、須恵器片が出土している。SI7 竪穴住居跡は、堆積土、床面施設(P1)、カマド燃焼部、カマド煙道から9世紀後半代の土師器坏・甕、須恵器坏が出土している。SI8 竪穴住居跡は、住居堆積土・床面・床面施設(SK1)から古墳時代前期頃の土師器器台・鉢ないしは壺・甕等が出土している。SI9 竪穴住居跡は、堆積土・床面・床面施設(P5・SK1・2)から古墳時代前期頃の土師器鉢・壺・甕等が出土している。

竪穴状遺構は、SI2 竪穴状遺構の堆積土から縄文土器片、9 世紀後半代の土師器坏破片が出土し、SI6 竪穴状遺構の堆積土から 9 世紀後半代の土師器片・須恵器甕が出土した。SI1、3 竪穴状遺構は、堆積土から遺物が出土していないものの、SI2 と平面形や規模、堆積土が類似することから SI2 と同様の 9 世紀後半代であると想定される。

以上のことから竪穴住居跡・竪穴状遺構は、出土遺物から古墳時代前期に属する  $SI8 \cdot 9$  と、9 世紀後半代に属する  $SI1 \sim 7$  に分けられる。

#### 2) SB1~37 掘立柱建物跡・柱穴列跡

掘立柱建物跡 37 軒、柱穴列跡 4 条を検出した。遺物は SB10・14・20・23・26・28~37 と SA4 から確認されており、縄文土器片、土師器片、須恵器片が出土している。これらは、柱の掘方埋土や柱の切取穴・抜取穴の埋め戻し土に混入したと考えられ、数量が少なく、小破片が多いため、建物の詳細な年代を特定することは難しいが、少なくとも平安時代以降のものといえる。遺構の重複関係から年代の推定が可能な建物としては、SB9~13・16・18~21・23・25~29・31~33 がある。これらはいずれも竪穴住居跡・竪穴状遺構よりも新しいため、少なくとも平安時代以降のものと考えられる。

今回の石垣遺跡の調査では、掘立柱建物跡や柱穴列跡から中世や近世と考えられる遺物が出土していないものの、P340・遺構検出面・撹乱から近世の陶磁器が出土している。また隣接する的場遺跡では、石垣遺跡の柱穴と類似する規模や堆積土の近世の掘立柱建物跡が確認されている。

以上のことから、石垣遺跡の掘立柱建物跡や柱穴列跡は、周辺に平安時代の竪穴住居跡・竪穴状遺構があることから、古いものは平安時代までさかのぼる可能性があるものの、柱穴の規模や堆積土から近 隣遺跡での調査事例を踏まえ、近世を主体とした遺構であると考えたい。

#### 3) 土坑

土坑は 32 基確認され、縄文土器片・土師器片・須恵器片が出土している。このうち、出土遺物から時代がある程度推定できる土坑としては  $SK5 \cdot 28$  が挙げられる。SK5 土坑は、底面にピットが掘り込まれており、「陥し穴」と推定される。SK5 は、堆積土中から縄文時代中期後葉の深鉢破片が出土した。SK28 土坑は、隅丸長方形を呈し、土師器・須恵器片が多く出土しており、総数 278 点のうち 25 点を図示した。SK28 は人為堆積であり、遺物が土坑内に一括して廃棄されたのち、埋められたものと想定される。出土した土器は、9 世紀後半代のものと思われる。遺物が少量出土している土坑に  $SK3 \cdot 13 \cdot 19 \cdot 25 \cdot 27 \cdot 29$  がある。 $SK3 \cdot 29$  は、縄文土器片が出土しているが、器形や文様から詳細な時期を判別することが難しいため、少なくとも縄文時代以降のものと考えられる。 $SK13 \cdot 19 \cdot 25 \cdot 27$  土坑はロクロ土師器片が出土しており、平安時代以降のものとみられる。

この他、遺構の重複関係から年代の推定が可能な土坑としては、 $SK6 \cdot 7 \cdot 9 \cdot 11 \cdot 14 \cdot 24 \cdot 29 \sim 32$  がある。古墳時代前期の竪穴住居跡である SI9 と重複するものとしては、 $SK29 \sim 32$  土坑がある。 $SK29 \cdot 32$  は、SI9 よりも古いことから古墳時代前期以前のものと想定される。さらに SK29 は、先に述べた縄文土器片が出土したことを考慮すれば、縄文時代以降、古墳時代前期以前のものと想定される。 $SK30 \cdot 31$  は、SI9 よりも新しいことから古墳時代前期以降のものと想定される。平安時代の竪穴住居跡と重複するものには、 $SK7 \cdot 24$  がある。SK7 土坑は、SI1 と重複し、これよりも新しいことから平安時代以降のものと想定される。SK24 土坑は SI6 と重複し、これより古いことから平安時代以前のものと考えられる。近世の掘立柱建物跡・柱穴列跡の柱穴と重複するものとして、 $SK6 \cdot 9 \cdot 14$  がある。SK6 土坑は  $SB9 \cdot 11$  の柱穴と重複し、これらよりも新しいことから、近世以降のものと考えられる。SK9 は SA3 と重複し、これよりも古いことから、近世以前のものと想定される。SK14 は  $SB29 \sim 32$  と重複し、これらよりも古いことから、近世以前のものと想定される。

 $SK1 \cdot 2 \cdot 4 \cdot 8 \cdot 10 \cdot 12 \cdot 15 \cdot 16 \sim 18 \cdot 20 \sim 23 \cdot 26$  土坑については、出土遺物がなく、所属時期は不明である。SK15 は、底面にピットが掘り込まれており、「陥し穴」と推定される。隣接する的場遺跡で形状や堆積土が類似する土坑がみられることから、縄文時代のものと考えられる。

#### 4) 井戸跡

井戸跡は1基確認された。SE1は、遺物が確認されず、また他の遺構との重複関係もないため、所属時期は不明である。調査区内にある遺構とその位置関係から考えると、井戸跡は、竪穴住居跡や竪穴状遺構に伴うよりも、掘立柱建物跡に関連するものと想定され、近世に属すると考えられる。

### 5) ピット

ピットは、256 個が確認されており、掘方の形状や規模、堆積土が掘立柱建物跡の柱穴と類似する。 また分布範囲も掘立柱建物跡と共通する部分が多いことから、掘立柱建物跡の柱穴と同様の年代である 可能性が推定される。

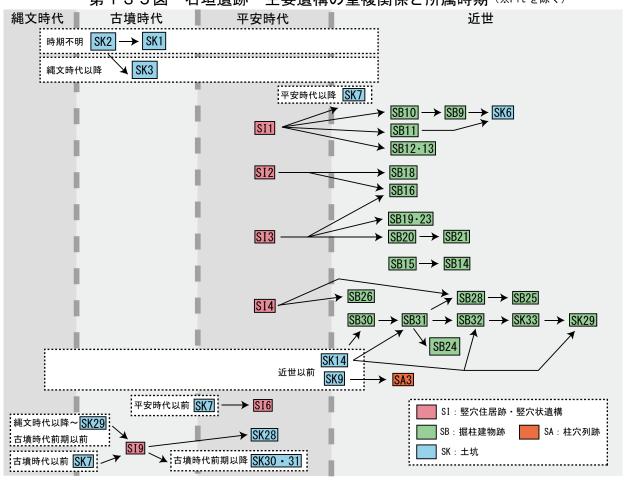
### (2) まとめ

以上の検討より、検出した遺構のおおよその時期は次のとおりである。

第19表 石垣遺跡 主要遺構の所属時期 ※( )表記は、推定の時代を示す。

時期	遺構名				
縄文時代	SK5・15 土坑				
縄文時代以降	SK3 土坑				
縄文時代以降~平安時代	SK29 土坑				
古墳時代前期以前	SK32 土坑				
古墳時代前期	SI8・9 竪穴住居跡				
古墳時代前期 以降	SK30·31 土坑				
平安時代以前	SK24 土坑				
亚大味件	SI4・5・7 竪穴住居跡、				
平安時代	SI (1) ・2・ (3) ・6 竪穴状遺構/SK28 土坑				
平安時代以降	SK (7・19・25・27) 土坑				
近世以前	SK (9·14) 土坑				
定冊	SB (1~37) 掘立柱建物跡/SA (1~4) 柱穴列跡、				
近世	SK (6・11) 土坑/SE (1) 井戸跡				
時期不明	SK1・2・4・8・10・12・16~18・20~23・26 土坑				

第135図 石垣遺跡 主要遺構の重複関係と所属時期 (※Pitを除く)



# 3. 各時代の遺構の特徴と変遷

石垣遺跡は、阿武隈山地から東に延びる丘陵上の標高 26~32m の低位段丘上段の平坦面に位置し、山寺川と涌沢川の合流地点の北側に立地する。なお、隣接する遺跡には、涌沢川を挟んで南側に的場遺跡、山寺川を挟んで北側に涌沢遺跡がある。 今回の調査区である A・B 区は、南北 200m、東西 60m と細長く、縄文・古墳時代・平安時代~近世の遺構が確認された。ここでは、各遺構の特徴とその変遷等について検討したい。それぞれの遺構の詳細については、本報告第Ⅲ章 3 を参照されたい。

### **(1)縄文時代の遺構**(第 136 図)

 $A \cdot B$  区において確認した縄文時代の遺構は、土坑 2 基( $SK5 \cdot 15$ )である。これらは、遺構底面に直径約  $30 \, \mathrm{cm}$  の小穴があり、その形状から「陥し穴」と推定される。このうち、遺物が出土したのは、SK5 であり、その特徴から縄文時代中期後葉のものとみられる。SK5 は、A 区北側の標高  $27.6 \, \mathrm{m}$  に位置し、平面形が不整形の長軸  $2.72 \, \mathrm{m}$ 、短軸  $1.46 \, \mathrm{m}$ 、深さは  $79 \, \mathrm{cm}$  である。 $SK15 \, \mathrm{t}$ 、B 区北側の標高  $29.2 \, \mathrm{m}$  に位置し、平面形が隅丸長方形の長軸  $2.1 \, \mathrm{m}$ 、短軸  $0.94 \, \mathrm{m}$ 、深さは  $87 \, \mathrm{cm}$  である。 $SK15 \, \mathrm{k}$  については、遺物や重複関係から時代を判別することができないものの、遺構の形状や堆積土が隣接する的場遺跡で確認された陥し穴と類似することから、縄文時代のものと想定される。なお、今回の調査区では陥し穴と推定される土坑以外に縄文時代と特定できる遺構は検出されなかった。

### **(2) 古墳時代の遺構**(第 136 図)

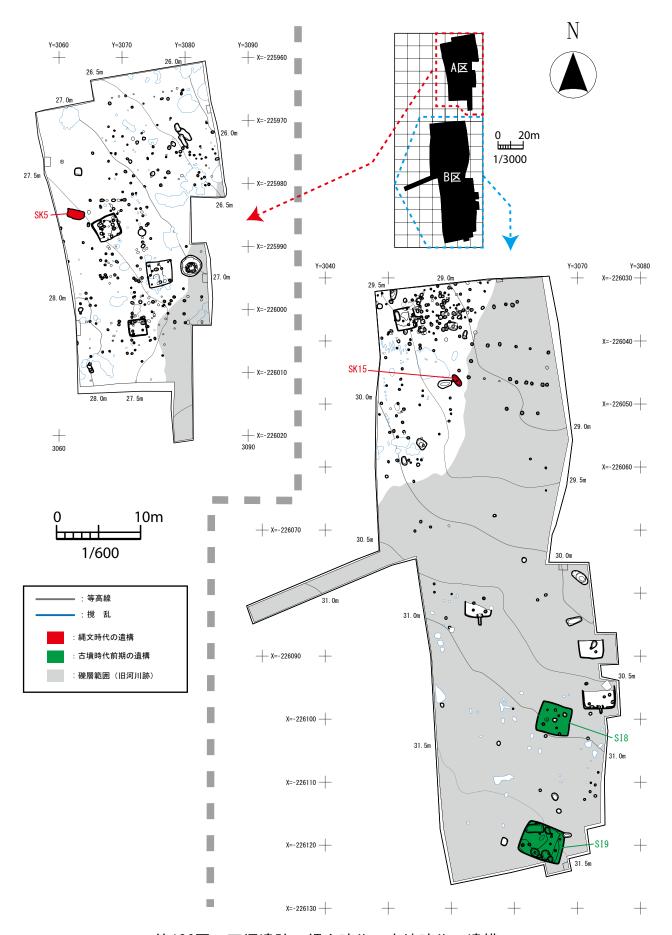
竪穴住居跡は、涌沢川の北側、B区南端で2軒(SI8・9)を検出した。SI8竪穴住居跡は、平面形が4.8m×5.2mの隅丸方形を呈し、住居中央やや西寄りから炉が確認された。地山を床としており、床面からは柱穴跡5個、ピット1個、土坑2基を検出した。SI9竪穴住居跡は、平面形が5.5m×6.9mの隅丸長方形を呈し、住居中央から炉が確認された。掘方埋土と地山を床としており、床面からは、柱穴7個、ピット3個、土坑2基を検出した。住居跡は、床面の掘方埋土に重複関係が認められ、東方向に拡張をしていることが確認された。SI8・9は、古墳時代前期の遺物が出土しており、それぞれの住居から出土した遺物がほぼ同じ年代幅をもつものであった。このことから、SI8・9は、同時期と考えられる遺物が出土し、竪穴の規模や床面に周溝を持たないという点で類似性がみられること、遺構の立地関係を総合的に考えると、これらは同時期に存在した可能性が高いと想定される(註5)。

## **(3) 平安時代の遺構**(第 137 図)

 $A \cdot B$  区において確認した平安時代の遺構は、竪穴住居跡 3 軒( $SI4 \cdot 5 \cdot 7$ )、竪穴状遺構 4 軒( $SI1 \sim 3$ 、6)、土坑 1 基(SK28)である。遺物は、 $SI2 \cdot 4 \sim 7$ 、SK28 から出土しており、その特徴から 9 世紀後半のものと考えられる。この他の遺構( $SI1 \cdot 3$ )については、SI2 と類似した平面形や規模、堆積土が確認されることから SI2 と同様の年代であると想定した。

### 【竪穴住居跡・竪穴状遺構】

SI4 竪穴住居跡は、B 区北側に位置し、平面形が 3.4m×3.2m の隅丸方形を呈する。地山と掘方埋土を床とし、住居東壁にカマドを付設する。床面からは、柱穴 3 個、ピット 2 個、カマド南側と住居北東隅に土坑 2 基が確認された。SI5 竪穴住居跡は、B 区中央に位置し、平面形が 2.5m 以上×4.1m の隅丸方形を呈する。地山を床とし、住居南壁にカマドを付設する。床面からは、柱穴 4 個が確認された。SI7 竪穴住居跡は、B 区南側に位置し、平面形が 3.5m 以上×5.11m の隅丸方形を呈する。地山を床とし、



第136図 石垣遺跡 縄文時代・古墳時代の遺構

住居南壁にカマドを付設する。床面には、柱穴3個、ピット1個、カマドの西側に土坑が1基確認され、 周溝はカマド付設部を除く壁際を巡る。

SI1 竪穴状遺構は、A 区中央に位置し、平面形が 2.9m×3.2m の隅丸方形を呈する。地山・掘方埋土を床とし、床面からは、柱穴が 4 個確認され、周溝が竪穴の南東隅と北辺、東辺、西辺で確認された。SI2 竪穴状遺構は、A 区中央に位置し、平面形が 3.8m×3.9m の隅丸方形を呈する。地山、掘方埋土を床とし、床面からは、柱穴 4 個が検出された。SI3 竪穴状遺構は、A 区南側に位置し、平面形が 2.5m×2.8m の隅丸方形を呈する。掘方埋土を床とし、床面からは、柱穴が 3 個、住居の北西隅で土坑が 1 基確認され、周溝は竪穴南東隅から東辺以外で確認した。SI6 竪穴状遺構は、B 区中央に位置し、平面形が 2.9m 以上×3.9m の隅丸方形を呈する。地山を床として、床面からは、柱穴 1 個、ピット 1 個が確認された。

A区・B区で検出した竪穴住居跡・竪穴状遺構は、平面形が 4m 四方に満たないものが多く認められた。これらは、周溝の有無や床面構造等で相違点が認められるものの、住居の規模・出土遺物の年代等の特徴が類似しており、調査区内での位置関係からみても同時存在していた可能性が想定される。

		7.1.				. 114		<u> </u>				
潰構名	立地	調査区	規模(m)	残存壁高	平面形	方向	床面			施設	出土遺物	
退情有	37.76	阿里匹	長軸×短軸	(cm)	T-181712	<i>77</i> PH	ЖШ	カマド	周溝	その他		
SI1竪穴状遺構	平坦面	A区	3.2×2.9	6	隅丸方形	西辺:N-20°-W	地山・掘方埋土	-	あり	柱穴跡1個、ピット3個	なし	
SI2竪穴状遺構	平坦面	A区	3.9×3.8	3	隅丸方形	西辺:N-8°-W	地山・掘方埋土	-	なし	柱穴跡1個、ピット3個	縄文土器、土師器	
SI3竪穴状遺構	平坦面	A区	2.8×2.5	10	隅丸方形	西辺:N-5°-W	掘方埋土	-	あり	柱穴跡3個、土坑1個	なし	
SI4竪穴住居跡	平坦面	B区	3.4×3.2	12	隅丸方形	西辺:N-12°-W	地山・掘方埋土	東壁	なし	柱穴跡3個、ピット2個、土坑2基	土師器、須恵器	
SI5竪穴住居跡	平坦面	B区	4.1×2.5以上	10	隅丸方形	真北	地山	南壁	なし	柱穴跡4個	土師器、須恵器	
SI6竪穴状遺構	平坦面	B区	3.9×2.9以上	10	隅丸方形	真北	地山	-	なし	柱穴跡1個、ピット1個	土師器、須恵器	
SI7竪穴住居跡	平坦面	B区	5.1×3.5以上	9	隅丸方形	真北	地山	南壁	あり	柱穴跡3個、ピット2個、土坑1基	土師器、須恵器	

第20表 石垣遺跡 平安時代 竪穴住居跡・竪穴状遺構 遺構観察表

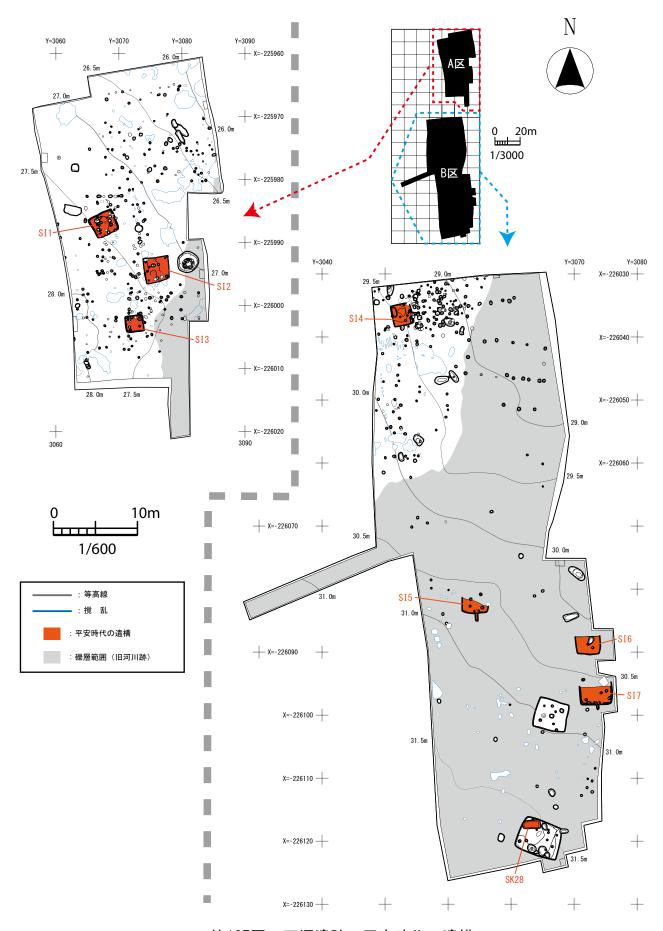
### 【SK28 土坑】

SK28 土坑は、平面形が 2.9m×1.17m 隅丸長方形を呈する。深さ 22cm、皿状の断面形を呈し、堆積土は人為堆積である。土坑は、古墳時代前期の SI9 の廃絶後の平坦面に掘り込まれ、土器が集中的に廃棄された状態で確認された。遺物は、土師器・須恵器片が合計で 278 点出土し、うち 250 点が坏類であり、第 122~125 図に図示した。坏には、内面と外面に煤が付着し、器面が被熱をうけ部分的に剥落したものが 17 点確認され、これらは灯明皿として利用されたと考えられる(第 122 図 1・2・5~17・19・22)。また坏の胴部に墨書したものが 2 点、ヘラ描きしたものが 1 点出土している。墨書土器に記されている文字は「田」(第 122 図 4)、「人」(第 122 図 5)である。このように、土器が集中的に廃棄された遺構例としては、県南地域では石垣遺跡の北側にある涌沢遺跡(宮城県教育委員会 2012、)や蔵王町東山遺跡(宮城県教育委員会 1981)などが挙げられる(註 6)。

#### 【石垣遺跡における平安時代集落の様相】

今回確認した平安時代の遺構の配置状況をみてみると、A 区中央から B 区南側で竪穴住居跡・竪穴状遺構、B 区南側から SK28 が確認されている (第 136 図)。これらの遺物からは、9 世紀後半代のほぼ同じ年代幅に収まることから、竪穴住居跡と竪穴状遺構、土坑が同時期に存在した可能性が高いと考えられる。9 世紀後半には、集落が石垣遺跡の調査区の広い範囲で展開したことが想定される。今後は、石垣遺跡の周辺で近年行われた調査成果を踏まえた上で、集落の様相を検討する必要がある。

SK28 は、土器が一括して廃棄された土坑である。類例には、山元町涌沢遺跡や蔵王町東山遺跡がある。今回の調査では、同時期の遺構が多数発見されたわけではないため、SK28 の位置付けについては、今後の調査事例の増加を待って検討することとしたい。



第137図 石垣遺跡 平安時代の遺構

#### **(4)近世の遺構**(第 137 図)

 $A \cdot B$  区において確認した近世の遺構は、掘立柱建物跡 37 棟 ( $SB1 \sim 37$ )、柱穴列跡 4 条 ( $SA1 \sim 4$ )、 土坑 2 基(SK6・11)、井戸跡 1 基(SE1)である。これらは出土遺物が少量で、かつ小破片が多く詳 細な時期を求めることは難しい。そこで柱穴の平面形状や堆積土や各遺構との重複関係、隣接する的場 遺跡での調査事例から総合的に考えた結果、これらは近世を主体とするものと想定した。

#### 【掘立柱建物跡】

掘立柱建物跡は、A 区の標高 26~28m の平坦面と B 区の標高 29~30m の平坦面で確認され、この うち A 区中央( $\mathrm{SB}16\sim24$ )と  $\mathrm{B}$  区北側( $\mathrm{SB}25\sim33$ )で建物跡が密集した状況で検出された。また、 $\mathrm{A}$ 区南端とB区南側では建物跡が確認されなかった。

検出した 37 棟の建物のうち、その身舎の規 \_\_\_\_ 模の内訳は、5間×2間が1棟(SB34)、5間 ×1 間が 2 棟 (SB20・28)、4 間×1 間が 1 棟 (SB25)、3間×2間が2棟  $(SB14 \cdot 16)$ 、3 間×1 間が 5 棟 (SB1・7・23・29・31)、2 間×2 間が 3 棟 (SB12・15・32)、2 間×1 間が 13 棟(SB6・8~11・13・18・19・22・ 30・33・35・37)、1 間×1 間が 1 棟 (SB24) で、建物が調査区外に延びているため規模不 明なものが9棟である。張出の付く建物は1 棟(SB14)である。建物の面積については、 規模不明のものを除いて、張出のある建物の SB14 が 28.8 m<sup>2</sup>、その他は 12.25~71.44 m<sup>2</sup>で 12~25 ㎡前後のものが多い。柱掘方の規模は、 長軸 20~40cm 前後の円形・楕円形を呈する ものが主体である。桁行間の寸法は、0.9~ 4.2m と ばらつきがあるが、2m 前後のものが 多い。

掘立柱建物跡は、A区中央とB区北側で密 集した状況で確認されており、他の遺構の重 複関係や建物どうしの重なり、その位置関係 から、同時共存が不可能なものを考慮すると、 建物は、A 区中央で 6~10 時期、B 区北側で 7・8時期の建て替えが想定された。建物の方 向は、大きく分けると、建物の東辺・西辺が 真北に対して①西に傾くもの $(N-8\sim52^{\circ}-$ W)、②真北・ほぼ真北のもの( $N-5^{\circ}-W$  $\sim$ N-5° -E)、③東に傾くもの (N-6 $\sim$ 20° -E) がある。これらの方向には、ばらつきが みられ、規則性が認められなかった。

第21表 石垣遺跡 掘立柱建物跡 観察表

	/  7   1			H					
遺構	建物	間数	detendants	平面規模	ŧ (m)	身舎面積 (㎡)	建物傾斜 角度	備考 【SBの重複関係ほか】	
No.	桁行	梁行	棟方向	桁行 総長	梁行 総長	※ () 表記は庇を 含めた表記	用皮 /真北基準		
SB-1	3	1	東西	7. 7	4.3	33. 1	西24°		
SB-2	2	1以上	-	5. 8	5. 0	29.0以上	西52°		
SB-3	1	1以上	-	4. 2	1.9	8.0以上	東10°		
SB-4	2	-	-	4. 0	-	-	西28°		
SB-5	1以上	2	-	4. 7	4.6	21.6以上	東21°		
SB-6	2	1	東西	4. 7	4. 3	20. 2	東2°		
SB-7	3	1	東西	6. 7	3. 8	25. 5	東2°		
SB-8	2	1	南北	6. 1	4. 3	26. 2	西5°		
SB9	2	1	南北	5. 5	4. 1	22. 6	西15°	SI1、SB10より新	
SB-10	2	1	南北	5. 2	4. 6	23. 9	西18°	SB9より古	
SB-11	2	1	-	5. 6	5. 7	31. 9	東6°		
SB-12	2	2	東西	4.5	4. 2	18. 9	東2°		
SB-13	2	1	-	5. 0	5. 5	27. 5	東6°		
SB-14	(1)+3	2	東西	6. 4	4. 5	25. 65 (28. 8)	東6°	SB15より新。 西側に1間の張出が付く	
SB-15	2	2	東西	4.6	4. 5	20. 7	東6°	SB14より古。	
SB-16	3	2	南北	9. 4	7. 6	71. 4	真北		
SB-17	1以上	-	-	2.5	-	-	東20°		
SB-18	2	1	東西	4. 1	3. 3	13. 5	西1°		
SB-19	2	1	東西	5. 6	5. 5	30. 8	東1°		
SB-20	5	1	東西	13. 1	3. 9	51.1	西1°	SB21より古。	
SB-21	2	1以上	-	3. 4	2. 7	9.2以上	西3°	SB20より新。	
SB-22	2	1	東西	5. 0	4. 2	21. 0	東4°		
SB-23	3	1	東西	6. 2	3.8	23. 6	西25°		
SB-24	1	1	-	3. 6	3. 6	13. 0	西1°		
SB-25	4	1	東西	7. 4	4. 3	31. 8	西8°	SB28より新。	
SB-26	3以上	1	東西	6. 9	5. 0	34.5以上	真北	SB29・31より新。	
SB-27	3	-	-	3. 8	-	-	西23°	SB31より新。	
SB-28	5	1	東西	7. 7	2. 5	19. 3	西8°	SB31、新。SB25より古。	
SB-29	3	1	東西	4. 5	3. 5	15.8	西9°	SB26・30・31・33より新	
SB-30	2	1	-	3. 5	3. 5	12. 3	西8°	SB28・29・31・32より古	
SB-31	3	1	南北	5. 3	3. 5	18. 6	西10°	SB26・30より新。 SB27・29・32より古。	
SB-32	2	2	-	4. 6	3. 7	17. 0	西15°	SB30・31より新。 SB33より古。	
SB-33	2	1	南北	3. 8	3. 3	12. 5	東6°	SB32より新。SB29より古	
SB-34	5	2	東西	12. 4	5. 3	65. 7	東5°		
SB-35	2	1	東西	5. 3	4. 7	24. 9	東7°		
SB-36	1以上	1	東西	3. 7	2. 2	8.1以上	真北		
SB-37	2	1	東西	3, 9	3, 6	14. 0	東1°		

※平面規模の数値は身舎の規模を示す。 () 表記は推定値。※SBの詳細は、第11~12-1~3表を参照。

また建物の規模には、さまざまのものがあり、その中でも大きいものは中心的な建物(主屋)であったと考えられる。掘立柱建物跡は、ある範囲で繰り返し建て替えが行われてきたことから、長期間存在した可能性が想定される。

### 【柱穴列跡】

柱穴列跡は、A・B 区で4条確認されており、柱掘方の規模が長軸21~42cm 前後の円形・楕円形を呈するものが主体である。桁行間の寸法は、1.0~2.8m であり、1.5m 前後のものが多い。SA1 は、A 区北側に位置し、東西方向に延びる3間の柱穴列で、総長が3.5m である。SA2 は、A 区北側に位置し、東西方向に延びる2間の柱穴列で、総長が3.0m である。SA3 は、A 区南西側に位置し、南北方向に延びる5間の柱穴列で、総長が11.9m である。SA4 は、B 区北西側に位置し、南北方向に延びる5間の柱穴列で、総長が11.9m である。SA4 は、B 区北西側に位置し、南北方向に延びる5間の柱穴列で、総長が10.0m である。これらは、SA1・2 が規模2~3間で桁行総長が3m程度、SA3・4が規模5間で桁行総長が10~12mであり、それぞれ規模が類似している。調査区内にある遺構とその位置関係からみると、柱穴列跡は、調査区の北端と西端で確認されている。これらは、平面形や堆積土の状況、列の方向が竪穴住居跡や竪穴状遺構よりも掘立柱建物跡に類似することから、建物跡に関連し、集落を北端と西端で区画する機能を果たしたものと想定される。

### 【土坑】

土坑は2基(SK6・11)が確認されており、いずれも掘立柱建物跡より新しい。これらは、遺構の重なり、位置関係から近世の建物跡と関連性があると考えられる。この他、今回の調査では、時期不明の土坑が多数確認されているが、これらと形状や堆積状況が類似する土坑もあり、この中に近世の建物跡と関連する土坑が存在する可能性も想定される。

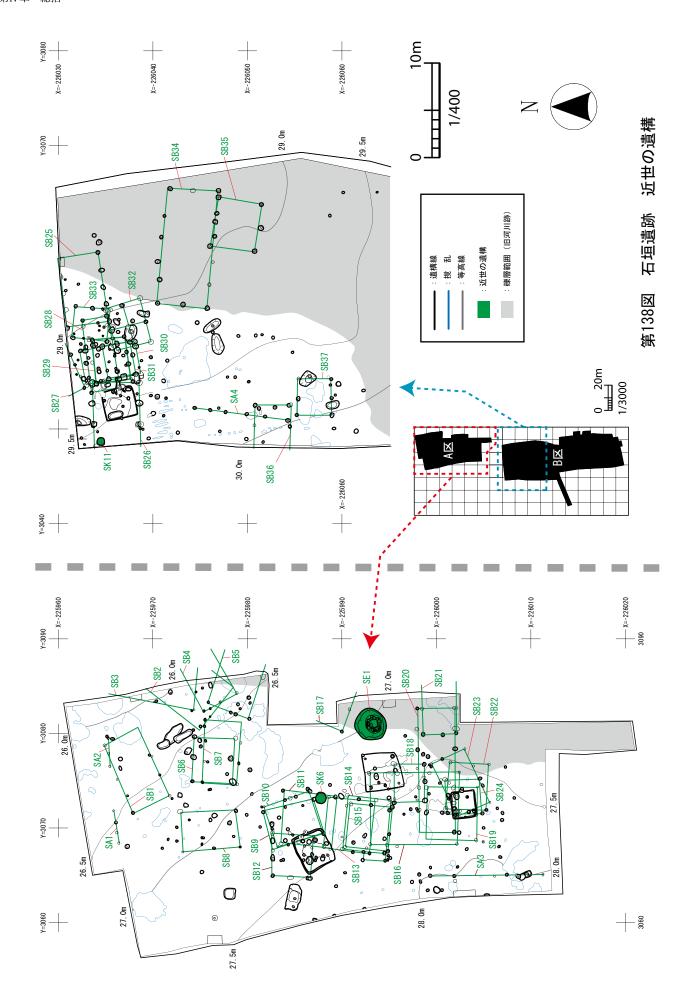
### 【井戸跡】

A 区中央の東側から石組の井戸跡が1 基確認された。遺物は確認されていないため詳細な時期については不明であるが、調査区内にある遺構とその位置関係から考えると、竪穴住居跡や竪穴状遺構に伴うよりも、掘立柱建物跡に関連するものと想定される。

#### 【石垣遺跡における近世の集落の様相】

今回確認した近世の遺構は、A 区から B 区北側の範囲に分布し、A 区中央と B 区北側で建物が密集して確認された。掘立柱建物跡は、建物の方向にばらつきがみられ、規則性が認められなかったものの、建物の重なりから A 区南側で 6~10 時期、B 区北側で 7・8 時期の建て替えが想定され、集落が長期間存在した可能性が想定される。また、建物の密集する範囲では、周囲で確認された建物よりも規模の大きいものが多い。このことから、これらの建物跡が主屋となり、その周辺に付属施設が建てられ、屋敷を構成していたものと考えられる。柱穴列跡については、平面形や堆積土の状況が掘立柱建物跡と類似することから、掘立柱建物跡に関連するための柱列であると想定される。機能については、建物跡の密集する範囲ではなく、建物分布範囲の外側で柱穴列が確認されていること、柱穴列の軸と掘立柱建物跡の軸とが類似する点から、集落の北側と西側を区画するものと考えられる。この他、土坑と井戸跡については、遺構の位置関係などから建物と関連した遺構であると思われる。特に今回の石垣遺跡の調査では、井戸跡が1基しか確認されなかった。調査区外に井戸跡が存在する可能性もあるが、周辺にある建物跡が幾度となく建て替えられている状況から判断すると、井戸跡は長期間使用された可能性がある。

今回確認された石垣遺跡の近世集落の様相については、出土遺物が少なく、建物跡が調査区外の東西に延びる可能性があることもあり、不明な点も多いことから、今後の周辺の調査事例等の増加を待って検討することとしたい。



### (5) 石垣遺跡周辺の集落の様相について

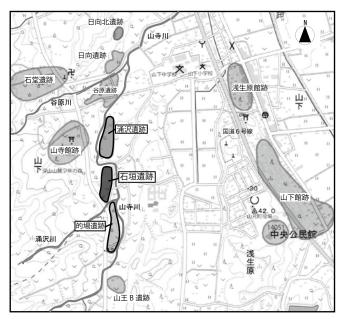
石垣遺跡は、阿武隈山地の東側を南北に流れる山寺川西岸及び涌沢川北岸の平坦面に立地する。石垣遺跡周辺には、山寺川を挟んだ北側に涌沢遺跡、涌沢川を挟んだ南側に的場遺跡が隣接しており(第139図)、それぞれ常磐自動車道建設に伴う発掘調査が県教委・町教委により実施されている。

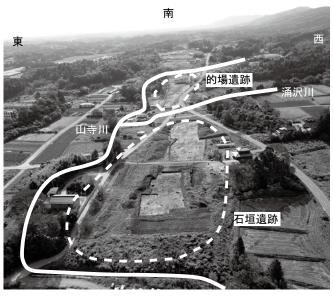
的場遺跡は、平成23・25年度に町教委により調査が実施され、縄文時代前期の土坑群、古墳時代前期の集落(竪穴住居跡・溝跡・土坑)、平安時代(9世紀後半頃)の集落(竪穴住居跡・掘立柱建物跡・土坑・焼成遺構)、近世を主体とする屋敷跡が検出されている(山田ほか2014)。涌沢遺跡は、県教委により平成24年度に調査が実施され、平安時代前半頃の竪穴住居跡や土器廃棄土坑、鍛冶関連遺構などが検出されており、「田人」と墨書された土器や八稜鏡、製鉄関連遺物などが出土している(宮城県考古学会編2012・初鹿野2013)。

的場遺跡の古墳時代前期・平安時代の集落から 出土した遺物の年代は、今回の石垣遺跡で検出し た同時期の遺構から出土した遺物とほぼ同様の時 代幅におさまり、竪穴住居跡の規模や特徴等につ いても共通性が認められた。また、近世を主体と する掘立柱建物跡についても、柱掘方の規模や柱 寸法の面で類似している。一方、涌沢遺跡につい ても、確認された平安時代の竪穴住居跡は小型も のが多く、カマドが付設されない住居が確認され るなど石垣遺跡の様相と類似する(註7)。また、 石垣遺跡のSK28で出土した土器2点に書かれた墨 書(「田」・「人」)は、涌沢遺跡土器廃棄土坑か ら出土した土器の墨書(「田人」)と同じ内容の 文字で、遺物の年代についてもほぼ同様の年代幅 におさまる。

以上のことから石垣遺跡・涌沢遺跡・的場遺跡は、立地的にはそれぞれ川に隔てられているものの、的場遺跡は古墳時代から近世、涌沢遺跡は平安時代において、石垣遺跡とほぼ一連の集落であったと推定される(註8)。







第139図 石垣遺跡と周辺の遺跡

#### 4. まとめ

石垣遺跡は、宮城県南東部の阿武隈山地から東に延びる丘陵状に位置する。遺跡の時期は、縄文時代、 古墳時代、平安時代、近世にわたる。今回の調査では、竪穴住居跡 5 軒、竪穴状遺構 4 軒、掘立柱建物 跡 37 棟、柱穴列跡 4 条、土坑 32 基、井戸跡 1 基、ピット 256 個を検出し、縄文土器、土師器、須恵器、 陶器、磁器、石器が出土した。以下、各時代の遺構について要点をまとめる。

- ① 縄文時代の遺構には、土坑 2 基があり、その形状から陥し穴と考えられる。出土遺物から時期がわかるものは、縄文時代中期後葉と想定される。
- ② 古墳時代の遺構には、竪穴住居跡 2 棟があり、出土遺物から古墳時代前期のものと考えられる。これらは、涌沢川北側の B 区南端から検出された。
- ③ 平安時代の遺構には、竪穴住居跡 3 軒、竪穴状遺構 4 軒、土坑 1 基がある。9 世紀後半代の遺物が 出土し、これらは同じ年代幅におさまることから、同時期に遺構が共存した可能性が考えられる。 SK28 は、遺物が一括廃棄された状態で出土し、石垣遺跡の北側に隣接する湧沢遺跡や蔵王町東山 遺跡で類似したものが確認されている。
- ④ 近世の遺構には、掘立柱建物跡 37 棟、柱穴列跡 4条、土坑 3 基、井戸跡 1 基、ピット多数がある。 建物跡は A 区から B 区北側までの範囲に分布し、特に A 区中央と B 区北側で建物跡が密集する状 況が確認された。建物は幾度も建て替えが行われ、集落が長期間存続していた可能性が考えられる。 建物が調査区外の東西に延びるものが認められるものの、現段階では、北側と西側を柱穴列跡で区 画し、1 基の井戸跡を使用していたものと考えられる。
- ⑤ 石垣遺跡の周辺には、北に涌沢遺跡、南に的場遺跡がある。石垣遺跡は、湧沢遺跡とほぼ同じ年代幅をもつ平安時代の竪穴住居跡と土器廃棄土坑が確認され、的場遺跡とほぼ同じ年代幅をもつ竪穴住居跡と柱掘方の規模や柱寸法に共通性のある掘立柱建物跡が認められた。各遺跡は山寺川と涌沢川によって隔てられるものの、涌沢遺跡が平安時代、的場遺跡が古墳時代から近世において石垣遺跡と一連の集落であったと推定される。
- ⑥ この他、今回の調査では、時期を明確にできなかった遺構が多数残されている。これらは縄文時代、 古墳時代から近世にかけてのいずれかに属する遺構であると考えられる。

#### 註

- 1) 宮城県内において、平安時代のロクロ成形の内黒処理されていない土師器について、「赤焼土器」・「須恵系土器」等の名称で呼ばれる場合がある(桑原 1976・小井川 1984)。本稿では、原則として内黒処理・非内黒処理のものすべてを土師器として分類したが、両者を区別する際に「赤焼土器」の名称を使用することとした。
- 2) この他、亘理郡を除く県南地域では、七ヶ宿町小梁川遺跡(真山ほか 1985)、川崎町二本松遺跡(小山田 1985)、村田町梅ヶ久保遺跡(佐藤 1986)、蔵王町東山遺跡土器溜(真山 1981)・十郎田遺跡(鈴木 2011)、白石市家老内遺跡第 1・2 号住居跡(真山 1981)などで SK28 土坑出土土師器と類似する土器群が確認されている。
- 3) 陶磁器類の産地・年代については、佐藤洋氏(仙台市教育委員会)にご教示いただいた。
- 4) 本報告では、床面や竪穴周囲で炉やカマドなどの痕跡が確認されなかったものについては「竪穴状遺構」とした。 $SI1\sim3\cdot6$  竪穴 状遺構は、調査時に堆積土が  $2\sim10cm$  という残存状況であったものの、床面からカマドや炉と考えられる遺構が確認されなかった。
- 5) 今回調査した石垣遺跡の南に位置する的場遺跡からも古墳時代前期の竪穴住居跡が確認された。出土した遺物が石垣遺跡のものと同時期と考えられることから、的場遺跡の北側の竪穴住居跡と石垣遺跡の竪穴住居跡は、涌沢川を挟み、近い位置で共存していた可能性が考えられる。
- 6) 山寺川を挟み、石垣遺跡の北に位置する涌沢遺跡では、出土した土器の特徴が類似し、同時期と考えられる土器廃棄土坑が確認されている。遺構からは「田人」と墨書された土器が出土しており(初鹿野 2013)、石垣遺跡の「田」、「人」と墨書された土器と内容に共通する部分が認められる。このことから当該期の石垣遺跡と隣接する涌沢遺跡は、関連性があったと考えられる。
- 7) 涌沢遺跡で検出された竪穴住居跡やその他の遺構の特徴、出土遺物の年代については、発掘調査を担当した初鹿野博之氏(宮城県教育委員会)にご教示いただいた。なお、涌沢遺跡の調査成果については、現在県教委により整理・報告書作成中のため正式な報告書が刊行されていない(平成26年3月末現在)ことから、石垣遺跡周辺の集落の様相については、涌沢遺跡の正式報告を待って再度検討することとしたい。
- 8) 石垣遺跡周辺では、この他、石垣遺跡の北側に位置する谷原遺跡・日向遺跡・日向北遺跡において発掘調査(常磐道関連調査)が 実施されている(宮城県考古学会編 2010・2012)。このうち、谷原・日向遺跡では奈良〜平安時代にかけての集落が確認されており、これらの遺跡についても、石垣遺跡一帯の集落と関連性の高い集落である可能性が考えられる。

### 引用・参考文献

```
相原淳一ほか1988『大梁川・小梁川遺跡』宮城県文化財調査報告書第126
青山博樹ほか 2000「宮城県山元町合戦原古墳群の測量調査」『宮城考古学』2
青山博樹 2010「古墳時代前期の土器編年-仙台平野とその周辺-」『北杜-辻秀人先生還暦記念論集-』
青山博樹 2011「土師器の編年 ⑦東北」『古墳時代の考古学 I 古墳時代史の枠組み』同成社
天野順陽 1994「下草古城跡」『下草古城跡ほか』宮城県文化財調査報告書第 160 集
天野順陽 1996「下草古城跡」『下草古城跡ほか』宮城県文化財調査報告書第 169 集
井上雅孝 1997「陸奥における 10・11 世紀の土器様相」『北陸古代土器研究』第7号
岩見和泰・佐藤憲幸 1991「合戦原遺跡」『合戦原遺跡ほか』 宮城県文化財調査報告書第 140 集
氏家和典 1957「東北土師器の型式分類とその編年」『歴史』14
岡田茂弘・桑原滋郎 1974「多賀城周辺における古代坏形土器の変遷」『研究紀要 I 』宮城県多賀城跡調査研究所
小山正忠·竹原秀雄編 1973『新版標準土色帖』2010 年版
小山田正男 1985『二本松遺跡・河原田遺跡』宮城県文化財調査報告書第 112 集
加藤道男 1989「宮城県における土師器研究の現状」『考古学論叢Ⅱ』
窪田忍 1995『狐塚遺跡』山元町文化財調査報告書
桑原滋郎 1976「須恵系土器について」『東北考古学の諸問題』東北考古学会
小井川和夫 1984「いわゆる赤焼土器について」『東北歴史資料館研究紀要』第 10 巻
佐久間光平 1995 『佐沼城跡-近世武家屋敷と古代の集落跡-』迫町文化財調査報告書第2集
佐々久・志間泰治・氏家和典 1971「一 井戸沢横穴古墳群発掘調査報告書」『山元町誌』
佐藤裕志 1986「梅ヶ久保遺跡」『東北横断自動車道遺跡調査報告書 I 』宮城県文化財調査報告書第 120 集
佐藤洋 2009「宮城県における庶民向け陶磁器の生産と流通」『江戸後期における庶民向け陶磁器の生産と流通 関東・東北・北海道編』
白鳥良一 1980「多賀城出土土器の変遷」『研究紀要Ⅶ』宮城県多賀城跡調査研究所
白鳥良一 1982「土器」『多賀城跡政庁跡本文編』宮城県多賀城跡調査研究所
紫桃正隆 1974『史料 仙台領内古城・館』第四巻
志間泰治 1956「宮城県亘理郡における考古学上の遺跡」『宮城県の地理と歴史』1 pp. 209-216
志間泰治 1975『亘理の古墳』
志間泰治 2007『彙報1 歴史を掘り起こす』
鈴木朋子 2002 『堤の内遺跡』 亘理町文化財調査報告書第8集
鈴木朋子·千葉直樹 2006 [国史跡三十三間堂官衙遺跡』亘理町文化財調査報告書第 11 集鈴木雅 2011 『十郎田遺跡 1 』蔵王町文化財調査報告書第 13 集
関敦司 2004『北経塚遺跡』山元町文化財調査報告書第3集
田嶋明人 2012「古墳確立期の広域編年-東日本域を対象とした検討(その 5)-」『東生』第1号
千葉正康 1993「狐塚遺跡」『狐塚遺跡ほか』宮城県文化財調査報告書第 157 集
次山 淳 1992「塩釜式土器の変遷とその位置づけ」『究班-埋蔵文化財研究会 15 周年記念論文集-』
辻秀人 1994「東北南部の古墳出現期の様相」『東日本の古墳の出現』山川出版社
辻秀人 1995「東北南部における古墳出現期の土器編年 -その 2-」『東北学院大学論集-歴史学・地理学-』第 27 号
辻秀人 2001「東北の弥生土器と土師器」『アジア文化史研究』第1号
辻秀人 2008「大塚森古墳の研究」『歴史と文化』第43号 東北学院大学論集
辻 秀人編 2007『古代東北・北海道におけるモノ・ヒト・文化交流の研究』平成 15-18 年度科学研究費補助金 (基盤研究 B) 研究成果
 報告書
東北中世考古学会編 2001『東北中世考古学叢書 2 掘立と竪穴 中世遺構論の課題』高志書院
東北陶磁文化館編 1987『東北の近世陶磁』
丹羽 茂 1983「宮前遺跡」『朽木橋横穴古墳群・宮前遺跡』 宮城県文化財調査報告書第 96 集
丹羽 茂 1985「今熊野遺跡Ⅰ−古代編−」『今熊野遺跡・一本杉遺跡・馬越石塚』宮城県文化財調査報告書 104 集
初鹿野博之・山口淳・千葉直樹・大坂拓 2012『西石山原遺跡ほか−常磐自動車道建設関連遺跡調査報告書Ⅰ−』宮城県文化財調査報告書第
230 集
初鹿野博之 2013「宮城県山元町内手遺跡・上宮前北遺跡」『第 39 回古代城柵官衙遺跡検討会資料集』
初鹿野博之 2013 「涌沢遺跡」『発掘された日本列島 2013 新発見考古学連報』文化庁
引地弘行 2002「館の内遺跡」『発掘された日本列島 2013 新発見考古学連報』文化庁
引地弘行 2002「館の内遺跡」『名生館遺跡ほか』 宮城県文化財調査報告書第 188 集
平塚幸人 2001「仙台平野における小型丸底鉢について」『仙台市富沢遺跡保存館研究報告』4
平塚幸人 2001 「仙台平野における小型丸底鉢について」『仙台市畠沢遺跡保存館研究報告』 4
福島考古学会中近世部会編 2000『福島県考古学会中近世部会平成 12 年度研究セミナー 東北地方南部にお藤田至則・加納博・滝沢文教・八島隆一 1988『角田地域の地質』地域地質研究報告 地質研究
古川一明・鈴木真一郎・大和幸生 1991「舘南囲遺跡」『舘南囲遺跡ほか』 宮城県文化財調査報告書第 144 集
                                                                 東北地方南部における中近世集落の諸問題』
文化庁文化財部記念物課編 2010 『発掘調査の手引き-集落遺跡発掘編-』
文化庁文化財部記念物課編 2010 『発掘調査の手引き-整理・報告書編-』
真山悟 1981「東山遺跡」『東北自動車道遺跡調査報告書V』宮城県文化財調査報告書 81 集
真山悟 1981「家老内遺跡」『東北自動車道遺跡調査報告書V』宮城県文化財調査報告書 81 集
真山悟・新庄屋元晴 1985「小梁川遺跡」『七ヶ宿ダム関連遺跡発掘調査報告書Ⅰ』宮城県文化財調査報告書第 107 集
宮城県考古学会編 2010『平成 22 年度宮城県遺跡調査成果養表会発表要旨』
宮城県考古学会編 2011『平成 23 年度宮城県遺跡調査成果発表会発表要旨』
宮城県考古学会編 2012『平成 24 年度宮城県遺跡調査成果発表会発表要旨』
宮城県考古学会編 2013『平成 25 年度宮城県遺跡調査成果発表会発表要旨』
宮城県企画部土地対策課編 1988『土地分類基本調査 角田』
宮城県教育委員会 1988 『大梁川・小梁川 七ヶ宿ダム関連遺跡発掘調査報告書IV』宮城県文化財調査報告書第 126 集村田晃一 1992「多賀城周辺における奈良・平安時代の須恵器生産」『東日本における古代・中世窯業の諸問題』
村田晃一 1994「土器からみた官衙の終末」『古代官衙の終末をめぐる諸問題』
村田晃一 1995「宮城郡における 10 世紀前後の土器」『福島考古』第 36 号
森幸彦 2008「大木 9・10 式土器」『総覧 縄文土器』
柳澤和明ほか 1992『多賀城跡第 61 次調査』宮城県多賀城跡調査研究所年報 1991
柳澤和明 1993『多賀城跡第 62 次調査』宮城県多賀城跡調査研究所年報 1992
柳澤和明 1994「東北地方の施釉陶器」『古代の土器研究-律令的土器様式の西・東 3 施釉陶器-』
           『企画展図録 亘理郡の古墳時代』山元町歴史民俗資料館
山田降博 2008
山田隆博・村上裕次・山口淳 2010『北経塚遺跡』山元町文化財調査報告書第4集
山田隆博・藤田祐・佐伯奈弓 2013 『北経塚遺跡』山元町文化財調査報告書第5集
山田隆博・藤田祐・佐伯奈弓 2014 『的場遺跡』山元町文化財調査報告書第6集
山元町史編纂委員会編 1971『山元町誌』
山元町史編纂委員会編 1986「中島貝塚」『山元町誌 二巻』
```

亘理町教育委員会 1997『堀の内遺跡』亘理町文化財調査報告書第7集

# 報告書抄録

Š	り が	な	いしがきいせき
書		名	石垣遺跡
副	書	名	常磐自動車道(県境〜山元間)建設工事に係る発掘調査報告書Ⅱ
巻		次	
シ	リーズ	名	山元町文化財調査報告書
シ	リーズ番	号	第7集
編	著者	名	山田隆博・藤田祐
編	集機	関	山元町教育委員会
所	在	地	〒989-2203 宮城県亘理郡山元町浅生原字日向 12-1 電話 0223-37-5116
発	行 年 月	月	平成 26 (2014) 年 3 月 28 日

ふりがな	ふりがな	コ	ード	位	置	细木田目	細木云往	細木百円	
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因	
<sup>いしがき</sup> 石垣遺跡	本できけん 宮城 (A 巨理郡 やまらとらよう 山元町 やまでもか字 いしがき 石垣	043621 14069		37度 57分 50秒	140度 52分 6秒	20110905~1101	4, 750 m²	常磐自動車 道 (県境〜山 元間) 建設工 事に伴う事 前調査	
所収遺跡名	遺跡名種別		主な時代			主な遺物	特記	事項	
的場遺跡	散布地	縄文時代中期		土坑		縄文土器	土坑2基		
		(大木9寸	大木9式)						
	集落	古墳時代前	期	竪穴住居	硛	土師器	竪穴住居跡2軒		
	集落	平安時代		竪穴住居跡、		土師器、須恵器	竪穴住居跡3軒、竪穴状遺構4		
		(9世紀後半)		土坑		墨書土器	軒、土坑1基		
	屋敷跡		近世		跡、土坑、	_	掘立柱建物跡 37 棟、柱穴列跡		
				溝跡、井	戸跡、ピ		4条、土坑3	基、井戸跡1基、	
				ット			ピット多数		

#### 要約

石垣遺跡は、亘理郡山元町山寺字石垣に所在し、山元町役場の西約800mに位置する。遺跡は、阿武隈山地から東に延びる丘陵の山寺川西側に広がる標高26~32mの中位段丘に立地する。遺跡の範囲は、東西60m、南北200mほどの広がりをもつ。

調査の結果、竪穴住居跡 5 軒、竪穴状遺構 4 軒、掘立柱建物跡 37 棟、柱穴列 4 条、土坑 32 基、井戸跡 1 基、ピット 256 個を検出した。出土遺物は、縄文土器、土師器、須恵器、陶磁器、石器などである。

縄文時代の遺構には、土坑2基があり、その形状から陥し穴と考えられる。出土遺物から時期がわかるものは、縄文時代中期後葉と想定される。

古墳時代の遺構には、竪穴住居跡2棟があり、出土遺物から古墳時代前期のものと考えられる。

平安時代の遺構には、竪穴住居跡3軒、竪穴状遺構4軒、土坑1基がある。これらの遺構からは9世紀後半代の遺物が出土し、これらは同じ年代幅におさまることから、同時期に遺構が共存した可能性が考えられる。特にSK2では、土師器・須恵器が一括廃棄された状態で出土し、中には墨書土器(「田」・「人」)も出土した。

近世の遺構には、掘立柱建物跡37棟、柱穴列跡4条、土坑3基、井戸跡1基、ピット多数がある。建物跡はA区からB区 北側までの範囲に分布し、特にA区中央とB区北側で建物跡が密集する状況が確認された。建物は幾度も建て替えが行われ、 屋敷が長期間存続していた可能性が考えられる。

石垣遺跡の周辺には、北に涌沢遺跡、南に的場遺跡がある。石垣遺跡は、湧沢遺跡とほぼ同じ年代幅をもつ平安時代の竪穴住居跡と土器廃棄土坑が確認され、的場遺跡とほぼ同じ年代幅をもつ竪穴住居跡と柱掘方の規模や柱寸法に共通性のある掘立柱建物跡が認められた。各遺跡は山寺川と涌沢川によって隔てられるものの、涌沢遺跡が平安時代、的場遺跡が古墳時代から近世において石垣遺跡と一連の集落であったと推定される。

山元町文化財調査報告書第7集

# 石 垣 遺 跡

一常磐自動車道(県境~山元間)建設工事に係る発掘調査報告書Ⅱ—

平成 26 年 3 月 28 日発行

発 行 山 元 町 教 育 委 員 会 宮城県亘理郡山元町浅生原字日向12·1 TEL0223·37·5116/FAX0223·37·0119

印刷 株式会社 東北プリント 宮城県仙台市青葉区立町24・24